

第149図 石列遺構 5号

されている。

1002はいわゆる「くらわんか手」で、器壁が厚く重い。内面は、圏線と形の崩れた五弁花文が施されている。外面には大ぶりの文様が描かれているが、欠損し詳細は不明である。また、高台裏には銘が描かれている。1003は、黒みの強い呉須で外面に梅文を描いている。見込みは蛇の目釉剥ぎで、重ね焼きした器の高台の跡（直径約4cm）が残る。高台裏は、中央部がわずかに凹む。1004は外面に草花文、口縁部内面に圏線と弧文を淡い呉須で描いている。1005は径に対し器高が低い碗で、外面には格子文と亀甲文が組み合わせて描かれている。1006は龍門司系の陶器で、高台は削り出しにより屈曲部に明瞭な稜が作出されている。内面はほぼ無釉で、被熱している。また、内面の露胎した部分に、しぶき状に自然釉が付いている。形状や施釉の特徴から、線香立てと考えられる。

1007は、苗代川系の山茶家と考えられる。口唇部は内傾し、外面の体部下半及び内面は無釉である。また、外面にはススが付着している。

1008は小型の甕で、薄手である。口縁部は丸みを帯び、肩部に1条の沈線が巡る。17世紀前半に比定され、古手の薩摩焼の可能性はある。

1009・1010は摺鉢である。1009は、18世紀前半に比定される苗代川系である。内面の摺り目は上部しか残存しないが、細くやや間隔が開く。口唇部は露胎である。1010は高台付である。外面は無釉で、焼締状の暗赤褐色を呈する、外形は削り出しにより作出されている。摺り目は非常に密で、隙間なく施されている。

1011は大型の甕で、内外面とも淡黄褐色の釉薬が全面に施釉されている。口縁部は内外面とも張り出しを持ち、両側に折り曲げるようにして作出されている。胎土は、マーブル状を呈している。産地は不明である。

1012はキセルの雁首である。火受皿の直径1.6cmで軸と直に曲がっている。

1013・1014は寛永通宝で、裏は無文字である。

4) 溝状遺構

2か所に溝状遺構がある。

①溝状遺構 3号 (第151図)

E-27区、Ⅱc層で検出された。現代の削平により上位は消失していた。北側は調査区外へ延び、南側の一部は消失していた。検出された全長は約280cm、幅約15cm～60cm、検出面からの深さは約20cm弱である。断面形は、段を持ったナベ形で、埋土は2つに分かれる。

②溝状遺構 4号 (第151図～第153図)

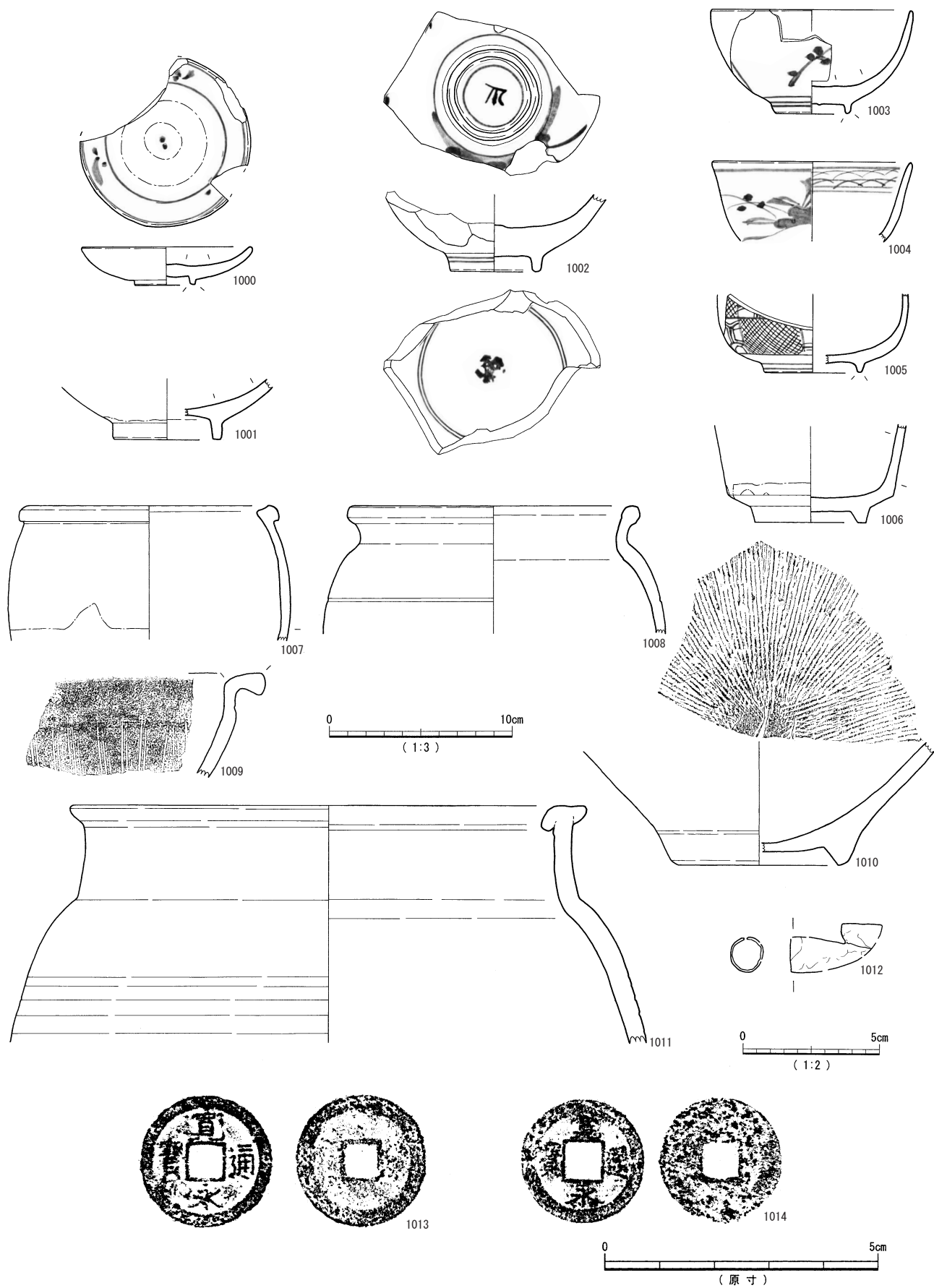
D～F-35区、D-Ⅲ層で検出された。10cm～20cm大の扁平な円礫を立てて並べた石垣状の構造をなしている石組が溝の南側に、北側にももう一群見られる。溝は、略南北方向を北から南へ流れていたと考えられる。北方向は調査区外へ、一部消失している。検出された全長は、約18m、幅約1.6m～2m、検出面からの深さは、約40cm～60cm程である。断面形は、ナベ形である。

多くの陶磁器や鉄製品などが出土している。

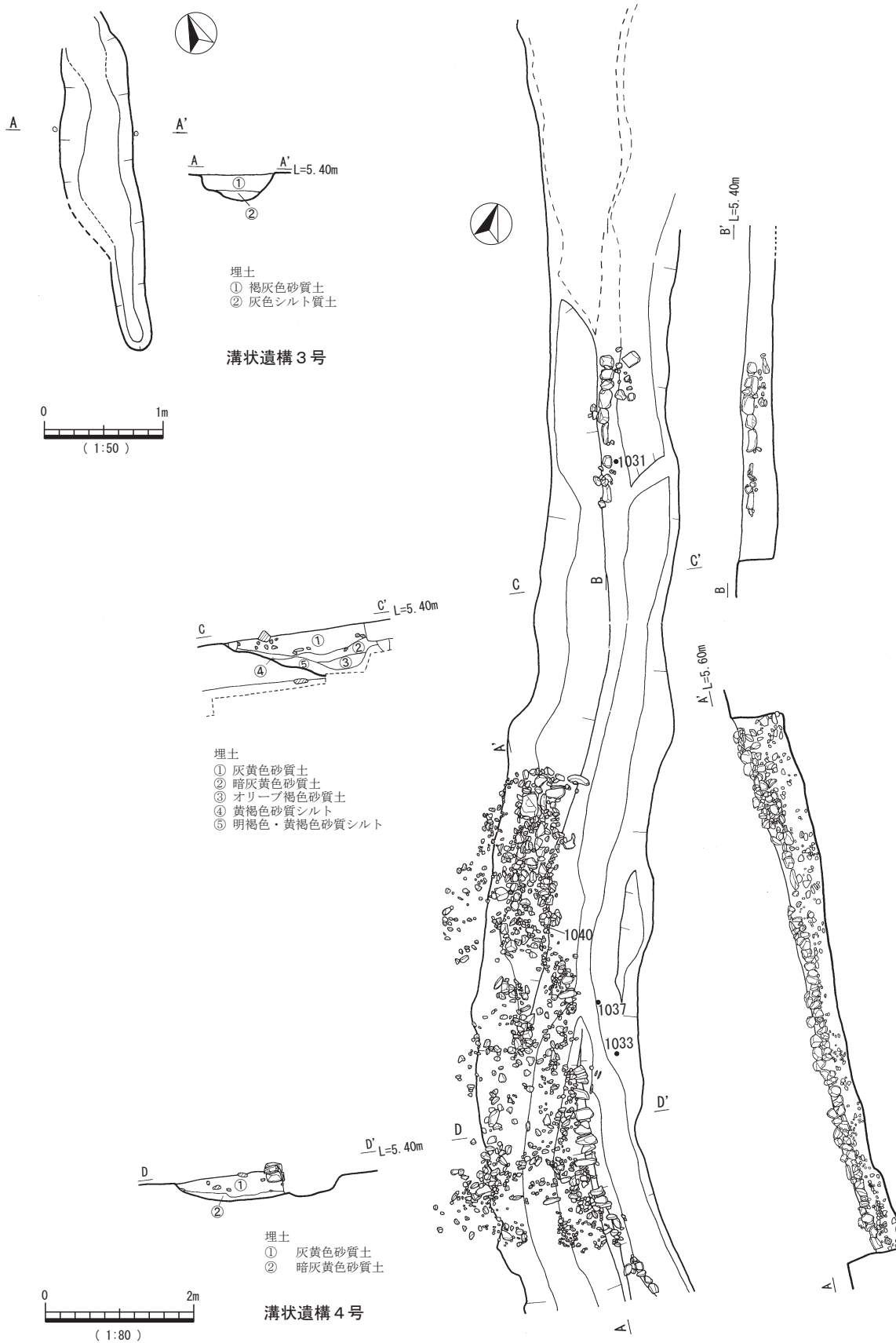
1015～1017は、磁器の皿である。1015は、肥前系の大型の輪花皿である。豊付は露胎である。外面は無紋で、内面には呉須で龍と思われる文様が全面に描かれている。1016は口唇部を折り返して成形し、断面に楕円形の空隙がある。見込みは蛇の目釉剥ぎで、蛇の目高台である。外面は無文で、内面には格子文と圏線が描かれている。1017は、小型の輪花皿である。蛇の目高台で、豊付から露胎である。外面は無文で、内面には扇文や梅文などが描かれている。また、見込みに4か所のハリ痕が残存する。

1018～1020は、磁器碗である。1018は見込みに蛇の目釉剥ぎが施され、外面には圏線及び梅文が描かれている。1019は、外面に圏線及び草花文が描かれている。見込みの蛇の目釉剥ぎには重ね焼きの高台の痕跡が残っており、直径4.4cmを測る。また、豊付きは無釉で、アルミナが付着している。1020は径4.2cmの細い高台をもっており、外面に雲文風の絵が描かれている。墨付部と内底部の広い範囲に釉剥ぎが行われる。

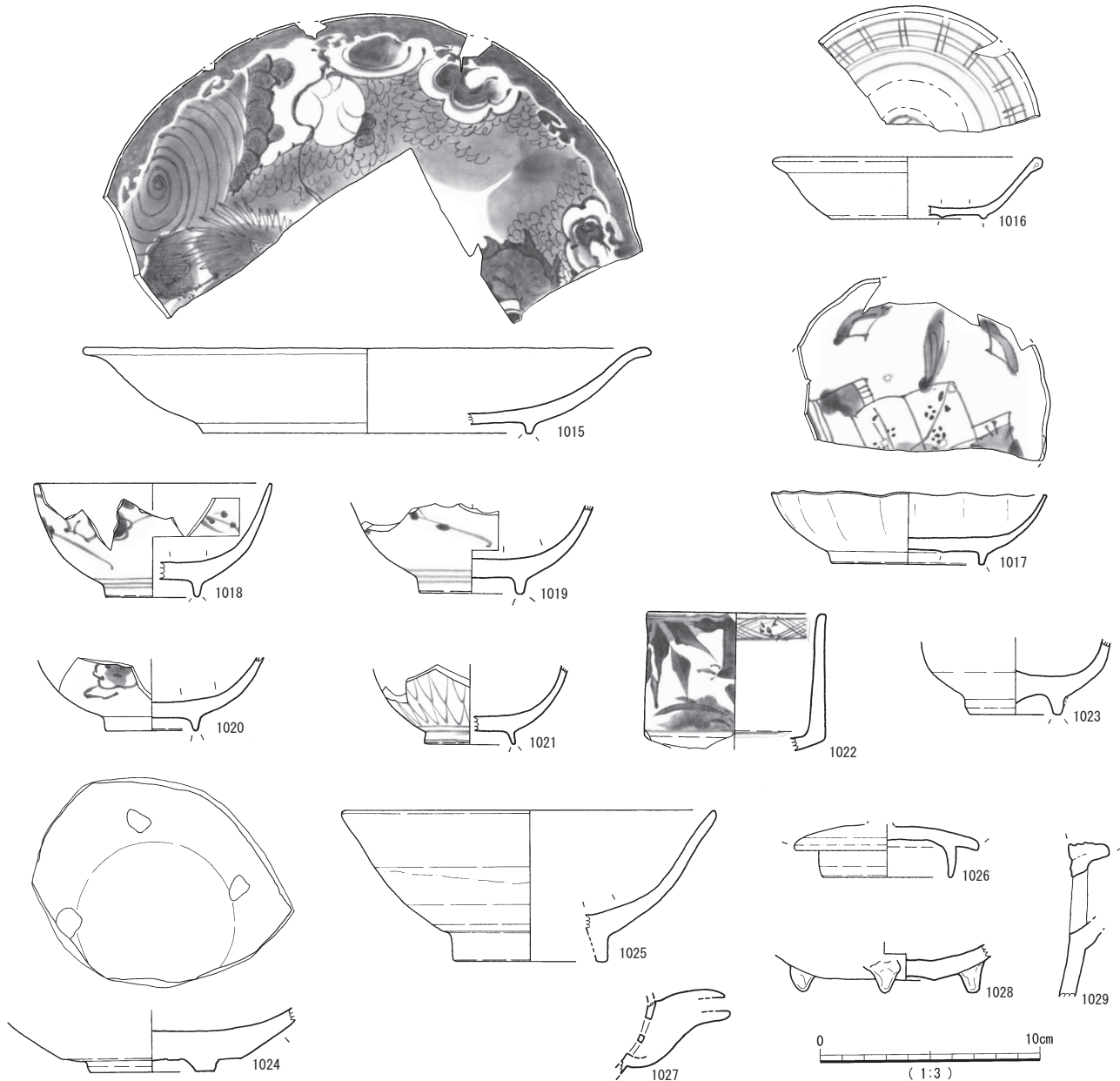
1021・1023～1025は陶器碗である。1021は灰黄色を呈する素地の陶器で、外面に圏線と波状文が描かれている。高台は細い。1023は内外面とも施釉され、豊付のみ露胎するが、部分的に釉薬が残存する。外面下半は釉薬が厚く、高台の付け根部分に溜まっている。内面及び高台裏は中心が張り出す。1024は外面状版及び内面に淡い緑色釉がかかっているが、外面下半は無釉である。高台脇は削り出しでシャープな稜があり、高台裏は渦巻き状である。また、見込みに3か所の粗い砂目跡が残存する。1023・1024は、唐津焼と考えられる。1025は、素地が赤褐色を呈し、硬質である。釉薬は白濁しており、外面下半は無釉で、見込みは蛇の目釉剥ぎである。



第150図 祭祀遺構出土の遺物と青銅製品・古銭



第151図 溝状遺構 3号・4号の平面図・断面図



第152図 溝状遺構4号の出土の陶磁器

1022は筒碗である。内面には四方禪文と見込みに圏線、外面には草花文が描かれている。肥前系と考えられる。

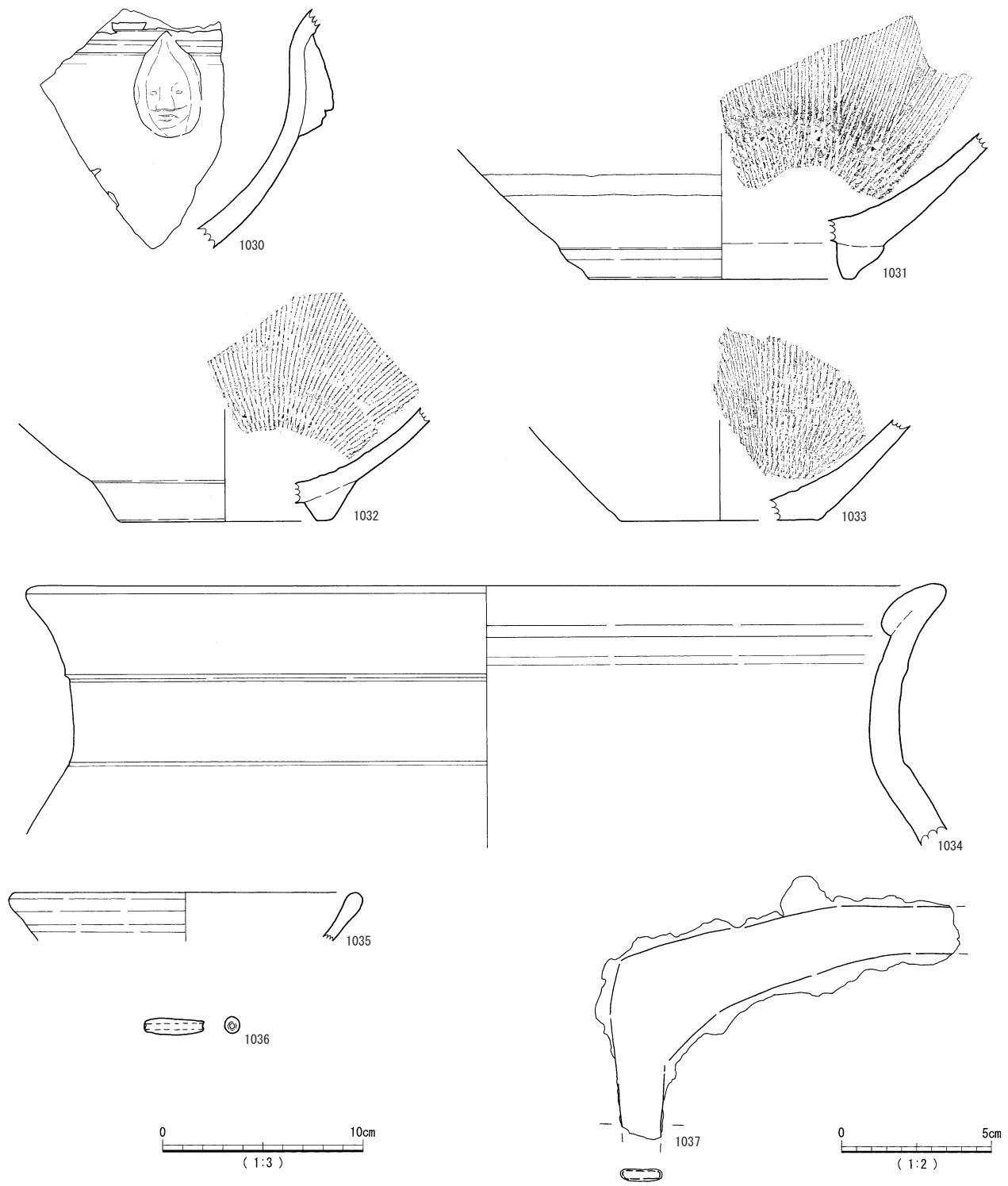
1026～1028は土瓶である。1026は蓋でつまみは欠損している。鏝の中位まで施釉され、下半及び内面は無釉である。1027は注口である。内面には3か所の穿孔があり、釉薬は暗褐色の釉薬が厚手に施釉されている。1028は底部である。脚が1か所のみ残存しており、本来は3か所付いていたと考えられる。外面は無釉であるが、内面は斑状の暗緑褐色釉が施釉されている。

1029・1030は鉢である。1029は片口である。注口部は欠損し、一部しか残存しない。内外面とも斑状の暗緑色釉が施釉され、口唇部のみ釉が掻き取られている。1030は人面と思われる貼り付けがある。幕末～明治と考えら

れる。1026～1030は、苗代川系である。

1031～1033は摺鉢である。1031・1032は、高台が付くタイプである。1031は1032より高台が高く、外面側がやや凹む。内面には帯状の粗い砂目がみられ、摺目は1032・1033よりも幅広である。内外面とも薄い淡白色釉がかかっており、自然釉の可能性もある。1032は内面及び高台外面に帯状の砂目痕が付くもので、粘土紐状または輪状に砂目を挟んで重ね焼きする物と想定される。内外面とも無釉である。1033は底面が平坦で、ヘラ切り状である。内面の摺目は細かく、底部付近は複数が切り合っている。内外面とも無釉である。

1034は、薩摩焼の大甕である。口縁部は内側に折り返して作出され、口唇部には幅広で方形の土目跡が残る。



第153図 溝状遺構4号の出土の遺物

素地には5mm大の赤褐色礫を疎らに含み、マーブル状を呈する。

1035は、土師質土器碗の口縁部片である。焼成は良好で、硬質である。

1036は小型の管状土錘である。完形で、胎土は赤色を呈し、軟質である。

1037は鉄製鎌である。刃部先端と柄部を欠いている。刃部は上部が柄部から強く曲がって曲線状となり、先端に向かって狭くなっている。

5) 石垣 (第154図)

D-35区で検出された。南北方向に幅2mほどの円礫

群が約7mにわたって南北方向に列状に並ぶ構造である。溝状遺構4号が重複し、埋土関係から、本来埋まっていた石垣の基礎部分と考えられる。短軸側を正面として、10~20cm大の扁平な円礫を縦に並べ、石垣状の構造をなしている。石積の構造は中央部~南側は顕著であるが、北側は崩れてほぼ原形はとどめていない。E-35区にも長さ2mにわたって連続する円礫列がみられ、続き部分と思われる。東側の面が揃っている。

石の間からは、陶磁器類が多く出土し、土器、須恵器大甕片も出土している。

1038・1039は磁器碗である。

1038は薄い暗茶褐色の釉薬が内外面とも施釉され、畳付のみ露胎する。硬質で、焼成も良好である。1039は蛇の目釉剥ぎで、外面には草花文が描かれている。畳付きは露胎し、重ね焼き時の砂が付着している。

1040は陶器製の乗燭である。外面には流しがけ状に暗赤褐色釉が施釉され、底面は糸切りである。

1041・1042は瓶または徳利と考えられ、1041は磁器の

口縁部で、1042は陶器の口縁部である。

1041は内外面とも施釉されており、肥前系磁器に近い質感である。1042は内面及び畳付が無釉で、内面にはろくろ目の上に粗いナデ状の調整が加えられている。

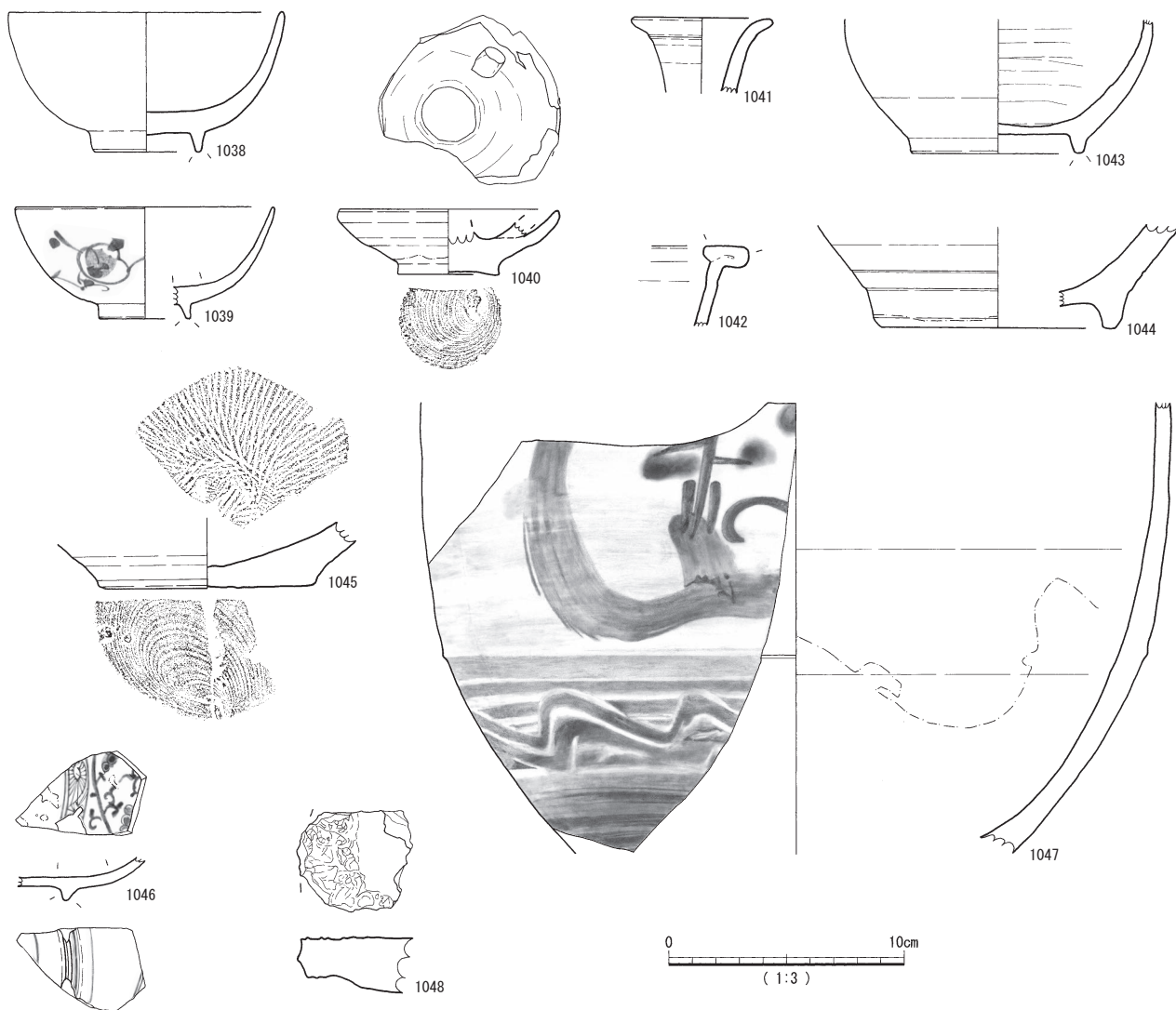
1043・1044は鉢である。

1043は鉢の胴部から底部で、内面側に折り返して平坦な口唇部を作出している。灰色がかかった緑色釉が施釉されており、口唇部のみ釉が掻き取られている。1044も砂が多量に付着しており、溝状遺構4号出土の1031や1032と同様に重ね焼きの土目の痕跡と考えられる。

1045は糸切り底の摺鉢である。内外面とも無釉で、内底面から放射状に摺り目が施されている。

1046は青花の皿である。内面は施釉範囲が盛り上がり、無釉の範囲と斑状を呈している。内面には草花文と唐草文、外面には圈線が描かれている。

1047は甕の胴部である。釉薬は灰白色を基調に、黄褐色・緑色釉で文様を描いている。また、胴部下に張り出しがあり、下半はユビナデによる波状文が描かれてい



第154図 石垣出土の陶磁器等

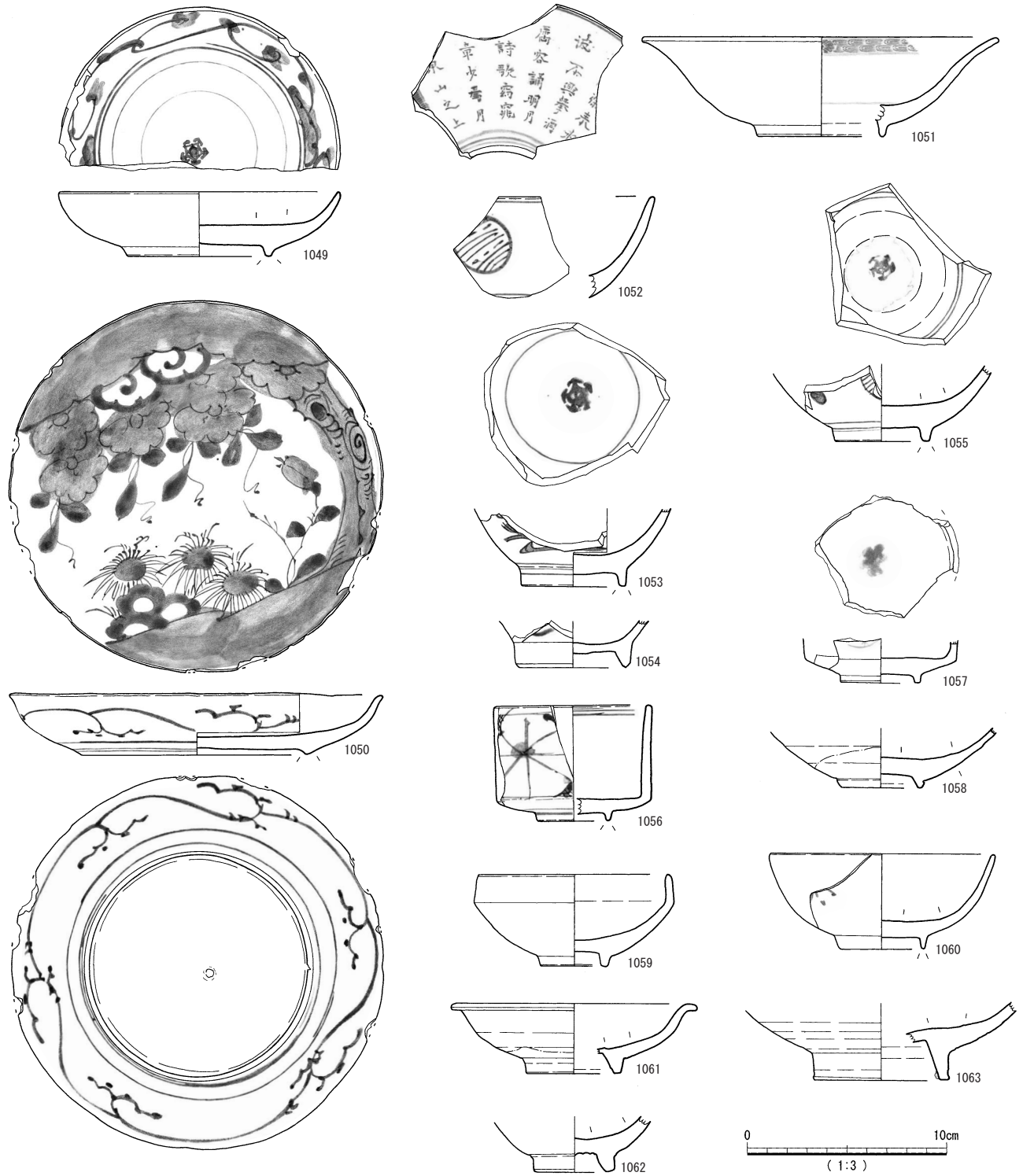
る。釉調や文様から、唐津産の陶器と考えられる。

1048は、轡の羽口片である。先端はガラス化し、鉄分が熔着している。

3 包含層出土遺物（第155図～第159図）

表土から多くの陶磁器・石製品・鉄製品・古銭などが出土している。その中の主なものを紹介する。

1049・1050は磁器の皿である。



第155図 包含層出土の近世・近代の陶磁器（1）

1049の外は無文で、内面に草花文、見込みに五弁花文が施される。また、蛇の目釉はぎに重ね焼きした痕跡が残っており、直径約8cmの高台の製品を重ねたことが分かる。1050は句口唇部がわずかに欠損するのみで完形である。上面観はわずかに輪花皿状をなし、内面には草花文、外面には唐草文と圏線が描かれている。高台のみ露胎し、外底面の中央に1点ハリ支え痕がみられる。18世紀前半の肥前系に比定される。

1051は肥前系磁器の坏である。口径18cm、底径6.4cm、高さ5cmの大きなもので、低い高台が付く。界線が外面上に1条、下に3条、内底に1条ある。外面には漢詩が描かれ、内面口縁近くには菊花文や横向きU字文が筋状に描かれている。

1052~1063は碗である。

1052は内外面に圏線と、外面には丸文に斜線を組み合わせた文様が描かれている。1053は高台がやや高く、胴部の膨らみも弱い広東碗状の器形である。外面には、圏線と部分的に文様が残るが詳細は判別できない。内面は、コンニャク印の五弁花文が施されており、18世紀代と考えられる。1054の高台は端が釉はぎされ、太くて高

い。内底には砂目が付き、内外とも貫入がはいっている。1055はいわゆる「くらわんか手」で、器壁が比較的厚い。外面は丸文と二重圏線が部分残存し、見込みには二重圏線と五弁花文が描かれ、蛇の目釉剥ぎが施される。全体的に釉薬が発泡しており、蛇の目釉剥ぎ周辺が最も顕著である。

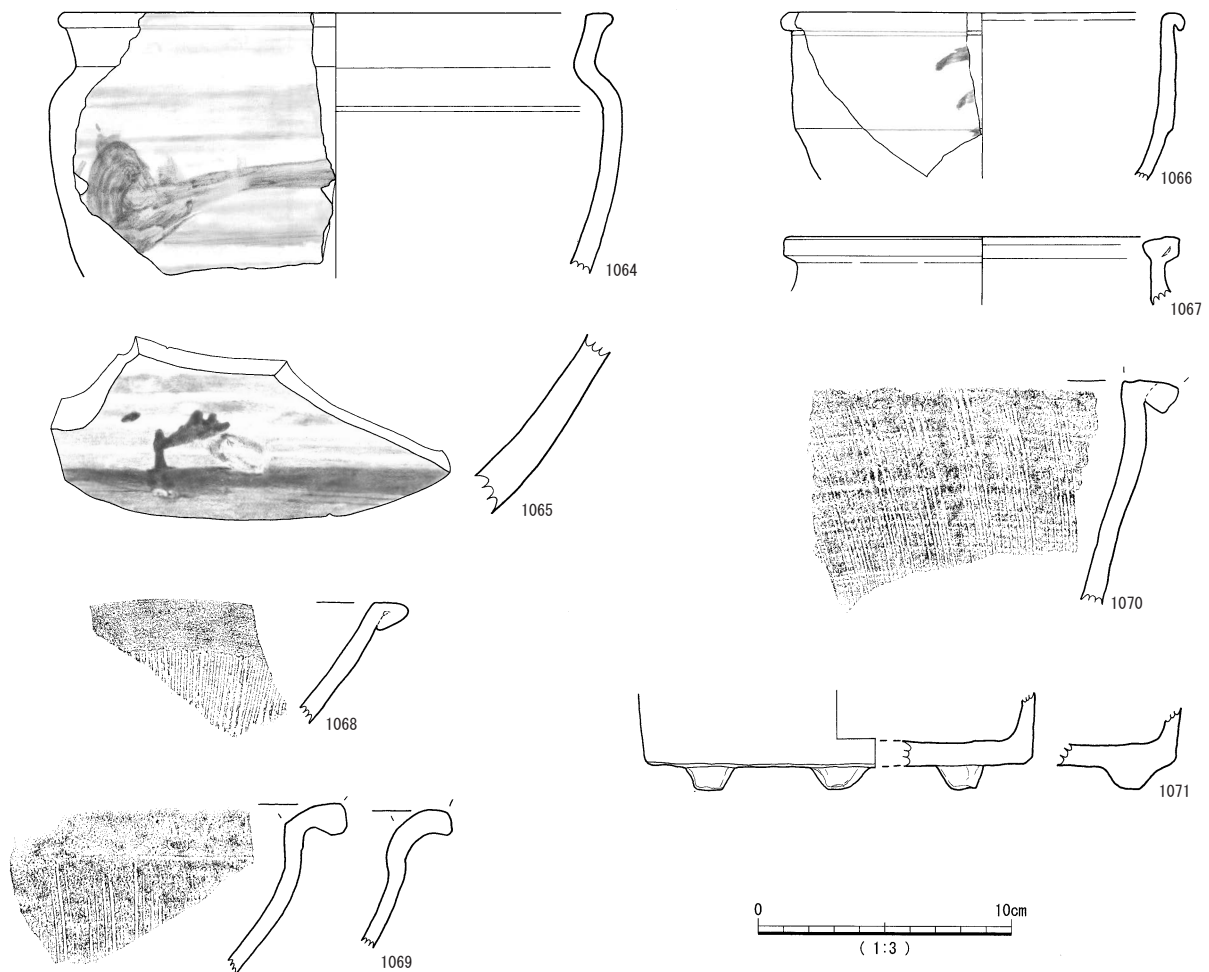
1056・1057は、筒碗である。

1056の外面には花文、内面には圏線および五弁花文が描かれている。1057は釉切れが目立ち、内底中央に花押文がある。1058は無紋で、外面は白色の釉薬が流しがけ状に施釉され、胴下半と高台は無釉である。高台は削り出して作出され、見込みは蛇の目釉剥ぎにアルミナ状のやや粒子の粗い付着物が塗布されている。

1059は、肥前系陶器の煎じ碗である。灰黄色の胎土に、淡緑色釉が施されている。高台は無釉である。

1060は内底が釉はぎされ、外面にはつる様の文様がある。

1061は端反りの皿で、内面は蛇の目釉剥ぎである。作りは丁寧で、高台も削り出して稜が明瞭に作出されている。



第156図 包含層出土の近世・近代の陶磁器（2）

1062は褐色の胎土に白色釉を施した陶器で、龍門司系に比定される。高台は無釉で、高台裏は渦巻き状になる。器面が荒れており、二次被熱によるものと考えられる。

1063は高台の高い、肥前系の大型碗である。素地は硬質で、暗茶褐色釉が施されている。体部下半と高台は無釉で、高台内面に砂目と思われる付着物がみられる。

1064は口径22cmの広口壺である。外面は灰白色釉の上に暗赤褐色の筆絵が描かれている。

1065は大型鉢の胴部片である。外面には茶褐色～灰白色の釉薬が帯状に施されている。武雄産と考えられる。

1066は、磁器の鉢である。口縁部を外面に折り返し、丸い口唇部を作出している。外面には鉄釉で3本の沈線が描かれているが、詳細は不明である。胎土に黒色の粒

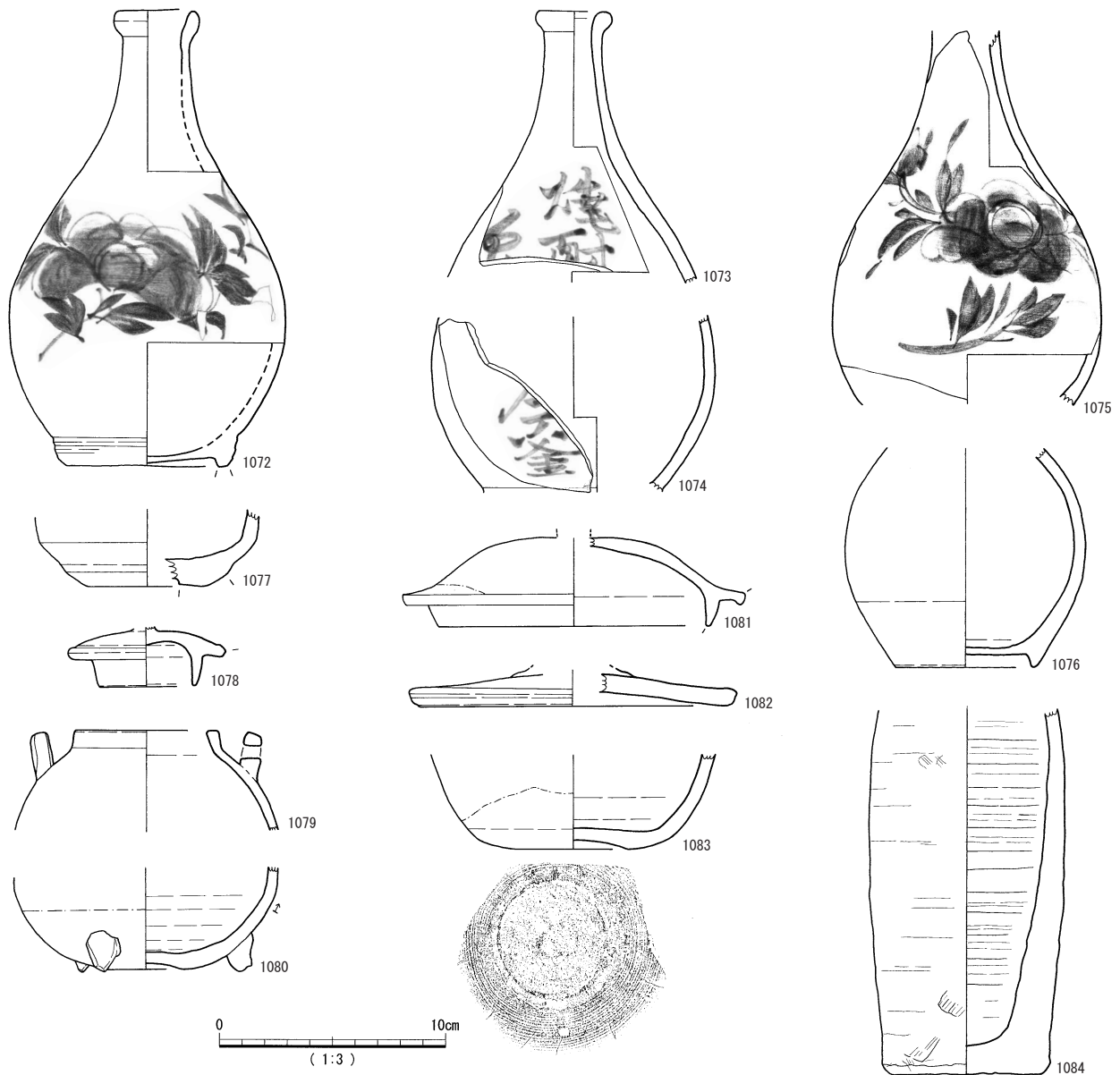
子を多量に含み、他の磁器に比べて粗い。口唇部は重ね焼きと思われる溶着の痕跡が有り、釉薬が部分的に剥がれている。

1067は甕の口縁部であり、口唇部を折り返して作出した際の半月状の空隙がみられる。暗緑色釉が施されている。

1068～1070は摺鉢である。

1068の口縁部は外面に折り返して成形され、断面に三角形の空隙がみられる。口縁部内面は摺り目がかき消され、摺り目が一定の高さでそろっている。本遺跡で出土している他の摺鉢と、素地及び釉調が異なる。

1069は片口をもつ摺鉢である。内外面とも暗緑褐色釉が施され、口唇部のみ拭き取られたように露胎する。苗代川系で、摺鉢の中では古手である。



第157図 包含層出土の近世・近代の陶磁器（3）

1070は口唇部がろくろ目で数条に波打ち、露胎している。

1071は土師質土器の底径15.6cmの鉢で、3個の脚がある。浅黄橙色を呈し、白色石などこまかい土である。

1072~1075は、徳利である。

1072~1075はいわゆる牡丹徳利で、本来対で使用されていたと考えられる。1072は口径3.4cm、底径7.2cm、高さ20.2cmの低い高台付きの完形品である。胴部中央に最大径があり、頸部から外反し、口縁部は細長い玉縁状を呈する。高台近くでややくびれている。1073~1075と同じ器形をし、外面には青釉の花弁とつぼみが描かれている。1073は「焼酎」ほか数文字が記載されており、内容物を示す例である。いずれもコバルト呉須文様が描かれた肥前系磁器で、明治期以降のものと考えられる。1074は「今釜」と記されており、六反ヶ丸遺跡の所在する六月田から北西方向に位置する地名である。1075は頸部から胴部で、外面に濃い青釉の花弁とつぼみが描かれている。内面の頸部より上に青灰色釉がかかっている。

1076は瓶と考えられる。産地等は不明であるが、器壁は薄く、内面は無釉で部分的に釉が垂れた痕跡がある。器形から、あまり器高がないか、細く頸が伸びるタイプの瓶と想定される。

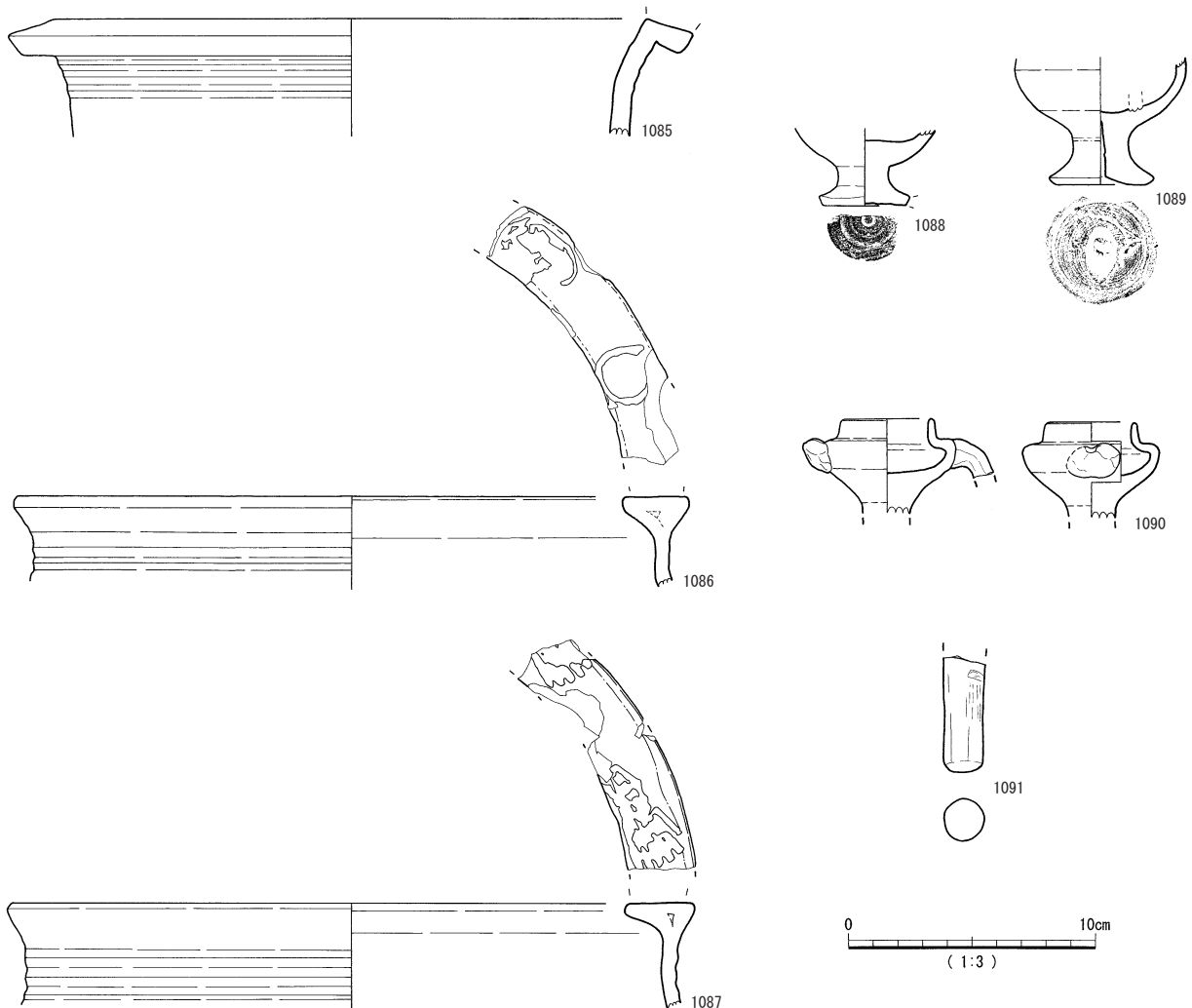
1077は明オリーブ灰色の釉がかかった青磁小壺の底部である。底は釉はぎが施されている。

1078~1080は土瓶である。

1078は土瓶の蓋である。つまみ部は欠損する。赤褐色を呈する素地に、上部のみ暗赤褐色釉が施釉されている。1079は土瓶の胴部片である。肩はあまり張らず、器壁は薄い。口唇端部のみ釉剥ぎされている。1078・1079は苗代川系と考えられる。1080は、体部である。胴下半は無釉で、底面は凹む。3か所に、三角錐状の脚部がつく。

1081・1082は陶器の蓋である。

1081は山茶家などの大型の土瓶類の蓋である。上端はつまみが付くと考えられるが、欠損している。鏝から下、および内面は無釉である。また、外面の胴下部と鏝の裏面に、重ね焼き時の付着物がみられる。1082はつま



第158図 包含層出土の近世・近代の陶磁器（4）

みが部分的に残存しており、細長い棒状のつまみが付くと考えられる。受けはない。全面無釉であり、焼き締め陶器に近い質感である。堂平窯跡に類例があり、17世紀後半の苗代川系と考えられる

1083は器壁は比較的薄手であり、施釉範囲や器形が土瓶とは異なる。底面は上げ底で露胎となり、ろくろ成形の筋目が明瞭にみられる。体部は内外面とも褐色釉で施釉されており、何らかの液体を入れるための用途が推定される。

1084は琉球焼の徳利で、底は分厚い。底径6.6cmで細長い器形である。内面は積み上げ痕が目立つ。胎土は赤色を呈し、浅黄色の釉がかかっている。

1085は、長頸の壺と考えられる。口唇部は外傾し、釉葉が掻き取られている。

1086・1087は苗代川系の甕の破片である。

1086の口唇部は無釉で二枚貝の貝目痕が残る。口縁部は折り返して作出され、断面に三角形の空隙がみられる。内外面とも褐色の釉葉が施釉されている。1087の断面には口縁部を成形した際の三角形の接合線がみられる。また、口唇部は無釉で、鋸歯状の側縁の二枚貝を用

いた目跡が残る。17世紀後半と考えられ、堂平窯跡に類例がある。

1088～1090は仏飯具である。

1088は磁器製で、底面が無釉である。1089は元立院系の乗燭で、底面は糸切りである。体部上半及び内面は、黒褐色釉で施釉されている。1090は口縁部が直に立ち上がり、低い胴部で充実脚台が付く。注口、把手がある。

1091は棒状の土師質土器で、把手あるいは脚と思われる。

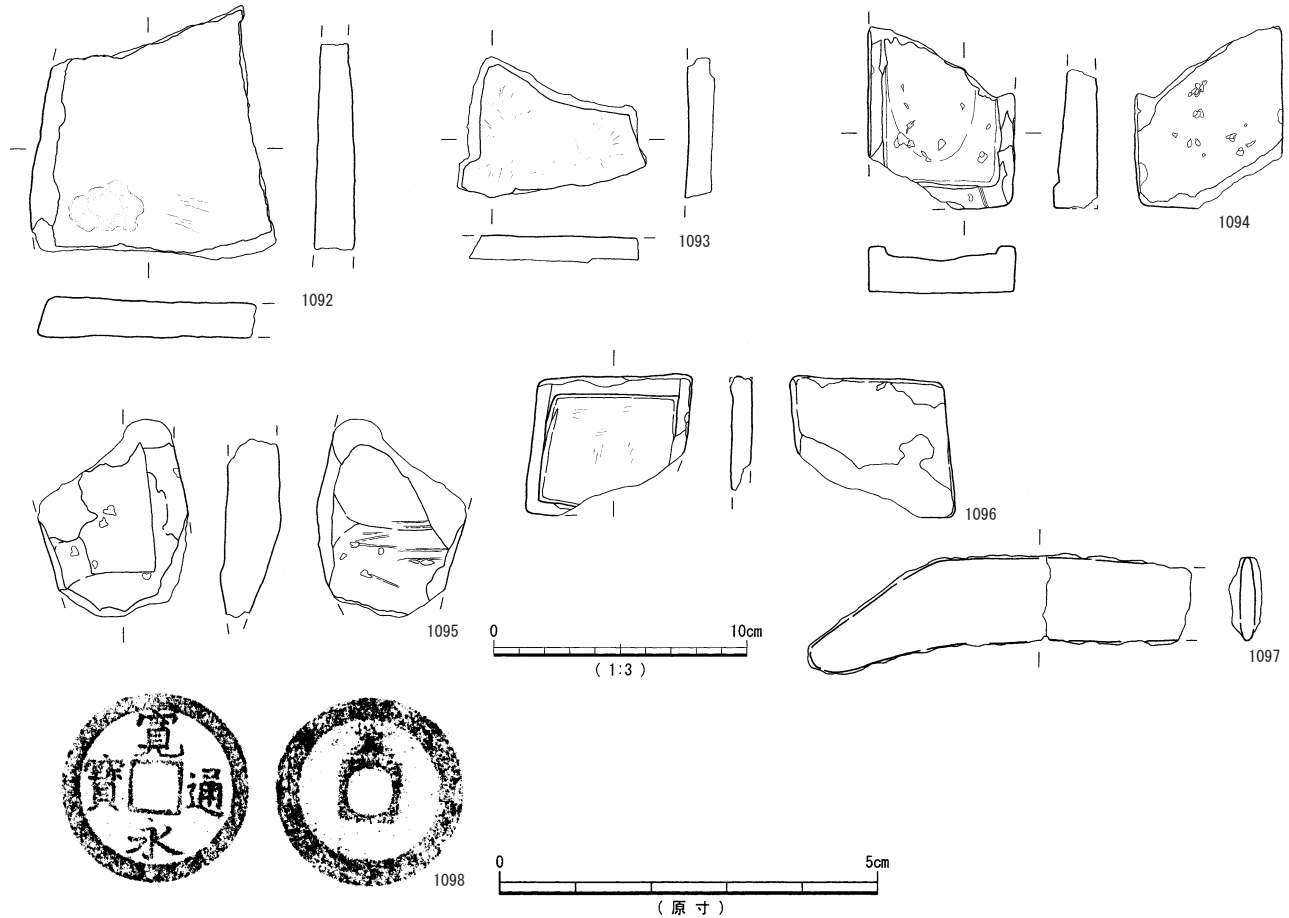
1092・1093は扁平な砥石破片である。

1094～1096は石硯である。

1094は天草石で、陸部の一部が欠けている。残存長6.8cm、幅6.0cm、厚さ2.0cmで、海部は小さい。1095は天草石で欠損している。残存長7.5cm、幅5.8cm、厚さ2.2cmだが、やや不定形である。硯部の幅は2.7cmと小さく、砥石としても使われた可能性がある。1096は赤間石で正方形を呈しており、6.2cm×5.4cmで、厚さは0.8cmである。

1097は幅2.3cmの鉄製鎌である。刃先が刃部で屈折している。

1098は裏が無文字の寛永通宝である。



第159図 包含層出土の近世・近代の石製品・鉄製品・古銭

第8節 ピット

ピットは各調査区で確認され、形状は直径が50cm前後の比較的直径の大きい柱穴状のものや、直径が10cm程度の小ピットが確認された。小ピットは先端がやや尖っており、杭等を打ち込んだ痕跡と考えられる。

本報告書では、B地点の報告書と同様、柱穴痕が明確にみられないもので、柱穴状の直径が小さく深さのある小土坑を一括してピットとして扱った。これらは、D調査区に集中しているものが多い。その埋土は、砂質シルト質の黒褐色土が大部分を占めていた。C調査区のピットの埋土は、灰色に近い色調が多く、旧水田層の土壌が混在していると想定でき、比較的新しい近世以降に属する可能性が高い。この結果は、B地点のピット群の特徴と類似している。配列等も検討したが、個々のピットの明確な関連性は把握できなかった。遺物は数点出土しているが、図化するまでにはいたらなかった。

第9節 その他の出土遺物 (第160図)

確認調査で出土した土器のうち既報告書で掲載し損なったものと本報告書で扱ったものをここで紹介する。

1099はD-15区の1トレンチIIb層で出土した。

ほぼ完全な弥生土器で、口径15.2cm、底径3.5cm、高さ10.7cmの小型壺形土器である。小さい平底で、胴部が稜をもつそろばん玉形をした器形をしている。頸部から口縁へ強く外反し、端部は丸みをおびている。頸部にやや離れた位置にある2個一対の小さな円孔が対面2か所に

ある。表面の摩滅が目立つが、外面は縦方向のヘラナデである。内側も縦あるいは横方向ヘラナデである。

灰白色石・茶色石・角閃石などの砂質土を多く含んでいる。

1100はC・D-24・25区の6トレンチIIb層で出土した土師器の高台付皿である。

高台が欠け、体部も摩滅が目立つ。ヘラ切り底で、橙色を呈し、底には黒班がみられる。

茶石などを含むこまかい胎土である。

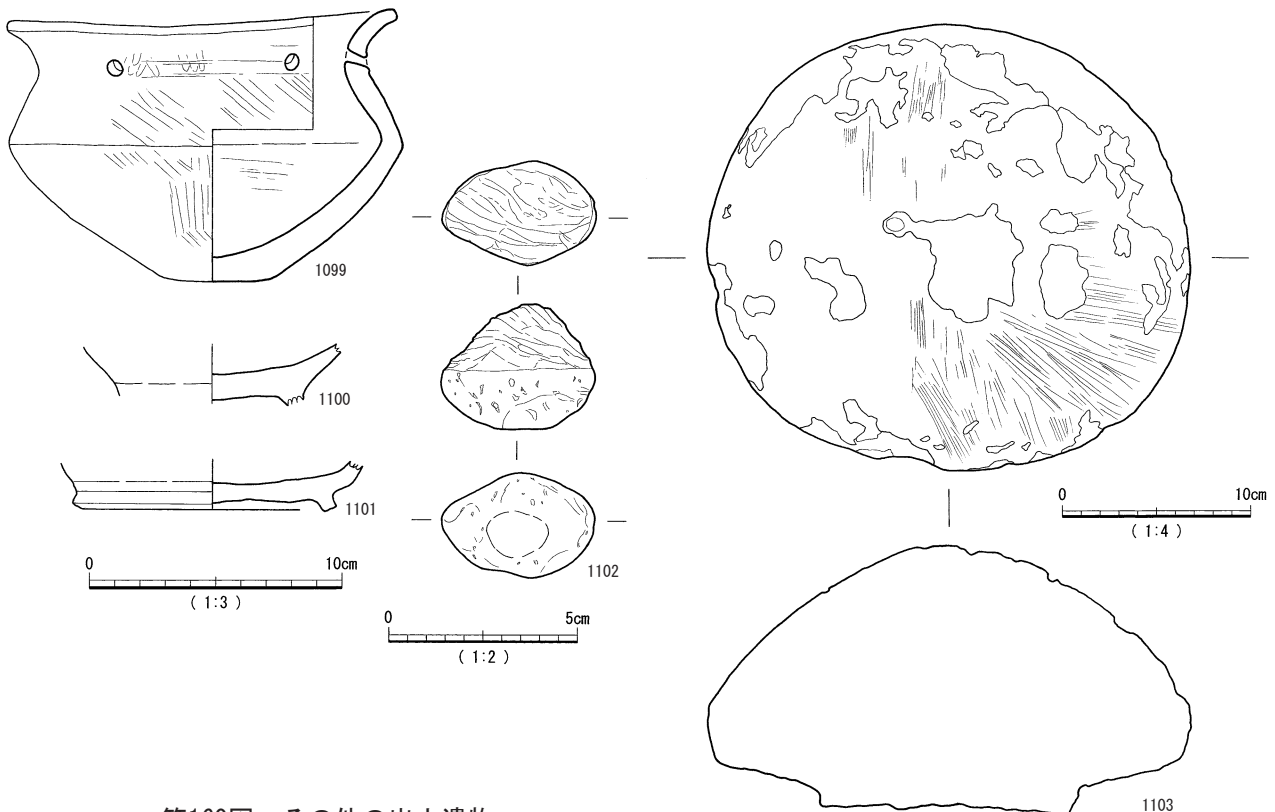
1101は1トレンチで出土した須恵器坏身である。

高台は直径10.5cm・高さ0.4cmと大きく低い。高台端部はやや上へ上がる矩形を呈している。体部は立ち上がり部で段となっている。褐灰色を呈し軟質に焼けている。

こまかい土を用いているが、灰色・角閃石・輝石などを多く含んでいる。

1102はD-25区の礫敷遺構で出土した船形をしたホルンフェルスである。上半部が灰褐色、下半部が灰白色をしている。全体的に自然のままであるが、部分的に摩耗しており、底部の1.6×1.2cmの楕円形部分は平らに研磨している。上面からみると長径4.1cm、短径2.8cmで、高さは3.3cm、重さ39gである。

1103は近世の祭祀遺構で出土した凝灰岩製の僧侶型田の神石像の笠部である。周辺は打ち欠いて形を整えたあと研磨しており、下部に長さ1cmほどのほぞがある。天井部には自然のくぼみもある。25.6×23.7cmの楕円形を呈し、ほぞを加えて高さ13.8cmあり、重さは5.4kgである。



第160図 その他の出土遺物

第11表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土						備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	赤褐 色礫		白色 礫	
14	1	-	D-28	IV	土器	深鉢	口縁部	-	-	(5.2)	ナデ	5YR6/6(橙)			○	○	○	○	縄文時代(後期) 南福寺式土器		
	2	-	D-33	IIb直下	土器	深鉢	口縁部	-	-	(3.6)	外)摩減 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR6/2(灰黄橙)			○	○	○	○	縄文時代後期 (西平系)		
15	4	-	E-34	III	土器	甕	口縁部	-	-	(6.8)	工具ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○			○	○	弥生 突帯文土器		
	5	-	C-34	-	土器	壺	胴部	-	-	(3.4)	ナデ	外)2.5Y4/1(黄灰) 内)10YR8/3(浅黄橙)		○				○	弥生 板付式土器 (長頸壺)		
	6	-	E-30	-	土器	壺	胴部	-	-	(2.3)	ハケナデ	2.5YR5/6(明赤褐)				○		○	弥生 板付式土器 (長頸壺)		
	7	-	C-24	-	土器	甕	口縁部	-	-	(2.4)	摩減	外)10YR7/2(にぶい黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)					○	○	○	弥生	
	8	-	D-35	-	土器	甕	口縁部	-	-	(3.2)	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○	○	弥生	
	9	-	E-30	IV	土器	甕	口縁部	(27.2)	-	(2.3)	ナデ	外)10YR5/2(灰黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○			○	○	弥生 黒髪式土器	
	10	-	D-26	IIb	土器	甕	口縁部	(27.0)	-	(4.9)	ナデ	外)7.5YR7/3(にぶい橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○	○				○	○	弥生 黒髪式土器	
	11	-	E-30	-	土器	甕	口縁~ 胴部	(23.0)	-	(7.0)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ,工具ナデ	外)7.5YR6/2(灰褐) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○		○	○	○	弥生 黒髪式土器 (松木菌O式)	
	12	-	-	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(2.1)	ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)			○				○	弥生 黒髪式土器	
	13	-	D-30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(1.5)	摩減	10YR7/4(にぶい黄橙)	○	○				○	○	弥生 黒髪式土器	
	14	-	E-35	-	土器	甕	口縁部	-	-	(1.8)	ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙)			○			○	○	弥生 黒髪式土器	
	15	-	D-35	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(2.0)	摩減	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)			○				○	○	弥生 黒髪式土器
	16	-	D-31	IIb	土器	壺	口縁部	-	-	(2.5)	ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙)	○				○		○	弥生 黒髪式土器	
	17	-	D-27	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(3.8)	ナデ	7.5YR8/3(浅黄橙)	○				○		○	弥生 黒髪式土器	
	18	-	E-30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(3.1)	ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)			○			○	○	弥生 黒髪式土器	
	19	-	D-30	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(4.4)	ナデ	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○			○	○	弥生 黒髪式土器	
	20	-	E-27	-	土器	甕	口縁部	-	-	(1.6)	ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)		○	○				○	○	弥生 黒髪式土器
	21	-	E-28	-	土器	甕	口縁部	-	-	(2.3)	ナデ	10YR8/3(浅黄橙)					○	○	○	弥生 黒髪式土器	
	22	-	D-35	-	土器	甕	口縁部	-	-	(2.0)	ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)	○					○	○	弥生 黒髪式土器	
	23	-	D・E-27	IIc-2	土器	甕	口縁部	-	-	(2.0)	ナデ	外)10YR6/1(褐灰) 内)7.5YR7/8(黄橙)					○	○	○	弥生 黒髪式土器	
	24	-	E-27・28	III	土器	甕	口縁部	-	-	(2.9)	ナデ	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)			○				○	○	弥生 黒髪式土器
	25	-	E-29・30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(2.1)	摩減	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○			○	○	弥生 黒髪式土器	
	26	-	E-27・28	-	土器	甕	口縁部	-	-	(1.9)	ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)5YR7/6(橙)		○	○				○	○	弥生 黒髪式土器
	27	-	E-28	IIc上	土器	甕	口縁部	-	-	(2.7)	ナデ	外)7.5YR8/3(浅黄橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)	○					○	○	弥生 黒髪式土器	
	28	-	C・D- 26・27	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(2.4)	ナデ	外)2.5Y6/1(黄灰) 内)2.5Y8/4(淡黄)	○	○						○	弥生 黒髪式土器
	29	-	D・E-27	-	土器	甕	口縁部	-	-	(2.4)	ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/2(灰白)			○		○	○	○	弥生 黒髪式土器	
	30	-	D-28	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(2.6)	ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR7/8(橙)	○						○	○	弥生 黒髪式土器
	31	-	E-27	表土	土器	甕	口縁部	-	-	(1.8)	ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)		○	○				○	○	弥生 黒髪式土器
	32	-	E-30	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(2.4)	摩減	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)2.5Y8/3(淡黄)		○				○	○	○	弥生 黒髪式土器
	33	-	-	-	土器	甕	口縁部	-	-	(2.6)	ヘラナデ(摩減)	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)			○					○	弥生 黒髪式土器
	34	-	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(2.6)	摩減	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)		○					○	○	弥生 黒髪式土器
	35	-	E・D-24	-	土器	甕	口縁部	-	-	(3.5)	摩減	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR7/1(灰白)		○				○	○	○	弥生 黒髪式土器
	36	-	D-28	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(2.8)	外)摩減,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)			○					○	弥生 黒髪式土器
	37	-	D-28	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(2.7)	ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○						○	弥生 黒髪式土器
	38	-	D・E-27	-	土器	甕	口縁部	-	-	(3.9)	ナデ	外)10YR5/2(灰黄褐) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)		○	○				○	○	弥生 黒髪式土器
	39	-	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(4.2)	ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)	○	○				○	○	○	弥生 黒髪式土器

第12表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫	
16	40	-	E-30	IIa	土器	甕	口縁部	(22.4)	-	(2.4)	ナデ	外)7.5YR6/1(褐灰) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○		○	○	弥生		
	41	-	D-26	IIb	土器	甕	口縁部	-	-	(2.0)	ヘラナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○		○			○	弥生・黒石		
	42	-	E-27	I	土器	甕	口縁部	-	-	(1.5)	外)ナデ,摩滅 内)摩滅	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)			○			○	○	弥生	
	43	-	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(1.6)	摩滅	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)		○	○				○	弥生	
	44	-	D-30	IIb	土器	甕	口縁部	(26.4)	-	(2.1)	ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○					○	弥生	
	45	-	C-25	IIc-2	土器	甕	口縁部	-	-	(3.4)	外)ナデ 内)ナデ,ケズリ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○				○	弥生	
	46	-	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(7.8)	外)ナデ 内)ユビナデ	2.5YR8/4(浅黄橙)			○				○	○	弥生
	47	-	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(7.7)	摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)			○					○	弥生
48	-	E-29	IIb	土器	壺	頸部	-	-	(2.4)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR7/6(橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○		○	○	○	○	弥生	
21	52	SI3	C-23	-	土器	甕	胴部	(25.4)	-	(24.1)	外)タタキ,ハケナデ,ケズリ 内)ユビナデ,ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)			○	○			○	○	成川式土器
	53	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.0)	-	(16.8)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)5YR3/3(暗赤褐) 内)5YR3/4(暗赤褐)	○		○	○	○	○	○	成川式土器	
	54	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	(24.0)	-	(8.5)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,指頭押圧,ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)7.5Y4/1(灰)			○	○	○	○	○	成川式土器	
	55	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(7.7)	外)タタキ,ナデ 内)工具ナデ,指頭押圧,ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR6/6(橙)	○				○	○	○	成川式土器	
	56	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(5.1)	外)タタキ,ナデ 内)ケズリ,ナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)	○						○	成川式土器	
57	SX3	C-23	-	土器	甕	頸部	-	-	(8.8)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○						○	成川式土器	
22	58	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	(25.4)	-	(12.3)	外)ハケナデ,ナデ,タタキ 内)ハケナデ,指頭押圧,ナデ	外)10YR4/1(褐灰) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○					○	○	-
	59	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	(26.0)	-	(5.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)			○				○	○	-
	60	SX3	C-23	-	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(6.8)	外)ハケナデ,タタキ,ナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○	○	○	○	○	○	-
	61	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.2)	-	(18.3)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ,ケズリ	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	62	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(7.1)	ナデ,指頭押圧	外)7.5YR6/6(橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)			○	○	○	○	○	○	-
	63	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(13.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR5/2(灰黄褐) 内)10YR5/4(にぶい黄褐)			○	○	○	○	○	○	-
	64	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(8.3)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)7.5YR5/6(明褐) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○	○	○	○	○	-
	65	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(5.7)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR5/3(にぶい黄褐) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)					○	○	○	○	-
	66	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(5.1)	外)条痕,ナデ 内)摩滅	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○	○	○	○	○	○	-
	67	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.3)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)							○	○	-
	68	SX3	C-23	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(4.4)	外)ナデ 内)ハケナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR6/4(にぶい黄橙)			○		○	○	○	○	-
	69	SX3	C-23	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(4.6)	ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)			○					○	-
70	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.2)	外)ナデ 内)ハケナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)			○				○	○	-	
71	SX3	C-23	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(3.1)	ナデ	10YR4/1(灰褐)								○	-	
72	SX3	C-23	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(3.3)	ナデ	外)10YR5/2(灰黄褐) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○					○	-	
23	73	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(6.8)	外)ケズリ,ナデ,ハケナデ 内)摩滅	外)2.5YR6/6(橙) 内)7.5YR5/1(褐灰)	○		○				○	○	-
	74	SX3	C-23	-	土器	甕	脚部	-	11.2	(7.3)	ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)			○				○	○	-
	75	SX3	C-23	-	土器	甕	脚部	-	(9.8)	(5.7)	外)ユビナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)							○	○	-
	76	SX3	C-23	-	土器	甕	脚部	-	(11.6)	(4.3)	外)摩滅 内)ミガキ	10YR6/4(にぶい黄橙)			○					○	-
	77	SX3	C-23	埋土	土器	甕	脚部	-	11.4	(4.8)	外)摩滅 内)ナデ,ミガキ	7.5YR7/4(にぶい橙)			○					○	-

第13表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫	白色 礫	
23	78	SX3	C-23	-	土器	甕	脚部	-	(11.4)	(5.4)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)			○		○	○	-		
	79	SX3	C-23	-	土器	甕	脚部	-	(10.8)	(4.9)	外)指頭押圧,ナデ 内)ユビナデ	外)5YR6/6(橙) 内)5YR5/2(灰褐)			○	○	○	○	-		
	80	SX3	C-23	埋土	土器	甕	脚部	-	8.4	(3.0)	外)指頭押圧,ナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)		○		○		○	○	-	
	81	SX3	C-23	埋土	土器	甕	頸~ 胴部	-	-	(7.3)	外)ユビナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)5YR6/6(橙) 内)7.5YR4/1(褐灰)	○					○		-	
	82	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁~ 頸部	(16.6)	-	(21.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ	外)5YR5/4(にぶい赤褐) 内)5YR4/2(灰褐)		○					○	二重口縁	
	83	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁~ 頸部	14.6	-	(9.1)	外)ハケ 内)ナデ,摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○				○	二重口縁	
	84	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	(13.0)	-	(5.9)	外)ナデ 内)ケズリ,ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)				○		○	○	二重口縁・隅丸方形	
	85	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁~ 胴部	(11.0)	-	(11.4)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ,ケズリ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)				○	○	○	○	二重口縁	
	86	SX3	C-23	埋土	土器	甕	口縁部	(16.0)	-	(3.2)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)					○	○	○	二重口縁	
	87	SI3	C-23	-	土器	甕	頸~ 胴部	-	-	(13.6)	外)ハケナデ 内)摩滅	10YR8/4(浅黄橙)	○						○	○	-
88	SX3	C-23	-	土器	甕	頸部	-	-	(6.6)	外)ハケ,ナデ 内)ハケ,ナデ,ケズリ	5YR6/6(橙)						○	○	○	-	
24	89	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(17.6)	外)ナデ 内)摩滅	外)10YR5/3(にぶい黄褐) 内)7.5YR6/3(にぶい褐)	○			○		○	○	重弧文	
	90	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(4.3)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/3(にぶい褐)	○				○	○	○	-	
	91	SX3	C-23	埋土	土器	甕	胴部	-	-	(4.6)	外)ナデ 内)摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR4/1(褐灰)	○	○			○	○	○	-	
	92	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(4.1)	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)				○		○	○	-	
	93	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(4.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR6/2(灰褐)	○	○				○	○	-	
	94	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(6.3)	外)ナデ 内)ナデ,ハケナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○					○	○	-
	95	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(5.7)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	10YR6/3(にぶい黄橙)				○	○		○	○	-
	96	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(5.9)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	外)10YR4/1(褐灰) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○					○	○	-
	97	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(6.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR4/1(褐灰)				○		○	○	-	
25	98	SX3	C-23	-	土器	甕	胴部	-	-	(11.2)	外)ケズリ,タタキ,ナデ 内)ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)	○			○			○	-	
	99	SX3	C-23	-	土器	甕	胴~ 底部	-	-	(4.9)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR6/2(灰褐)	○				○		○	-	
	100	SX3	C-23	-	土器	甕	胴~ 底部	-	4.0	(12.9)	外)タタキ,ハケナデ 内)指頭押圧,摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)							○	○	-
	101	SX3	C-23	-	土器	甕	底部	-	-	(3.6)	ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○				○	○	-
	102	SX3	C-23	-	土器	甕	底部	-	7.2	(8.6)	外)ユビナデ,タタキ,ナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR5/2(灰褐)				○	○	○	○	-	
26	103	SX3	C-23	-	土器	高坏	坏部	(15.8)	-	(5.3)	摩滅	7.5YR7/6(橙)		○					○	○	-
	104	SX3	C-23	-	土器	高坏	脚部	-	-	(5.9)	摩滅	5YR6/8(橙)		○					○	○	-
	105	SX3	C-23	-	土器	高坏	脚部	-	-	(8.1)	外)ユビナデ,ナデ 内)摩滅	10YR7/4(にぶい黄橙)				○	○	○	○	-	
	106	SX3	C-23	-	土器	蓋	胴部	-	-	(6.7)	外)ケズリ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○	○				○	○	-
	107	SX3	C-23	-	土器	蓋	口縁部	-	-	(5.5)	外)ケズリ,ナデ 内)ナデ	10YR7/2(にぶい黄橙)			○			○	○	○	-
	108	SX3	C-23	-	土器	鉢	口縁~ 底部	(12.9)	-	(5.0)	外)ユビナデ,ハケ 内)ハケナデ,指頭押圧	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)	○					○	○	○	小型鉢
	109	SX3	C-23	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.3)	ナデ	10YR3/1(黒褐)			○				○	○	小型丸底甕
	110	SX3	C-23	埋土	土器	甕	胴部	-	-	(4.5)	外)摩滅 内)ミガキ	5YR6/6(橙)				○			○	○	小型丸底甕
28	112	SI4	C-26	-	土器	甕	口縁~ 肩部	(28.8)	-	(9.8)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ユビナデ,ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/6(橙)				○			○	○	-
	113	SI4	C-26	-	土器	甕	口縁~ 肩部	(24.7)	-	(8.4)	外)タタキ,ナデ 内)ハケナデ,ユビナデ,ナデ	外)7.5YR7/2(明褐灰) 内)7.5YR7/6(橙)	○					○	○	○	-
	114	SI4	C-26	-	土器	甕	口縁~ 肩部	-	-	(6.8)	ハケナデ,ナデ	10YR7/2(にぶい黄橙)				○			○	○	-

第14表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫	白色 礫
28	115	SI4	C-26	-	土器	甕	口縁～ 肩部	-	-	(7.5)	摩滅	5YR6/8(橙)			○		○	○	-	
	116	SI4	-	埋土	土器	甕	口縁～ 肩部	-	-	(7.3)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)5YR7/8(橙) 内)5YR7/6(橙)			○		○	○	-	
	117	SI4	C-26	埋土	土器	甕	脚部	-	-	(3.6)	ユビナデ	外)5YR7/8(橙) 内)5YR2/1(黒褐)			○		○	○	-	
	118	SI4	C-26	埋土	土器	甕	脚部	-	(11.6)	(4.1)	外)ユビナデ,ナデ 内)指頭押圧	5YR6/6(橙)	○			○	○	○	-	
	119	SI4	C-26	埋土	土器	甕	口縁～ 肩部	-	-	(3.4)	摩滅	2.5YR6/2(灰黄)			○		○	○	-	
	120	SI4	C-26	IIb	土器	壺	胴部	-	-	(19.1)	外)タタキ,ハケナデ 内)摩滅	外)2.5Y6/8(橙) 内)5YR7/8(橙)			○		○	○	-	
	121	SI4	C-26	IIc-2	土器	壺	胴部	-	-	(7.2)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	2.5YR6/8(橙)	○	○		○	○	○	-	
	122	SI4	-	埋土	土器	甕	胴部	-	-	(6.4)	外)ナデ 内)ハケナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)2.5Y6/1(黄灰)			○		○	○	-	
	123	SI4	C-26	-	土器	壺	底部	-	-	(7.8)	摩滅	2.5YR6/8(橙)			○		○	○	-	
30	124	SI5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(21.4)	-	(12.0)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ,ケズリ,ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR7/6(橙)	○			○	○	○	-	
	125	SI5	-	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(4.2)	外)ハケヌ,摩滅 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR7/6(橙)			○		○	○	-	
	126	SI5	C-26	-	土器	甕	口縁部	-	-	(3.7)	ハケナデ,ナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR6/6(橙)		○			○	○	-	
	127	SI5	D-26	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(3.1)	外)ナデ 内)ハケナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)					○	○	○	二又状口縁
	128	SI5	-	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(4.0)	外)ナデ 内)摩滅	5YR6/8(橙)			○		○	○	-	
	129	SI5	C-26	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.7)	摩滅	5YR6/8(橙)					○	○	○	-
	130	SI5	-	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(7.6)	外)タタキ 内)ハケナデ,ユビナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)					○	○	○	-
	131	SI5	-	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(5.7)	ハケナデ,ナデ	外)10YR3/2(黒褐) 内)10YR5/2(灰黄褐)					○	○	○	-
	132	SI5	-	埋土	土器	甕	頸～ 肩部	-	-	(2.9)	外)ナデ 内)指頭押圧	外)2.5Y3/1(黒褐) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)					○	○	○	-
	133	SI5	C-26	-	土器	甕	頸～ 肩部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ 内)ケズリ,ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)5YR5/8(明赤褐)		○			○	○	○	-
	134	SI5	-	埋土	土器	甕	頸～ 肩部	-	-	(3.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)5YR7/6(橙)	○	○			○	○	○	-
	135	SI5	C-26	-	土器	甕	胴部	-	-	(7.2)	外)タタキ 内)摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)			○		○	○	○	-
	136	SI5	C-26	-	土器	甕	胴部	-	-	(7.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)7.5YR5/4(にぶい褐) 内)7.5YR5/6(明褐)		○	○		○	○	○	-
	137	SI5	-	埋土	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(6.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○		○	○	○	-
138	SI5	-	埋土	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(5.8)	外)摩滅 内)工具ナデ	5YR6/6(橙)					○	○	○	-	
139	SI5	C-26	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(6.9)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR6/3(にぶい褐)			○		○	○	○	二重口縁	
140	SI5	-	埋土	土器	甕	胴～ 脚部	-	(10.0)	(4.1)	ナデ	2.5YR5/6(明赤褐)			○	○	○	○	○	-	
31	141	SI5	C-26	-	土器	壺	口縁部	(18.8)	-	(6.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	2.5YR6/8(橙)			○		○	○	○	二重口縁
	142	SI5	-	埋土	土器	壺	口縁部	-	-	(2.7)	ナデ	7.5YR7/6(橙)			○		○	○	-	
	143	SI5	-	埋土	土器	壺	口縁部	-	-	(3.0)	ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)			○		○	○	○	二又状口縁
	144	SI5	-	埋土	土器	壺	頸部	-	-	(4.9)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)2.5YR6/8(橙) 内)5YR7/8(橙)			○		○	○	○	-
	145	SI5	-	埋土	土器	壺	頸部	-	-	(4.5)	摩滅	2.5YR6/8(橙)			○		○	○	○	-
	146	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(4.7)	外)摩滅 内)ユビナデ,指頭押圧	2.5YR6/8(橙)			○		○	○	○	-
	147	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(3.9)	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR8/3(浅黄橙) 内)7.5YR7/6(橙)				○	○	○	○	-
	148	SI5	C-26	-	土器	壺	胴部	-	-	(6.2)	外)摩滅 内)指頭押圧,ユビナデ	5YR6/8(橙)		○	○		○	○	○	-

第15表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	
31	149	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(4.0)	外)ナデ 内)摩滅	5YR6/8(橙)			○	○	○	-
	150	SI5	C-26	-	土器	壺	胴部	-	-	(11.3)	外)タタキ 内)ユビナデ	5YR6/8(橙)		○	○	○	○	-
	151	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(5.3)	外)ハケ 内)ハケ,摩滅	外)2.5Y6/1(黄灰) 内)10YR8/2(灰白)	○			○	○	-
	152	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(4.4)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)2.5YR5/6(明赤褐) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)	○			○	○	-
	153	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(3.8)	摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)	○			○	○	-
	154	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(2.8)	外)ナデ 内)指頭押圧	外)5YR6/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)	○			○	○	-
	155	SI5	-	埋土	土器	壺	底部	-	(3.0)	(3.7)	外)ユビナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR5/2(灰黄褐)		○	○	○	○	-
	156	SI5	C-26	-	土器	壺	底部	-	-	(8.0)	摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/8(橙)		○		○	○	-
32	157	SI5	-	埋土	土器	高環	環部	-	-	(5.2)	摩滅	5YR6/8(橙)				○	○	-
	158	SI5	-	埋土	土器	高環	環部	-	-	(2.7)	摩滅	5YR6/8(橙)			○		○	-
	159	SI5	C-26	-	土器	高環	脚部	-	-	(8.8)	外)ミガキ,ハケナデ 内)ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR4/1(褐灰)				○	○	-
	160	SI5	-	埋土	土器	高環	脚部	-	-	(7.2)	外)ミガキ,ナデ 内)ナデ	外)5YR5/6(明褐) 内)5YR5/3(にぶい赤褐)	○		○		○	-
	161	SI5	C-26	-	土器	高環	脚部	-	-	(6.3)	外)ミガキ 内)ナデ	5YR6/8(橙)					○	-
	162	SI5	C-26	-	土器	高環	脚部	-	-	(10.2)	外)摩滅 内)ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)				○	○	-
	163	SI5	-	埋土	土器	高環	脚部	-	-	(3.9)	摩滅	5YR6/8(橙)				○	○	-
	164	SI5	-	埋土	土器	高環	脚部	-	-	(6.9)	外)- 内)ユビナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○			○	○	穿孔あり
	165	SI5	-	埋土	土器	壺	口縁部	-	-	(6.5)	摩滅	5YR6/6(橙)					○	小型丸底壺
	166	SI5	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(5.7)	ユビナデ	5YR6/6(橙)				○	○	小型丸底壺
	167	SI5	-	埋土	土器	壺	頸~ 胴部	-	-	(5.0)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)10YR6/4(にぶい黄橙) 内)10YR5/3(にぶい黄橙)		○	○	○	○	小型丸底壺
	168	SI5	-	埋土	土器	壺	底部	-	-	(3.6)	摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/6(明黄褐)			○	○	○	小型丸底壺
169	SI5	-	-	土器	蓋	つまみ	4.0	-	(4.0)	外)ハケ 内)摩滅	外)2.5YR6/6(橙) 内)5YR7/6(橙)	○			○	○	-	
170	SI5	C-26	-	土器	壺	胴部	-	-	(6.4)	摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)					○	免田式土器 長頸壺・重弧文	
35	173	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁~ 胴部	(22.4)	-	15.9	-	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/8(橙)			○	○	○	-
	174	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	(24.0)	-	(11.9)	外)ヘラナデ 内)ハケナデ	10YR8/4(浅黄橙)			○		○	-
	175	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	(23.0)	-	(12.8)	ヘラナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○	○	-
	176	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	(24.2)	-	(10.6)	外)ハケナデ 内)ヘラナデ,タタキ	7.5YR8/4(浅黄橙)			○		○	-
	177	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁~ 胴部	(20.8)	-	(13.5)	外)ハケナデ 内)ケズリ,ナデ	外)10YR6/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○	○	○	-
	178	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	(22.0)	-	(9.7)	ヘラナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)	○		○		○	-
	179	SI6	-	埋土	土器	甕	口縁~ 胴部	-	-	11.1	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/6(橙)			○		○	-
	180	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	23.2	-	(12.0)	ヘラナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)				○	○	-
36	181	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁~ 胴部	-	-	(18.1)	外)ハケ,ナデ 内)ユビナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○		○	-
	182	SI6	-	埋土	土器	甕	口縁~ 胴部	-	-	(5.9)	外)タタキ,ナデ,摩滅 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR7/2(にぶい黄橙) 内)5YR7/6(橙)	○	○			○	-
	183	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁~ 胴部	(31.2)	-	(15.1)	外)タタキ,ケズリ 内)ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○		○	-
	184	SI6	-	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(3.4)	外)指頭押圧,ハケナデ 内)ハケナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○		○	-
	185	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁部	-	-	3.7	ナデ	外)7.5YR4/1(褐灰) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○		○	-

第16表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 燧	
37	186	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(27.8)	-	(20.0)	外)ナデ,タタキ,ケズリ 内)ユビナデ,ハケナデ	外)7.5YR6/2(灰褐) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)	○	○		○	○	-
	187	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(12.6)	外)ハケナデ 内)指頭押圧	外)7.5YR7/3(にぶい橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)		○		○	○	-
	188	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.0)	-	(7.0)	摩滅	7.5YR7/6(橙)				○	○	-
	189	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.0)	-	(13.8)	外)ハケナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)7.5YR5/4(にぶい褐) 内)7.5YR5/4(にぶい褐)		○	○	○	○	-
	190	SI6	-	埋土	土器	甕	口縁部	-	-	(5.8)	外)指頭押圧 内)ユビナデ	外)7.5YR1.7/1(黒) 内)7.5YR6/6(橙)		○		○	○	-
	191	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	(26.0)	-	(9.6)	ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙) 内外ともに広く黒色化			○	○	○	黒石
	192	SI6	-	-	土器	甕	口縁部	-	-	(5.2)	ナデ	7.5YR4/6(褐)	○	○			○	-
38	193	SI6	-	-	土器	甕	口縁部	-	-	(5.3)	外)タタキ 内)ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)		○		○	○	黒石
	194	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	(30.0)	-	(22.0)	ヘラナデ	2.5YR5/6(明赤褐) 内面底近くは黒色化			○		○	-
	195	SI6	D-26	IIc-2	土器	甕	口縁～ 胴部	(25.5)	-	(24.0)	外)ハケナデ,ヘラケズリ 内)ハケナデ,ヘラナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)		○		○	○	-
39	196	SI6	-	-	土器	甕	胴部	-	-	(15.7)	ハケナデ,ヘラナデ	外)5YR7/6(橙) 内)10YR8/2(灰白)		○		○	○	-
	197	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 底部	(14.4)	-	17.3	ヘラナデ	7.5YR8/4(浅黄橙)			○	○	○	丸底甕
	198	SI6	D-26	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(21.5)	-	(11.7)	外)ユビナデ 内)ハケナデ,指頭押圧,ナデ	外)7.5YR7/3(にぶい橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○		○	○	-
	199	SI6	-	-	土器	甕	口縁～ 頸部	-	-	(5.7)	摩滅	5YR7/8(橙)		○		○	○	-
	200	SI6	D-26	-	土器	壺	口縁部	(16.6)	-	3.1	摩滅	外)10R6/8(赤橙) 内)10R6/8(赤橙)			○		○	-
	201	SI6	-	-	土器	甕	口縁～ 頸部	(19.8)	-	(8.7)	ヘラナデ	5YR6/8(橙)				○	○	黒石
	202	SI6	D-26	-	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(10.4)	外)ハケ,ケズリ 内)ナデ	外)10YR6/4(にぶい黄橙) 内)10YR6/4(にぶい黄橙)		○	○		○	-
	203	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	(17.0)	-	(13.3)	外)タタキ,ヘラナデ 内)ナデ,ハケナデ	2.5YR6/8(橙)				○	○	-
	204	SI6	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(6.3)	ヘラナデ	5YR4/4(にぶい赤褐)		○		○	○	-
	205	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	(15.4)	-	11.5	外)ヘラナデ	5YR5/8(明赤褐)	○	○			○	黒石
40	206	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	(18.0)	-	11.1	外)ヘラナデ 内)摩滅	5YR4/8(赤褐色)	○		○	○	○	-
	207	SI6	-	IIb	土器	甕	口縁～ 脚部	15.3	-	(12.5)	ヘラナデ	5YR5/6(明赤褐)	○	○			○	黒石
	208	SI6	D-26	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	(11.0)	(17.0)	外)ケズリ,ハケ,タタキ 内)ハケ,指頭押圧	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)		○		○	○	-
	209	SI6	D-27	IIb	土器	甕	胴～ 脚部	-	脚径 9.8	(21.2)	ヘラナデ	7.5YR8/4(浅黄橙)	○			○	○	黒石
	210	SI6	D-26	-	土器	甕	脚部	-	(9.8)	(5.8)	外)ナデ 内)ハケナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)5YR6/6(橙)		○	○	○	○	-
	211	SI6	D-26	埋土	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(10.9)	外)ケズリ,ユビナデ 内)摩滅	外)2.5YR7/6(橙) 内)2.5YR5/1(赤灰)		○		○	○	-
	212	SI6	D-26	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(6.4)	ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)	○	○		○	○	-
41	213	SI6	-	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(11.3)	ヘラナデ	5YR7/6(橙) 内にコゲ		○	○		○	-
	214	SI6	-	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	(9.0)	(16.1)	外)ケズリ 内)ナデ	5YR6/8(橙)		○		○	○	-
	215	SI6	D-26	-	土器	壺	口縁～ 底部	(14.6)	-	34.4	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧,ユビナデ,ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)				○	○	-
	216	SI6	D-26	-	土器	壺	完形	14.9	-	28.6	外)タタキ,ナデ,ハケナデ,ケズリ 内)ナデ,ユビナデ,工具ナデ,ケズリ	2.5YR5/8(明赤褐)	○	○		○	○	-
	217	SI6	D-27	IIb	土器	壺	口縁部	(16.4)	-	(7.0)	ヘラナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)		○	○		○	二重口縁
	218	SI6	D-28	埋土	土器	壺	肩部	-	-	(2.6)	外)ハケナデ 内)ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)			○	○	○	-
41	219	SI6	-	埋土	土器	壺	頸～ 肩部	-	-	(8.7)	外)ハケナデ,指頭押圧,ケズリ 内)ハケナデ,ナデ	外)10YR5/2(灰黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○		○	○	-
	220	SI6	-	埋土	土器	壺	胴部	-	-	(5.2)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)10R6/6(赤橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)		○		○	○	-

第17表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫	
41	221	SI6	D-26	-	土器	壺	頸～ 肩部	-	-	(7.8)	外)ナデ(摩滅) 内)ユビナデ	外)5YR5/8(明赤褐) 内)5YR5/8(明赤褐)			○		○		-		
	222	SI6	D-26	-	土器	壺	胴～ 底部	-	-	(2.8)	外)ハケ 内)摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい)橙 内)7.5YR7/4(にぶい)橙	○		○		○	○	-		
	223	SI6	D-26	-	土器	壺	胴～ 底部	-	4.0	(14.6)	外)ナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)7.5YR7/4(にぶい)橙 内)7.5YR7/8(黄橙)			○		○	○	-		
	224	SI6	-	IIb	土器	壺	胴～ 底部	-	-	(12.4)	ヘラナデ,摩滅	7.5YR8/4(浅黄橙)			○	○	○	○	○	粗い砂質土	
42	225	SI6	D-26	-	土器	高坏	坏部	(32.2)	-	(3.6)	外)指頭押圧,ユビナデ 内)ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)				○	○	○	○	-	
	226	SI6	D-27	IIb	土器	高坏	坏部	(34.0)	-	(5.2)	ナデ(摩耗)	10YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	-	
	227	SI6	D-27	IIb	土器	高坏	坏部	30.0	-	(9.0)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)			○		○	○	○	-	
	228	SI6	D-27	-	土器	高坏	坏部	(32.0)	-	(9.5)	ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○			○		○	○	-	
	229	SI6	D-27	IIb	土器	高坏	坏部	(27.0)	-	(6.5)	ヘラナデ	10YR6/3(にぶい)黄褐	○			○			○	-	
	230	SI6	D-27	IIb	土器	高坏	坏部	-	-	(7.1)	摩滅	10YR8/4(浅黄橙)						○	○	黒石	
	231	SI6	D-26	-	土器	高坏	脚部	-	-	(8.0)	外)摩滅 内)ナデ	外)10YR7/3(にぶい)黄橙 内)10YR7/3(にぶい)黄橙)						○	○	穿孔あり(2ヶ所)	
	232	SI6	-	埋土	土器	蓋	口縁部	-	-	(2.9)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)				○	○		○	スス附着	
	233	SI6	-	-	土器	鉢	口縁～ 胴部	(12.6)	-	(5.1)	ヘラナデ	5YR4/6(赤褐)				○	○		○	○	-
	234	SI6	D-27	IIb	土器	鉢	口縁～ 脚部	(14.0)	-	(10.9)	外)ナデ 内)ナデ,摩滅	7.5YR8/3(浅黄橙)	○	○				○	○	口縁付近の一部黒斑 (黒石)	
	235	SI6	D-27	IIb	土器	鉢	口縁～ 脚部	(14.0)	脚台 9.4	10.5	ヘラナデ	5YR4/6(赤褐)				○			○	-	
	236	SI6	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	-	脚台 8.0	(17.0)	ナデ,ヘラナデ	外)2.5YR4/8(赤褐) 内)2.5YR4/6(赤褐)	○				○	○	○	小型甕	
43	238	SI7	D-27	IIb IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(22.3)	-	(16.1)	ヘラナデ	外)明褐灰(表面は部分的に橙) 内)2.5YR(橙)						○	○	○	-
	239	SI7	D-27	IIb	土器	甕	口縁～ 胴部	24.0	-	(11.8)	外)摩滅 内)ナデ	外)7.5YR7/8(橙) 内)7.5YR7/8(橙)	○					○	○	○	-
	240	SI7	D-27	IIb	土器	壺	頸部～ 肩部	-	-	(2.9)	外)ハケナデ 内)指頭押圧,ナデ	2.5YR5/6明赤褐								-	
	241	SI7	D-27	IIb	土器	壺	頸部～ 肩部	-	-	(12.6)	外)タタキ,ヘラナデ 内)ヘラナデ	2.5YR5/6明赤褐			○		○	○	○	-	
45	242	SI8	-	埋土	土器	甕	口縁部	(19.2)	-	(4.4)	ナデ	10YR8/4(浅黄橙)				○	○	○	○	-	
	243	SI8	E-27	IIc-2	土器	甕	肩部	-	-	(3.9)	ナデ,ハケナデ	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR6/4(にぶい)黄橙)			○			○	○	-	
	244	SI8	-	-	土器	甕	脚部	-	(10.2)	(6.4)	外)ハケナデ,指頭押圧 内)ナデ	2.5YR5/8(明赤褐)				○		○	○	-	
	245	SI8	-	埋土	土器	甕	脚部	-	12.4	(7.5)	外)ユビナデ,ナデ,ミガキ 内)工具ナデ,ナデ	5YR6/6(橙)				○	○	○	○	-	
	246	SI8	E-27	IIc-2	土器	甕	脚部	-	9.6	(7.5)	ハケナデ,ナデ	10YR6/4(にぶい)黄橙)			○	○		○	○	-	
	247	SI8	E-27	-	土器	高坏	脚部	-	-	(7.3)	外)指頭押圧 内)ユビナデ,ナデ	外)5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい)橙)				○	○	○	○	-	
	248	SI8	E-27	-	土器	甕	脚部	-	-	(3.9)	外)ユビナデ 内)摩滅	外)2.5YR8/2(灰白) 内)2.5Y7/2(灰黄)	○					○	○	-	
	249	SI8	E-27	-	土器	甕	脚部	-	(6.8)	(5.1)	ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR2/1(黒褐)				○			○	○	-
	250	SI8	D・E-27	IIc-2	土器	鉢or壺	底部	-	(2.2)	(3.8)	外)摩滅 内)指頭押圧,摩滅	10YR8/4(浅黄橙)				○		○	○	○	-
	251	SI8	E-27	-	土器	鉢	口縁～ 底部	(11.1)	-	(6.8)	外)摩滅 内)ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)					○	○	○	○	-
49	252	SI10	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	27.8	-	27.5	外)ハケナデ,タタキ,ナデ 内)指頭押圧	10YR8/3(浅黄橙)				○		○	○	○	被熱
	253	SI10	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.0)	-	(18.0)	外)ハケナデ,指頭押圧 内)摩滅	外)7.5YR5/3(にぶい)褐 内)7.5YR6/3(にぶい)褐)				○	○	○	○	○	-
	254	SI10	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	24.0	-	(16.4)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)5YR7/8(橙)	○		○		○	○	○	-	
50	255	SI10	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(29.6)	-	(12.0)	外)摩滅 内)ナデ,摩滅	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR7/3(にぶい)黄橙)	○			○		○	○	○	-
	256	SI10	E-27	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(27.3)	-	(18.6)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	外)7.5YR6/4(にぶい)橙) 内)7.5YR6/2(灰褐)	○		○			○	○	○	-
	257	SI10	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(27.6)	-	(12.1)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)工具ナデ	外)7.5YR5/3(にぶい)褐 内)7.5YR6/3(にぶい)褐)	○		○			○	○	○	-
	258	SI10	-	-	土器	甕	口縁部	-	-	(7.9)	外)ナデ 内)ケズリ,ナデ	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)				○	○	○	○	○	-

第18表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫
51	259	SI10	-	-	土器	甕	口縁～ 胴部	(28.0)	-	(11.0)	外)タタキ,ナデ 内)工具ナデ	外)10YR6/3(にぶい・黄橙) 内)7.5YR7/6(橙)	○	○			○	○	-	
	260	SI10	E-27	IIc	土器	甕	胴部	(24.4)	-	(8.8)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/4(にぶい・黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○			○	○	-	
	261	SI10	E-27・28	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	24.5	-	(27.7)	外)タタキ,ケズリ,ナデ 内)工具ナデ,ナデ,指頭押圧	2.5YR6/8(橙)			○	○	○	○	-	
	262	SI10	E-27	-	土器	甕	口縁部	(24.4)	-	(7.3)	外)タタキ 内)指頭押圧,ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)		○		○	○	○	-	
	263	SI10	-	-	土器	甕	口縁部	-	-	(6.4)	ナデ	外)5YR7/4(にぶい・橙) 内)5YR7/4(にぶい・橙)			○	○	○	○	-	
	264	SI10	-	-	土器	甕	口縁部	-	-	(3.4)	摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい・橙) 内)7.5YR7/4(にぶい・橙)		○			○	○	-	
	265	SI10	-	-	土器	甕	胴部	-	-	(7.9)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧,ユビナデ	外)5YR7/3(にぶい・橙) 内)5YR7/1(明褐灰)	○				○	○	○	-
	266	SI10	E-27	-	土器	甕	脚部	-	(10.4)	(4.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	2.5YR6/6			○	○	○	○	-	
	267	SI10	-	-	土器	甕	脚部	-	(9.4)	(5.4)	ナデ	外)10YR7/6(明黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい・橙)	○	○			○	○	○	-
	268	SI10	E-27	-	土器	甕	脚部	-	(11.6)	(6.5)	外)摩滅 内)ナデ	2.5YR7/8(橙)	○	○			○	○	○	-
269	SI10	E-27	-	土器	甕	脚部	-	(9.4)	(5.8)	外)ユビナデ 内)摩滅	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)10YR7/2(にぶい・黄橙)	○				○	○	○	-	
52	270	SI10	-	-	土器	壺	口縁～ 胴部	15.4	-	(20.0)	外)ナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)10YR7/4(にぶい・黄橙) 内)10YR5/3(にぶい・黄褐)	○		○	○	○	○	-	
	271	-	E-28	IIc上	土器	壺	頸部	(19.6)	-	(8.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	2.5YR6/8(橙)	○	○			○	○	-	
	272	SI10	-	-	土器	壺	口縁部	-	-	(2.8)	ナデ	10YR8/3(浅黄橙)		○			○	○	○	-
	273	SI10	-	-	土器	壺	口縁部	-	-	(3.5)	ナデ	7.5YR6/4(にぶい・橙)			○			○	○	-
	274	SI10	-	-	土器	壺	口縁部	(13.2)	-	(7.0)	外)ユビナデ,ナデ 内)ハケナデ,ユビナデ,ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR7/4(にぶい・黄橙)	○	○			○	○	○	二重口縁
	275	SI10	-	-	土器	壺	頸部	-	-	(4.1)	摩滅	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/2(灰白)					○	○	○	-
	276	SI10	E-27	-	土器	壺	胴部	-	-	(8.9)	外)ナデ 内)指頭押圧	7.5YR7/6(橙)	○	○			○	○	-	
	277	SI10	E-28	-	土器	壺	胴部	-	-	(2.7)	外)ナデ 内)指頭押圧	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)2.5YR6/1(黄灰)	○				○	○	○	-
	278	SI10	-	-	土器	壺	胴部	-	-	(3.2)	外)ナデ 内)指頭押圧	10YR8/3(浅黄橙)	○	○			○	○	-	
	279	SI10	-	-	土器	壺	胴部	-	-	(4.4)	外)ナデ 内)摩滅	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○	○			○	○	-
53	280	SI10	-	-	土器	壺	胴部	-	-	(4.0)	ナデ,指頭押圧	外)5YR6/8(橙) 内)5YR5/8(明赤褐)			○	○	○	○	-	
	281	SI10	-	-	土器	壺	胴部	-	-	(5.8)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)	○	○			○	○	-	
	282	SI10	E-27	IIc	土器	壺	胴部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい・橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)			○	○	○	○	-	
	283	SI10	E-28	IIc	土器	壺	胴部	-	-	(7.7)	摩滅	外)5YR7/6(橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○	○			○	○	-	
	284	SI10	E-27	IIc	土器	壺	底部	-	-	(2.8)	外)タタキ 内)ナデ	5YR6/6(橙)			○		○	○	丸底壺	
	285	SI10	-	-	土器	壺	底部	-	-	(4.0)	外)摩滅 内)指頭押圧	2.5YR5/8(明赤褐)			○		○	○	尖底壺	
	286	SI10	-	-	土器	壺	底部	-	(3.4)	(2.3)	外)摩滅 内)指頭押圧	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR2/2(黒褐)		○			○	○	平底壺	
	287	SI10	-	-	土器	壺	口縁部	-	-	(3.3)	ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR6/3(にぶい・黄橙)	○				○	○	二重口縁	
	288	SI10	-	-	土器	高環	環～ 脚部	-	-	(2.5)	摩滅	外)7.5YR6/2(灰褐) 内)7.5YR5/2(灰褐)			○		○	○	-	
	289	SI10	E-27	-	土器	高環	脚部	-	-	(8.6)	ハケナデ	外)7.5YR7/4(にぶい・橙) 内)7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○	○	-	
55	290	SI11	E-29・30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ,タタキ,ナデ 内)ハケナデ,ナデ	10YR7/4(にぶい・黄橙)	○				○	○	-	
	291	SI11	E-29・30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(5.9)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)10YR6/1(褐灰) 内)10YR7/3(にぶい・黄橙)		○	○		○	○	-	
	292	SI11	E-30	-	土器	甕	脚部	-	(9.0)	(7.2)	外)ユビナデ 内)ハケナデ,ユビナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)10YR7/3(にぶい・黄橙)	○	○	○		○	○	-	
	293	SI11	E-30	IV	土器	甕	脚部	-	-	(3.5)	摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR7/6(橙)	○	○			○	○	-	
	294	SI11	E-30	-	土器	甕	脚部	-	(7.8)	(4.2)	摩滅	外)10YR7/3(にぶい・黄橙) 内)2.5Y7/2(灰黄)	○	○			○	○	-	

第19表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫	白色 礫
55	295	SI11	E-29	IV	土器	甕	脚部	-	(11.0)	(4.6)	外)摩減 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)7.5YR5/3(にぶい黄)	○	○		○	○	-		
	296	SI11	E-29・30	IV	土器	壺	胴部	-	-	(3.5)	摩減	外)7.5YR7/6(橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)					○	○	-	
	297	SI11	E-30	IV	土器	壺	胴部	-	-	(5.2)	外)ハケナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR5/6(明赤褐)		○			○	○	-	
	298	SI11	E-30	IV	土器	壺	胴部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ 内)摩減	2.5YR5/6(明赤褐)	○				○	○	-	
	299	SI11	E-29・30	IV	土器	壺	底部	-	-	(2.3)	外)ナデ 内)摩減	外)7.5YR5/3(にぶい黄) 内)7.5YR4/1(褐灰)	○				○	○	丸底壺	
	300	SI11	E-29・30	IV	土器	高坏	坏部	-	-	(2.8)	摩減	外)2.5Y5/6(明赤褐) 内)5YR6/6(橙)			○		○	○	-	
	301	SI11	E-29	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(3.8)	外)ハケナデ 内)ナデ	7.5YR7/4(にぶい黄)					○	○	○	穿孔あり
	302	SI11	E-29・30	IV	土器	壺	口縁～ 胴部	-	-	(3.0)	摩減	7.5YR7/4(にぶい黄)						○		小型丸底壺
	303	SI11	E-30	IV	土器	壺	頸部	-	-	(3.8)	外)ミガキ 内)ナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR6/6(橙)						○	○	兔田式土器・長頸壺
57	304	SI12	E-30	IV	土器	甕	口縁～ 胴部	(22.8)	-	(19.9)	外)指頭押圧,ナデ 内)摩減	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)7.5YR6/3(にぶい黄)		○			○	○	-	
	305	SI12	E-30	IV	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.0)	-	(12.3)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ,ハケナデ,指頭押圧	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)					○	○	○	-
	306	SI12	E-30	IV	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.4)	-	(9.7)	ハケナデ,ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)			○	○		○	○	-
	307	SI12	E-30	IV	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(10.3)	ハケナデ,ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)			○			○	○	-
	308	SI12	E-30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(4.1)	ハケナデ,ナデ	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)					○	○	○	-
	309	SI12	E-30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(4.8)	摩減	10YR6/1(褐灰)		○				○	○	-
	310	SI12	E-29・30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(3.5)	ハケナデ,ナデ	7.5YR6/4(にぶい黄橙)				○		○	○	-
	311	SI12	E-30	-	土器	甕	口縁部	-	-	(5.6)	ナデ	外)10YR7/2(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○				○	○	-
	312	SI12	E-29・30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	6.0	ナデ	外)10YR7/2(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○				○	○	-
	313	SI12	E-30	-	土器	甕	口縁部	-	-	(3.1)	外)指頭押圧,摩減 内)摩減	外)10YR6/1(褐灰) 内)10YR6/1(褐灰)	○	○				○	○	-
	314	SI12	E-30	IV	土器	甕	頸部	-	-	(5.6)	外)ナデ 内)摩減	外)5YR6/6(橙) 内)5YR3/1(黒褐)			○			○	○	-
	315	SI12	E-30	IV	土器	甕	胴～ 底部	-	-	(9.8)	外)摩減 内)ヘラナデ,指頭押圧	2.5YR7/8(橙)	○	○				○	○	-
	316	SI12	E-30	-	土器	甕	胴部	-	-	(6.1)	外)摩減 内)タテハケ	5YR6/6(橙)				○		○	○	黄白石
	317	SI12	E-30	-	土器	甕	脚～ 底部	-	(9.9)	(5.0)	外)ナデ,摩減 内)ナデ	5YR8/2(灰白) (一部明褐灰)	○	○	○			○		黒石
	318	SI12	E-30	IV	土器	甕	脚～ 底部	(10.4)	-	(4.4)	外)摩減 内)工具ナデ	2.5YR7/8(橙)	○	○	○			○		黒石
	319	SI12	E-30	IV	土器	甕	脚～ 底部	-	10.7	(7.2)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,ユビナデ	7.5YR7/6(橙)	○	○	○					-
320	SI12	-	IV	土器	甕	脚～ 底部	-	9.8	-	外)ヘラナデ 内)ハケナデ	5YR6/6(橙)				○		○	○	○	-
58	321	SI12	E-30	IV	土器	壺	脚～ 底部	-	-	(8.2)	外)タタキ,ナデ 内)摩減	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/1(灰白)	○	○			○	○	○	-
	322	SI12	E-30	-	土器	壺	胴部	-	-	(12.5)	外)タタキ,摩減 内)摩減	外)5YR7/4(にぶい黄) 内)10YR7/1(灰白)	○				○	○	○	-
	323	SI12	E-30	-	土器	壺	底部	-	-	(4.4)	外)ヘラナデ,ケズリ 内)ヘラナデ,指頭押圧	7.5YR8/2(灰白)	○			○	○	○	○	黒石
	324	SI12	E-30	IV	土器	壺	底部	-	-	(3.2)	外)タタキ,ヘラナデ 内)指頭押圧,ヘラナデ	5YR7/8(橙)	○					○		-
	325	SI12	E-30	IV	土器	高坏	坏部,脚部 の境界	-	-	(2.1)	ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR5/1(褐灰)			○		○	○	○	ソケット状
	326	SI12	E-30	IV	土器	壺	肩～ 底部	-	1.9	(13.4)	外)摩減,ヘラナデ,ハケナデ 内)ヘラナデ,指頭押圧	外)7.5YR6/6(橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)						○	○	小型壺
	329	SI12	E-30	IV	ガラス小 玉	-	-	最大長 0.45	最大幅 0.4	-	-	-	-							ガラス

第20表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	
60	330	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	甕	口縁部	(22.0)	-	(5.8)	外)タタキ,摩滅 内)ナデ,摩滅	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○	○	○	○	○	-
	331	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(7.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/2(灰白)		○	○	○	○	-
	332	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	(19.6)	-	(5.1)	外)摩滅 内)指頭押圧,ユビナデ	外)10YR5/3(にぶい黄褐) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)				○	○	-
	333	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(6.0)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)7.5YR6/2(灰褐)		○		○	○	-
	334	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	4.3	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/3(にぶい橙) 内)5YR7/4(にぶい橙)		○		○	○	-
	335	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	甕	口縁～ 頸部	-	-	(4.8)	摩滅	10YR8/3(浅黄橙)		○		○	○	-
	336	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(10.4)	摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/8(橙)		○		○	○	-
	337	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	頸～ 肩部	-	-	(3.3)	外)ナデ,ハケナデ 内)ハケナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○		○	○	-
	338	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(6.3)	外)タタキ 内)ハケナデ,ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○	○	○	○	-
	339	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(10.0)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)		○		○	○	-
	340	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	胴～ 底部	-	-	(5.5)	摩滅	外)10YR6/8(赤橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○		○	○	-
	341	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	甕	胴～ 脚部	-	-	(5.0)	外)ユビナデ,摩滅 内)摩滅	外)5YR6/4(にぶい橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○		○	○	-
	342	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	甕	底部	-	7.7	(3.6)	外)ユビナデ,ナデ 内)指頭押圧	外)7.5YR6/6(橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)				○	○	-
	343	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	脚部	-	(8.2)	(2.9)	ナデ	外)5YR6/4(にぶい橙) 内)5YR5/4(にぶい赤褐)		○		○	○	-
	344	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	甕	胴～ 脚部	-	10.6	(7.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)		○		○	○	-
	345	竪穴状 遺構	-	埋土	土器	甕	脚部	-	-	(3.6)	外)ナデ,ハケナデ 内)摩滅	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)		○	○	○	○	-
	346	竪穴状 遺構	-	埋土	土器	甕	脚部	-	(10.2)	(4.9)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)10YR7/3(にぶい黄褐) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)		○	○	○	○	-
	347	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	甕	脚部	-	(11.0)	(5.3)	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)		○	○	○	○	-
	348	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	甕	脚部	-	(10.0)	(4.2)	ナデ	7.5YR7/6(橙)		○	○	○	○	-
	349	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	甕	脚部	-	10.6	(4.8)	外)ナデ 内)摩滅	10YR7/4(にぶい黄橙)		○		○	○	-
350	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	甕	脚部	-	(11.2)	(6.6)	摩滅	外)2.5YR6/6(橙) 内)5YR7/6(橙)		○		○	○	-	
351	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	甕	脚部	-	(9.2)	(6.4)	外)ユビナデ,ハケナデ 内)ユビナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)5YR6/4(にぶい橙)			○	○	○	-	
61	352	竪穴状 遺構	E-30	IV	土器	壺	口縁部	(14.4)	-	(6.5)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)		○		○	○	-
	353	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	壺	口縁部	(11.5)	-	(5.0)	摩滅	2.5YR6/8(橙)		○	○	○	○	-
	354	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(3.2)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	5YR5/6(明赤褐)			○	○	○	二重口縁
	355	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(7.7)	ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/4(にぶい橙)		○	○	○	○	二重口縁
	356	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(4.0)	外)ナデ 内)ハケナデ	2.5YR6/6(橙)		○	○	○	○	二重口縁
	357	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(3.2)	摩滅	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR5/3(にぶい褐)			○		○	-
	358	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(3.5)	外)ナデ,ハケナデ 内)摩滅	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○		○	二重口縁
	359	竪穴状 遺構	D-29	-	土器	壺	頸～ 胴部	-	-	(12.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ,ケズリ,ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙)		○	○	○	○	-
	360	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	壺	肩～ 胴部	-	-	(10.3)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR6/1(褐灰)		○	○	○	○	-
	361	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	肩～ 胴部	-	-	(14.7)	摩滅	5YR6/8(橙)		○	○	○	○	-
	362	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	頸部	-	-	(4.6)	摩滅	5YR6/8(橙)		○	○	○	○	-
	363	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	頸～ 胴部	-	-	(3.7)	外)摩滅 内)ユビナデ,ハケナデ	外)10YR6/4(にぶい黄橙) 内)10YR4/1(褐灰)			○		○	-
	364	竪穴状 遺構	D-28	IIb	土器	壺	頸部	-	-	(5.0)	摩滅	5YR6/8(橙)			○	○	○	-
	365	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	肩部	-	-	(5.3)	摩滅	5YR5/8(明赤褐)		○	○	○	○	円形浮文
	366	竪穴状 遺構	D-28	IIc	土器	壺	肩部	-	-	(3.1)	外)タタキ,ハケナデ	5YR6/8(橙)		○		○	○	-
	367	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	壺	胴部	-	-	(4.6)	外)ハケナデ 内)摩滅	10YR7/3(にぶい黄橙)		○		○	○	-

第21表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考	
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫
61	368	竪穴状 遺構	-	-	土器	壺	胴部	-	-	(5.0)	外)ナデ 内)指頭押圧	5YR6/6(橙)	○			○	○	-	
	369	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(5.2)	摩滅	外)2.5Y7/3(浅黄) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○	○	○	-	
	370	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/6(橙)	○	○		○	○	-	
	371	竪穴状 遺構	D-29	-	土器	壺	胴部	-	-	(5.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	外)2.5YR6/8(橙) 内)7.5YR5/1(褐灰)			○	○	○	-	
	372	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(5.8)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)5YR6/4(にぶい,橙) 内)5YR5/6(明赤褐)		○	○	○	○	-	
	373	竪穴状 遺構	-	IV	土器	壺	胴部	-	-	(2.9)	摩滅	外)10YR7/3(にぶい,黄橙) 内)5YR5/4(にぶい,赤褐)		○	○		○	-	
62	374	竪穴状 遺構	D-29	IIb	土器	壺	肩部	-	-	(9.3)	外)ナデ 内)指頭押圧,ユビナデ	外)2.5YR5/6(明赤褐) 内)5YR5/6(明赤褐)	○	○		○	○	-	
	375	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(26.7)	摩滅	外)5YR6/3(橙) 内)5YR6/6(橙)	○	○	○		○	穿孔あり	
	376	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(5.4)	外)摩滅 内)指頭押圧	外)5YR6/4(にぶい,橙) 内)5YR6/6(橙)	○	○		○	○	-	
	377	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(4.5)	摩滅	10YR7/3(にぶい,黄橙)		○	○		○	○	-
	378	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(3.6)	外)ハケナデ 内)指頭押圧	外)7.5YR6/4(にぶい,橙) 内)5YR5/4(にぶい,赤褐)			○		○	○	-
	379	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(5.1)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)	○	○	○		○	○	-
63	380	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(4.1)	ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR7/3(にぶい,黄橙)		○	○		○	○	-
	381	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	壺	胴～ 底部	-	-	(32.0)	外)タタキ,ケズリ,ナデ 内)ユビナデ,指頭押圧	2.5YR5/6(明赤褐)		○	○		○	○	-
	382	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	底部	-	2.4	(4.9)	外)ナデ 内)摩滅	5YR6/8(橙)	○	○	○		○	○	-
	383	竪穴状 遺構	E-29	-	土器	壺	底部	-	2.0	(6.0)	外)ハケナデ,工具ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR6/4(にぶい,黄橙) 内)10YR7/3(にぶい,黄橙)		○	○		○	○	-
	384	竪穴状 遺構	-	埋土	土器	壺	底部	-	-	(3.4)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/6(橙)			○		○	○	-
	385	竪穴状 遺構	D-28-29	-	土器	壺	底部	-	-	(4.1)	摩滅	5YR5/4(にぶい,赤褐)		○	○		○	○	-
	386	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	壺	底部	-	(3.6)	(3.8)	外)摩滅 内)指頭押圧	5YR6/6(橙)	○	○	○		○	○	-
	387	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	壺	底部	-	3.6	(5.3)	ユビナデ	外)10YR7/3(にぶい,黄橙) 内)10YR6/4(にぶい,黄橙)	○	○		○	○	○	-
	388	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	壺	底部	-	(5.8)	(5.4)	摩滅	外)10YR7/3(にぶい,黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)		○		○	○	○	-
	389	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	壺	底部	-	(5.6)	(6.1)	外)ハケナデ 内)指頭押圧	外)10YR7/3(にぶい,黄橙) 内)7.5YR7/3(にぶい,橙)	○	○		○	○	○	-
64	390	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	壺	底部	-	-	(8.8)	外)ナデ 内)指頭押圧	外)5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/3(にぶい,褐)	○	○		○	○	○	-
	391	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	坏部	(25.4)	-	(5.1)	外)ケズリ 内)摩滅	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい,橙)		○		○	○	スス附着	
	392	竪穴状 遺構	-	IV	土器	高坏	坏部	(22.2)	-	(4.7)	外)摩滅 内)ハケナデ	7.5YR7/6(橙)		○		○	○	-	
	393	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	坏部	(19.2)	-	(3.5)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)5YR7/8(橙) 内)5YR6/6(橙)		○		○	○	-	
	394	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	口縁部	-	-	(5.6)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	外)7.5YR5/4(にぶい,橙) 内)7.5YR7/6(橙)		○		○	○	スス附着	
	395	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	坏部	-	-	(4.4)	外)ナデ 内)ナデ,ハケナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)2.5Y4/1(黄灰)	○	○			○	-	
	396	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	坏部	-	-	(2.7)	外)ナデ 内)ユビナデ	7.5YR7/4(にぶい,橙)		○		○	○	-	
	397	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	坏部	-	-	(4.9)	外)摩滅 内)ナデ	5YR8/4(淡橙)				○	○	○	-
	398	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	坏部	-	-	(3.2)	摩滅	7.5YR7/8(黄橙)			○		○	○	-
	399	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(6.6)	摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい,橙) 内)10YR7/3(にぶい,黄橙)			○		○	○	-
	400	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	高坏	脚部	-	(10.8)	(8.0)	摩滅	5YR5/8(明赤褐)		○		○	○	-	
	401	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	脚部	-	(13.2)	(4.5)	外)工具ナデ,ナデ 内)ナデ,ケズリ	10YR7/3(にぶい,黄橙)		○	○	○	○	○	-
	402	竪穴状 遺構	D-28-29	V	土器	高坏	坏～ 脚部	-	-	(2.3)	ナデ	外)10YR5/2(灰黄褐) 内)7.5YR6/4(にぶい,橙)	○		○	○	○	-	
	403	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(4.4)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)10YR7/4(にぶい,黄橙)					○	○	-
404	竪穴状 遺構	D-28-29	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(8.5)	摩滅	外)10YR7/4(にぶい,黄橙) 内)10YR6/1(褐灰)			○	○	○	-		

第22表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫
64	405	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	高坏	脚部	-	-	(7.4)	ナデ	5YR6/8(橙)			○	○	○	-		
	406	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(8.0)	摩滅	7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○	○	穿孔あり		
	407	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(7.1)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/6(橙)			○	○	○	-		
65	408	竪穴状 遺構	D-28	IIb	土器	蓋	つまみ	(2.8)	-	(2.1)	-	10YR7/3(にぶい黄橙)			○	○	○	-		
	409	竪穴状 遺構	D-29	IV	土器	蓋	天井部 ~口縁	-	(30.4)	(12.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)指頭押圧,ケズリ,ナデ ハケナデ,ミガキ	外)7.5YR5/3(にぶい褐) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○	○	スス附着		
	410	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	鉢	胴~ 底部	-	(4.8)	(3.4)	外)ケズリ,ナデ 内)ハケナデ	外)5YR5/4(にぶい赤褐) 内)7.5YR5/3(にぶい褐)		○			○	-		
	411	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	壺	肩部	-	-	(5.0)	外)ナデ 内)摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○	○	○	免田式土器		
	412	竪穴状 遺構	D-28	IIc	土器	壺	肩部	-	-	(3.5)	ナデ	7.5YR7/3(にぶい橙)			○	○	○	免田式土器・重弧文		
	413	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	壺	肩部	-	-	(3.6)	外)ナデ 内)ユビナデ	5YR6/6(橙)				○	○	○	免田式土器	
	414	竪穴状 遺構	D-28	IV	土器	鉢	完形	(16.2)	5.6	8.8	外)タタキ,ユビナデ 内)ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○		○	○	○	-	
	415	竪穴状 遺構	D-28	-	土器	鉢	口縁~ 脚部	(11.8)	-	(8.7)	外)ナデ,ユビナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○	○			○	-	
	416	竪穴状 遺構	D-28・29	IV	土器	メンコ	-	5.5	-	-	摩滅	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR6/6(橙)		○	○		○	○	円盤形土製品	
	417	竪穴状 遺構	D-E-28	IIc	土器	メンコ	完形	6.5	-	-	-	2.5YR6/8(橙)					○	○	○	円盤形土製品
67	421	SK20	D-26	IIc-2	土器	壺	口縁~ 頸部	(16.0)	-	(8.7)	外)ハケナデ,摩滅 内)摩滅	2.5YR6/8(橙)		○	○	○	○	二重口縁		
69	422	SK28	D-28	IIb	土器	高坏	脚部	-	-	(8.4)	ヘラナデ	2.5YR6/8(橙)			○			穿孔あり(4ヶ所)		
	423	SK28	D-28	IIb	土器	高坏	脚部	-	脚部 13.8	(8.8)	ヘラナデ	5YR6/6(橙)			○	○	○	穿孔あり(3ヶ所)		
	424	SK30	D-28	-	土器	甕	胴下部	-	-	(11.8)	外)ハケナデ,ヘラナデ 内)ハケナデ	5YR4/4(にぶい赤褐)			○	○	○	-		
73	425	SK39	E-29	IIb	土器	甕	脚部	-	脚径 8.0	(4.6)	摩滅	2.5YR7/6(橙)			○	○	○	黒石		
	426	SK39	E-29	IIb	土器	甕	脚部	-	脚径 11.2	(4.6)	摩滅	7.5YR7/6(橙)		○	○		○	-		
	427	SK39	E-29	IIb	土器	甕	脚部	-	脚径 12.0	(4.3)	摩滅	5YR7/8(橙)			○	○		○	-	
	428	SK39	E-29	IIb	土器	壺	口縁部	19.8	-	(5.9)	摩滅	7.5YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	-
	429	SK39	E-29	IIb	土器	壺	胴部	-	-	(3.4)	外)- 内)摩滅	2.5YR7/8(橙)					○	○	二又状口縁	
	430	SK39	E-29	IIb	土器	壺	頸~ 胴部	-	-	(22.5)	外)ナデ,キサミ 内)ケズリ	7.5YR8/4(浅黄橙)			○			○	黒石	
	431	SK39	E-29	IIb	土器	壺	胴部	-	-	(5.4)	摩滅	10YR8/3(浅黄橙)				○	○		黒石	
75	432	SK41	E-29	IV	土器	甕	脚部	-	7.0	(3.1)	外)ナデ 内)指頭押圧	7.5YR6/6(橙)		○	○	○	○	-		
	433	SK41	D-E-29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(3.5)	摩滅	10YR8/3(浅黄橙)					○	○	二重口縁	
	434	SK41	D-E-29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(3.4)	ナデ	外)10YR5/1(褐灰) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)				○	○	○	-	
	435	SK41	D-E-29	IV	土器	高坏	口縁部	-	-	(1.9)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)		○	○	○		○	-	
78	436	SK42	D-29	IV	土器	甕	口縁~ 胴部	(24.4)	-	(10.3)	摩滅	外)5YR4/1(褐灰) 内)5YR6/4(にぶい橙)			○			○	-	
	437	SK42	D-28	IV	土器	甕	口縁~ 胴部	(24.0)	-	(6.8)	摩滅	外)7.5YR7/8(橙) 内)5YR6/6(橙)			○	○	○	-		
	438	SK42	D-29	IV	土器	壺	口縁~ 胴部	(10.9)	-	(7.4)	外)ナデ 内)ユビナデ,指頭押圧,ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)			○			○	-	
	439	SK42	D-29	IV	土器	壺	口縁~ 胴部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ,ケズリ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR6/2(灰褐) 内)7.5YR5/3(にぶい褐)			○			○	小型丸底壺	
	440	SK42	-	-	土器	壺	頸~底 部付近	-	-	(28.6)	外)摩滅 内)ユビナデ,指頭押圧,摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/6(橙)			○	○	○	○	大型壺	
	441	SK42	D-29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(4.7)	ナデ	5YR6/6(橙)				○		○	二重口縁	
	442	SK42	D-29	IV	土器	壺	口縁部	-	-	(1.9)	ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)				○		○	二重口縁・肥厚口縁	
443	SK42	D-29	IV	土器	壺	肩部	-	-	(6.2)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	10YR7/4(にぶい黄橙)		○			○	○	-		

第23表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫	
78	444	SK42	D-29	IV	土器	壺	底部	-	-	(2.2)	外)摩減 内)指頭押圧	25YR6/8(橙)			○	○	○	○	-		
	445	SK42	D-29	IV	土器	高坏	胴部	-	-	(4.2)	ナデ	外)10YR7/4(にぶい・黄橙) 内)5YR6/6(橙)			○			○	-		
	446	SK43	D-29	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.9)	ナデ	外)10YR4/1(褐灰) 内)10YR6/2(灰黄褐)		○		○		○	○	-	
	447	SK43	D-29	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.8)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧	5YR7/6(橙)			○		○	○	○	-	
	448	SK43	D-28・29	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(3.4)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩減	外)5YR4/1(褐灰) 内)5YR7/8(橙)					○	○	○	-	
	449	SK43	D-29	-	土器	甕	頸~胴 部	-	-	(7.5)	外)タタキ,ナデ 内)ハケナデ	外)7.5YR6/4(にぶい・橙) 内)7.5YR6/6(橙)		○	○	○		○	○	-	
	450	SK43	D-28・29	IV	土器	壺	胴部	-	-	(6.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)		○	○		○	○	○	-	
	451	SK43	D-29	-	土器	高坏	口縁部	-	-	(2.4)	摩減	外)5YR6/8(橙) 内)5YR5/6(明赤褐)		○	○			○	○	蓋に転用	
	452	SK43	D-29	-	土器	高坏	脚部	-	(13.0)	(7.6)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	5YR7/4(にぶい・橙)			○			○	○	穿孔あり(2ヵ所)	
	453	SK43	D-28・29	IV	土器	高坏	口縁部	-	-	(4.5)	外)ナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR7/4(にぶい・黄橙)			○		○	○	○	-	
79	454	SK45	C-29	III	土器	甕	口縁部	-	-	(5.1)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	10YR7/4(にぶい・黄橙)					○	○	-		
	455	SK45	C-29	III	土器	高坏	坏部	-	-	(3.1)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ミガキ	5YR6/6(橙)					○	○	○	-	
80	456	SK50	E-30	IV	土器	甕	口縁部	-	-	(2.9)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)7.5Y6/6(橙) 内)7.5YR6/4(にぶい・橙)			○			○	-		
	457	SK50	E-30	IV	土器	壺	底部	-	3.0	(2.6)	外)摩減 内)工具ナデ	10YR8/3(浅黄橙)			○			○	○	-	
85	459	SX4	C-26	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	16.9	-	(20.1)	外)ハケナデ 内)ケズリ,ナデ	5YR7/8(橙)			○		○	○	○	スス附着	
	460	SX4	C-26	IIb	土器	甕	口縁~ 胴部	17.8	-	(14.2)	外)ハケナデ 内)ユビナデ,ケズリ,ナデ	10YR8/4(浅黄橙)	○				○	○	○	-	
	461	SX4	C-26	IIc-2	土器	甕	口縁~ 胴部	(27.6)	-	(12.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/8(橙)		○	○			○	○	-	
	462	SX4	C-26	IIc-2	土器	甕	口縁~ 胴部	-	-	(12.8)	外)ハケナデ 内)摩減	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)		○	○			○	○	-	
	463	SX4	C-26	IIc-2	土器	甕	口縁~ 胴部	-	-	(10.0)	摩減	外)10YR6/1(褐灰) 内)10YR7/1(灰白)		○	○			○	○	-	
	464	SX4	C-26	IIc-2	土器	甕	口縁部	-	-	(5.7)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○			○	○	-	
	465	SX4	C-26	IIc-2	土器	甕	口縁部	-	-	(5.5)	外)タタキ,ナデ 内)ハケナデ,指頭押圧,ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい・橙) 内)7.5YR7/6(橙)		○				○	○	-	
	466	SX4	C-26	IIc-2	土器	甕	脚部	-	9.6	(12.1)	外)ユビナデ,タタキ,ナデ 内)工具ナデ	外)2.5YR7/6(橙) 内)7.5YR6/2(灰褐)			○			○	○	-	
	467	SX4	C-26	IIb	土器	甕	胴~ 脚部	-	10.9	(5.6)	摩減	外)2.5YR7/4(淡赤橙) 内)5YR7/6(橙)		○	○			○	○	-	
86	468	SX4	C-26	IIb	土器	壺	口縁~ 胴部	12.9	-	(23.4)	外)摩減 内)ナデ	外)5YR7/6(橙) 内)7.5YR8/2(灰白)			○		○	○	○	二重口縁	
	469	SX4	C-26	IIb	土器	壺	口縁~ 頸部	(16.0)	-	(9.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩減	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR5/8(明赤褐)			○		○	○	○	二重口縁	
	470	SX4	C-26	IIb	土器	壺	頸部	-	-	(6.7)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ	5YR7/6(橙)		○				○	○	-	
	471	SX4	C-26	IIb	土器	壺	頸部	-	-	(3.3)	外)摩減 内)指頭押圧	外)5YR7/8(橙) 内)5YR6/8(橙)		○	○			○	○	-	
	472	SX4	C-26	IIc-2	土器	壺	胴部	-	-	(12.4)	ハケナデ,ナデ	5YR5/8(明赤褐)			○				○	-	
	473	SX4	C-26	IIb	土器	壺	胴部	-	-	(16.2)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧	5YR6/6(橙)		○	○			○	○	○	-
	474	SX4	C-26	IIc-2	土器	壺	胴部	-	-	(16.0)	外)ナデ 内)摩減	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)		○	○		○	○	○	-	
87	475	SX4	C-26	IIb	土器	壺	胴部	-	-	(6.1)	摩減	5YR5/8(明赤褐)		○	○			○	○	-	
	476	SX4	C-26	IIc-2	土器	壺	胴部	-	-	(4.8)	外)ナデ 内)ユビナデ	5YR5/8(明赤褐)			○				○	-	
	477	SX4	C-26	IIb	土器	壺	胴~ 底部	-	-	(33.6)	外)摩減 内)指頭押圧	2.5YR6/8(橙)		○	○			○	○	-	
	478	SX4	C-26	IIb	土器	壺	底部	-	-	(8.4)	外)ハケナデ 内)摩減	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR4/1(褐灰)			○			○	○	-	
	479	SX4	C-26	IIb	土器	高坏	脚部	-	-	(6.0)	外)摩減 内)ナデ	7.5YR7/6(橙)						○	○	-	
	480	SX4	C-26	IIc-2	土器	高坏	脚部	-	-	(9.9)	外)摩減 内)ナデ	10YR8/4(浅黄橙)			○			○	○	-	

第24表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫	白色 礫
90	482	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(26.2)	10.0	31.6	外)タタキ,ナデ,ケズリ 内)ナデ	外)2.5Y7/4(淡赤橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)			○		○	○	-	
	483	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(18.2)	-	(8.1)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)		○			○		-	
	484	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(17.2)	-	(11.3)	外)ナデ 内)ハケナデ	外)5YR8/3(淡橙) 内)5YR7/6(橙)			○		○	○	-	
	485	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.2)	-	(7.1)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,ナデ	10YR8/3(浅黄橙)		○	○		○	○	-	
	486	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(27.2)	-	(14.4)	外)タタキ,ナデ,ハケナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○	○		○	○	-	
91	487	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(26.0)	-	(29.9)	外)ナデ,ハケナデ 内)ハケナデ,ナデ,ケズリ	外)5YR6/8(橙) 内)2.5YR7/8(橙)			○	○	○	○	-	
	488	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.1)	-	(30.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)指頭押圧	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)		○	○		○	○	-	
	489	SX5	D-26	IIc	土器	甕	胴部	(24.6)	-	(12.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	5YR7/8(橙)			○		○	○	-	
	490	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.4)	-	(9.2)	ハケナデ,ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR5/3(にぶい黄褐)			○			○	-	
	491	SX5	D-26	II	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.8)	-	(9.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)			○		○	○	-	
	492	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.0)	-	(14.9)	外)摩滅 内)ハケナデ	7.5YR7/6(橙)			○		○	○	-	
	493	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(23.6)	-	(11.5)	摩滅	5YR6/8(橙)			○		○	○	-	
92	494	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(22.0)	-	(29.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,指頭押圧,ナデ	7.5YR7/6(橙)			○		○	○	-	
	495	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.4)	-	(18.6)	ハケナデ,ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)		○	○		○	○	-	
	496	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(29.2)	-	(9.0)	摩滅	5YR7/8(橙)		○			○	○	-	
	497	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	(24.8)	-	(6.9)	ナデ	5YR5/6(明赤褐)			○		○	○	-	
	498	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁部	(22.2)	-	(4.0)	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)		○	○			○	-	
	499	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁部	(26.0)	-	(3.9)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)		○	○			○	○	-
	500	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁部	-	-	(5.7)	-	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○			○	黄白色の粘土粒	
	501	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(8.4)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	7.5YR6/6(橙)			○			○	○	-
	502	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁部	-	-	(3.5)	摩滅	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○			○	○	-
	503	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁部	-	-	(8.8)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR5/3(にぶい褐)		○	○			○	○	-
93	504	SX5	D-26	IIc	土器	甕	口縁～ 肩部	-	-	(5.6)	ハケナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○		○	○	-	
	505	SX5	D-26	IIc	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(10.9)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	外)5YR7/6(橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)		○	○			○	○	-
	506	SX5	D-26	IIc-1	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(5.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ケズリ,ナデ	外)2.5YR4/6(赤褐) 内)2.5YR4/6(赤褐)		○				○	○	-
	507	SX5	D-26	IIc	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(10.0)	外)タタキ,ナデ 内)ケズリ,ハケナデ, 指頭押圧	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○		○	○	○	-
	508	SX5	D-26	IIc	土器	甕	底部～ 脚台	-	-	(4.7)	外)ハケナデ,ユビナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)5YR7/8(橙) 内)2.5YR2/1(黒褐)			○			○	○	-
	509	SX5	D-26	IIc	土器	甕	底部～ 脚台	-	11.0	(10.2)	外)ナデ 内)指頭押圧	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)2.5Y7.2(灰黄)			○			○	○	-
	510	SX5	D-26	IIc-2	土器	甕	底部～ 脚台	-	(11.8)	(5.8)	ナデ	5YR7/8(橙)			○			○	○	-
	511	SX5	D-26	IIc	土器	壺	口縁～ 頸部	(21.0)	-	(13.8)	外)ナデ,ユビナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)			○			○	○	二重口縁
	512	SX5	D-26	IIc	土器	壺	口縁～ 頸部	(17.0)	-	(7.2)	外)ハケナデ 内)摩滅	10YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	二重口縁
	513	SX5	D-26	IIc-2	土器	壺	口縁部	-	-	(3.3)	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)2.5Y7/3(浅黄)			○			○	○	-
	514	SX3	C-23	IIb	土器	壺	口縁部	-	-	(4.0)	外)ミガキ,ハケナデ 内)ハケナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)5YR6/8(橙)			○			○	○	-
	515	SX5	D-26	IIc	土器	壺	胴部	-	-	(3.5)	外)ナデ 内)摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/6(橙)					○	○	○	-
	516	SX5	D-26	IIc-2	土器	壺	口縁～ 胴部	(16.4)	-	(8.2)	外)ナデ 内)摩滅	10YR8/3(浅黄橙)		○	○	○				小型丸底壺
	517	SX5	D-26	IIc	土器	壺or鉢	口縁部	(12.6)	-	(4.8)	ナデ	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)			○			○	○	小型丸底壺or鉢
	518	SX5	D-26	IIc	土器	高坏	口縁部	(25.2)	-	(5.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR5/4(にぶい赤褐)			○	○			○	-
519	SX5	D-26	IIc-2	土器	高坏	口縁部	(30.0)	-	(4.2)	外)ハケナデ,ナデ,ミガキ 内)ハケナデ	外)7.5YR7/8(黄橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)		○				○	○	-	

第25表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 塵		赤褐色 塵	白色 塵
95	520	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁部	(29.2)	-	(10.5)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○		○	○	-		
	521	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁～ 頸部	(31.2)	-	(7.8)	外)タタキ,ナデ 内)ハケナデ,指頭押圧	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○			○	○	○	-	
	522	SX7	D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁～ 胴部	(17.9)	-	(5.8)	外)ナデ,ハケナデ 内)ハケ,ナデ,ケズリ	外)10YR6/4(にぶい黄橙) 内)10YR6/4(にぶい黄橙)			○				-	
	523	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁部	(16.4)	-	(3.9)	ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)	○		○				-	
	524	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁～ 胴部	(18.0)	-	(13.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ,ハケナデ,ケズリ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○	○		○	○	-	
	525	SX7	-	-	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(12.0)	外)ナデ,ハケ 内)ハケナデ,ケズリ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○		○				-	
	526	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(7.3)	外)ナデ,ハケ 内)ハケ,ユビナデ,ケズリ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○		○	○	-	
	527	SX7	C-29	Ⅲ	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(6.4)	外)ナデ,ハケ 内)ナデ,ハケ,ケズリ	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)7.5YR6/2(灰褐)		○			○	○	-	
	528	SX7	D-29	Ⅲ	土器	甕	胴部	-	-	(9.2)	外)ナデ,ハケ 内)ハケ,ナデ,ケズリ,ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)	○		○				-	
96	529	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(5.8)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ	外)10YR4/2(灰黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○	-	
	530	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁部	-	-	(5.3)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,ユビナデ	外)7.5YR4/2(灰褐) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○	○	○	-	
	531	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁部	-	-	(3.5)	摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○		○		○	○	-	
	532	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(9.6)	外)ナデ 内)ハケナデ,指頭押圧	5YR5/4(にぶい赤褐)			○	○	○	○	○	-
	533	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	頸～ 胴部	-	-	(12.2)	外)タタキ,ユビナデ 内)摩滅	外)2.5YR6/6(橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○			○	○	-	
	534	SX7	C・D-29	-	土器	甕	胴～ 脚台	-	(9.3)	(7.1)	外)ハケナデ,ナデ,ユビナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○		○	○	○	-	
	535	SX7	D-29	Ⅲ	土器	甕	脚台	-	8.0	(5.1)	外)ハケナデ,ユビナデ 内)指頭押圧	外)5YR6/6(橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)			○	○	○	○	-	
	536	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	脚台	-	(10.0)	(5.2)	外)ハケナデ 内)ナデ	2.5YR6/8(橙)	○	○		○	○	○	-	
	537	SX7	C・D-29	-	土器	甕	胴～ 底部	-	(6.6)	(4.2)	ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR4/1(褐灰)			○		○	○	-	
	538	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	胴～ 底部	-	(8.0)	(5.4)	外)タタキ,ハケナデ 内)ケズリ,ナデ	外)5YR7/8(橙) 内)5YR6/6(橙)			○		○	○	-	
	539	SX7	-	-	土器	甕or鉢	胴～ 底部	-	8.6	(16.1)	外)タタキ,ハケナデ 内)ケズリ,ナデ	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○		○	○	○	-	
540	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	甕	胴～ 底部	-	7.0	(7.8)	外)タタキ,ハケナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)5YR6/6(橙) 内)5YR4/1(褐灰)			○	○	○	○	-		
541	SX7	C・D-29	-	土器	甕	胴～ 底部	-	4.8	(13.1)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ,工具ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)	○		○	○	○	○	-		
97	542	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(5.4)	ハケナデ,ナデ	10YR8/3(浅黄橙)			○	○	○	○	-	
	543	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(5.9)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,ナデ	2.5YR5/6(明赤褐)	○	○			○	○	二重口縁	
	544	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(5.6)	摩滅	外)2.5YR5/4(にぶい赤褐) 内)5YR5/6(明赤褐)	○	○	○		○	○	二重口縁	
	545	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	口縁～ 頸部	(15.0)	-	(9.7)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,ナデ	2.5YR6/8(橙)	○	○		○	○	○	二重口縁	
	546	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	(17.4)	-	(3.6)	外)タタキ 内)ナデ	外)10YR5/6(赤) 内)2.5YR6/4(にぶい橙)	○	○		○	○	○	二重口縁	
	547	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(4.8)	摩滅	外)7.5YR5/3(にぶい褐) 内)5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○		○	○	○	二重口縁	
	548	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(5.4)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)		○	○		○	○	二重口縁	
	549	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁～ 頸部	(17.2)	-	(6.2)	外)タタキ,ナデ,ハケナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○	○	○	○	二重口縁	
	550	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	(16.8)	-	(9.2)	外)ナデ,指頭押圧 内)ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)	○	○			○	○	二重口縁	
	551	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(5.0)	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)			○		○	○	二重口縁	
	552	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(5.4)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)			○		○	○	二重口縁・肥厚口縁	
	553	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	頸部	-	-	(5.1)	外)ハケナデ 内)ユビナデ	外)7.5YR5/2(灰褐) 内)7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○		○	○	-	
	554	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	頸部	-	-	(3.2)	ハケナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)2.5YR5/6(明赤褐)	○	○			○	○	二重口縁	
	555	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	頸部	-	-	(7.2)	外)摩滅 内)ナデ,ハケナデ	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/8(橙)	○	○	○		○	○	二重口縁	
	556	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	頸部	-	-	(3.9)	外)ユビナデ 内)摩滅	2.5YR5/6(明赤褐)	○	○			○	○	二重口縁	
557	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	肩部～ 底部	-	-	(20.6)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ,ケズリ,ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○	○		○	○	被熱		

第26表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考	
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫
98	558	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(18.6)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	外)10YR8/6(黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○		○	○	-	
	559	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(11.8)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ	7.5YR6/6(橙)	○		○	○	○	-	
	560	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(11.8)	外)タタキ,ハケナデ 内)摩滅	外)2.5YR5/6(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)	○	○	○	○	○	-	
	561	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(9.4)	外)ハケナデ 内)指頭押圧	2.5YR6/8(橙)	○	○	○		○	○	-
99	562	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(6.5)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)5YR4/2(灰褐) 内)5YR6/8(橙)			○	○	○	-	
	563	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(5.3)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/6(橙)	○			○	○	-	
	564	SX7	C・D-29	-	土器	壺	胴部	-	-	(6.2)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)7.5YR6/4(にぶい・橙) 内)5YR6/8(橙)	○	○	○		○	○	-
	565	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(4.1)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)5YR5/4(にぶい・赤褐) 内)5YR6/6(橙)		○		○	○	○	-
	566	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(3.3)	外)ハケナデ 内)摩滅	10YR7/4(にぶい・黄橙)			○	○	○	○	-
	567	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(4.4)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)7.5YR5/3(にぶい・褐) 内)7.5YR6/4(にぶい・橙)				○	○	○	-
	568	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(2.6)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/4(にぶい・橙)			○		○	○	-
	569	SX7	C-29	Ⅳ	土器	壺	胴部	-	-	(2.2)	摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)10YR5/1(褐灰)			○	○	○	○	-
	570	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(4.7)	外)ナデ 内)ユビナデ	外)7.5YR5/4(にぶい・褐) 内)7.5YR6/6(橙)		○	○		○	○	-
	571	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	底部	-	3.9	(7.7)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR6/4(にぶい・橙)			○	○	○	○	-
	572	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴～ 底部	-	2.0	(10.1)	外)摩滅 内)ナデ	10YR7/3(にぶい・黄橙)			○	○	○	○	-
	573	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	底部	-	(2.7)	(4.7)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ	10YR5/2(灰黄褐)			○	○	○	○	-
	574	SX7	-	Ⅲ	土器	壺	底部	-	(5.0)	(4.9)	外)ナデ 内)ユビナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)2.5Y6/1(黄灰)			○	○	○	○	-
	575	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	底部	-	3.4	(5.7)	外)指頭押圧,ハケナデ 内)ユビナデ	外)5YR3/6(暗赤褐) 内)10YR7/4(にぶい・黄橙)	○		○	○	○	○	赤色顔料
	576	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	底部	-	(5.0)	(4.2)	外)ハケナデ 内)ユビナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○	○	○	○	赤色顔料
	577	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	底部	-	-	(4.0)	外)タタキ 内)指頭押圧	2.5YR6/8(橙)			○	○	○	○	-
	578	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(5.8)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ,工具ナデ	5YR6/6(橙)			○	○	○	○	-
	579	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	高坏	坏部	-	-	(5.0)	外)ハケナデ,ミガキ 内)ハケナデ,ユビナデ	外)10YR7/3(にぶい・黄橙) 内)10YR7/4(にぶい・黄橙)			○	○	○	○	-
	580	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	-	坏部	-	-	(2.7)	摩滅	5YR7/6(橙)		○		○	○	-	
	581	SX7	D-29	Ⅲ	土器	高坏	坏部	-	-	(7.5)	摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)10YR7/4(にぶい・黄橙)	○	○			○	-	
	582	SX7	C-29	Ⅲ	土器	高坏	坏部	-	-	(4.8)	外)ミガキ,ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR7/4(にぶい・黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)			○	○	○	○	-
	583	SX7	D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(8.5)	外)ミガキ,ユビナデ 内)ユビナデ	外)5YR6/4(にぶい・橙) 内)7.5YR7/4(にぶい・橙)			○		○	○	-
	584	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(9.1)	外)ユビナデ 内)ユビナデ,ハケナデ	外)2.5YR6/4(にぶい・橙) 内)10YR7/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	○	○	-
	585	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(6.3)	ハケナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR5/4(にぶい・褐)		○	○		○	○	-
	586	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(6.4)	外)ユビナデ 内)摩滅	外)7.5YR6/6(橙) 内)10YR6/4(にぶい・黄橙)			○	○	○	○	-
	587	SX7	D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(5.1)	外)ミガキ,ナデ 内)ナデ	外)5YR6/4(にぶい・橙) 内)5YR6/3(にぶい・橙)			○	○	○	○	赤色顔料
	588	SX7	D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(8.4)	外)ナデ 内)ユビナデ	7.5YR7/6(橙)			○	○	○	○	-
	589	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	高坏	脚部	-	-	(11.4)	外)工具ナデ 内)ナデ	7.5YR7/6(橙)			○	○	○	○	穿孔あり(4ヶ所)
	100	590	SX7	C-29	Ⅲ	土器	鉢	口縁部	-	-	(9.2)	外)ユビナデ 内)ハケナデ,ナデ	7.5YR8/6(浅黄橙)			○	○	○	○
591		SX7	D-29	Ⅲ	土器	鉢	脚～ 底部	-	(16.2)	(10.7)	外)ナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR6/4(にぶい・黄橙)	○	○		○	○	-	
592		SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	鉢	底部	-	(3.5)	(2.4)	外)ユビナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい・黄橙) 内)10YR7/4(にぶい・黄橙)			○	○	○	○	つまみ状
593		SX7	C-29	Ⅲ	土器	鉢	口縁～ 胴部	(11.4)	-	(5.4)	外)ミガキ,ナデ 内)ナデ	外)10R5/6(赤) 内)7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○		○	○	赤色顔料	

第27表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫	白色 礫	
100	594	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	鉢	口縁部	-	-	(3.4)	ハケナデ,ナデ	外)7.5YR5/2(灰褐) 内)7.5YR4/6(褐)	○		○	○	○	○	赤色顔料		
	595	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	鉢	口縁部	-	-	(4.1)	ハケナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)		○		○	○	○	-		
	596	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	鉢	口縁部	-	-	(3.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	10YR8/4(浅黄橙)		○	○			○	○	-	
	597	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	(12.0)	-	(5.5)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	7.5YR7/6(橙)			○	○		○	○	小型丸底壺	
	598	SX7	D-29	Ⅲ	土器	甕	口縁部	(11.8)	-	(4.7)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)						○		-	
	599	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	頸～ 胴部	-	-	(4.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR5/1(褐灰)			○			○	○	小型丸底壺	
	600	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(3.5)	外)ユビナデ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR5/1(褐灰)				○	○	○	○	小型丸底壺	
	601	SX7	D-29	Ⅲ	土器	壺	底部	-	-	(2.2)	摩滅	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	小型丸底壺(布留系)	
	602	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	-	-	(4.2)	外)ミガキ 内)ナデ	外)10YR5/6(赤) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)				○			○	○	小型丸底壺 赤色顔料
	603	SX7	C-29	Ⅲ	土器	壺	口縁部	(14.0)	-	(2.7)	外)ナデ 内)ハケナデ,指頭押圧	外)10YR5/4(赤褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)					○		○	小型丸底壺 赤色顔料	
	604	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	胴部	-	-	(3.6)	外)ミガキ 内)ナデ	外)10YR5/6(赤) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○			○	○	小型丸底壺 赤色顔料
	605	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	壺	頸～底 部	-	7.8	(12.6)	外)ミガキ,ナデ 内)ユビナデ,ケズリ,ナデ 指頭押圧	外)2.5YR6/4(にぶい橙) 内)5YR7/4(にぶい橙)	○		○	○		○	○	小型丸底壺 赤色顔料 スス付着・被熱	
	606	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	高坏	胴部	-	-	(2.3)	外)ミガキ 内)ナデ	外)10YR5/6(赤) 内)10YR6/6(赤橙)			○		○		○	赤色顔料	
	607	SX7	C・D-29	Ⅲ	土器	メンコ	完形	5.9	-	-	-	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	外)5YR6/4(にぶい橙) 内)5YR6/8(橙)					○	○	○	円盤形土製品
101	609	SX8	D-35	IIa下	土器	甕	口縁部	(20.6)	-	(23.3)	外)タタキ,ケズリ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)	○		○		○	○	○	-	
	610	SX8	D-35	IIa下	土器	甕	口縁～ 頸部	(24.6)	-	(7.9)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○		○	○	○	-	
	611	SX8	D-35	IV	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(5.7)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○		○		○	○	○	-	
	612	SX8	D-34・35	-	土器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(4.7)	外)ナデ 内)ケズリ,ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)			○		○	○	○	○	-
	613	SX8	D-35	-	土器	甕	口縁部	-	-	(4.3)	ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)		○	○			○	○	-	
	614	SX8	D-35	IIa下	土器	甕	口縁部	-	-	(3.8)	摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)			○		○	○	○	-	
	615	SX8	D-35	-	土器	甕	口縁～ 頸部	-	-	(8.2)	ハケナデ,ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)		○	○				○	○	-
	616	SX8	D-35	-	土器	甕	口縁部	(23.6)	-	(10.5)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)10YR8/6(黄橙)		○	○				○	○	-
	617	SX8	D-35	-	土器	甕	口縁部	(20.8)	-	(2.6)	摩滅	5YR6/4(にぶい橙)			○		○		○	-	
	618	SX8	D-35	-	土器	甕	脚台	-	-	(4.3)	外)摩滅 内)ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)			○			○	○	-	
	619	SX8	D-35	IIa下	土器	甕	脚台	-	9.8	(5.4)	ハケナデ	5YR6/6(橙)			○			○	○	-	
620	SX8	D-35	IIa下	土器	甕	脚台	-	(10.4)	(7.5)	外)工具ナデ,ナデ 内)ナデ	外)2.5Y7/3(浅黄) 内)2.5Y7.4(浅黄)	○	○				○	○	-		
102	621	SX8	D-35	-	土器	壺	口縁～ 頸部	(16.2)	-	(5.5)	外)ナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR5/2(灰褐)		○	○			○	○	北園上野古墳群に類 例あり(朝鮮系)	
	622	SX8	D-35	-	土器	壺	口縁～ 胴部	16.4	-	(12.3)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○		○	○	-		
	623	SX8	D-35	-	土器	壺	口縁部	(12.6)	-	(9.6)	外)摩滅 内)ハケナデ	5YR6/8(橙)		○			○	○	二重口縁		
	624	SX8	D-35	IIa下	土器	壺	口縁部	-	-	(7.1)	外)ハケナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○		○	○	○	二重口縁	
	625	SX8	D-35	-	土器	壺	胴部	-	-	(3.1)	摩滅	7.5YR7/4(にぶい橙)		○	○				○	二重口縁	
	626	SX8	D-34	-	土器	壺	口縁部	-	-	(3.2)	摩滅	10YR7/4(にぶい黄橙)		○	○				○	二重口縁	
	627	SX8	D-35	IV	土器	壺	胴部	-	-	(3.7)	ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)2.5Y4/1(黄灰)					○	○	○	-	
	628	SX8	D-35	IIa下	土器	壺	口縁下	-	-	(3.6)	ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)			○	○		○	○	二重口縁	
	629	SX8	D-35	IV	土器	壺	胴部	-	-	(3.8)	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)			○		○	○	○	-	
	630	SX8	D-35	-	土器	高坏	口縁～ 脚部	(27.8)	-	(18.7)	外)ケズリ,ナデ,ハケナデ 内)ナデ,ハケナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○			○	○	スス付着・穿孔あり 蓋に転用	

第28表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 燧		赤褐 色燧	白色 燧
102	631	SX8	D-35	IIa下	土器	高坏	坏部	(27.8)	-	(4.3)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)	○	○	○	○	○	スス付着・蓋に転用		
	632	SX8	D-35	IIa下	土器	高坏	坏部	(27.8)	-	(5.6)	外)ケズリ,ナデ 内)摩滅	7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○	○	○	○	スス付着・蓋に転用		
	633	SX8	D-35	-	土器	高坏	坏部	(30.4)	-	(4.9)	外)ナデ,ケズリ 内)ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○	○	○	○	スス付着・蓋に転用		
	634	SX8	D-35	IIa下	土器	高坏	脚部	-	-	(10.0)	外)摩滅 内)ケズリ,ナデ	7.5YR8/6(浅黄橙)	○	○		○	○	-		
	635	SX8	D-35	-	土器	高坏	脚部	-	-	(8.9)	外)ナデ 内)ケズリ,ハケナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)		○	○	○	○	○	穿孔あり(3ヵ所)	
	636	SX8	D-35	IV	土器	高坏	脚部	-	-	(9.2)	ナデ	外)5YR5/8(明赤褐) 内)10YR5/2(灰黄褐)	○	○		○	○	○	穿孔あり	
	637	SX8	D-35	-	土器	壺	底部	-	-	(1.1)	摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR6/3(にぶい褐)			○	○	○	○	小型丸底壺	
	638	SX8	D-35	-	土器	壺	底部	-	-	(1.3)	外)タタキ 内)摩滅	外)2.5YR3/1(黒褐) 内)2.5Y7/2(灰黄)			○		○	○	小型丸底壺	
	639	SX8	D-35	-	土器	蓋	完形	23.4	-	8.2	ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)	○	○			○	○	スス付着	
103	642	-	C-D-26- 27	-	土師器	甕	口縁～ 胴部	(28.6)	-	(10.5)	外)ユビナデ,ナデ 内)摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)				○	○	○	-	
	643	-	D-25	IIc-2	土師器	甕	口縁～ 胴部	(20.8)	-	(10.1)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ケズリ,ナデ	外)10YR7/2(にぶい黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○	○			○	○	○	-
	644	-	D-28	IIb	土師器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(8.2)	ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)				○		○	○	-
	645	-	E-30	IIb	土師器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(9.6)	外)指頭押圧,ケズリ,ナデ 内)ハケナデ,ユビナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○			○	○	○	-
	646	-	C-26	IIb	土師器	甕	口縁～ 胴部	(26.1)	-	(14.0)	外)タタキ,ナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)10YR6/2(灰黄褐)			○		○	○	○	-
	647	-	E-25	-	土師器	甕	口縁～ 胴部	(22.0)	-	(14.1)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)10YR4/1(褐灰) 内)10YR5/2(灰黄褐)		○				○	○	-
	648	-	D-35	IIa直下	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.7)	外)ハケ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR5/4(にぶい褐) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)				○		○	○	-
	649	-	C-23	IIb	土師器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(9.5)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧,ユビナデ,ナデ	外)7.5YR6/4(にぶい橙) 内)7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○			○	○	○	-
	650	-	C-23	IIb	土師器	甕	口縁～ 頸部	-	-	(10.8)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ	5YR6/6(橙)				○		○	○	-
651	-	E-28	IIc	土師器	甕	口縁～ 頸部	-	-	(3.8)	ナデ	7.5YR8/4(浅黄橙)				○		○	○	-	
104	652	-	C-26	IIc-2	土師器	甕	口縁～ 胴部	(26.2)	-	(13.7)	外)ハケナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR7/8(橙)				○	○	○	○	内外面とも膜状に剥離
	653	-	C-26	IIb	土師器	甕	口縁～ 胴部	(24.6)	-	(9.4)	ハケナデ,ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/8(橙)		○	○			○	○	-
	654	-	D-25	IIc-1上	土師器	甕	口縁～ 胴部	(22.8)	-	(9.1)	摩滅	外)5YR7/8(橙) 内)5YR7/6(橙)						○	○	-
	655	-	D-25	IIc-1上	土師器	甕	口縁～ 頸部	(21.1)	-	(7.2)	摩滅	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)					○	○	○	-
	656	-	D-25	IIc-2	土師器	甕	胴部	-	-	(14.1)	ハケナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○		○			○	○	スス付着
	657	-	E-27	IIc上	土師器	甕	頸～ 胴部	-	-	(5.1)	外)タタキ 内)ナデ,ハケナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)				○	○	○	○	-
	658	-	D-23	IIb	土師器	甕	胴～ 脚部	-	-	(10.7)	外)ハケナデ,ナデ,指頭押圧 内)ハケナデ,ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)	○	○	○			○	○	-
	659	-	D-28	IIb	土師器	甕	胴～ 脚部	-	-	(14.4)	外)タタキ,ナデ,ユビナデ 内)工具ナデ,指頭押圧, ユビナデ	外)5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)	○		○			○	○	-
	660	-	E-25	IIc-2	土師器	甕	脚台	-	-	(5.4)	外)ユビナデ,ナデ 内)ナデ,指頭押圧	外)2.5YR5/8(にぶい赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)	○		○	○	○	○	-	
	661	-	E-28	IIb	土師器	甕	脚台	-	-	(6.0)	ナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)5YR7/6(橙)		○	○			○	○	-
	662	-	C-26	IIc-2	土師器	甕	脚台	-	(10.6)	(6.6)	外)タタキ,ナデ 内)ナデ,工具ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○			○	○	-
	663	-	E-25	IIc-2	土師器	甕	脚台	-	(12.1)	(6.2)	外)摩滅 内)ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○			○	○	-
	664	-	E-25	-	土師器	甕	脚台	-	(10.4)	(5.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○	○				○	○	-
	665	-	E-29	IIb	土師器	甕	脚台	-	11.4	(6.1)	ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)			○			○	○	-
	666	-	-	表採	土師器	甕	底部	-	7.4	(4.3)	指頭押圧,ナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR5/6(明赤褐)	○	○				○	○	モミ痕
	667	-	D-28	IIb	土師器	甕	胴～ 底部	-	(7.6)	(5.8)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)5YR6/6(橙)			○			○	○	-

第29表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫	
105	668	-	E-24	IIc	土師器	壺	口縁～ 頸部	16.6	-	(7.5)	摩滅	7.5YR8/6(浅黄橙)					○	○	○	-	
	669	-	C-26	Ib	土師器	壺	口縁～ 頸部	-	-	(8.0)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)5YR8/4(淡橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)	○		○		○	○	○	-	
	670	-	C-23	IIb	土師器	壺	頸部	-	-	(11.8)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)7.5YR5/3(にぶい,褐) 内)5YR5/8(明赤褐)	○	○	○				○	二重口縁	
	671	-	D-26	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	14.0	-	(9.6)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	5YR6/8(橙)	○		○				○	二重口縁	
	672	-	E-24	IIc	土師器	壺	口縁部	(17.0)	-	(6.2)	ナデ	10YR5/6(赤)	○	○	○			○	○	二重口縁	
	673	-	E-27	IIc上	土師器	壺	口縁部	-	-	(3.2)	摩滅	7.5YR7/6(橙)			○		○	○	○	二又状口縁	
	674	-	E-25	IIc-2	土師器	壺	口縁部	-	-	(3.9)	摩滅	5YR7/6(橙)						○	○	二又状口縁	
	675	-	C-26	IIa	土師器	壺	口縁部	-	-	(4.0)	ナデ	外)2.5YR7/2(灰黄) 内)10YR7/3(にぶい,黄橙)		○	○		○		○	二又状口縁	
	676	-	-	-	土師器	壺	口縁部	-	-	(3.5)	摩滅	7.5YR8/4(浅黄橙)			○		○		○	二又状口縁	
	677	-	-	-	土師器	壺	口縁部	-	-	(2.5)	摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい,橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○			○	○	二又状口縁	
	678	-	D-35	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	-	-	(5.4)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/6(橙)	○				○	○	○	二重口縁	
	679	-	D-28	IIb	土師器	壺	口縁～ 頸部	-	-	(5.3)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	7.5YR7/6(橙)		○			○	○	○	二重口縁	
	680	-	D-29	IIb	土師器	壺	肩部	-	-	(5.2)	外)タタキ,ナデ 内)ユビナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)10YR7/4(にぶい,黄橙)			○		○	○	○	-	
	681	-	D-26	IIc-2	土師器	壺	胴部	-	-	(15.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ユビナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○	○			○	○	○	-	
	682	-	D-29	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(12.8)	外)タタキ,ハケナデ 内)ケズリ,ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい,橙)		○	○		○	○	○	-	
	683	-	E-D-23	IIc-2	土師器	壺	胴部	-	-	(12.1)	外)ケズリ,タタキ,ナデ 内)ユビナデ,工具ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○		○	○	○	-	
	106	684	-	D-28	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(5.1)	外)摩滅 内)ナデ	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)	○		○			○	○	-
		685	-	D-28	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(6.2)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/3(にぶい,赤褐)		○	○		○		○	-
686		-	D-28	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(3.4)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○			○	○	-	
687		-	D-28	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(3.1)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)				○	○	○	○	-	
688		-	D-28	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(5.6)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○			○	○	-	
689		-	C-26	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(9.1)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)10YR7/2(にぶい,黄橙)			○			○	○	-	
690		-	C-23	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(9.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)10YR7/4(にぶい,黄橙)	○		○			○	○	-	
691		-	E-25	IIc-2	土師器	壺	胴部	-	-	(7.8)	外)タタキ 内)摩滅	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR5/1(褐灰)	○	○			○	○	○	-	
692		-	E-27	表土	土師器	壺	胴部	-	-	(3.6)	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/2(灰白)	○		○			○	○	-	
693		-	D-35	-	土師器	壺	胴部	-	-	(4.1)	外)- 内)摩滅	外)5YR4/6(赤褐) 内)5YR4/6(赤褐)	○				○	○	○	布目刻み	
694		-	D-35	IV	土師器	壺	胴部	-	-	(6.7)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	2.5Y8/2(灰白)	○		○			○	○	-	
695		-	C-25	IIc-2	土師器	壺	底部	-	(5.8)	(3.5)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR7/3(にぶい,橙) 内)5YR7/3(にぶい,橙)	○		○			○	○	-	
696		-	D-24	IIc-2	土師器	壺	底部	-	4.2	(4.5)	ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/6(橙)				○		○	-		
697		-	D-28	IIb	土師器	壺	底部	-	(3.4)	(3.0)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR7/3(にぶい,黄橙) 内)10YR7/3(にぶい,黄橙)			○		○	○	○	-	
698		-	D-26	IIc上	土師器	壺	底部	-	2.2	(4.4)	摩滅	外)2.5YR6/6(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい,橙)	○	○	○			○	○	-	
699		-	C-25	IIc-2	土師器	壺	底部	-	-	(5.2)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)10YR7/4(にぶい,黄橙) 内)10YR6/3(にぶい,黄橙)			○			○	○	-	
700		-	D-25	IIc	土師器	壺	底部	-	(3.6)	(4.0)	外)摩滅 内)指頭押圧	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR7/1(灰白)	○		○			○	○	-	
701	-	C-29	IIb	土師器	壺	底部	-	-	(4.0)	摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)	○		○			○	○	-		
702	-	D-28	IIb	土師器	壺	底部	-	-	(3.3)	外)タタキ,ナデ 内)指頭押圧	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)			○		○	○	○	-		
703	-	E-24	IIc	土師器	壺	胴～ 底部	-	-	(16.3)	外)ナデ 内)指頭押圧,ナデ	外)10YR7/4(にぶい,黄橙) 内)10YR7/4(にぶい,黄橙)	○		○			○	○	-		

第30表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫	
107	704	-	E-25	IIc-2	土師器	高坏	坏部	(25.4)	-	(4.4)	摩滅	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○	○			○	○	-		
	705	-	E-29	-	土師器	高坏	坏部	(32.0)	-	(4.5)	外)ケズリ,ナデ 内)ナデ,ハケナデ,ミガキ	外)5YR5/4(にぶい赤褐) 内)5YR5/3(にぶい赤褐)		○	○		○	○	蓋に転用・スス付着		
	706	-	D-29	IIb	土師器	高坏	坏部	-	-	(6.3)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○			○	○	蓋に転用・スス付着		
	707	-	C-26	IIb	土師器	高坏	坏部	-	-	(3.3)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)5YR7/8(橙)		○			○	○	-		
	708	-	D-29	IIb	土師器	高坏	坏部	-	-	(7.8)	外)ハケナデ,ナデ 内)ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/6(橙)			○		○	○	-		
	709	-	E-31	IIb	土師器	暗文高 坏	坏部	-	-	(4.8)	外)ミガキ,ハケナデ 内)ナデ,ハケナデ,ミガキ	外)2.5Y7/2(灰黄) 内)2.5Y5/2(暗灰黄)			○		○	○	-		
	710	-	D-29	IIb	土師器	高坏	坏部	-	-	(3.2)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ,ミガキ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○		○	○	-		
	711	-	C-23	IIa	土師器	高坏	脚部	-	-	(3.2)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)					○	○	-		
	712	-	E-27	表土	土師器	高坏	脚部	-	-	(4.8)	外)摩滅 内)ナデ	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)					○	○	-		
	713	-	-	表採	土師器	高坏	脚部	-	-	(7.8)	外)ナデ,ハケナデ 内)ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○	○			○	○	-	
	714	-	D-29	IIb	土師器	高坏	脚部	-	-	(5.1)	ナデ	外)5YR5/8(明赤褐) 内)5YR5/8(明赤褐)	○	○			○	○	-		
	715	-	E-28	IIb	土師器	高坏	脚部	-	-	(5.8)	外)ナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)5YR7/3(にぶい橙) 内)5YR7/3(にぶい橙)		○			○	○	-		
	716	-	E-25	IIc-1	土師器	高坏	脚部	-	-	(9.1)	摩滅	外)7.5YR8/3(浅黄橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)	○	○			○	○	穿孔あり(2ヵ所)		
	717	-	C-27	IIc-2	土師器	高坏	脚部	-	-	(7.0)	ナデ	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)	○				○	○	-		
	718	-	D-26	IIc上	土師器	高坏	脚部	-	-	(8.0)	外)ナデ 内)ナデ,ハケナデ	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)	○	○			○	○	穿孔あり(2ヵ所)		
	719	-	E-29	IIb	土師器	高坏	脚部	-	-	(5.7)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙)		○	○			○	穿孔あり		
	720	-	E-25	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(9.5)	外)ユビナデ,ナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)	○	○			○	○	穿孔あり		
	721	-	C-26	IIb	土師器	高坏	脚部	-	-	(7.1)	ハケナデ,ナデ	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)5YR7/4(にぶい橙)		○	○			○	○	穿孔あり	
	722	-	D-29	IIb	土師器	高坏	脚部	-	-	(8.8)	外)ナデ 内)ケズリ,ナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)2.5YR5/6(明赤褐)	○	○			○	○	-		
	723	-	E-24	IIb	土師器	高坏	脚部	-	-	(7.8)	摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)5YR6/8(橙)	○	○			○	○	-		
	724	-	E-35	-	土師器	高坏	脚部	-	9.5	(8.4)	外)ユビナデ 内)ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR6/4(にぶい黄橙)			○	○	○	○	-		
	725	-	E-30	IIb	土師器	高坏	脚部	-	(11.1)	(10.1)	外)工具ナデ,ユビナデ,ナデ 内)摩滅	7.5YR7/4(にぶい橙)			○	○	○	○	-		
	726	-	D-29	IIb	土師器	高坏	脚部	-	(14.6)	(9.3)	外)ユビナデ,ナデ 内)ハケナデ	5YR5/6(明赤褐)			○	○	○	○	-		
	727	-	E-25	IIc-2	土師器	高坏	脚部	-	-	(8.0)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)		○	○			○	○	穿孔あり(1ヵ所)	
	108	728	-	C-26	IIc-2	土師器	埴	口縁～ 底部	(11.8)	-	(7.9)	摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)			○	○		○	丸底壺	
		729	-	E-27	表土	土師器	埴	底部	-	2.2	(2.7)	ナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)		○	○			○	○	小型丸底壺
		730	-	E-25	-	土師器	壺	口縁～ 胴部	(16.2)	-	(15.1)	外)ナデ 内)ナデ,工具ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○			○	○	小型壺
731		-	E-25	-	土師器	壺	頸～ 胴部	-	-	(15.7)	外)ナデ 内)ユビナデ,指頭押圧,ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR6/1(褐灰)			○		○	○	○	小型丸底壺	
732		-	D-25	-	土師器	鉢	口縁～ 底部	(17.4)	(9.0)	(12.5)	ハケナデ,ナデ	外)2.5YR4/8(赤褐) 内)5YR6/6(明赤褐)		○			○	○	-		
733		-	-	-	土師器	鉢	脚台	-	-	(4.1)	ナデ	2.5Y8.2(灰白)		○			○	○	○	穿孔あり(1対)	
734		-	E-30	IV	土師器	鉢	脚台	-	18.4	(6.6)	外)ナデ 内)摩滅	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)			○		○	○	○	台付鉢	
735		-	E-30	IIb	土師器	蓋	つまみ	2.5	-	(2.6)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR7/8(橙) 内)7.5YR7/8(黄橙)	○	○				○	○	天井部	
736		-	E-30	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(2.7)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR7/4(にぶい橙)			○			○	○	免田式土器	
737		-	E-25	-	土師器	壺	胴部	-	-	(4.6)	内)ナデ	外)5YR5/6(明赤褐) 内)5YR1.7/1(黒)		○				○	○	免田式土器	
738		-	D-28	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(5.4)	ナデ	外)5YR5/8(明赤褐) 内)10R3/3(暗赤褐)			○		○	○	○	免田式土器・重弧文	
739		-	D-30	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(5.0)	外)ナデ 内)ハケナデ	外)2.5Y5/1(黄灰) 内)5YR7/6(橙)			○			○	○	免田式土器	
740		-	E-30	IIb	土師器	壺	胴部	-	-	(6.4)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR7/6(橙)			○			○	○	免田式土器	
741		-	C-26	埋土	土師器	メンコ	-	5.1	-	-	-	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)			○		○	○	○	円盤形土製品	

第31表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考				
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐色 礫	白色 礫		
111	754	磔敷	-	-	土師器	甕	口縁～ 胴部	(24.0)	-	(17.0)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)		○				○	○	-		
	755	磔敷	-	-	土師器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(6.7)	摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)5YR7/8(橙)			○					○	-	
	756	磔敷	-	埋土	土師器	甕	口縁～ 胴部	-	-	(5.7)	外)ハケナデ 内)ナデ	外)5YR6/8(橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)							○	○	-	
	757	磔敷	-	-	土師器	甕	頸～ 胴部	-	-	(4.5)	ナデ,ハケナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○	○							種実状圧痕(2か所)
	758	磔敷	D-25	IIc-1	土師器	甕	胴部	-	-	(10.0)	外)タタキ,ハケナデ,ナデ 内)摩滅	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR7/2(明褐灰)			○							-
	759	磔敷	D-25	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	-	(9.2)	外)ユビナデ,ナデ 内)指頭押圧,ハケナデ,ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)			○	○						-
	760	磔敷	-	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	-	(5.0)	外)ユビナデ 内)摩滅	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)			○							-
	761	磔敷	-	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	-	(3.4)	外)ハケナデ,ナデ 内)ハケナデ	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)7.5YR5/4(にぶい褐)		○								木葉痕
	762	磔敷	D-24	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	10.8	(7.5)	外)ユビナデ 内)工具ナデ,ナデ	外)7.5YR8/3(浅黄橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)		○	○							-
	763	磔敷	-	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	-	(9.8)	(5.7)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○						-
	764	磔敷	D-24	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	9.0	(7.5)	外)ユビナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)7.5YR8/2(灰白) 内)7.5YR7/2(明褐灰)		○	○							-
	765	磔敷	D-24	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	10.6	(5.6)	外)ミガキ,ナデ 内)ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○							-
	766	磔敷	D-25	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	10.0	(4.7)	外)ユビナデ,ナデ 内)工具ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙)		○		○						-
	767	磔敷	D-24	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	10.8	(7.9)	外)ユビナデ 内)ハケナデ,ナデ	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)5YR7/4(にぶい橙)		○		○						-
768	磔敷	-	-	土師器	甕	胴～ 脚部	-	12.2	(4.1)	摩滅	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR7/6(橙)		○								-	
112	769	磔敷	-	-	土師器	壺	口縁～ 胴部	(15.6)	-	(13.2)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)5YR8/3(淡橙) 内)5YR8/3(淡橙)									-	
	770	磔敷	-	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	-	-	6.2	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR6/8(橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○	○							-
	771	磔敷	D-25	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	(17.7)	-	(5.6)	摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)		○	○							-
	772	磔敷	D-25	IIc-1	土師器	壺	口縁～ 頸部	(18.0)	-	(8.4)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)		○								-
	773	磔敷	C-25	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	(18.4)	-	(6.0)	摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)			○	○						-
	774	磔敷	-	-	土師器	壺	頸部	-	-	(4.6)	摩滅	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR6/1(褐灰)			○							-
	775	磔敷	-	-	土師器	壺	頸～ 胴部	-	-	(7.5)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)			○							-
	776	磔敷	-	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	(11.7)	-	(7.3)	摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)		○	○							二重口縁
	777	磔敷	D-24	-	土師器	壺	頸～ 胴部	-	-	(8.0)	外)摩滅 内)ハケナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)		○								二重口縁
	778	磔敷	-	-	土師器	壺	口縁部	-	-	(4.5)	外)ハケナデ,ナデ 内)摩滅	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)			○							二重口縁
	779	磔敷	D-25	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	(18.0)	-	(8.9)	ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)		○	○							二重口縁
	780	磔敷	D-24	-	土師器	壺	頸部	-	-	(6.1)	外)ナデ 内)摩滅	外)5YR8/4(淡橙) 内)5YR7/2(明褐灰)										二重口縁
	781	磔敷	D-24	-	土師器	壺	口縁部	(15.8)	-	(4.9)	外)タタキ,ナデ 内)摩滅	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)		○	○							二重口縁
	782	磔敷	-	-	土師器	壺	口縁部	(16.0)	-	(3.7)	摩滅	外)5YR8/3(淡橙) 内)5YR8/3(淡橙)		○								二重口縁
783	磔敷	-	青灰色 土	土師器	壺	口縁部	(14.8)	-	(9.4)	外)ナデ 内)摩滅	外)2.5YR4/8(赤褐) 内)2.5YR4/8(赤褐)		○	○							二重口縁	
113	784	磔敷	D-25	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	(22.4)	-	(6.8)	外)条痕,ナデ,キサミ 内)摩滅	外)10YR4/3(にぶい黄褐) 内)10YR4/2(灰黄褐)		○	○							二重口縁
	785	磔敷	D-25	-	土師器	壺	口縁部	-	-	(4.1)	摩滅	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)									二重口縁・肥厚口縁	
	786	磔敷	-	-	土師器	壺	口縁部	-	-	(4.4)	摩滅	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)									二重口縁・肥厚口縁	
	787	磔敷	-	-	土師器	壺	肩部	-	-	(5.9)	摩滅	外)10YR7/1(灰白) 内)10YR8/1(灰白)			○							-
	788	磔敷	D-25	-	土師器	壺	口縁～ 頸部	-	-	(5.8)	外)ハケナデ 内)ナデ	外)5YR8/2(灰白) 内)5YR8/2(灰白)		○								二重口縁
	789	磔敷	-	-	土師器	壺	頸部	-	-	(4.0)	外)ナデ 内)摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR5/8(明赤褐)			○	○						

第32表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土						備考		
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	赤褐 色礫		白色 礫	
113	790	790	-	-	土師器	壺	胴部	-	-	(4.6)	摩滅	外)5YR5/8(明赤褐) 内)5YR5/6(明赤褐)			○	○	○	○	-		
	791	791	-	-	土師器	壺	胴部	-	-	(5.6)	摩滅	外)5YR8/4(淡橙) 内)7.5YR8/1(灰白)	○				○	○	○	-	
	792	792	-	-	土師器	壺	胴部	-	-	(6.0)	外)ナデ 内)摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○			○	○	○	○	-	
	793	793	-	-	土師器	壺	胴部	-	-	(6.3)	外)ナデ 内)ユビナデ	外)7.5YR7/3(にぶい橙) 内)7.5YR7/3(にぶい橙)				○	○	○	○	-	
	794	794	D-25	IIc-1	土師器	壺	胴部	-	-	(8.2)	摩滅	外)2.5YR4/8(赤褐) 内)2.5YR4/8(赤褐)		○			○	○	○	-	
	795	795	-	-	土師器	壺	肩部	-	-	(10.1)	外)ハケナデ 内)摩滅	外)10YR8/2(灰白) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)					○	○		-	
	796	796	-	-	土師器	壺	底部	-	(6.0)	(3.3)	外)ナデ 内)指頭押圧	外)10YR6/2(灰黄褐) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)	○			○		○	○	-	
	797	797	-	-	土師器	壺	底部	-	3.8	(4.0)	摩滅	外)5YR5/6(明赤褐) 内)7.5YR3/1(黒褐)				○	○		○	-	
	798	798	-	-	土師器	壺	底部	-	-	(5.7)	外)ケズリ,ナデ 内)ナデ	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)2.5Y4/2(暗灰黄)	○	○				○	○	-	
	799	799	D-24	-	土師器	壺	底部	-	-	(6.8)	摩滅	外)10YR6/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○		○	○	○	○	-	
	800	800	-	-	土師器	壺	底部	-	(5.2)	(8.0)	外)ケズリ,ナデ,指頭押圧 ユビナデ 内)摩滅	外)5YR6/6(橙) 内)5YR6/6(橙)	○		○			○	○	-	
	801	801	D-25	-	土師器	壺	底部	-	-	(6.0)	外)ユビナデ 内)ユビナデ,ナデ	外)10YR7/2(にぶい黄橙) 内)10YR7/2(にぶい黄橙)	○		○			○	○	-	
	802	802	D-25	-	土師器	壺	底部	-	-	(8.1)	摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)		○			○	○	○	-	
	803	803	-	-	土師器	壺	底部	-	-	(4.0)	外)摩滅 内)指頭押圧	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)2.5Y4/1(黄灰)				○	○	○	○	-	
	804	804	-	-	土師器	壺	底部	-	-	(8.0)	外)ハケナデ 内)ハケナデ,指頭押圧,ナデ	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○				○	○	-	
805	805	-	-	土師器	壺	底部	-	-	(5.4)	外)摩滅 内)ユビナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR6/8(橙)				○	○	○	○	-		
114	806	806	-	-	土師器	埴	口縁~ 頸部	-	-	(2.8)	摩滅	外)10YR6/6(明黄褐) 内)10YR6/6(明黄褐)					○	○	○	小型丸底壺	
	807	807	C-25	-	土師器	埴	つまみ	2.1	-	(1.9)	摩滅	10YR8/6(黄橙)					○	○	○	蓋	
	808	808	-	青灰色 土	土師器	埴	胴部	-	-	(5.0)	外)ユビナデ,ハケナデ 内)ナデ	外)10YR5/3(にぶい黄褐) 内)10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○		小型丸底壺	
	809	809	-	-	土師器	ジョッキ	底部	-	(8.8)	(5.3)	ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)	○	○			○	○		免田式土器	
	810	810	-	-	土師器	台付坏 or 台付鉢	脚部	-	-	(4.0)	摩滅	5YR6/8(橙)		○				○	○	小型土器	
	811	811	-	-	土師器	鉢	口縁部	-	-	(5.9)	外)ハケナデ,ユビナデ 内)ハケナデ	外)10YR1.7/1(黒) 内)10YR3/3(暗褐)		○				○	○		-
	812	812	D-25	-	土師器	壺	胴部	-	-	(5.4)	摩滅	外)10YR7/3(にぶい黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	免田式土器・重弧文	
	813	813	-	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(6.2)	摩滅	10YR8/4(浅黄橙)		○	○			○	○	-	
	814	814	-	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(3.6)	外)摩滅 内)ナデ	10YR8/2(灰白)	○	○				○		-	
	815	815	C-25	IIc-1	土師器	高坏	脚部	-	-	(4.7)	摩滅	10YR8/2(灰白)		○	○			○	○	-	
	816	816	E-25	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(7.3)	外)ユビナデ 内)摩滅	外)7.5YR7/6(浅黄橙) 内)7.5YR8/8(黄橙)	○				○	○	○	-	
	817	817	-	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(5.8)	外)ユビナデ 内)摩滅	10YR8/3(浅黄橙)	○	○				○	○	-	
	818	818	D-25	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(4.8)	摩滅	2.5YR8/2(灰白)	○	○				○	○	-	
	819	819	C-25	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(9.5)	摩滅	10YR7/4(にぶい黄褐)				○	○	○	○	-	
	820	820	D-25	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(9.4)	外)ユビナデ 内)摩滅	10YR8/3(浅黄橙)				○	○	○	○	穿孔あり	
821	821	-	青灰色 土	土師器	高坏	脚部	-	-	(12.0)	外)ユビナデ 内)ナデ	7.5YR8/6(浅黄橙)	○				○	○	○	穿孔あり		
822	822	-	-	土師器	高坏	坏部	-	-	(2.6)	摩滅	外)2.5YR5/8(明赤褐) 内)2.5YR6/8(橙)		○				○	○	-		
823	823	-	-	土師器	高坏	脚部	-	-	(5.0)	摩滅	外)7.5YR5/6(明褐) 内)7.5YR6/6(橙)			○			○	○	-		
824	824	-	-	土師器	蓋	天井部	-	-	(4.5)	外)ケズリ,ナデ 内)ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)5YR5/6(明赤褐)		○					○	スス付着		
825	825	-	-	土師器	蓋	天井部 ~口縁	-	-	(2.5)	摩滅	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)	○						○	スス付着		

第33表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土						備考	
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	赤褐 色礫		白色 礫
119	826	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(16.0)	(14.0)	1.5	回転ナデ	外)5YR7/6(橙) 内)5YR7/6(橙)					○	○	○	ヘラ切り
	827	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(13.8)	11.4	1.5	回転ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)					○	○	○	ヘラ切り
	828	SK51	-	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(15.2)	(12.0)	1.3	回転ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)				○		○	ヘラ切り	
	829	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(16.4)	(14.0)	1.5	回転ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)						○	○	ヘラ切り
	830	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(15.8)	(13.6)	1.3	回転ナデ	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/2(明褐灰)						○	○	ヘラ切り
	831	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(13.6)	(10.1)	1.5	回転ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	ヘラ切り
	832	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	-	-	(1.4)	回転ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)					○	○	○	ヘラ切り
	833	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(16.0)	(12.2)	(1.8)	回転ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)							○	ヘラ切り
	834	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(13.0)	(10.8)	1.2	回転ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)					○	○	○	ヘラ切り・モミ痕
835	SK51	C-27	-	土師器	皿	口縁～ 底部	(17.2)	(10.8)	2.3	回転ナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)				○		○	○	ヘラ切り	
120	836	SK51	C-27	-	土師器	坏	口縁～ 底部	(15.0)	7.2	3.0	回転ナデ,ヘラケズリ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)				○		○	○	-
	837	SK51	C-27	-	土師器	坏	完形	16.0	8.0	3.7	回転ナデ,ヘラケズリ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○		○	○	○	-
	838	SK51	C-27	-	土師器	坏	完形	12.7	6.9	2.8	回転ナデ,ヘラケズリ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)					○	○	○	ヘラ切り
	839	SK51	-	-	土師器	坏	口縁～ 底部	(15.0)	-	(4.0)	回転ナデ,ヘラケズリ	外)5YR7/8(橙) 内)5YR7/8(橙)						○	○	-
	840	SK51	C-27	-	土師器	坏	口縁～ 底部	(14.4)	(7.6)	(3.1)	回転ナデ	外)7.5YR6/6(橙) 内)7.5YR6/6(橙)							○	-
	841	SK51	C-27	-	土師器	坏	口縁～ 底部	-	-	3.0	回転ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)							○	-
	842	SK51	C-27	-	土師器	坏	口縁～ 底部	-	-	3.1	回転ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)					○		○	-
	843	SK51	C-27	-	土師器	坏	胴～ 底部	-	-	(1.8)	回転ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)				○			○	ヘラ切り
	844	SK51	-	-	土師器	皿or坏	高台	-	(7.0)	(0.8)	回転ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)							○	-
845	SK51	-	-	土器	甕	底部	-	(7.0)	(5.3)	外)エビナデ,ナデ 内)指頭押圧	外)2.5YR7/8(赤褐) 内)2.5YR5/6(明赤褐)				○	○	○	○	-	
846	SK51	-	-	土器	壺	胴～ 底部	-	-	(6.8)	摩滅	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR7/4(にぶい黄橙)	○					○	○	○	粗製・小型丸底壺
123	847	SK58	E-29	IV	土師器	坏	口縁部	(14.6)	-	(2.6)	回転ナデ	10YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	-
	848	SK58	E-29	IV	土師器	坏	口縁部	(15.6)	-	(3.3)	回転ナデ	10YR8/3(浅黄橙)			○			○	○	-
	849	SK58	E-29	IV	土師器	坏	口縁部	-	-	(2.7)	回転ナデ	10YR8/3(浅黄橙)			○	○		○	○	-
	850	SK58	E-29	IV	土師器	坏	口縁部	-	-	(3.2)	回転ナデ	7.5YR8/3(浅黄橙)			○	○		○		-
	851	SK58	E-29	IV	土師器	坏	口縁部	-	-	(4.4)	回転ナデ	7.5YR8/4(浅黄橙)					○	○	○	-
	852	SK58	E-29	IV	土師器	坏	底部	-	(8.0)	(0.9)	回転ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)			○			○	○	-
	853	SK58	E-29	-	土師器	坏蓋	天井部	-	-	(1.9)	回転ナデ	外)2.5YR6/6(橙) 内)10YR6/3(にぶい黄橙)			○			○	○	-
	854	SK58	E-29	-	土師器	坏蓋	天井部 ～口縁	-	-	(1.6)	回転ナデ	外)5Y6/1(灰) 内)2.5Y6/2(灰黄)			○			○	○	-
124	855	SK59	-	-	土師器	皿	口縁部	-	-	(1.4)	回転ナデ	外)5YR6/6(橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)	○						○	-
128	856	磔敷	E-25	-	土師器	坏	口縁～ 底部	(12.8)	7.0	-	内)指頭押圧	10YR8/3(浅黄橙)								わ-30
	857	磔敷	E-25	-	土師器	坏	胴～ 底部	-	(9.0)	(1.6)	-	10YR8/3(浅黄橙)								く-3・ヘラ切り
	858	磔敷	-	-	土師器	坏	胴～ 底部	-	6.0	(2.1)	-	10YR8/4(浅黄橙)								か-2・ヘラ切り
	859	磔敷	E-25	-	土師器	坏	胴～ 底部	-	(4.4)	(2.0)	-	10YR8/4(浅黄橙)								わ-29・ヘラ切り
	860	磔敷	E-25	-	土師器	坏	底部	-	6.0	(1.0)	-	10YR8/3(浅黄橙)								わ-30・ヘラ切り
	861	磔敷	D-E-26	-	土師器	坏	底部	-	6.2	(1.6)	摩滅	外)7.5YR8/8(黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)						○	○	○

第34表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土						備考	
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	赤褐色 礫		白色 礫
128	862	862	E-25	-	土師器	壺	底部	-	(6.0)	(2.3)	-	YR8/4(浅黄橙)							き-8	
	863	863	E-26	-	土師器	壺	脚部	-	脚径 8.0	(2.0)	-	5YR7/8(橙)							-	
	864	864	-	-	土師器	壺	底部	-	(6.0)	(2.1)	摩滅	2.5YR8/3(淡黄)			○		○		-	
	865	865	-	磔敷下 層	土器	土錘	紡錘形	最大長 (1.5)	最大径 (1.4)	孔径 0.4	-	7.5YR7/4(にぶい橙)					○	○	い-11	
	866	866	-	磔敷下 層	土器	土錘	紡錘形	最大長 (3.5)	最大径 1.7	孔径 0.5	-	5YR2/1(黒褐)	○	○					き-1 モミ痕	
	867	867	D-25	IIc-2	土器	土錘	紡錘形	最大長 (2.8)	最大径 1.5	孔径 0.6	-	10YR7/3(にぶい黄橙)				○	○	○	-	
	868	868	E-26	-	土器	土錘	紡錘形	最大長 (3.5)	最大径 1.5	孔径 0.5	-	5YR7/8(橙)					○	○	○	-
	869	869	E-26	-	土器	土錘	紡錘形	最大長 (4.4)	最大径 1.6	孔径 0.6	-	5YR7/6(橙)			○	○		○	わ-30	
	870	870	E-26	-	土器	土錘	紡錘形	最大長 (3.6)	最大径 1.6	孔径 0.6	-	2.5Y8/2(灰白)			○		○		お-6	
	871	871	-	磔敷下 層	土器	土錘	紡錘形	最大長 (4.1)	最大径 1.6	孔径 0.4	-	7.5YR7/3(にぶい橙)					○	○	○	い-11
	872	872	-	磔敷下 層	土器	土錘	紡錘形	最大長 (4.4)	最大径 1.8	孔径 0.4	-	7.5YR7/3(にぶい橙)			○	○	○	○	う-10	
	873	873	D-25	IIc-2	土器	土錘	紡錘形	最大長 (4.0)	最大径 1.9	孔径 0.6	-	10YR8/2(灰白)					○	○	○	-
	874	874	E-25	-	須恵器	環蓋	天井部 ~ 口縁部	13.8	-	-	ナデ	外)5PB7/1(明青灰)							わ-30	
	875	875	-	-	須恵器	坏身	口縁~ 底部	(14.0)	(8.4)	4.7	ナデ	外)7.5Y6/1(灰) 内)7.5Y7/1(灰白)							い-4	
	876	876	E-25	-	須恵器	壺	肩部	肩部 (10.4)	-	(5.4)	ナデ	外)5Y6/1(灰) 内)5Y7/1(灰白)							-	
	877	877	-	-	須恵器	壺	肩部	-	-	(5.4)	ナデ	外)10YR7/4(にぶい黄橙) 内)10YR8/3(浅黄橙)					○	○	う-5	
	878	878	E-25	-	須恵器	甕	口縁部	-	-	(3.1)	-	外)7.5YR4/1(褐灰) 内)7.5YR3/1(黒褐)							き-8	
	879	879	E-25	-	須恵器	甕	口縁部	-	-	(5.1)	-	外)5YR4/2(灰褐) 内)10Y5/1(灰)							き-1	
	880	880	D-25	-	須恵器	甕	肩部	-	-	(6.0)	外)条痕タタキ 内)同心円当具痕	外)10YR(褐灰) 内)5Y7/1(灰白)							-	
	881	881	D-26	-	須恵器	甕	肩部	-	-	(3.3)	外)条痕タタキ 内)同心円当具痕	外)5YR6/4(にぶい橙) 内)5YR8/4(浅黄橙)							-	
	882	882	E-25	-	須恵器	甕	肩部	-	-	(3.5)	外)正格子目タタキ 内)同心円当具痕	外)5Y7/1(灰白) 内)5Y6/1(灰)							を-30	
	883	883	-	-	須恵器	甕	胴部	-	-	(10.4)	外)正格子目タタキ 内)同心円当具痕,条痕当具痕	外)5Y7/1(灰白) 内)5YR5/3(にぶい赤褐)							き-4	
	884	884	E-25	-	須恵器	甕	胴部	-	-	(6.4)	外)条痕タタキ 内)条痕当具痕	外)5Y6/1(灰) 内)2.5Y7/1(灰白)							ろ-29	
	885	885	E-25	-	須恵器	甕	肩部	-	-	(3.9)	外)条痕タタキ,ナデ 内)同心円当具痕	外)5B7/1(明青灰) 内)5B7/1(明青灰)							か-1	
	886	886	-	磔敷下 造成土	須恵器	坏or壺	口縁部	-	-	(2.9)	ナデ	2.5Y7/1(灰白)							黒色石の大きい破片あり 瀬戸焼-9	
	887	887	-	磔敷	須恵器	壺	肩部	-	-	(1.4)	外)- 内)ナデ	7.5YR(浅黄橙)							瀬戸焼・草花文 細かい土に琥珀-1	
	129	889	-	E-25	IIb	土師器	皿	口縁~ 底部	(15.2)	(9.6)	1.8	ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)5YR7/6(橙)					○	○	ヘラ切り
		890	-	-	埋土	土師器	皿	底部	-	(9.6)	(1.3)	ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)2.5Y8/3(淡黄)					○	○	ヘラ切り
891		-	D-26	IIc	土師器	皿	口縁~ 底部	(14.2)	(12.0)	1.1	ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)					○		ヘラ切り	
892		-	C-29	III	土師器	蓋	天井部 ~ 口縁	(14.6)	-	(1.6)	ナデ	2.5Y8/2(灰白)				○	○	○	-	
893		-	C-26	カクラン	土師器	坏	底部	-	(9.2)	(2.0)	ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)				○	○	○	-	
894		-	E-30	IIb	土師器	坏	底部	-	(11.6)	(1.2)	ナデ	10YR8/6(黄橙)				○	○	○	-	
895		-	-	-	土師器	坏	底部	-	10.0	(2.2)	ナデ	7.5YR7/6(橙)			○	○	○	○	-	

第35表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土						備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	赤褐 色礫		白色 礫		
129	896	-	D-27	IIb	土師器	坏	底部	-	10.0	(1.4)	ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)			○			○	○	-		
	897	-	D-28	IIb	土師器	埴	胴～ 底部	-	(10.6)	(3.6)	回転ナデ	2.5Y8/2(灰白)						○	○	-		
	898	-	E-27	表土	土師器	坏	底部	-	(6.4)	(2.6)	回転ナデ	外)10YR8/2(灰白) 内)10YR8/2(灰白)	○					○	○	-		
	899	-	E-35	-	土師器	坏	底部	-	(6.4)	(2.3)	外)- 内)-	外)5YR7/8(橙) 内)5YR6/8(橙)						○	○	○	-	
	900	-	D-25	IIa	土師器	坏	底部	-	(7.0)	(2.4)	回転ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR8/6(浅黄橙)	○						○	○	-	
	901	-	D-25	IIa	土師器	坏	底部	-	(7.4)	(2.3)	回転ナデ	外)7.5YR7/6(橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○				○	○	-	
	902	-	C-24	IIb	土師器	坏	底部	-	(6.6)	(2.1)	回転ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)5YR5/6(明赤褐)						○	○	○	-	
	903	-	C-25	IIa	土師器	坏	底部	-	(6.2)	(2.6)	回転ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)							○	○	-	
	904	-	②の先 行調査	-	土師器	鉢	底部	-	-	(3.7)	外)ナデ 内)ナデ	外)7.5YR6/3(にぶい褐) 内)7.5YR6/3(にぶい褐)			○				○	○	古墳・スス付着(底)	
	905	-	D-34	V	土師器	埴	底部	-	7.6	(3.0)	回転ナデ	10YR8/3(浅黄橙)	○	○					○	○	-	
	906	-	C-26	IIc-2	土師器	皿	口縁～ 底部	-	-	2.9	回転ナデ	外)10YR8/4(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)							○	○	-	
	907	-	C-26	IIc-2	土師器	坏	口縁～ 胴部	-	-	(3.4)	回転ナデ	外)7.5YR8/3(浅黄褐) 内)7.5YR8/3(浅黄褐)							○	○	○	-
	908	-	E-29	IV	土師器	埴	口縁部	-	-	(4.0)	摩滅	10YR8/4(浅黄橙)	○	○					○	○	-	
	909	-	E-30	-	土師器	皿	底部	-	-	(1.8)	回転ナデ	10YR8/4(浅黄橙)							○	○	ヘラ切り	
	910	-	D-26	IIa	土師器	坏	口縁部	(12.2)	-	(3.2)	回転ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○						○	○	-	
	911	-	D-29	IIa	土師器	坏	底部	-	(7.6)	(2.0)	回転ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)			○				○	○	○	ヘラ切り
	912	-	D-26	IIc	土師器	坏	底部	-	6.0	(2.2)	回転ナデ	外)5YR7/4(にぶい橙) 内)5YR7/4(にぶい橙)							○	○	○	ヘラ切り
	913	-	D-34	V	土師器	坏	口縁～ 底部	(10.9)	5.5	4.0	回転ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)7.5YR7/6(橙)			○					○	○	ヘラ切り
	914	-	D-34	V	土師器	坏	口縁～ 底部	(10.2)	5.4	3.0	回転ナデ	5YR6/6(橙)			○					○	○	ヘラ切り
	915	-	D-25	IIb	土師器	坏	底部	-	(5.4)	(1.9)	回転ナデ	外)7.5YR8/3(浅黄橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)			○					○	○	ヘラ切り
	916	-	C-25	IIa	土師器	坏	底部	-	(6.0)	(1.7)	回転ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい橙) 内)7.5YR7/4(にぶい橙)							○	○	○	ヘラ切り
	917	-	E-29	-	土師器	坏	底部	-	(7.8)	(1.7)	回転ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/3(浅黄橙)	○	○						○	○	ヘラ切り
918	-	C-26	カクラン	土師器	坏	胴～ 底部	-	(6.0)	(3.3)	回転ナデ	外)5YR7/8(橙) 内)5YR7/8(橙)								○	○	ヘラ切り	
919	-	C-25	IIc	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.2)	外)ナデ 内)ケズリ,ユビナデ,ナデ	外)7.5YR8/4(浅黄橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)	○						○	○	○	-	
920	-	D-25	IIb	土師器	甕	口縁部	-	-	(6.6)	外)ナデ,ケズリ 内)ケズリ,ナデ	外)5YR5/8(明赤褐) 内)5YR5/8(明赤褐)			○					○	○	○	-
921	-	C-25	IIc-2	土師器	鍋	把手	-	-	(4.7)	-	2.5Y8/3(淡黄)								○	○	○	-
922	-	D-27	IIb	土師器	會瓦 (こしき)	把手	-	-	-	-	指頭押圧	7.5YR7/4(にぶい橙)			○					○	○	-
130	923	-	C-25	IIa	土師器	埴	胴～ 底部	-	(7.4)	(2.7)	回転ナデ	外)7.5YR8/6(浅黄橙) 内)10YR1.7/1(黒)							○		内黒土師器	
	924	-	C-24	IIb	土師器	埴	底部	-	(6.5)	(1.9)	回転ナデ	外)10YR8/4(浅黄褐) 内)10YR1.7/1(黒)			○					○		内黒土師器
	925	-	D-35	IIb下	土師器	埴	底部	-	(6.2)	(2.1)	摩滅	外)2.5Y8/3(淡黄) 内)2.5Y3/1(黒褐)			○					○	○	内黒土師器
	926	-	D-26	IIc	土器	土錘	完形	最大径 1.5	孔径 0.6	5.0	-	5YR7/6(橙)			○	○				○	○	-
	927	-	E-28	表土	土器	土錘	完形	最大径 1.4	孔径 0.4	3.5	-	5YR6/6(橙)								○	○	-

第36表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土					備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫		赤褐 色礫	白色 礫	
130	928	-	E-29	IIb	土器	土鉢	完形	最大径 1.6	孔径 0.5	4.8	-	5YR7/6(橙)	○						-		
	929	-	E-25	IIc上	土器	土鉢	-	最大径 1.6	孔径 0.3	(3.6)	-	7.5YR8/1(灰白)			○	○	○	○	-		
	930	-	C-24	IIb	土器	土鉢	完形	最大径 1.3	孔径 0.5	3.7	-	7.5YR8/4(浅黄橙)					○	○	-		
	934	-	D-25	IIc	須恵器	転用硯	胴～ 底部	-	-	(3.7)	回転ナデ	外)5Y7/1(灰白) 内)5Y7/1(灰白)						○	壺		
	935	-	E-35	-	須恵器	転用硯	胴部	-	-	(9.5)	条痕タタキ,条痕当具痕	外)5Y5/1(灰) 内)2.5YR5/6(明赤褐)	○					○	○	甕	
	936	-	D-26	IIc	須恵器	転用硯	つまみ	2.5	-	(3.3)	回転ナデ	7.5YR7/1(灰白)								蓋	
131	937	-	E-35	-	須恵器	蓋	天井部 + つまみ	-	(2.3)	(2.1)	-	7.5YR8/4(浅黄橙)								-	
	938	-	C-26	IIc-2	須恵器	蓋	天井部 ～口縁	-	-	(1.8)	回転ナデ	外)5Y7/1(灰白) 内)5Y7/1(灰白)							○	-	
	939	-	D-28	IIb	須恵器	蓋	天井部 ～口縁	(18.0)	-	(1.9)	回転ナデ	外)N7/0(灰白) 内)N7/0(灰白)							○	-	
	940	-	C-25	IIb	須恵器	蓋	天井部 ～口縁	-	-	(1.6)	回転ナデ	外)5Y7/1(灰白) 内)5Y7/1(灰白)									-
	941	-	E-28	IIc	須恵器	坏	口縁～ 脚部	(14.0)	(7.6)	4.4	回転ナデ,ヘラケズリ	外)5Y6/2(灰オリーブ) 内)5Y6/1(灰)		○			○				-
	942	-	D-26	IIb	須恵器	坏	底部	-	8.6	(1.6)	回転ナデ	外)5Y6/1(灰) 内)5Y6/1(灰)							○	-	
	943	-	D-28	IIb	須恵器	坏	底部	-	(8.0)	(3.6)	回転ナデ	5Y7/1(灰白)						○	○	-	
	944	-	D-25	IIc-2	須恵器	壺	胴部	-	-	(3.8)	回転ナデ	外)5Y5/1(灰) 内)5Y5/1(灰)						○	○	刺突文	
	945	-	E-25	IIc-2	須恵器	壺	頸～ 胴部	-	-	(4.6)	回転ナデ,タタキ	外)2.5YR6/6(橙) 内)7.5YR8/4(浅黄褐)							○	-	
	946	-	-	IIb	須恵器	壺	胴部	-	-	(3.5)	回転ナデ	外)2.5Y9/1(灰白) 内)10YR7/1(灰白)						○	○	ハソウ・櫛波状文	
947	-	-	IIb	須恵器	壺	胴～ 底部	-	(14.2)	(3.9)	外)タタキ 内)回転ナデ	外)10YR7/4(にぶい・黄橙) 内)2.5Y6/2(黄)						○	○	-		
948	-	-	IIb	須恵器	壺	底部	-	-	(7.6)	外)タタキ 内)回転ナデ	外)2.5Y7/2(灰黄) 内)2.5Y7/1(灰白)						○	○	○	-	
132	949	-	D-35	IIa直下	須恵器	大甕	口縁～ 胴部	(19.2)	-	(7.8)	外)条痕タタキ,ユビナデ 内)ユビナデ,同心円当具痕	外)5Y7/1(灰白) 内)5Y7/1(灰白)								-	
	950	-	D-25	IIa	須恵器	甕	口縁部	-	-	(4.8)	回転ナデ	外)2.5YR6/8(橙) 内)2.5YR4/4(にぶい・赤褐)						○	○	○	二重口縁・波状文
	951	-	D-28	IIb	須恵器	甕	口縁部	-	-	(3.1)	回転ナデ	外)5Y5/1(灰) 内)5Y5/1(灰)						○	○	○	二重口縁
	952	-	E-25	IIb	須恵器	大甕	口縁～ 頸部	-	-	(5.8)	回転ナデ	外)N7/0(灰白) 内)N7/0(灰白)						○	○	○	二重口縁
	953	-	E-25	IIc	須恵器	甕	口縁～ 頸部	-	-	(7.1)	外)格子目タタキ,ナデ 内)同心円当具痕,ナデ	外)5R3/1(暗赤灰) 内)N5/0(灰)						○	○	○	-
	954	-	E-25	IIb	須恵器	甕	頸～ 胴部	-	-	(7.6)	外)正格子目タタキ 内)ナデ	外)7.5Y7/1(灰白) 内)7.5Y7/1(灰白)						○	○	○	二重口縁
	955	-	D-25	IIb	須恵器	甕	頸部	-	-	(5.7)	外)格子目タタキ 内)同心円当具痕	外)N7/0(灰白) 内)2.5GY4/1(暗オリーブ灰)釉有り						○	○	○	-
	956	-	E-32	IIb直下	須恵器	甕	肩部	-	-	(5.8)	ナデ	外)2.5Y6/1(黄灰) 内)2.5Y5/1(黄灰)						○	○	○	-
	957	-	E-25	IIb	須恵器	甕	頸～ 胴部	-	-	(11.6)	回転ナデ	外)N6/0(灰) 内)N6/0(灰)						○	○	○	櫛書波状文
133	958	-	②の先 行調査	-	須恵器	甕	胴部	-	-	(6.9)	外)条痕タタキ 内)同心円当具痕	5Y6/1(灰)							○	-	
	959	-	D-28	IIb	須恵器	甕	胴部	-	-	(6.7)	外)タタキ 内)同心円当具痕	外)2.5YR5/2(灰赤) 内)2.5Y6/1(黄灰)						○	○	-	
	960	-	E-29	IV	須恵器	甕	胴部	-	-	(8.2)	外)正格子目タタキ 内)同心円当具痕	2.5Y7/1(灰白)						○	○	-	
	961	-	D-25	IIa	須恵器	甕	胴部	-	-	(8.3)	タタキ	外)5Y6/1(灰) 内)5Y7/1(灰白)						○	○	-	

第37表 土器・土師器・須恵器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調	胎土						備考			
													石英	長石	角閃 石	雲母	灰色 礫	赤褐色 礫		白色 礫		
133	962	-	E-25	IIb	須恵器	甕	胴部	-	-	(8.2)	外)格子目タタキ 内)平行状当具痕	外)7.5Y7/1(灰白) 内)7.5Y7/1(灰白)							○	-		
	963	-	-	表土	須恵器	甕	胴部	-	-	(11.8)	外)正格子目タタキ 内)条痕当具痕	外)7.5YR6/2(灰褐) 内)5Y6/1(灰)							○	黒石		
	964	-	②の先 行調査	-	須恵器	甕	胴部	-	-	(8.4)	外)条痕タタキ 内)条痕当具痕,ナデ	2.5Y7/1(灰白)						○	○	-		
	965	-	-	I	須恵器	甕	胴部	-	-	(8.4)	外)格子目タタキ,ナデ 内)格子目タタキ	2.5Y6/1(黄灰)						○	○	-		
	966	-	D-28	IIb	須恵器	大甕	胴部	-	-	(17.5)	外)正格子目タタキ 内)条痕当具痕	外)5YR5/3(にぶい,赤褐) 内)2.5Y7/1(灰白)						○	○	-		
134	967	-	E-32	IIb下	土師器	坏	完形	15.8	9.4	4.2	回転ナデ	7.5YR7/6(橙)				○	○			糸切り底		
	980	-	-	IIb下	須恵質 土器	壺	底部	-	-	(4.3)	ナデ	外)2.5Y6/1(黄灰) 内)2.5Y7/1(灰白)							○	-		
135	981	-	E-32	IIb直下	須恵器	捏鉢	口縁~ 底部	(21.6)	(12.8)	6.4	内)ナデ 外)指頭押圧	5YR6/1(灰)						○	○	-		
	982	P119	D-26	IIb	瓦質土 器	鉢	胴部~ 底部	-	(22.0)	(8.3)	ナデ	表)7.5Y2/1(黒) 裏)2.5Y4/2(黄灰)								-		
	983	-	-	-	瓦質土 器	播鉢	口縁~ 胴部	-	-	(8.2)	ナデ,指頭押圧	2.5Y8/2(灰白)					○		○	○	-	
	984	-	-	IIb下	土師質 土器	播鉢	胴~底 部付近	-	-	(6.1)	ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR8/4(浅黄橙)							○	○	○	-
	985	-	-	IIb下	瓦質土 器	播鉢	底部	-	-	(1.6)	-	10YR8/1(灰白)		○					○	○	-	
	986	-	E-27	-	土師質 土器	鉢	口縁部	-	-	(5.0)	ナデ	外)10YR8/3(浅黄橙) 内)10YR3/1(黒褐)					○			○	玉縁状口縁	
	988	-	C-25・26	IIa	土師質 土器	-	把手	最大長 (4.9)	最大径 2.2	-	-	ナデ	外)7.5YR7/4(にぶい,橙) 内)7.5YR7/4(にぶい,橙)					○		○	○	-
153	1035	SD4	E-35	-	土師質 土器	壺	口縁部	17.6	-	2.4	-	外)7.5YR7/4(にぶい,橙) 内)7.5YR8/4(浅黄橙)								-		
	1036	SD4	E-35	-	土器	土鉢	完形	最大径 0.8	孔径 0.4	3.0	-	外)2.5YR5/8(明赤褐)								-		
156	1071	-	E-28	-	土師質 土器	鉢	底部	-	15.6	(3.9)	外)ナデ 内)回転痕	10YR7/4(にぶい,黄橙)							○	-		
158	1091	石列2	-	-	土師質 土器	把手	-	最大長 (4.7)	最大径 1.7	-	タテナデ	10YR8/4(浅黄橙)								-		
160	1099	-	1T	IIb	土器	壺	口縁~ 底部	15.2	3.5	10.7	ヘラナデ	7.5YR8/1(灰白)								試掘調査遺物・小円 孔あり		
	1100	-	6T	IIb	土師器	皿	底部	-	-	(2.4)	-	7.5YR8/4(浅黄橙)								試掘調査遺物・高台 付		
	1101	-	1T	-	須恵器	坏身	底部	-	9.0	(1.9)	-	5YR7/1(明褐灰)								試掘調査遺物・坏身 (高台付)		
63	1104	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-								か-1 図版のみ		

第38表 陶磁器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構名	出土区	層	種別	器種	部位	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	釉薬	備考
130	931	-	E-26	表土	磁器	青磁碗	胴部～底部	越州窯Ⅰ類	-	(5.9)	(3.1)	オリーブ灰色	淡暗緑色	-
	932	-	D-30	Ⅱb	磁器	皿	底部	-	-	6.0	(1.6)	灰白色	緑色	-
134	968	-	D・E-29・30	Ⅱa	磁器	青磁碗	口縁部	-	18.0	-	(4.5)	灰白色	灰オリーブ色	-
	969	-	E-32	Ⅱb	磁器	青磁坏	口縁部	-	-	-	(2.4)	灰白色	灰オリーブ色	-
	970	-	D-31	南北トレンチ	磁器	青磁碗	胴部	-	-	-	(4.9)	灰白色	オリーブ灰色	蓮弁文
	971	-	E-35	Ⅱa直下	磁器	青磁碗	底部	-	-	5.0	(2.4)	灰白色	灰オリーブ色	菊花文
	972	SD4	D・E-35	-	磁器	青磁碗	胴部～底部	-	-	(5.0)	(3.0)	灰白色	オリーブ灰色	-
	973	SD4	D・E-35	-	磁器	青磁碗	胴部～底部	-	-	4.4	(1.9)	灰白色	明緑灰色	-
	974	-	-	-	磁器	青磁壺	底部	-	-	(5.8)	(2.8)	灰白色	オリーブ灰色	小型壺
	975	-	D・E-31	中央南北ベルト	磁器	青磁香炉	口縁部	-	-	-	(3.0)	灰白色	-	-
	976	-	-	-	磁器	白磁小坏	口縁～底部	-	(12.0)	-	2.7	灰白色	灰白色	-
	977	-	D-35	Ⅱa直下	磁器	白磁坏	胴部～底部	白磁E群	-	(6.2)	(1.7)	白色	白色	輸入陶磁器
	978	SD4	D・E-35	-	磁器	染付小坏	口縁～底部	-	(9.8)	-	(2.4)	灰白色	オリーブ灰色	火樗状斜格子文
979	SD4	D・E-35	-	磁器	染付盃	胴部～底部	-	-	2.8	(2.8)	白色	白色	草花文	
138	989	SB6 P9	C・D-26	Ⅱb	磁器	小碗	完形	-	8.0	3.2	3.9	白色	透明	龍の文様・虫文
	990	SB6 P9	C・D-26	Ⅱb	磁器	碗	口縁～胴部	肥前系	-	-	(3.9)	白色	透明	草文
	991	SB6 P9	C・D-26	Ⅱb	磁器	碗	口縁～底部	肥前系	(10.8)	4.6	5.0	灰白色	淡緑色透明	菊花文
	992	SB6 P9	C・D-26	Ⅱb	磁器	碗	口縁～底部	肥前系	(11.2)	5.0	5.2	灰白色	淡緑色透明	花文
150	1000	祭祀	E-28	南北トレンチ	磁器	皿	口縁～底部	-	9.4	3.4	2.1	白色	白色	連点文
	1001	祭祀	E-28	先行トレンチ	磁器	碗	胴部～底部	肥前系	-	(6.0)	(3.3)	淡黄色	透明	-
	1002	祭祀	E-28	埋土	磁器	碗	胴部～底部	-	-	4.8	(4.2)	白色	透明	くらわんか手 五弁花文・銘
	1003	祭祀	E-28	埋土	磁器	碗	口縁～底部	-	(10.9)	(4.0)	5.7	白色	透明	梅文
	1004	祭祀	E-28	-	磁器	碗	口縁～胴部	-	(10.6)	-	(4.3)	白色	白色	草花文
	1005	祭祀	E-28	埋土	磁器	碗	胴部～底部	-	-	(5.2)	(4.3)	白色	透明	格子文・亀甲文
	1006	石列2	E-28	-	磁器	碗	胴部～底部	龍門司系	-	(6.0)	(5.3)	淡黄色	白色	線香立て
	1007	祭祀	E-28	埋土	陶器	山茶家鍋	口縁～胴部	苗代川系	(14.2)	-	(7.3)	明赤褐色	暗緑色	スス付着
	1008	石列2	E-28	-	陶器	甕	口縁～肩部	-	(15.8)	-	(7.0)	灰黄褐色	茶褐色	-
	1009	石列1	E-28	-	陶器	摺鉢	口縁～胴部	苗代川系	-	-	(5.7)	黄灰色	暗緑褐色	-
	1010	祭祀	E-28	埋土	陶器	摺鉢	胴部～底部	-	-	(9.6)	(6.8)	暗赤褐色	-	-
1011	祭祀	E-28	I	陶器	甕	口縁～胴部	-	(28.2)	-	(13.0)	橙色	淡黄褐色	-	
152	1015	SD4	E-35	-	磁器	皿	口縁～底部	肥前系	(25.8)	(15.0)	3.9	白色	透明	輪花皿・龍の文様
	1016	SD4	E-35	-	磁器	皿	口縁～底部	-	(12.4)	(7.0)	2.8	白色	白色	格子文
	1017	SD4	E-35	-	磁器	皿	口縁～底部	-	(12.6)	(7.0)	3.3	白色	透明	輪花皿・扇文・梅文
	1018	SD4	E-35	-	磁器	碗	口縁～底部	-	(10.8)	(4.4)	5.2	白色	透明	梅文
	1019	SD4	E-35	-	磁器	碗	胴部～底部	-	-	4.4	(4.1)	白色	透明	草花文
	1020	SD4	E-35	-	磁器	碗	胴部～底部	-	-	4.2	(3.3)	白色	透明	雲文風
	1021	SD4	E-35	-	陶器	碗	胴部～底部	-	-	(4.2)	(3.6)	灰黄色	透明	波状文
	1022	SD4	E-35	-	磁器	筒碗	口縁～底部	肥前系	(8.0)	-	(6.2)	白色	透明	四方櫛文・草花文
	1023	SD4	E-35	-	陶器	碗	底部	唐津焼	-	4.2	(3.4)	にぶい橙色	灰白色	-
	1024	SD4	E-35	Ⅱa直下	陶器	碗	底部	唐津焼	-	5.6	(2.8)	灰褐色	淡緑色	-
	1025	SD4	E-35	-	陶器	碗	口縁～底部	-	(17.0)	(7.0)	6.8	赤褐色	暗白色	-
1026	SD4	E-35	-	陶器	土瓶	蓋	苗代川系	-	5.8	(2.4)	暗灰色	赤褐色	-	
1027	SD4	E-35	-	陶器	土瓶	注口	苗代川系	-	-	(3.6)	橙色	暗褐色	穿孔(3カ所)	
1028	SD4	E-35	-	陶器	土瓶	底部	苗代川系	-	(4.4)	(2.3)	にぶい橙色	暗緑褐色	-	
1029	SD4	E-35	-	陶器	鉢	口縁部	苗代川系	-	-	(7.0)	にぶい赤褐色	暗緑色	-	
153	1030	SD4	E-35	-	陶器	鉢	胴部	苗代川系	-	-	(11.9)	にぶい橙色	黒褐色	-
	1031	SD4	E-35	-	陶器	摺鉢	胴部～底部	-	-	(13.4)	(7.2)	にぶい赤褐色	淡白色	-
	1032	SD4	E-35	-	陶器	摺鉢	胴部～底部	-	-	(10.8)	(5.6)	にぶい赤褐色	-	-
	1033	SD4	E-35	-	陶器	摺鉢	胴部～底部	-	-	(10.0)	(5.0)	褐色	-	-
	1034	SD4	E-35	-	陶器	甕	口縁部	薩摩焼	(46.0)	-	(13.1)	にぶい黄褐色	暗赤褐色	-
154	1038	石垣	D-35	-	陶器	碗	胴部～底部	-	(11.8)	4.4	5.9	白色	暗茶褐色	-
	1039	石垣	D-35	-	磁器	碗	口縁～底部	-	(11.0)	(3.9)	4.8	白色	透明	草花文
	1040	石垣	D-35	-	陶器	皿	口縁～底部	-	(9.2)	4.4	(2.7)	にぶい赤褐色	暗赤褐色	乗燭
	1041	石垣	D-35	Ⅱb下	磁器	瓶又は徳利	口縁部	肥前系	6.0	-	(3.2)	白色	透明	-

第39表 陶磁器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構名	出土区	層	種別	器種	部位	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	釉薬	備考
154	1042	石垣	D-35	①	陶器	瓶又は徳利	口縁部	-	-	-	(3.4)	にぶい赤褐色	灰緑色	-
	1043	石垣	D-35	①	陶器	鉢	胴部～底部	-	-	(7.2)	(5.7)	にぶい橙色	灰緑色	-
	1044	石垣	D-35	-	陶器	鉢	胴部～底部	-	-	(10.0)	(4.4)	にぶい橙色	暗赤褐色	-
	1045	石垣	D-35	-	陶器	摺鉢	胴部～底部	-	-	(9.2)	(2.7)	にぶい橙色	-	-
	1046	石垣	D-35	-	磁器	皿	底部	-	-	-	(1.9)	白色	透明	草花文・唐草文
	1047	石垣	D-35	-	陶器	甕	胴部	-	-	-	(19.1)	にぶい赤褐色	灰白色	-
	1048	石垣	D-35	-	輪	羽口	-	-	-	-	(4.9)	灰色	-	-
155	1049	-	E-27	-	磁器	皿	口縁～底部	-	-	7.1	(3.2)	白色	白色	草花文・五弁花文
	1050	-	E-27	表土	磁器	皿	完形	肥前系	19.0	11.4	3.1	白色	透明	草花文・唐草文
	1051	-	D-27	表土	磁器	坏	口縁～底部	肥前系	18.0	6.4	5.0	白色	白色	漢詩・菊花文 横向きU字文
	1052	-	E-26	表土	磁器	碗	口縁～胴部	-	-	-	(5.1)	灰白色	透明	丸文
	1053	-	E-25	II c上	磁器	碗	胴部～底部	-	-	5.2	(3.9)	白色	透明	五弁花文
	1054	-	E-28	表土	磁器	碗	底部	-	-	5.4	(2.4)	灰白色	-	-
	1055	-	D-27	カクラン	磁器	碗	胴部～底部	-	-	4.8	(3.8)	灰白色	透明	くらわんか手 丸文・五弁花文
	1056	-	E-28	I	磁器	筒碗	口縁～底部	-	(8.0)	(3.6)	5.8	白色	透明	花文・五弁花文
	1057	-	D-27	表土	磁器	筒碗	底部	-	-	4.0	(2.2)	灰白色	灰白色	花押文
	1058	-	E-28	表土	磁器	碗	胴部～底部	-	-	4.0	(3.0)	白色	白色	-
	1059	-	E-35	I	陶器	碗	口縁～底部	肥前系	(9.4)	(3.4)	4.6	灰黄色	淡緑色	-
	1060	-	D-7	表土	陶器	碗	完形	-	11.3	4.4	4.8	灰黄色	浅黄色	-
	1061	-	C-26	II b	陶器	皿	口縁～底部	-	(12.4)	(4.8)	3.5	灰黄色	明褐色	-
1062	-	E-27	表土	陶器	碗	胴部～底部	龍門司系	-	4.1	(2.8)	褐色	白色	-	
1063	-	E-28	I	陶器	碗	胴部～底部	肥前系	-	(6.7)	(3.9)	黒色	暗茶褐色	-	
156	1064	-	E・F-35	北東トレンチ	陶器	壺	口縁部	-	(22.0)	-	(10.3)	橙色	灰白色	広口壺
	1065	-	E-26	表土	陶器	鉢	胴部	-	-	-	7.2	にぶい橙色	茶褐色から灰 白色	-
	1066	-	D-32	II a	磁器	鉢	口縁部	-	(15.4)	-	(6.6)	灰白色	透明	-
	1067	-	D-35	II	陶器	甕	口縁部	-	(15.6)	-	(2.8)	灰黄色	暗緑色	-
	1068	-	E-27	表土	陶器	摺鉢	口縁部	-	-	-	(4.7)	赤灰色	赤褐色	-
	1069	-	E-28	表土	陶器	摺鉢	口縁部	苗代川系	-	-	(6.7)	にぶい赤褐色	暗緑褐色	-
	1070	-	E-27	表土	陶器	摺鉢	口縁部	-	-	-	(8.8)	にぶい赤褐色	暗緑褐色	-
157	1072	石列1	E-27	-	磁器	徳利	完形	肥前系	3.4	7.2	20.2	白色	透明	草花文
	1073	石列1	E-27	-	磁器	徳利	口縁～胴部	肥前系	(3.2)	-	(12.0)	白色	透明	-
	1074	石列1	E-27	-	磁器	徳利	胴部	肥前系	-	-	(7.7)	白色	透明	-
	1075	石列1	E-27	-	磁器	徳利	頸部～胴部	肥前系	-	-	(16.5)	白色	透明	-
	1076	-	D-26	トレンチ	陶器	瓶	胴部～底部	-	-	(6.2)	(9.7)	褐色	灰白色・褐色	-
	1077	-	E-28	表土	磁器	青磁小壺	胴部～底部	-	-	5.3	(3.4)	灰白色	明オリブ灰色	-
	1078	-	E-28	表土	陶器	土瓶	蓋	苗代川系	-	4.3	(2.6)	赤褐色	暗赤褐色	-
	1079	-	E-28	表土	陶器	土瓶	胴部	苗代川系	(6.4)	-	(4.5)	にぶい黄褐色	暗赤褐色	-
	1080	-	D-33・34	I	陶器	土瓶	体部～底部	苗代川系	-	3.2	(4.6)	褐灰色	暗茶褐色	-
	1081	-	E-34	攪乱	陶器	土瓶	蓋	-	-	(12.0)	(3.9)	黄灰色	茶褐色	-
	1082	-	D・E-27	表土	陶器	土瓶	蓋	苗代川系	(13.6)	-	(1.6)	にぶい赤褐色	-	-
	1083	-	E-28	表土	陶器	碗	胴部～底部	-	-	(5.0)	(4.2)	にぶい赤褐色	褐色	-
158	1084	-	D-27	表土	陶器	徳利	胴部～底部	琉球焼	-	(6.6)	(16.2)	赤色	浅黄色	-
	1085	-	E-35	I	陶器	壺	口縁部	-	(24.0)	-	(4.8)	灰黄褐色	暗褐色	-
	1086	-	D-35	II	陶器	甕	口縁部	苗代川系	(27.4)	-	(3.7)	黄灰色	褐色	-
	1087	-	C-27	カクラン	陶器	甕	口縁部	苗代川系	(28.0)	-	(4.3)	灰赤色	暗褐色	-
	1088	-	E-35	II a	磁器	仏飯具	底部	-	-	(3.4)	(3.1)	灰白色	透明	-
	1089	-	E-28	表土	陶器	仏飯具	胴部～脚部	元立院系	-	(3.6)	(5.2)	にぶい橙色	黒褐色	乗燭
-	1105	-	D-26	II b	-	-	-	-	-	-	-	-	注口・把手	

第40表 石器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
14	3	-	E-27	IIc	小型磨製石斧	蛇紋岩 (川辺、長崎、熊本)	8.4	2.3	1.4	48.0	緑泥片岩製両刃 搬入品混ざり込み
16	49	-	D-26	IIc	磨製石鏃	頁岩	2.6	2.3	0.3	1.9	薄くはがれる
	50	-	E-34	I	打製石斧	安山岩	12.8	6.2	2.5	246.6	-
	51	-	C-29	III	打製石斧	安山岩	4.7	6.3	1.2	38.1	-
26	111	SX3	C-23	-	砥石	砂岩	20.0	10.7	4.3	1288.5	-
32	171	SI5	C-26	IIc	磨敲石	花崗岩	10.0	5.3	5.0	351.8	-
	172	SI5	C-26	-	凹石	砂岩	9.5	5.6	4.7	295.5	(赤変) 被熱or風化
42	237	SI6	D-26	IIc	砥石	砂岩	12.0	19.0	3.7	1494.5	-
65	418	竪穴状遺構	D-28	IV	砥石	砂岩	12.4	6.3	3.9	602.0	-
89	481	SX5	D-26	IIc	石皿	安山岩	17.4	13.3	5.8	1841.5	-
109	742	-	E-28	先行調査	-	粘板岩製磨製石斧	(8.1)	7.3	1.5	130.9	-
	743	-	D・E-31	-	磨敲石	砂岩河原石	8.5	5.5	5.1	238.0	-
	744	SK39	E-29	IIb	-	-	8.5	7.5	1.7	182.5	-
	745	-	D-28	IIb	台石	砂岩製台石	6.5	3.0	3.7	107.1	-
	746	竪穴状遺構	D-28	IV	敲石	砂岩	13.2	7.5	4.6	469.5	-
	747	-	E-29	-	砥石	砂岩製砥石	7.1	9.2	1.4	120.1	-
	748	SK43	D-28・29	IV	石皿	安山岩	13.4	6.3	7.0	840.0	-
110	749	-	D-26	-	凹石	砂岩	12.3	11.1	4.4	1001.0	磨石
	750	-	E-29	-	砥石	粘板岩	9.9	3.1	2.5	93.5	-
	751	SK39	E-29	IIb	砥石	花崗岩 (天草石)	16.0	9.5	9.3	1411.0	-
	752	-	D-34	攪乱	砥石	花崗岩 (天草石)	10.3	7.0	4.9	340.0	-
	753	SI10	E-27・28	IIc	石皿	安山岩	21.0	17.0	7.2	5000.0	-
135	987	-	D-24	IIb	滑石製石鍋片	滑石	(7.0)	1.8	1.1	29.3	スス
147	999	石列3	E-28	-	石臼	砂岩	8.9	19.0	5.9	1605.0	-
159	1092	-	E-29	IV	砥石	安山岩	13.3	12.9	2.4	596.0	-
	1093	-	C・D-29	III	砥石	泥岩	10.0	7.5	1.4	147.5	-
	1094	-	E-28	表土	硯	天草石	6.8	6.0	2.0	98.3	搬入品
	1095	-	C-26	-	硯	天草石	7.5	5.8	2.2	126.0	-
	1096	-	E-27	表土	硯	赤間石 (下関)	5.4	6.2	0.8	52.1	搬入品
160	1102	磔敷	D-25	-	-	ホルンフェルス	4.1	3.3	2.8	39.0	-
	1103	祭祀	-	-	田の神石像	凝灰岩	25.6	23.7	13.8	5400.0	僧侶型 笠部

第41表 鉄器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺構	区	層	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
58	327	SI12	E-30	IV	無茎鉄鏃	3.2	2.7	0.6	6.0	寸法及び重量は鋳を含む
	328	SI12	E-30	IV	鉄製品	4.4	1.1	0.9	6.1	寸法及び重量は鋳を含む
65	419	竪穴状遺構	D-28	-	鉄製品	9.0	4.5	0.7	147.2	寸法及び重量は鋳を含む
	420	竪穴状遺構	D-29	IV	鉄製品	(5.9)	2.9	1.4	19.5	寸法及び重量は鋳を含む
81	458	埋納	E-27	-	小型仿製鏡	(直径) 7.7	-	0.3	25.6	寸法及び重量は鋳を含む
100	608	SX7	C-29	IV	-	(9.0)	3.2	1.3	-	寸法及び重量は鋳を含む
102	641	SX8	D-35	IV	鉄鏃	(6.1)	1.9	0.3	18.2	寸法及び重量は鋳を含む
128	888	磔敷	E-25	磔敷遺構下 造成土	鉄製品 (棒状)	(37.8)	1.5	1.2	80.0	重量は土器片含む (5g 足らず?) 寸法及び重量は鋳を含む
130	933	-	D-35	I	刀子	4.5	1.7	1.6	6.4	寸法及び重量は鋳を含む
138	993	SB6	C・D-26	IIb	煙管	(6.2)	1.0	0.1	5.5	寸法及び重量は鋳を含む
	994	SB6	C・D-26	IIb	鉄製品 (釘)	5.2	2.1	1.8	14.2	寸法及び重量は鋳を含む
	995	SB6	C・D-26	IIb	古銭	(直径) 2.5	-	0.2	3.5	寸法及び重量は鋳を含む
	996	SB6	C・D-26	IIb	古銭	(直径) 2.5	-	0.2	4.6	寸法及び重量は鋳を含む
141	997	SK60	D-26	IIc	青銅鈴	(直径) 3.8	(短径) 2.9	-	-	鈴
	998	SK60	D-26	IIc	青銅鈴	(直径) 3.7	(短径) 3.0	-	-	鈴
150	1012	祭祀	E-28	I	煙管	3.4	1.3	0.1	5.3	寸法及び重量は鋳を含む
	1013	祭祀	E-28	I	古銭	(直径) 2.5	-	0.2	3.9	寸法及び重量は鋳を含む
	1014	祭祀	E-28	-	古銭	(直径) 2.3	-	0.2	1.8	寸法及び重量は鋳を含む
153	1037	SD4	D-35	-	鉄製品 (鎌)	(12.2)	(最大幅) 4.0	0.4	114.4	近世 寸法及び重量は鋳を含む
159	1097	-	E-35	-	鉄製品 (鎌)	9.8	2.3	0.8	26.4	2個 寸法及び重量は鋳を含む
	1098	-	D-28	IIb	古銭	(直径) 2.5	-	0.1	3.5	寛永通宝 寸法及び重量は鋳を含む

第V章 自然科学分析

第1節 分析の概要

平成29・30年度、令和元年度の発掘作業及び平成30～令和2年度における整理報告書作業において、樹種同定及び放射性炭素年代測定（AMS測定）、比熱測定の実績は次の通りである。

なお、遺構番号については整理作業で変更したので、本文もそれに合わせて変更した。

第2節 樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 概要

六反ヶ丸遺跡（鹿児島県出水市六月田町803）からは、古墳時代や、古代の遺構、遺物が検出されている。今回は、出土した木材に関して、樹種同定を行い、遺構の時代観や用材に関する情報を得る。

2 試料

試料は、炭化材2点（No.1～2）、生材1点（No.3）である。炭化材はNo.1が年代測定用試料、他は樹種同定用試料であるが、No.1についても樹種同定を実施する。No.3は3つの塊があり、生材は1点のみである。他は泥炭質の植物塊で、アカガシ亜属の葉などからなる。分析には生材を用いる。試料名などの詳細は、樹種同定結果とともに第42表に示す。

3 分析方法

（1）樹種同定

炭化材は木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の各割片を作成する。炭化材は双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）伊東（1995、1996、1997、1998、1999）を参考にする。

（2）放射性炭素年代測定

炭化材は、試料を観察し、表面の土壌がついている外側をトリミングして、50mg程度に成形する。トリミングした残渣は樹種同定に用いる。試料は、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1 mol/Lである。脆弱な試料は、アルカリの濃度を薄めて処理する

（AaAと記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge 3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma; 68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。

また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いる較正曲線はIntcal13（Reimer et al., 2013）である。

4 結果

（1）樹種同定

結果を第42表に示す。分析の結果 No.1、No.3がツバキ属、No.2がクヌギ節に同定される。以下に検出された種類の解剖学的特徴を示す。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*） ブナ科
環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外では年輪界に向かって径を漸減しながら、小径の道管が単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。
- ・ツバキ属（*Camellia*） ツバキ科
散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1～5細胞幅、1～40細胞高。

（2）放射性炭素年代測定

結果を第43表、第162図に示す。試料は脆弱なため炭素

の損耗を防ぐために、アルカリの濃度を薄くしている。同位体補正を行った測定値は、 $1785 \pm 20BP$ を示す。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、Intcal13 (Reimer et al., 2013) を用いる。 2σ の値は、calAD140~327である。

5 考察

検出される種類のうち、ツバキ属は暖地において安定した森林を構成する要素（いわゆる照葉樹林）で、現在の周辺においても自然度の高い場所に多く生育している。また、落葉広葉樹であるコナラ亜属クヌギ節は、湿ったところを好み、谷筋や河川沢沿い、人里近くなどに明るい林地を作る。いずれも本遺跡周辺で入手しやすい種類であったと思われる。伊東隆夫・山田昌久編（2012）の出土木製品用材データベースをみると、県内の古墳時代における炭化材の出土例は少ないが、縄文時代～古代に範囲を広げてみると、いずれも出土例がある。これらは燃料材としての利用が考えられる。また、年代値は古墳時代始めの年代値を示し、遺跡の年代観と調和的である。

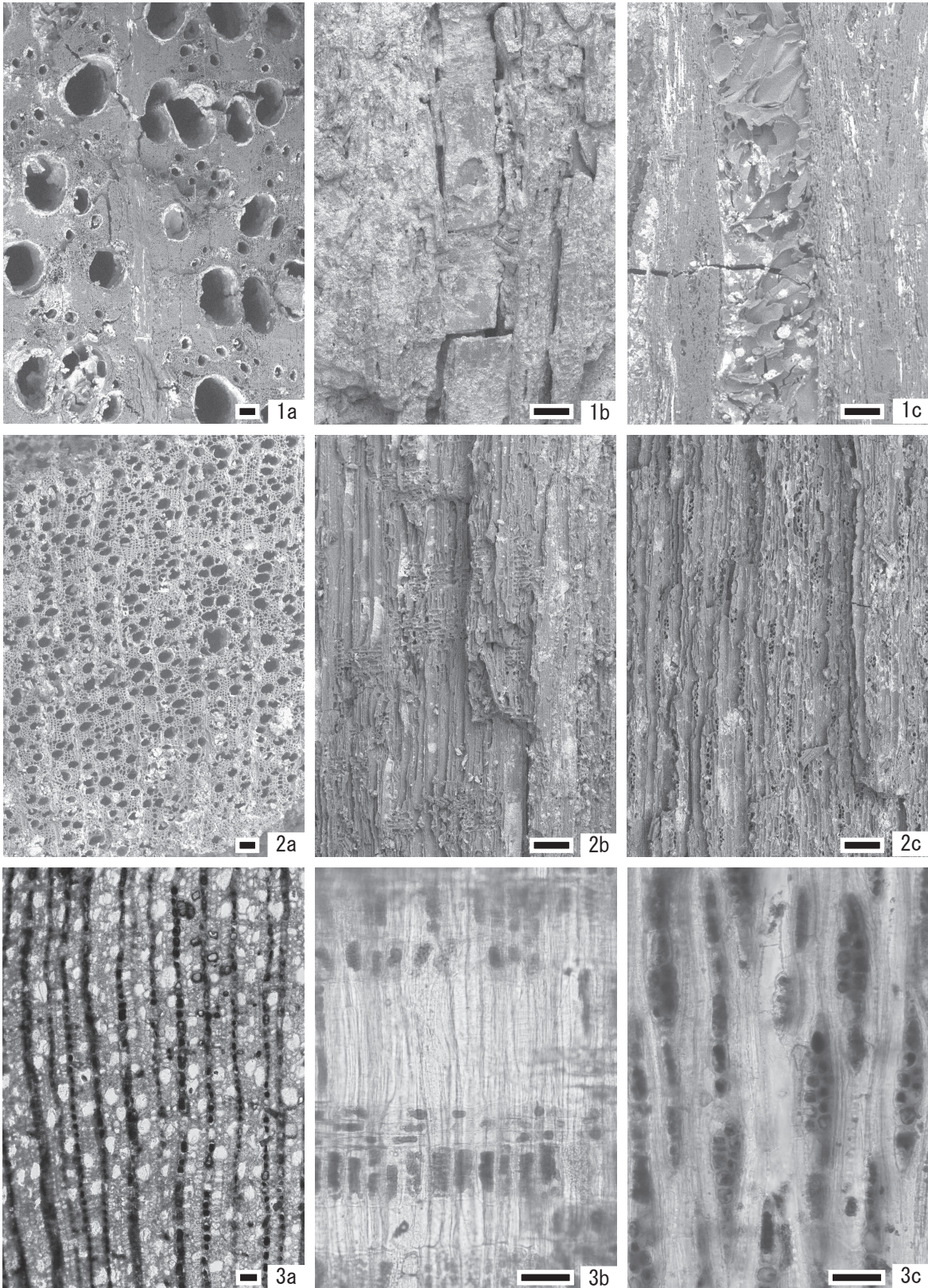
引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
 林 昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材

研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
 伊東隆夫・山田昌久（編）, 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.
 Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Hafliðason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton T.J., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.
 Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.（編）, 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
 Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
 Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E.（編）, 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩（日本語版監修）, 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

第42表 樹種同定結果

No.	試料名		種類	備考
1	E-27区	竪穴建物跡8号-焼1	ツバキ属	AMS 試料
2	C-26・27区	土坑51号 セクション②層	コナラ亜属クヌギ節	
3	D E-25	礫敷遺構砂層	ツバキ属	



- 1. コナラ亜属クヌギ節 (No. 3)
- 2. ツバキ属 (No. 1)
- 3. ツバキ属 (No. 4)

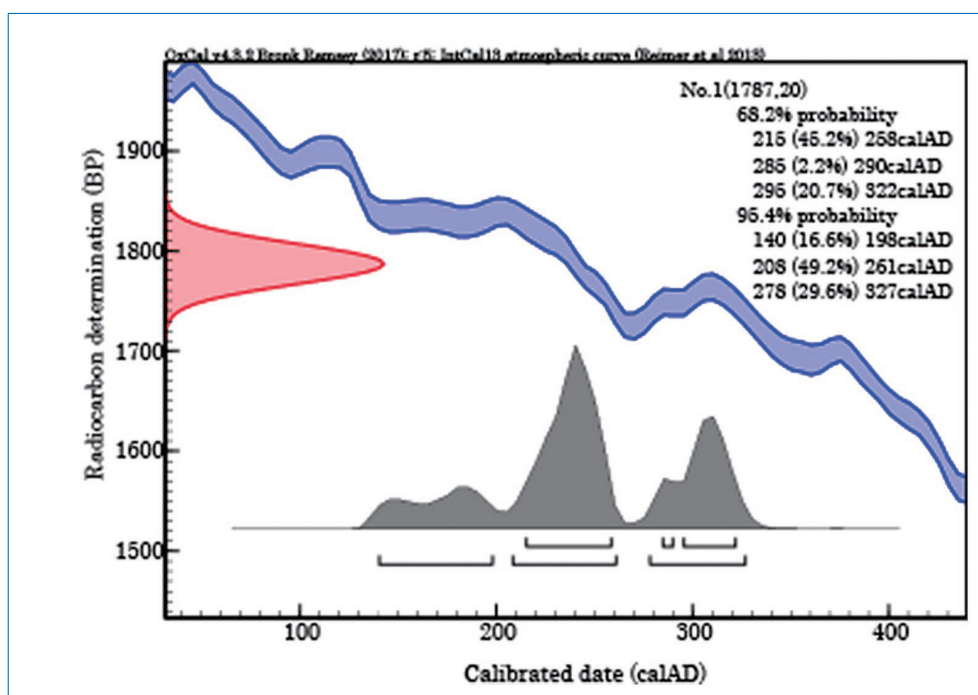
a:木口 b:柁目 c:板目
 スケールは100 μ m

第161図 炭化材・木材

第43表 放射性炭素年代測定結果

No	試料名	方法	補正年代 (暦年較正用) B P	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代			Code No		
					年代値					確率%
1	E -27 区 竪穴建物跡 8号 - 焼 1	AaA (0.05M)	1785 ± 20 (1787 ± 20)	-27.92 ± 0.46	σ	cal AD 215 - cal AD 258	1735 - 1692 calBP	45.2	YU- 10086	pal- 12262
						cal AD 285 - cal AD 290	1666 - 1661 calBP	2.2		
						cal AD 295 - cal AD 322	1655 - 1629 calBP	20.7		
					2 σ	cal AD 140 - cal AD 198	1810 - 1753 calBP	16.6		
						cal AD 208 - cal AD 261	1742 - 1690 calBP	49.2		
						cal AD 278 - cal AD 198	1672 - 1674 calBP	29.6		

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基準として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ （測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaAは試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。
- 5) 暦年の計算には、Calib1 v7.1を使用。
- 6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
- 7) 較正データセットは、Intcal13を使用。
- 8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 9) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が68.2%、2 σ が95.4%である。



第162図 暦年較正結果

第3節 放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 概要

鹿児島県に所在する六反ヶ丸遺跡の測定対象試料は、堅穴建物跡、土坑、礫敷遺構下位路盤から出土した炭化物と炭化材11点である（第44表）。なお、これらの同一試料を対象に樹種同定が行われている。（別稿樹種同定報告参照）

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を科学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には、「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と第44表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。

この標準試料をバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第44表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第44表に、補正していない値を参考値として第45表に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい（¹⁴Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第44表に、補正していない値を参考値として第45表に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線状の暦年年代範囲であり、1標準偏差（ $1\sigma=68.2\%$ ）あるいは2標準偏差（ $2\sigma=95.4\%$ ）で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al.2013）を用い、OxCalv4.3較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第45表に示した。なお、暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「calBP」または「cal BC/AD」という単位で表される。

5 測定結果

測定結果を第44、45表に示す。

堅穴建物跡から出土した試料2点の¹⁴C年代は、試料1が $1910 \pm 20\text{yrBP}$ である。試料3が $1290 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代（ 1σ ）は、試料1が66～124cal ADの間に2つの範囲で示され、弥生時代後期頃に相当する（藤尾 2009）。試料3が680～765cal ADの間に2つの範囲に示され、古墳時代終末期から古代初頭頃に相当する（佐原 2005）。

土坑から出土した試料1点の¹⁴C年代は、試料2が $1310 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代（ 1σ ）は、試料2が663～761cal ADの間に2つの範囲に示され、古墳時代終末期から古代初頭頃に相当する（佐原 2005）。

礫敷遺構下位路盤から出土した試料4の¹⁴C年代は $1920 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代（ 1σ ）は63～124cal ADの間に2つの範囲で示される。弥生時代後期頃に相当する（藤尾 2009）。

なお、試料1、4が含まれる1～3世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なると

の指摘がある（尾寄2009, 坂本2010など）。その日本産樹木のデータを用いてこれらの試料の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率は、4点の試料のうち、試料2が68%、試料3が64%のおおむね適正な値である。他の2点は、試料1が38%、試料4が29%で、炭化物としてはやや低い値である。試料には土が混じり、除去しきれなかった。試料1,4については、測定された炭素の由来に若干注意を要するが、測定結果に影響するほどではないと見られる。

竪穴建物跡6号出土炭化材の¹⁴C年代は、5が1940±20yrBP、6が1920±20yrBP、5が1870±20yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、5が25～80cal ADの範囲、6が56～123cal ADの間に2つの範囲、7が85～209cal ADの間に3つの範囲で示される。いずれも弥生時代後期頃に相当する（佐原2005, 藤尾2009）。

土坑42号出土炭化材の¹⁴C年代は、8が1780±20yrBP、9が1720±20yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、8が230～325cal ADの間に2つの範囲、9が260～382cal ADの間に2つの範囲で示される。8は弥生時代後期から古墳時代前期頃、5は古墳時代前期頃に相当する（佐原2005, 藤尾2009）。

土坑58号出土炭化材の¹⁴C年代は、10が1240±20yrBP、11が1290±20yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、10が695～860cal ADの間に5つの範囲、11が678～765cal ADの間に2つの範囲で示され、古墳時代終末期から古代頃に相当する（佐原2005）。

今回測定された試料はいずれも炭化材で、樹皮を確認できていない。このため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木は外側に年輪を形成しながら成長するため、その木が伐採等で死んだ年代を示す試料は最外年輪から得られ、内側の試料は年輪数の分だけ古い年代値を示す（古木効果）。今回測定された試料には樹皮が残存せず、本来の最外年輪を確認できないことから、測定された年代

値は、その木が死んだ年代よりも古い可能性がある。

また、試料5～9が含まれる1～3世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCal13に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾寄2009, 坂本2010など）。その日本産樹木のデータを用いてこれらの試料の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料となった炭化材には、土塊に包含された細片もあり、付着した土を十分除去できない場合があった。炭素含有率は、7, 8, 10, 11が45%以上のおおむね適正な値であったが、5, 6, 9は30%前後のやや低い値を示した。

引用文献

- Bronk Ramsey,C.2009 Bayesian analysis of radio carbon dates,Radiocarbon 51 (1) , 337-360
- 藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 9-54
- 尾寄大貴 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代, 設楽博己, 藤尾慎一郎, 松木武彦編弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭, 同成社, 225-235
- Reimer,P,Jet al.2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0,-50,000years cal BP,Radiocarbon 55 (4) ,1869-1887
- 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻, 学生社, 14-19
- 坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木-弥生から古墳へ-, 第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集, (株)加速器分析研究所, 85-90
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1970 Discussion: Reporting of¹⁴C data, Radiocarbon 19 (3) , 355-363

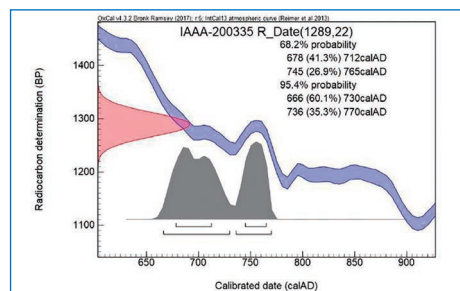
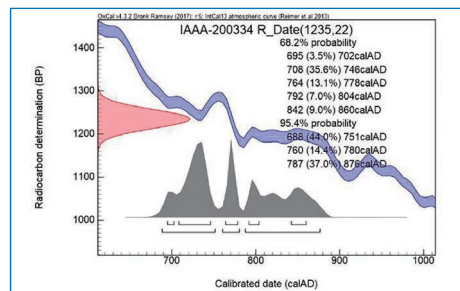
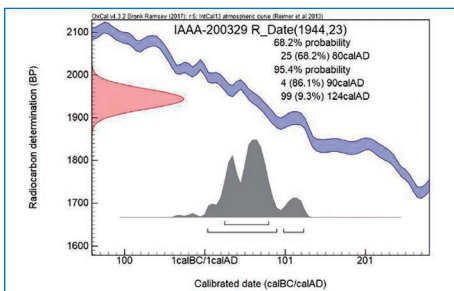
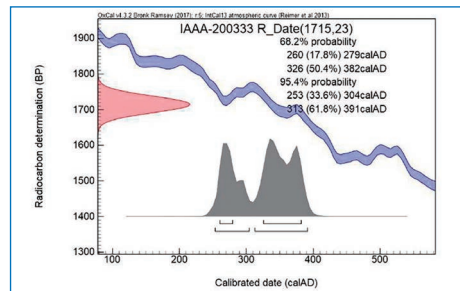
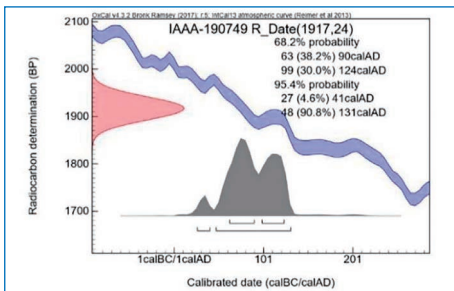
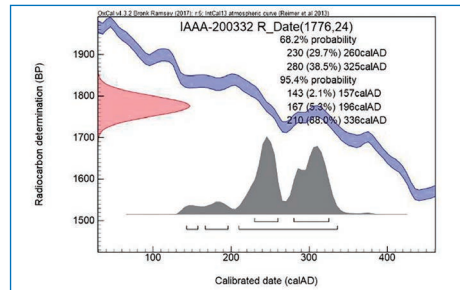
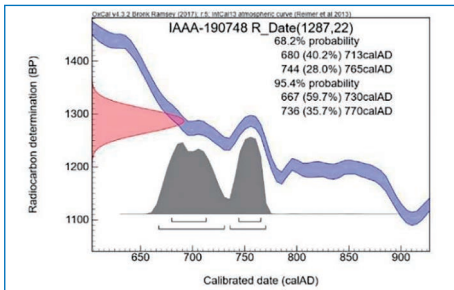
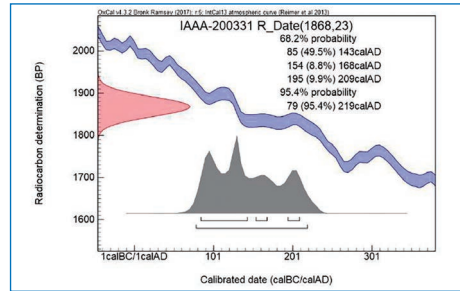
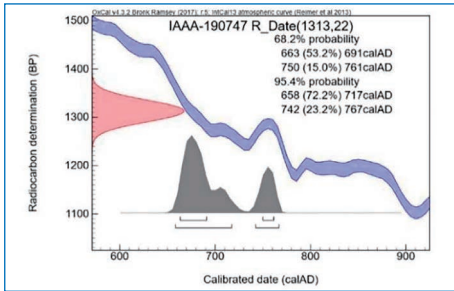
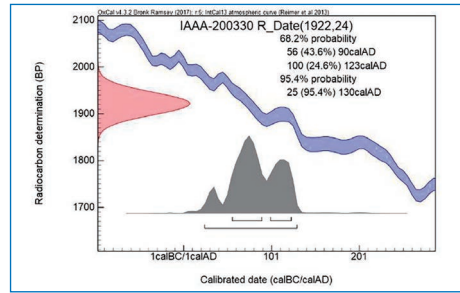
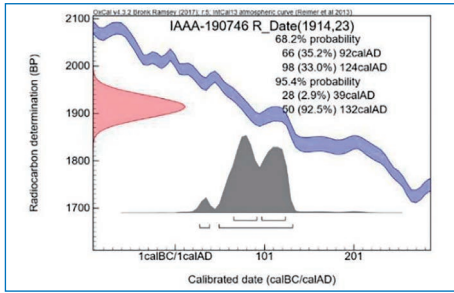
第44表 放射性炭素年代測定結果（δ¹³C補正值）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-190746	1	竪穴建物跡8号	炭化物	AaA	-28.13 ± 0.16	1,910 ± 20	78.79 ± 0.23
IAAA-190747	2	土坑51号	炭化物	AAA	-26.75 ± 0.18	1,310 ± 20	84.92 ± 0.24
IAAA-190748	3	竪穴建物跡8号	炭化物	AAA	-24.31 ± 0.18	1,290 ± 20	85.19 ± 0.24
IAAA-190749	4	磔敷遺構下位路盤	炭化物	AaA	-25.37 ± 0.19	1,920 ± 20	78.76 ± 0.24
IAAA-200329	5	竪穴建物跡6号 炭1	炭化材	AaA	-29.31 ± 0.42	1,940 ± 20	78.50 ± 0.23
IAAA-200330	6	竪穴建物跡6号 炭2	炭化材	AaA	-29.27 ± 0.50	1,920 ± 20	78.72 ± 0.24
IAAA-200331	7	竪穴建物跡6号 炭7	炭化材	AaA	-26.97 ± 0.37	1,870 ± 20	79.25 ± 0.23
IAAA-200332	8	土坑42号 炭①	炭化材	AAA	-25.51 ± 0.35	1,780 ± 20	80.16 ± 0.24
IAAA-200333	9	土坑42号 炭②	炭化材	AaA	-26.27 ± 0.34	1,720 ± 20	80.78 ± 0.23
IAAA-200334	10	土坑58号 炭①	炭化材	AAA	-25.38 ± 0.45	1,240 ± 20	85.75 ± 0.24
IAAA-200335	11	土坑58号 炭③	炭化材	AAA	-27.54 ± 0.43	1,290 ± 20	85.17 ± 0.24

[I A A登録番号: # 9775]
[I A A登録番号: # A212]

第45表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未方正値, 暦年較正用 ^{14}C 年代, 較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-190746	1,970 \pm 20	78.29 \pm 0.23	1,914 \pm 23	66calAD- 92calAD (35.2%) 98calAD-124calAD (33.0%)	28calAD- 39calAD (2.9%) 50calAD-132calAD (92.5%)
IAAA-190747	1,340 \pm 20	84.61 \pm 0.23	1,313 \pm 22	663calAD-691calAD (53.2%) 750calAD-761calAD (15.0%)	658calAD-717calAD (72.2%) 742calAD-767calAD (23.2%)
IAAA-190748	1,280 \pm 20	85.31 \pm 0.24	1,287 \pm 22	680calAD-713calAD (40.2%) 744calAD-765calAD (28.0%)	667calAD-730calAD (59.7%) 736calAD-770calAD (35.7%)
IAAA-190749	1,920	78.70 \pm 0.24	1,917 \pm 24	63calAD- 90calAD (38.2%) 99calAD-124calAD (30.0%)	27calAD- 41calAD (4.6%) 48calAD-131calAD (90.8%)
IAAA-200329	2,020 \pm 20	77.80 \pm 0.22	1,944 \pm 23	25calAD- 80calAD (68.2%)	4calAD- 90calAD (86.1%) 99calAD-124calAD (9.3%)
IAAA-200330	1,990 \pm 20	78.03 \pm 0.22	1,922 \pm 24	56calAD- 90calAD (43.6%) 100calAD-123calAD (24.6%)	25calAD-130calAD (95.4%)
IAAA-200331	1,900 \pm 20	78.93 \pm 0.22	1,868 \pm 23	85calAD-143calAD (49.5%) 154calAD-168calAD (8.8%) 195calAD-209calAD (9.9%)	79calAD-219calAD (95.4%)
IAAA-200332	1,790 \pm 20	80.07 \pm 0.23	1,776 \pm 24	230calAD-260calAD (29.7%) 280calAD-325calAD (38.5%)	143calAD-157calAD (2.1%) 167calAD-196calAD (5.3%) 210calAD-336calAD (88.0%)
IAAA-200333	1,740 \pm 20	80.56 \pm 0.22	1,715 \pm 23	260calAD-279calAD (17.8%) 326calAD-382calAD (50.4%)	253calAD-304calAD (33.6%) 313calAD-391calAD (61.8%)
IAAA-200334	1,240 \pm 20	85.68 \pm 0.23	1,235 \pm 22	695calAD-702calAD (3.5%) 708calAD-746calAD (35.6%) 764calAD-778calAD (13.1%) 792calAD-804calAD (7.0%) 842calAD-860calAD (9.0%)	688calAD-751calAD (44.0%) 760calAD-780calAD (14.4%) 787calAD-876calAD (37.0%)
IAAA-200335	1,330 \pm 20	84.72 \pm 0.23	1,289 \pm 22	678calAD-712calAD (41.3%) 745calAD-765calAD (26.9%)	666calAD-730calAD (60.1%) 736calAD-770calAD (35.3%)



第163図 暦年較正年代グラフ (参考)

第4節 炭化材の樹種同定

(株) 加速器分析研究所

1 試料

鹿児島県に所在する六反ヶ丸遺跡の試料は、竪穴建物跡6号から出土した炭化材3点、土坑42号および58号から出土した炭化材各2点計4点で、合計7点である。なお、これらの試料を対象に放射性炭素年代測定が行われており(別稿樹種同定報告参照)、樹種同定と同じ破片を用いている。

2 分析方法

炭化材の多くは土塊中に複数の破片が認められる。十分な大きさがある試料については、分割して年代測定と樹種同定にそれぞれ供する。一方、小片しか認められない試料については、最初に樹種同定を実施し、顕微鏡観察・写真撮影に必要な最小限の破片を採取した上で残りを年代測定に供する。以下に樹種同定の方法について記す。

抽出した炭化材を自然乾燥させた後、双眼実体顕微鏡(NIKON製SMZ-10)で観察しながら木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製する。この際、脆い試料については、UVレジンを染み込ませて固化・補強する。作製した断面をアルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定し、破損防止のために周囲をUVレジンで固める。

走査型電子顕微鏡(株式会社日立ハイテクノロジーズ製SU3500)の低真空モード10~500倍で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3 結果

樹種同定結果を第46表に示す。炭化材は、広葉樹3分類群(コナラ属アカガシ亜属、クリ近似種、タイミンタチバナ)に同定された。なお、試料番号2,5の2点は、小片で脆い。いずれも柀目面の観察で道管が認められ、広葉樹であることは確認できたが、木口面での道管配列が観察できないため、種類は不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen.

Cyclobalanopsis ブナ科

放射孔材。道管は単独で放射方向に配列する。道管の接線径は、最大で100~120 μ m。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと同列放射組織とがある。

・クリ cf. *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

ブナ科クリ属

試料はいずれも保存状態が悪い。年輪界で割れており孔圏部の多くを欠く。僅かに残る孔圏部と晩材部における道管径の違いから環孔材と判断できる。晩材部の小道管は、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

小片で孔圏部の多くを欠くことから、道管配列がよく似たコナラ節やシイ属との区別が困難である。これらの中では、道管径や配列の状況がクリに近いことからクリ近似種とした。

・タイミンタチバナ *Myrsine seguinii* Lev.

ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

散孔材。道管は単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型の異性、1~5細胞幅、100細胞高以上。

4 考察

竪穴建物跡および土坑から出土した炭化材は、種類不明も含めて全て広葉樹材であり、不明を除く5点に3種類が認められた。確認された各種類の材質についてみると、アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種となる常緑高木である。木材は比較的重硬で強度が高い。クリ(近似種)は、二次林等に生育する落葉高木である。木材は重硬で強度と耐朽性が高い。タイミンタチバナは、暖温帯の沿海地に生育する常緑低木~高木である。木材は重硬な部類に入り、耐朽性が高い。

遺構別にみると、竪穴建物跡では、クリ近似種の利用が目立つ。クリ近似種の材質から、利用された木材の中に強度の高い木材が含まれていたことが推定される。

一方、土坑から出土した炭化材は、土坑37号がタイミンタチバナと種類不明の広葉樹、土坑46号が2点ともアカガシ亜属であり、土坑によって樹種が異なる結果が得られた。用材選択は土坑の用途・機能と関わる可能性があり、いずれの土坑でも重硬な材質の木材を利用したことが推定される。

引用文献

林昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載I. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.

伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載II. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載III. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.

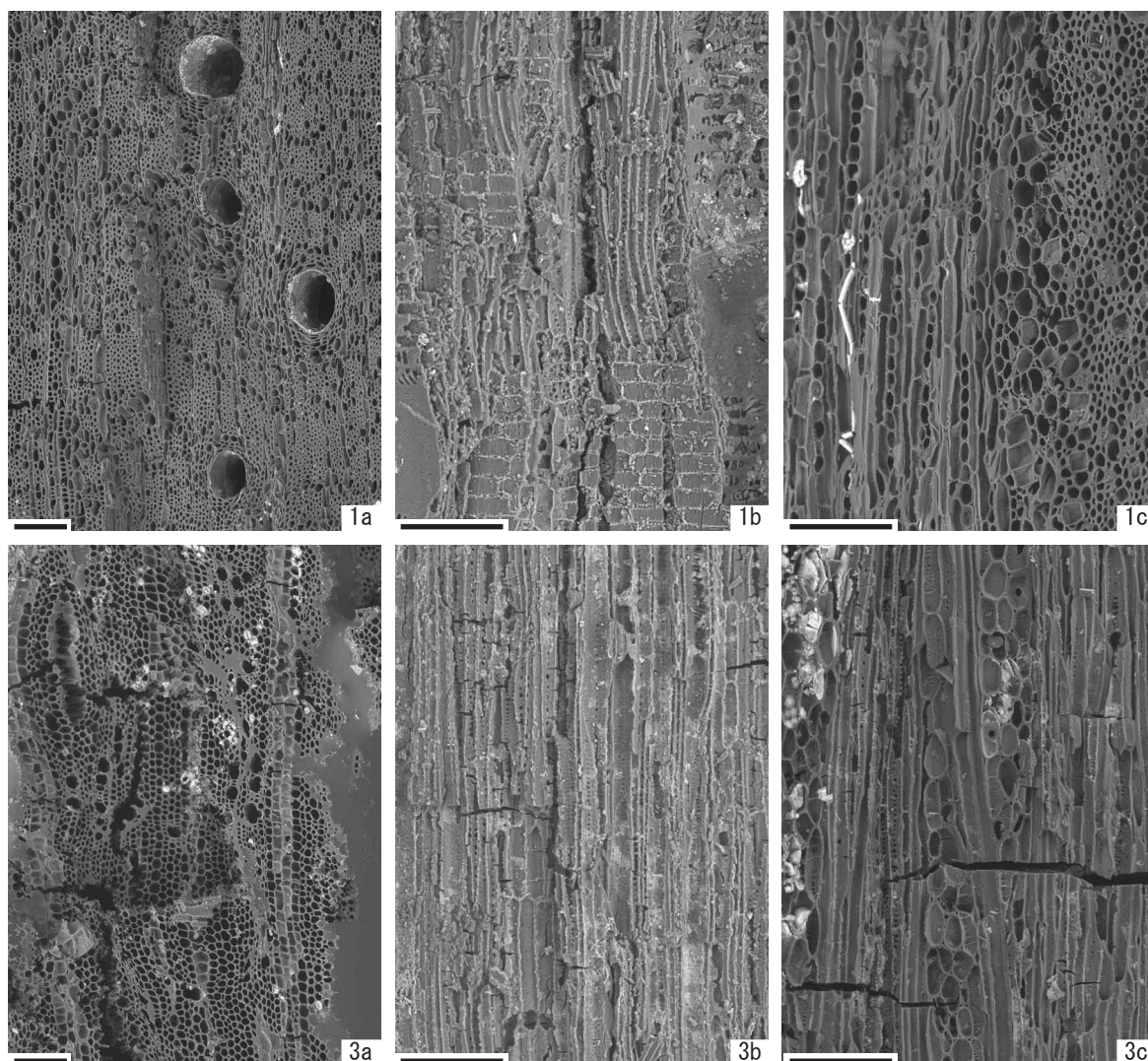
伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載IV. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載V. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
 Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p.
 [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for

Softwood Identification].
 島地謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
 Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第46表 樹種同定結果

試料番号	遺構	取上番号	形状	樹種
1	竪穴建物跡 6号	炭 1	破片	クリ近似種
2	竪穴建物跡 6号	炭 2	破片	広葉樹 (不明)
3	竪穴建物跡 6号	炭 7	破片	クリ近似種
4	土坑 42号	炭①	ミカン割状	タイミンタチバナ
5	土坑 42号	炭②	破片	広葉樹 (不明)
6	土坑 58号	炭①	ミカン割状	コナラ属アカガシ亜属
7	土坑 58号	炭③	ミカン割状	コナラ属アカガシ亜属



1 コナラ属アカガシ亜属 (試料番号6) 3 タイミンタチバナ (試料番号4) a: 木口 b: 柁目 c: 板目 各写真のスケールは0.1mm

第164図 炭化材

第5節 蛍光X線分析

公益財団法人元興寺文化財研究所

1 概要

小型仿製鏡1点(458)

銅鈴1点(997・998)

資料は鹿児島県出水市の六反ヶ丸遺跡から出土した金属資料で、銅鏡と銅鈴である。銅鏡は小型仿製鏡であり、古墳時代と推定されている。また、銅製の鈴は中世～近現代の層から出土した^(*)1)。これら資料を第165図、第167図に示す。

2 分析内容

資料の材質分析として蛍光X線分析を、資料材料の産地推定として鉛同位体比法^(*)2,3)を用いた。鉛同位体比法は資料の銅に含まれている鉛、あるいは製品を作る際に加えられた鉛の同位体比から、銅あるいは鉛の産地を推定する方法である。産地の情報は資料の特徴を明らかにする上で有用である。なお、鉛同位体比法による産地推定は日鉄テクノロジー株式会社と帝京大学文化財研究所平尾良光客員教授に依頼した。また、小型仿製鏡の鈕に残されていた有機質を観察するため、微小部観察を行った。観察箇所を第165図に示す(青丸)。

3 試料採取

資料より微量の試料を採取し、蛍光X線分析、及び鉛同位体比法の試料とした。試料採取箇所を第165図、第167図に示す(赤丸)。小型仿製鏡では、資料破断面よりマイクログラインダーを用いて金属部分、及び鍍部分を採取し試料とした(第166図)。銅鈴では、割れが生じて本体より容易に取り外せる状態となっている破片を採取し、試料とした(第168図)。

4 蛍光X線分析

(1) 測定方法及び使用機器

蛍光X線分析は試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素固有の蛍光X線を検出することにより、試料の構成元素を同定する分析方法である。

測定にはエネルギー分散型蛍光X線分析装置「EA6000VX」(株式会社日立ハイテクサイエンス、X線ターゲット：ロジウム(Rh))を用いた。測定は大気中で $\square 1.2 \times 1.2 \text{mm}$ コリメータを用い、管電圧50kV、照射時間120秒で行った。

(2) 結果及び考察

検出された元素を第47表に、得られた蛍光X線スペクトルを第169図、第170図に示す。小型仿製鏡からは主として鉄(Fe)、銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)を、微量元素としてケイ素(Si)、ヒ素(As)、銀(Ag)、アンチモン(Sb)を検出した。この結果より、小型仿製鏡は青銅製と考えられた。一方銅鈴からは、主としてFe、Cu、亜鉛(Zn)を、微量元素としてSi、As、Ag、Sn、Pbを検出した。この結果より、銅鈴は真鍮製と考

えられた。また、小型仿製鏡、銅鈴共に鉛同位体法に十分な鉛が含まれていることも明らかとなった。

5 鉛同位体比法

(1) 鉛同位体比法の原理

今までの研究で、鉛には重さが異なる4種の同位体(204Pb、206Pb、207Pb、208Pb)が混在しており、鉛同位体の中で鉛-206(206Pb)はウラン-238(238U)から、鉛-207(207Pb)はウラン-235(235U)から鉛-208(208Pb)はトリウム-232(232Th)から自然の放射壊変で生成されることがわかっている。地球が生まれた時に、岩石などの中に他元素とともに鉛がウラン・トリウムと共存していれば、鉛の同位体は地球生成後の時間とともに生成され、既にあった鉛に付加される。地球の歴史のあるときに、地殻変動や火山活動で鉛が硫化物や塩化物などとして流動し、これら岩石から抽出されて鉛鉱床を生成すると、この時に鉛はウラン・トリウムから切り離されるので、鉛同位体の量と比が定まり、もう変化しない。各地域の鉛鉱床の鉛同位体比は鉛鉱物を作った岩石中のウラン・トリウム・鉛の量比の違い、および地殻変動などの鉛鉱床を形成する時期が一般的には異なるので、各鉛鉱床でそれぞれ異なる値となる。結果として東アジア地方における鉛鉱床では第171図(A式図:207Pb/206Pb208Pb/206Pb)と第172図(B式図:206Pb/204Pb-207Pb/204Pb)で示されるような地域毎に鉛が分布する。両図は含まれる鉛同位体が異なるので、少々意味が異なっている。両図ではそれぞれの地域が日本、朝鮮半島、中国華北・華南などの領域として示される。未知資料の鉛同位体比を測定し、これらの図に載せた場合、両方の図で設定された同じ領域に含まれれば、その地域で生産された鉛が含まれている可能性が高いと示される。もちろん例外はある。鉛同位体比の表現方法として各種あるが、第171図(207Pb/206Pb208Pb/206Pb:A式図)と第172図(206Pb/204Pb-207Pb/204Pb:B式図)の方式で示されることが多いので、本報告でもこの方式で表現する。この原理を用いて文化財資料に含まれる鉛の同位体比から銅や鉛の生産地を推定する方法を鉛同位体比法と称している^(*)4,5)。

地殻変動時には鉛とともに、銅・亜鉛・錫などの元素も類似して挙動すると言われ、銅製品に含まれる鉛は一般的には銅鉱床を生成した鉱床生成活動に付随した鉛で、銅鉱床を作る際に銅と鉛は類似した挙動を示す。最終的には銅と鉛は別々の鉱床を生成するが、鉛は銅から完全には分離されず、少量の鉛が銅鉱床の中に残される。それ故、銅を精錬した際に、昔の方法では共存した鉛を除ききれず、鉛は精錬した銅に少量含まれていることが普通である。また、銅あるいは青銅に鉛を加えて金属の性質を変えることがあるが、鉛は安価に精錬できる

ため、遠くから運ばれることは少なく、近くで精錬された鉛を利用することが多い。それ故銅鋳床の近くで採取された鉛であるため、鉛の同位体比から利用された鉛あるいは銅の産地を推定できる。

(2) 鉛同位体比の測定方法

本資料の材料産地を推定するために鉛同位体比法を利用する。鉛同位体比を測定する方法として、表面電離型質量分析法、二重収斂型 ICP 質量分析法などがあるが、本研究では表面電離型質量分析法を用いる。この方法で鉛同位体比を測定するためには本体から採取した微量部分を使用する。表面電離型質量分析計で鉛同位体比を測定するときに鉛の純度が高ければ高いほど精度が上がる故、鉛を化学的な方法で単離する。測定用に採取した微量（～1 mg）の試料に次のような化学操作を行って鉛を分離する。

試料を石英製ビーカーに入れ、硝酸 0.3ml を加え、1 日放置して資料を溶解する。試料が溶解した後、蒸留水で 5-10ml に希釈し、電極に白金板を利用し、直流電圧 2V で電気分解する。鉛は酸化され、二酸化鉛として陽極の白金電極上に析出するので、この白金電極を取り出して硝酸と過酸化水素水で鉛を還元溶解する。この溶液の鉛濃度を ICP 法で測定し、0.2 μg の鉛を分取する。この分取した鉛にリン酸とシリカゲルを加えてレニウムフィラメント上に載せ、加熱固化する。以上のように準備したフィラメントを日鉄テクノロジー社に設置されている質量分析計 (Finnigan MAT262) の中にセットし、測定諸条件を整え、フィラメント温度 1200℃ で鉛同位体比を測定する。測定値は同一条件で測定した標準鉛試料 NBS-SRM-981 で規格化する^(*6)。

(3) 鉛同位体比測定の結果

鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡から出土した資料の鉛同位体比値を第48表で示し、第173図と第174図で図示する。

(4) 結果と考察

鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡から出土した資料の鉛同位体比図 (第173図と第174図) から、小型仿製鏡は中国華北の弥生時代後期に集中的に利用された材料である「a」領域に含まれ、銅鈴は日本産材料領域に含まれた^(*7)。測定された2資料は資料の種類と年代が異なるため、同一次元では考察できないので、それぞれを別々に考察する。

小型仿製鏡

本資料である小型仿製鏡は発掘状況から古墳時代の資料とされる。小型仿製鏡は一般的には弥生時代後期から古墳時代の資料であるとされ、いくつかの資料に関して、鉛同位体比が測定されている。古墳時代の一般的な銅鏡はそのほとんどが華南産材料で作られていると報告されているが、本資料は古墳時代に主流である銅鏡とは異なる小型仿製鏡なので、小型仿製鏡に関して調べてみ

ると、第175図と第176図となる^(*7,8)。

第175図と第176図の分布図から判断すると、弥生時代と古墳時代の小型仿製鏡はそのほとんどが「a」領域に含まれている。いくつかは朝鮮半島産材料領域、あるいは華南産材料領域に含まれているが、それらのほとんどが「a」領域を中心として集まっている。それ故、六反ヶ丸遺跡から出土した仿製鏡は弥生時代に北九州を中心とした地域に拡がった小型仿製鏡と類似した材料を利用している。

古墳時代の小型仿製鏡も「a」領域を中心としているので、古墳時代に作られたとも考えられるが、弥生時代後期の資料が伝世などの形で、古墳時代まで残った可能性もあり、発掘で推定された年代が今後の考察の基本になるであろう。

銅鈴

本資料である銅鈴は日本産材料領域に含まれた。一般的に銅鈴は日本で作られたと推定されるが、材料となる銅は日本産であるとは必ずしも言えない。日本における銅製品 (材料) の主産地は各時代によって異なることがわかっている。すなわち、弥生時代・古墳時代は朝鮮半島と中国華北・華南、奈良時代・平安時代中期までは日本、平安時代後期・鎌倉時代・室町時代前半までは中国華南、室町時代後期は中国華南・日本、戦国時代は中国華南・東南アジア・日本、江戸時代は日本であるというおおまかな流れが示されている^(*9)。しかし、どの時代にも頻度は少ないが中国華南産資料や朝鮮半島産資料 (材料) が流入しているのも事実である。また、鎌倉時代などに日本産材料が全くないとは言い切れない。しかしながら、このようにおおまかな材料 (製品) の流れができていとなると考えると、本資料はどの時代の資料でもあり得るが、奈良時代・平安時代、あるいは室町時代後期から江戸時代という可能性が高い。そこで、一つの例として、平安時代資料と比較してみる^(*9)。

第177図と第178図では本銅鈴と平安時代の一般資料 (小仏像、火熨斗 [ひのし]、和鏡など) および長登銅山の鉛同位体比値とを比較した。平安時代の日本産銅はかなりの部分が長登銅山産の銅を利用しているように推定される。そこで、本資料である銅鈴の鉛同位体比を調べてみると、A式図で長登銅山の値とは少々離れているが、B式図ではぴったり一致している。A式図で長登銅山の値とこれだけ離れていると、長登銅山産材料であるとは言い切れない。ただし、長登銅山の中で場所により、鉛同位体比はばらついているので、長登銅山産の銅ではないとも言い切れないので、難しいところである。

6 微小部観察

(1) 使用機器

微小部観察には、実体顕微鏡「Leica MZ 16」(ライカマイクロシステムズ株式会社)、及び、デジタルマイ

クロスコープ「VHX-200」（株式会社キーエンス）を用いた。

（２）結果及び考察

観察された像を第179図に示す。鈕に通していたと考えられる紐の一部が観察された。ただし、残存状況が良くないため、繊維径などの詳細は明らかにならなかった。

引用文献

- 1) (公財) 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財センター：六反ヶ丸遺跡現地説明会資料 2018年11月10日
- 2) 平尾良光：鉛同位体比法，「青銅鏡・銅鐸・鉄剣を探る」『文化財を探る科学の眼- 3』，平尾良光・山岸良二編，国土社（東京），p13-19（1998）
- 3) 平尾良光：鉛同位体比法の応用－歴史資料の産地推定－，RADIOISOTOPES 57, p709-721（2008）
- 4) 平尾良光，鈴木浩子：弥生時代青銅器と鉛同位体

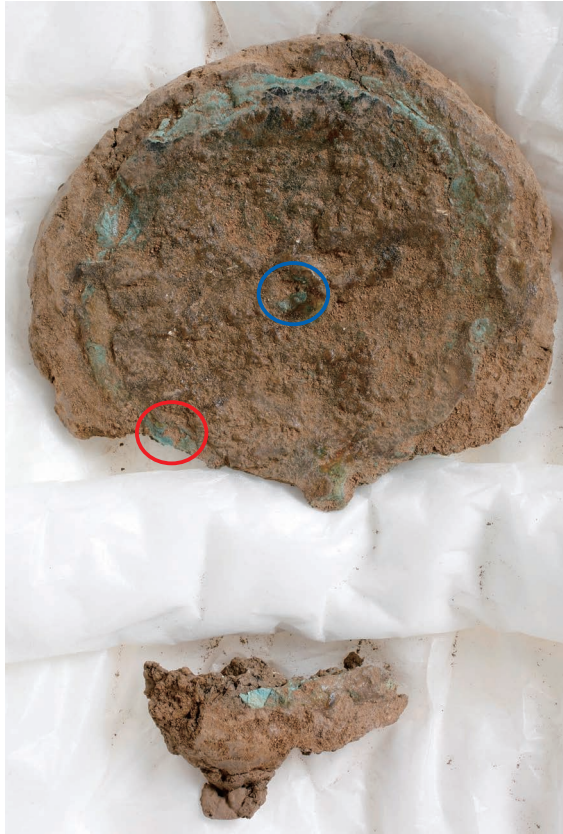
- 比，『古代青銅の流通と鑄造』，平尾良光編，鶴山堂（東京），p163-208（1999）
- 5) 平尾良光編：「古代東アジア青銅の流通」鶴山堂（東京），p352（2001）
 - 6) 平尾良光，馬淵久夫：表面電離型固体質量分析計 VG-Sector の規格化について，保存科学28，17-24（1989）
 - 7) 平尾良光：鉛同位体比の測定と分析，「第6巻，弥生・古墳時代，青銅・ガラス製品」『考古資料大観』，森田稔・井上洋一編，小学館（東京），p345-368（2003）
 - 8) 平尾良光，榎本淳子，鈴木浩子：古墳時代青銅製品の鉛同位体比，考古学雑誌 97，27-62（2013）
 - 9) 平尾良光：日本の歴史における産地推定のための鉛同位体比値，「帝京大学文化財研究所研究報告」17，p15-70（2018）（文責 山口 繁生）

第47表 蛍光X線分析による検出元素及び検出元素のピーク強度

原子番号	元素	元素名	ライン	ROI (keV)	強度 (cps)	
					小型仿製鏡	銅鏡
14	Si	ケイ素	K α	1.60-1.88	341	298
26	Fe	鉄	K α	6.23-6.57	6577	4270
29	Cu	銅	K α	7.86-8.23	53804	124487
30	Zn	亜鉛	K α	8.44-8.82		15416
33	As	ヒ素	K β	11.52-11.93	1785	202
47	Ag	銀	K α	21.84-22.37	991	90
50	Sn	スズ	K α	24.91-25.47	5359	285
51	Sb	アンチモン	K α	25.99-26.56	330	
82	Pb	鉛	L β	12.41-12.84	26639	880

第48表 鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡から出土した試料の鉛同位体比

資料番号	資料名	測定結果				
		$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$
NS 1 IC74	銅鏡	17.729	15.540	38.408	0.8765	2.1664
NS 1 IC73	銅鈴	18.432	15.615	38.654	0.8472	2.0972
	誤差 (±)	0.010	0.010	0.030	0.0003	0.0006



第165図 小型仿製鏡
 (青丸：微小部観察箇所，赤丸：試料採取箇所)



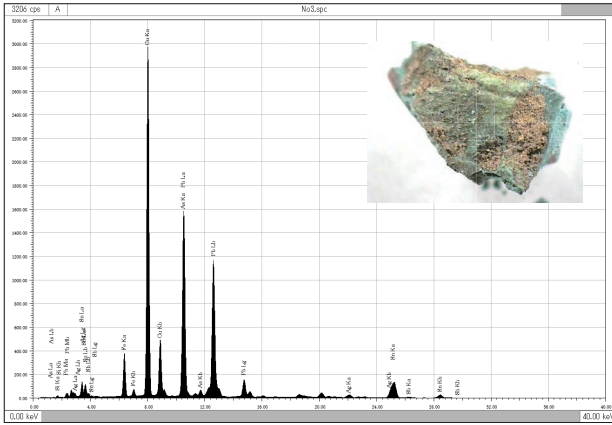
第167図 銅鈴 (赤丸：試料採取箇所)



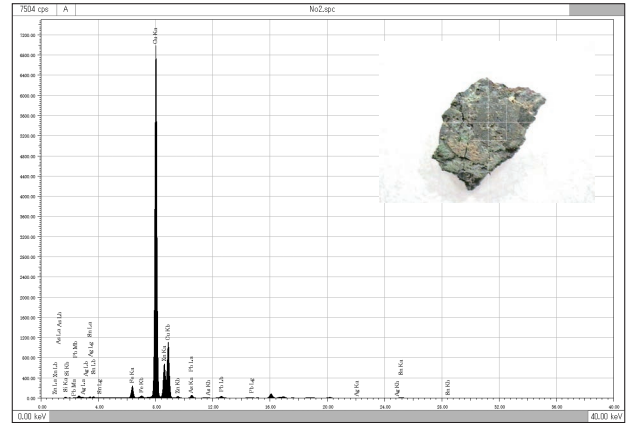
第166図 試料採取状況 (小型仿製鏡)



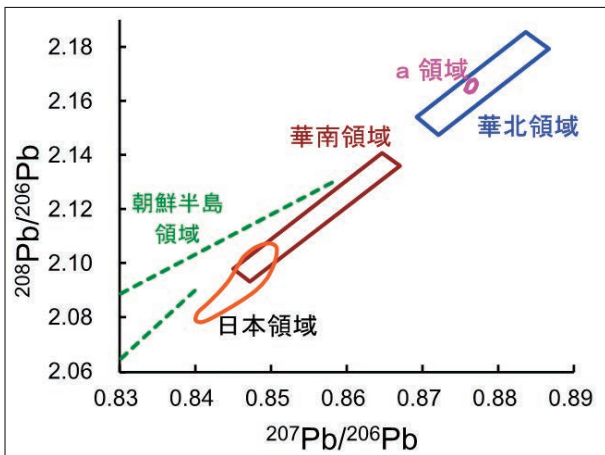
第168図 試料採取状況 (銅鈴)



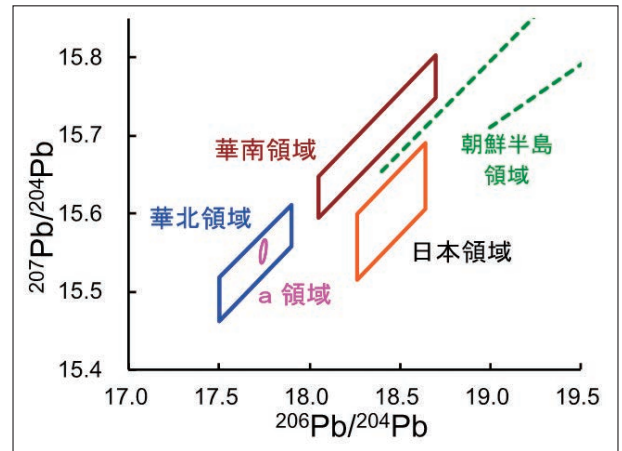
第169図 蛍光X線スペクトル（小型仿製鏡）



第170図 蛍光X線スペクトル（銅鈴）

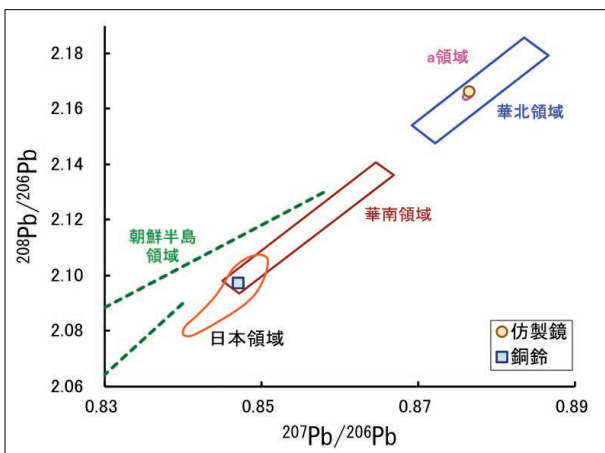


第171図 鉛同位体比を用いた産地推定の概念図（A式図）

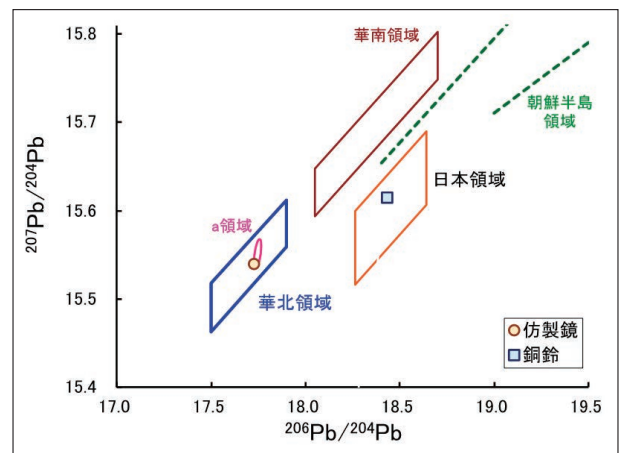


第172図 鉛同位体比を用いた産地推定の概念図（B式図）

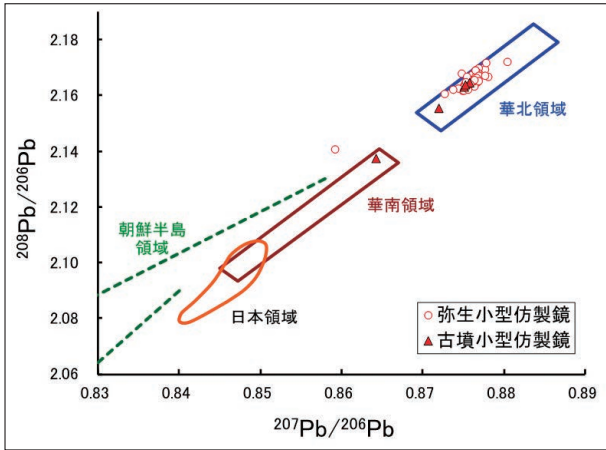
注) 東アジアにおける各地域の主要な鉛鉱床が示す鉛同位体比の広がりをも式的に示す。
a領域とは弥生時代後期の銅矛や銅鐸が集中して集まる領域である。



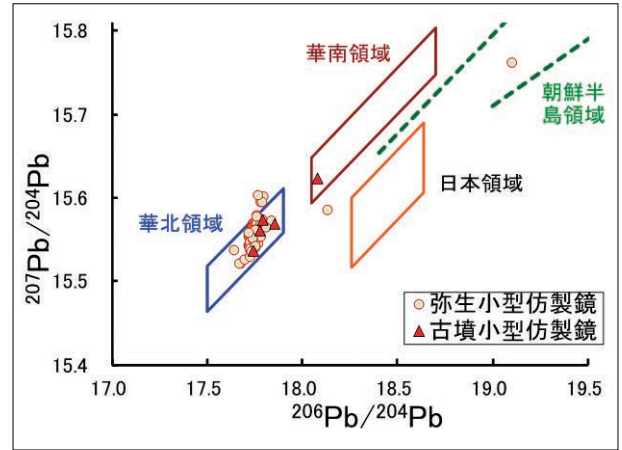
第173図 鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡から出土した資料の鉛同位体比（A式図）



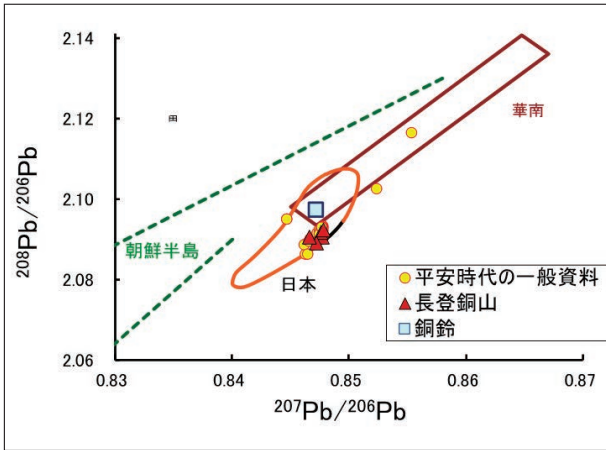
第174図 鹿児島県出水市六反ヶ丸遺跡から出土した資料の鉛同位体比（B式図）



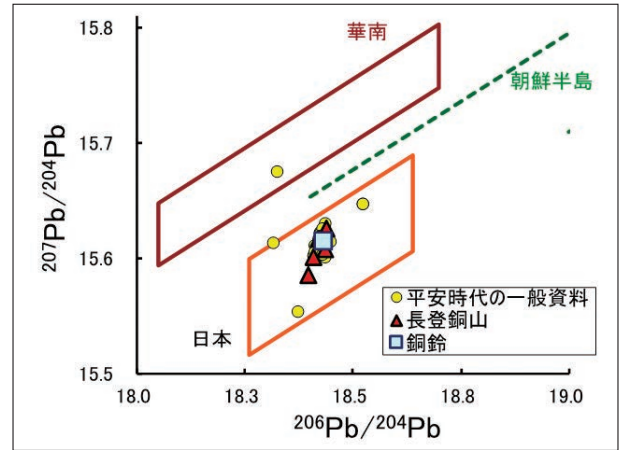
第175図 弥生時代・古墳時代の小型仿製鏡が示す鉛同位体比分布（A式図）



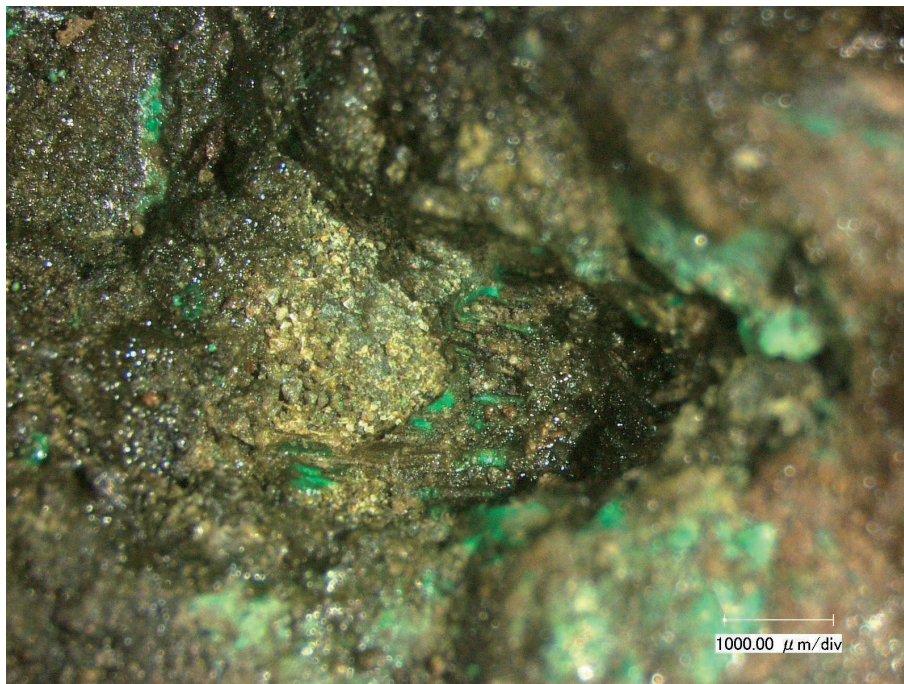
第176図 弥生時代・古墳時代の小型仿製鏡が示す鉛同位体比分布（B式図）



第177図 銅鈴と平安時代資料との比較（A式図）



第178図 銅鈴と平安時代資料との比較（B式図）



第179図 鈕穴の微小部観察像

第6節 焼土試料のルミネッセンス分析

下岡順直（立正大学地球環境科学部）

一般社団法人文化財科学研究センター

1 はじめに

遺跡より検出された焼土について、ルミネッセンス法を用いた理化学的分析を行った。ルミネッセンス法は、熱ルミネッセンス（thermoluminescence, TL）や光ルミネッセンス（optically stimulated luminescence, OSL）による年代測定（長友1999, 下岡2018）として一般的には用いられるが、温度の関数としてルミネッセンス計測をすることから、石英や長石など測定対象鉱物の被熱履歴を推定する方法としても利用されてきた（長友ほか2003, 西村ほか2007, 下岡2016）。今回は、TL年代測定とともに、赤外光ルミネッセンス（infrared stimulated luminescence, IRSL）感度変化法（西村ほか2007, 小畑, 下岡2015）を用いて被熱温度推定を行った。TL年代測定法は、加熱によりTL信号がゼロリセットされてから現在までに浴びた自然放射線量（蓄積線量）を、1年間に吸収する放射線量（年間線量）で除することでTL年代を求める。IRSL感度変化法は、対象物が露光していても被熱履歴の評価が可能であるため、年代測定に供するよりも試料の扱いが容易である。そして、IRSL感度変化法は、IRSL信号が露光のみで加熱が生じなければ、放射線量に対するIRSL強度はほぼ変化しない（例えば、Rhodes 2011など）とされており、このような特性を活かして被熱温度推定を行う。

2 試料採取および処理

試料は、土坑58号で検出された焼土からブロック状に試料採取が行われた4試料（No.1～No.4）である。

（1）TL年代測定

- 1) 土壌試料No.1, No.2において、約1 lx程度の暗赤色下の暗室で、炭化物が付着している土壌表面を除去後、薄く土壌をはがすように試料採取
- 2) 50℃恒温槽で乾燥後、乳鉢を用いて粉碎し、標準ふるいを用いて粒度分離
- 3) 選別した粒度50～250 μ mの試料に10%過酸化水素水溶液を加え、一晚静置、微細な有機物を除去
- 4) 20%塩酸溶液を添加、60分反応させ、炭酸塩鉱物を除去するとともに、鉱物の表面をクリーニング
- 5) 磁気分離後、白色鉱物に20%フッ酸溶液を加え90分反応させ、超純水で洗浄（石英以外の鉱物の除去、石英表面のエッチング）
- 6) 50℃恒温機で乾燥後、50 μ mの標準ふるいで篩別（「ナチュラル試料1」とする）
- 7) No.1, No.2の残試料で、年間線量測定、含水比（水重量を乾燥土重量で除した値）を計測

（2）熱温度推定

- 1) 土壌試料No.3, No.4において、約180 lxの蛍光灯

下で炭化物付着部分から試料採取

- 2) 水簸（すいひ）後、沈殿物を除去
- 3) 10%過酸化水素水溶液を添加し、微細な有機物を除去
- 4) 20%塩酸溶液を添加、60分反応させ、炭酸塩鉱物を除去するとともに、鉱物の表面をクリーニング
- 5) 篩別により粒度を約10～50 μ mに調整（「ナチュラル試料2」とする）

3 測定

TLおよびIRSL測定は、立正大学に設置してあるOSL/TL自動測定装置NRL-99-OSTL2-KU（下岡ほか2015）を用いた。

（1）TL年代測定

No.1とNo.2は、TL年代測定を行った。TL測定による蓄積線量評価には、多試料付加線量法（Aitken 1985）を用いた。まず、それぞれの「ナチュラル試料1」に小型X線管球でNo.1には7.8, 15.5, 23.2 Gyを、No.2には4, 8, 12 Gyを付加照射した試料（以下、「付加照射試料」と呼ぶ）を作成し、TL測定を行った。また、低線量域補正（TL発光量が放射線量に比例しない低線量域の補正）をするために、「ナチュラル試料1」と「付加照射試料」をTL測定後、小型X線管球でNo.1には7.8, 15.5, 23.2 Gyを、No.2には2, 4, 8, 12 Gyを照射してTL測定を行った。TL測定条件は、窒素雰囲気中で昇温速度5℃/sec, 100～500℃まで連続昇温法により測定した。TLの検出波長は、310～440 nm（半値幅）である。

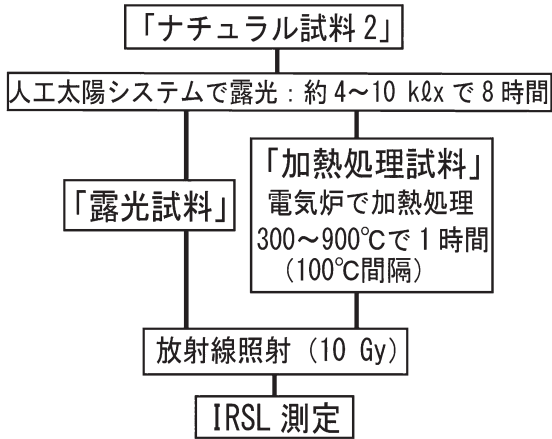
蓄積線量評価では粒径50～250 μ mの測定試料を用いて、年間線量は一年間に鉱物が吸収する β 線、 γ 線および宇宙線の合計で評価した。まず、No.1とNo.2の土壌を恒温機で乾燥させて含水比（降水量の変動などの不確定要素として、誤差を10%と仮定）を計測後に、所定のプラスチックケースに30 g封入し、立正大学に設置してあるキャンベラ製モデル7229P-7500Sのゲルマニウム半導体検出器を用いて計測した。そして、ウラン、トリウム、カリウムの濃度を求め、放射線量への換算式（Guérin et al. 2011）を用いて、それぞれ年間 β 線量、年間 γ 線量を見積もった。見積もった値は、試料を乾燥する際に求めた含水比を用いて含水比補正を行った。また、年間宇宙線量は、焼土を採取した土坑58号が表土下50 cm程度付近で検出されたと仮定して補正し、0.13 mGy/年とした。

（2）IRSL感度変化法による被熱温度推定

No.3とNo.4の「ナチュラル試料2」はガラスシャーレに移し、約4,000～10,000 lx程度に設定した人工太陽システム（セリック社製SOLAX XC-100B形）を用いて8時間露光してOSL信号を人為的にゼロリセットした。その後、露光のみで加熱処理無し測定試料（以下、「露光試料」と呼ぶ）と、露光後に電気炉を用いて300～900℃まで100℃間隔で1時間ずつ加熱処理を行った測定試料（以

下、「加熱処理試料」とする)を用意した(第180図)。

「露光試料」と「加熱処理試料」は、小型X線管球(下岡ほか2015)を用いて10 Gy照射後、IRSL測定をした(図1)。IRSL測定条件は、励起波長 890 ± 30 nm, 検出波長350~600 nm(半値幅)とし、160°Cで60秒間プレヒート(測定前の加熱処理)後、測定温度60°Cで100秒間行った(下岡, 長友2001)。



第180図 IRSL感度変化法による被熱温度推定の測定手順

4 結果と考察

(1) TL年代測定

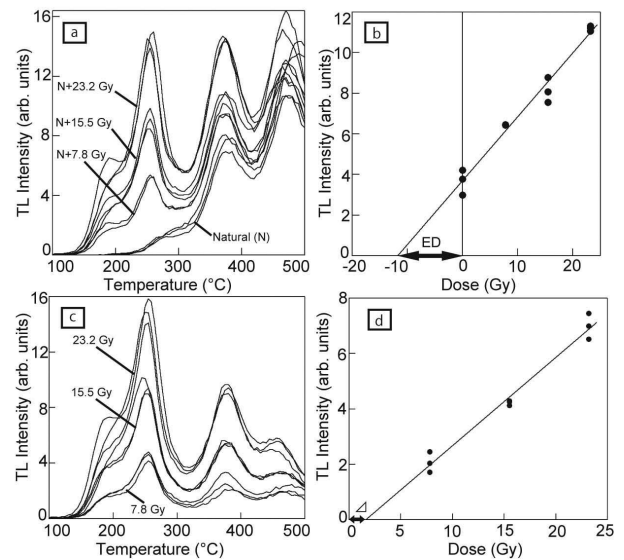
TL測定結果を第181図と第182図に示す。No.1では、400~500°C付近のTLグローカーブ(第181図a)の形状が「付加照射試料」ごとに明瞭な区別は出来ず、ほとんど同じくらいのTL強度を示した。一方、低線量域補正用のTLグローカーブ(第182図c)では、放射線量ごとにTLグローカーブが明瞭に分かれたデータであった。低線量域補正用のTLグローカーブは、人為的に500°Cまで加熱後にTL測定されている。このことから、No.1から抽出した石英は必ずしもTL信号が完全にゼロリセットされるまでの熱量を受けていない可能性がある(大手前大学史学研究所編2007)。もしくは、被熱されていない石英を含んでいた可能性もある。No.2においても、No.1と同様のデータが得られた。このことから、No.1もNo.2も得られるTL年代は見かけ上古い年代を示す可能性がある。

以上を念頭に入れながら、データ解析を行った。まず、各試料のTLグローカーブを用いて、温度に対して線量が安定しているかを「付加照射試料」のTL強度と「ナチュラル試料」のTL強度の比で検討するプラトーテスト(Aitken 1985)を行った。その結果、安定したTL強度が得られる温度領域(プラトー領域)として、No.1では310~315°C, No.2では290~295°Cが得られた。次に、プラトー領域のTL強度を積算して生長曲線を作成し、最小二乗法により直線回帰を行い、その直線を外挿することで等価線量(ED)を求めた。低線量域補正(Δ)につい

ても、プラトー領域のTL強度を積算して同様に求めた。蓄積線量は、等価線量と低線量域補正の和で求める。No.1およびNo.2の蓄積線量は、それぞれ13.3 Gyと6.3 Gyになった。

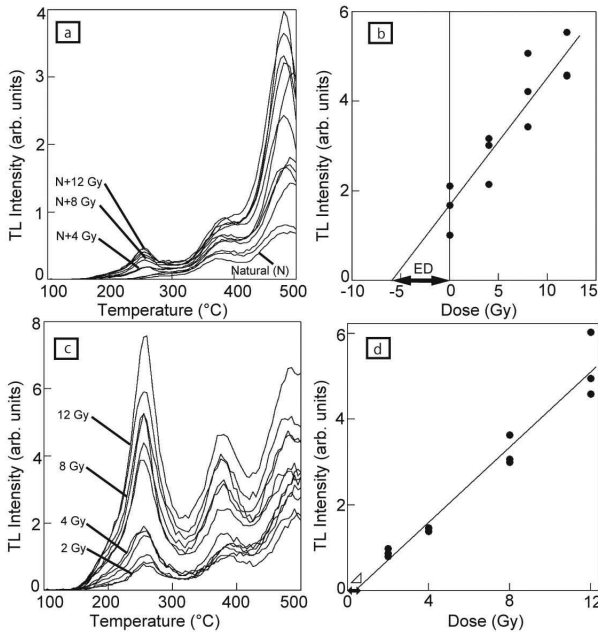
ゲルマニウム半導体検出器を用いて計測した土壤中のウラン、トリウム、カリウムの濃度は、No.1およびNo.2それぞれ 2.21 ± 0.08 ppm, 11.99 ± 0.43 ppm, $2.14 \pm 0.06\%$ と 2.14 ± 0.08 ppm, 12.10 ± 0.43 ppm, $2.23 \pm 0.06\%$ であった。これを年間β線量, 年間γ線量に換算し, No.1およびNo.2の含水比それぞれ $18 \pm 2\%$ と $18 \pm 2\%$ で含水比補正をしてから, これらと年間宇宙線量を合計して年間線量を求めた。その結果, No.1およびNo.2でそれぞれ 3.18 ± 0.17 mGy/年と 3.26 ± 0.17 mGy/年であった。以上より, 蓄積線量を年間線量で除してTL年代を求めると, No.1およびNo.2のTL年代はそれぞれ4.2千年前と1.9千年前となった。

No.1およびNo.2の試料は同じ土坑から採取した土壤であることから, 同じTL年代を得られることが予想されたが, 結果的にはかなり異なる数値が得られた。これは前述したとおり, No.1およびNo.2について十分な加熱がされていないために, 測定に供された試料は見かけ上, 生焼け状態と類似していると考えられる。試料採取時の肉眼観察でも, 炭化物が付着していた土壤はまだらに赤色化している, もしくは赤色化を肉眼的に識別するのが難しい状態であった。今回は, 炭化物が付着している部分の土壤を削り出してTL年代測定を試みたが, それでも生焼け状態という結論になった。



第181図 No.1のTLグローカーブ(a, c)と生長曲線(b, d)

a, b: 等価線量(ED)評価 c, d: 低線量補正(Δ)評価



第182図 No. 2のTLグローカーブ (a, c) と生長曲線 (b, d)

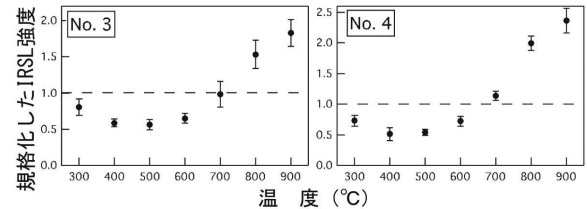
a, b: 等価線量 (ED) 評価 c, d: 低線量補正 (Δ) 評価

(2) IRSL感度変化法による被熱温度推定

No. 3およびNo. 4で測定した40~80秒間のIRSL強度をそれぞれ積算し、「加熱処理試料」のIRSL強度を「露光試料」のIRSL強度で規格化した。測定した試料ごとに段階加熱によるIRSL感度変化の結果を第183図に示す。その結果、No. 3は、600℃まではIRSL強度は1を下回るが、700℃ではほぼIRSL強度は1となり、800℃以上ではIRSL強度が1を超えた。No. 4は、600℃まではIRSL強度は1を下回るが、700℃以上ではIRSL強度が1を超えた。

IRSL被熱温度推定では、次の方法で被熱温度を推定する。過去の被熱温度をT0、電気炉による加熱処理温度をT1とする。同一試料で同じ被ばく放射線量るとき、電気炉による加熱処理温度が過去の被熱温度を超えない時、すなわち $T0 > T1$ もしくは $T0 = T1$ の場合、「露光試料」のOSL強度に対して「加熱処理試料」のOSL強度の感度変化はほとんど生じないもしくは小さい。これに対して、電気炉による加熱処理温度が過去の被熱温度を超えた時、すなわち $T0 < T1$ の場合、OSL強度は感度変化を生じ、「露光試料」に対して「加熱処理試料」は系統的に変化する。そこで、OSL強度が「露光試料」とほぼ同じで一定に維持された後にOSL強度が増加へ変化する温度に着目すると、過去の被熱温度はOSL強度の感度が増加へ変化する温度付近であると推定できる。つまり、IRSL強度が低温側からみて感度の増加変化を起こし、かつ、「露光試料」のIRSL強度を超える(例えば、第184図の縦軸で1を超える)最初の変化点付近を被熱温度として

推定する。この判定方法を用いて、No. 3およびNo. 4の被熱温度を推定した。No. 3では約700~800℃程度(約700℃付近)、No. 4では約600~700℃程度(約700℃付近)に被熱した可能性が示された。なお、図4よりNo. 3のほうがNo. 4よりも被熱した温度はやや高かったと考えられる。



第183図 各資料における段階加熱によるIRSL強度の感度変化

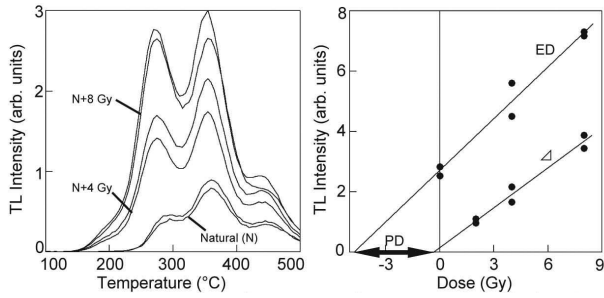
縦軸は、「加熱処理した資料」のIRSL強度を「露光のみ試料」のIRSL強度で規格化した値。加熱処理した温度

(3) 補足実験

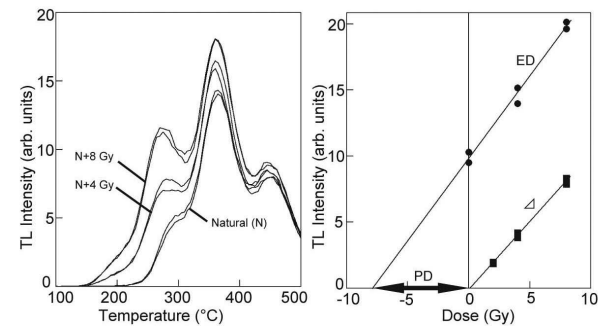
前述の4(1)よりNo. 1とNo. 2は生焼け状態に類似しており、被熱された時代を示す数値を得ることができなかった。そこで、No. 3とNo. 4について、光があたっている試料ではあるが暫定的に年代推定を試みた。年代測定の手順は3(1) TL年代測定に示した方法に準じた。結果を第184図、第185図に示す。No. 3は、500℃までTLグローカーブが「付加照射試料」で明瞭に区別できるデータであった(第184図)。これに対して、No. 4はNo. 1やNo. 2と同様に400~500℃付近のTLグローカーブ(第181図a)が「付加照射試料」で不明瞭なTLグローカーブ形状を示した(第185図)。以上の結果より、No. 3はTL信号がほぼ完全にゼロリセットするまで加熱されていた可能性があり、No. 4はNo. 1やNo. 2と同様に生焼けの可能性が考えられる。No. 4については、IRSL感度変化法による被熱温度推定では700℃付近の被熱が観察された。しかし、焚き火や炭火の熱は約700~800℃程度であることから、No. 4の被熱はおそらく炎が直接に接して土壌が赤色化したことが推測され、TL信号が完全にゼロリセットするほどの熱量を受けるまでには至らなかったと考えられる。

第184図、第185図より、No. 3とNo. 4の蓄積線量を大まかに見積もった結果は4.4 Gyと8.0 Gyであった。これを、No. 1とNo. 2の年間線量を加重平均した 3.67 ± 0.12 mGy/年で蓄積線量を除すると、TL年代はNo. 3で1.2千年前、No. 4で2.2千年前と見積もることができた。この結果より、No. 3のTL年代が被熱された時代に近いと考えられ、No. 4のTL年代は見かけ上の年代である。なお、蓄積線量の評価は暫定的なものであるため、年代の誤差は評価しない。

以上をまとめると、分析に供された土壌試料No. 1からNo. 4では、No. 3が十分な加熱を受けており、No. 2とNo. 4が同程度で被熱は十分ではない、その次にNo. 1という評価が可能であろう。



第184図 No.3のTLグローカーブ(左)と生長曲線(右)
ED: 等価線量, Δ: 低線量補正, PD: 蓄積線量



第185図 No.4のTLグローカーブ(左)と生長曲線(右)
ED: 等価線量, Δ: 低線量補正, PD: 蓄積線量

5 まとめ

今回遺跡の土坑で検出された焼土について、ルミネッセンス法によりTL年代測定およびIRSL感度変化法による被熱温度推定を行い、焼土の熱履歴について検討した。その結果、土坑内部では被熱が不均一であるものの、約700℃程度の熱を受けていることが確認できた。また、十分な加熱を受けていると評価できたNo.3では約1.2千年前という数値年代が得られた。

引用文献

Aitken, M.J. (1985) Thermoluminescence dating. Academic Press, 359 p.

Guérin, G., Mercier, N., Adamiec, G. (2011) Dose-rate conversion factors: update. *Ancient TL*, 29 -1, 5-8.

長友恒人 (1999) 「3章 ルミネッセンス法」『考古学のための年代測定学入門(長友恒人編)』古今書院, 59-76.

長友恒人・西村誠治・柴田昌晃 (2003) 「TL/ESR測定による被熱変形した弥生土器の被熱温度推定」『日本文化財科学会第20回大会研究発表要旨集』, 74-75.

西村誠治・長友恒人・鐘ヶ江賢二・長友朋子 (2007) 「IRSL法による弥生土器の被熱温度推定」『日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集』, 36-37.

大手前大学史学研究所 編 (2007) 『土器研究の新視点～縄文から弥生時代を中心とした土器生産・焼成と食・調理～』考古学リーダー9, 六一書房, 340p.

小畑直也・下岡順直 (2015) 「ルミネッセンス法による被熱履歴推定の概要」『地質技術』5, 29-35.

Rhodes, E.J. (2011) Optically stimulated Luminescence Dating of sediments over the Past 200,000 years. *Annual review of Earth and Planetary Science*, 39, 461-488.

下岡順直・長友恒人 (2001) 「石英・長石を試料とした光励起ルミネッセンス年代測定法の基礎研究」『Radioisotopes』50, 381-389.

下岡順直・波多野智・田邊和明・森美比古・青木智史・阪江修 (2015) 「OSL/TL自動測定装置NRL-99-OSTL2-KUの設計製作とX線管球の線量率較正」『地球環境研究』17, 107-110.

下岡順直 (2016) 「福井洞窟12・13層炉跡のOSLを用いた赤色化土壌の被熱温度推定」『史跡福井洞窟発掘調査報告書』佐世保市文化財調査報告書第14集, 288-290.

下岡順直・清水隆一・北沢俊幸・川野良信 (2018) 「ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーのシステム構築」『地球環境研究』20, 179-183.

下岡順直 (2018) 「熱ルミネッセンス, 光ルミネッセンス, 電子スピン共鳴年代測定法を利用した文化財科学研究」『考古学と自然科学』76, 37-55.

第7節 六反ヶ丸遺跡出土の小玉及び古銭について

県立埋蔵文化財センター南の縄文調査室

1 試料

- (1) 小玉 No4286 (329)
- (2) 古銭 D-33区表土一括 (未掲載) 計2点

2 観察・分析方法

(1) 形状観察

以下の機器を使用して、形状を観察し撮影を行った。

- ・双眼実体顕微鏡 (ニコン製SMZ1000) による8~60倍観察

(2) 成分分析

エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (堀場製作所製 XGT-1000, X線管球ターゲット:ロジウム, X線照射径 100 μ m) を使用し、次の条件により分析を行った。

X線管電圧: 15/50kV 電流: 自動設定
 測定時間: 200秒 X線フィルタ: なし
 試料セル: なし パルス処理時間: P3
 定量補正法: スタンダードレス

(3) X線写真撮影

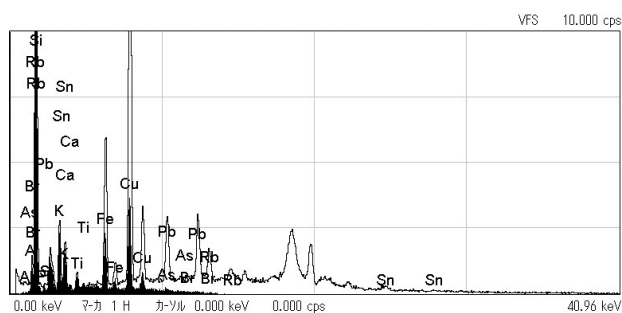
X線透過装置 (HITACHI PI-CR-1506, 広角撮影) を使用し、次の条件によりフィルムを用いて撮影を行った。

X線管電圧: 90/120kV 電流: 3mA
 測定時間: 60/120秒 X線フィルタ: なし
 試料セル: なし

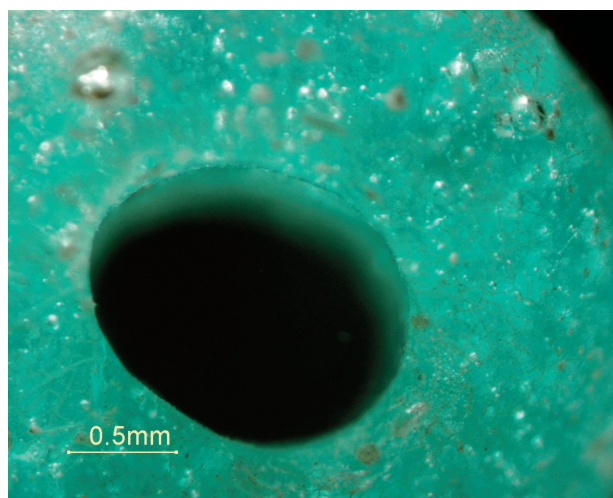
3 結果

試料の蛍光X線分析スペクトルチャート (成分分析) とFPM定量結果, 双眼実体顕微鏡およびX線透過装置による形状観察, 撮影結果の一例である。

(1) 小玉



第186図 スペクトルチャート

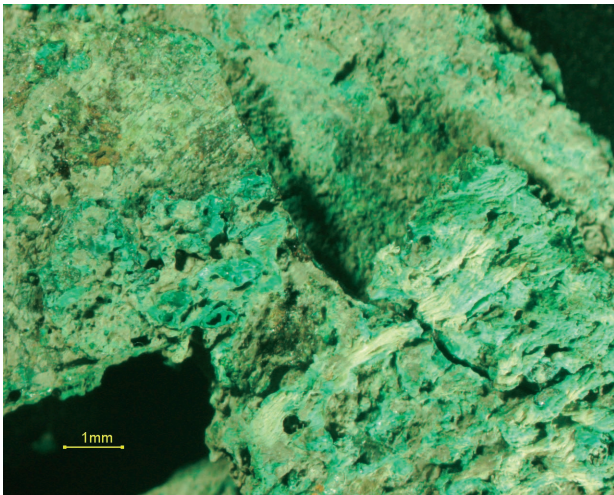
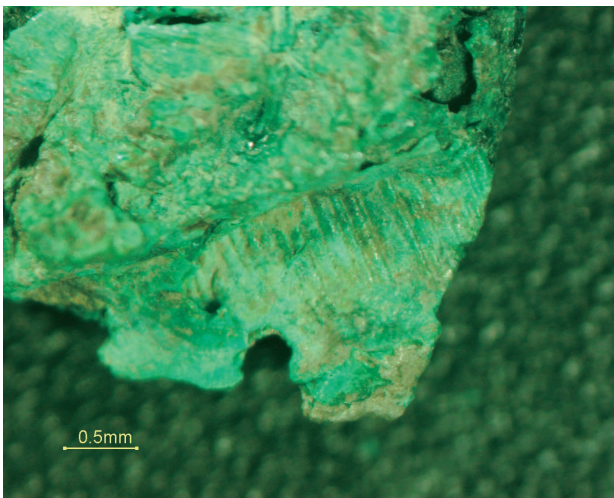


第187図 形状観察結果 (双眼実体顕微鏡)

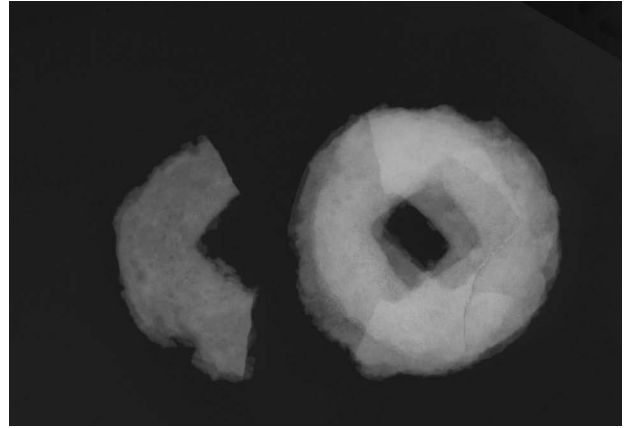
第49表 FPM定量結果

元素	ライン	強度 (cps/mA)	質量濃度 (%)
アルミニウム	K	14.31	6.81
けい素	K	283.48	75.69
硫黄	K	0.79	0.11
カリウム	K	34.50	5.60
カルシウム	K	18.74	2.60
チタン	K	13.92	0.50
鉄	K	140.74	1.86
銅	K	446.70	4.17
臭素	K	3.88	0.03
ルビジウム	L	32.96	0.25
すず	K	7.81	0.37
鉛	L	76.51	2.01

(2) 古銭



第188図 形状観察結果（双眼実体顕微鏡）



第189図 X線撮影結果（X線透過装置）

4 考察

蛍光X線分析の結果から、試料（1）の小玉は、鉛ガラス（鉛バリウムガラス）の小玉と考えられる。双眼実体顕微鏡の観察から、ガラス内に含まれる気泡の形状や揃い方、中心部分の小口の長さが前後でほぼ同じことから、鑄型法によって製作されたと推測できる。一方、試料（2）の古銭については、一部の破損は見られるものの、3枚が折り重なっている。X線透過装置による撮影でも、文字の有無は確認できなかった。表面上の錆が、一部、繊維状になっていることは認められる。

注) これらの古銭3点については図化していない。

直径2cm程度の薄い小形の銭で、種類は不明である。

表面に布がついていることから、袋に入れられていたものと思われる。

第Ⅵ章 総括

第1節 六反ヶ丸遺跡の立地

六反ヶ丸遺跡を取り巻く自然環境は厳しい状況であったのではないかと推察される。

自然堤防上に位置する微高地の遺跡ではあるが、本遺跡の中心である古墳時代に集落を形成している竪穴建物跡の埋土はシルト質の埋土で占められている。周りの土地より一段高い自然堤防上に位置するものの、遺構の埋土にシルトが多いということは、河川の氾濫が繰り返されていたことが推測される。趙氏の指導でもA地点からB地点西部に砂礫主体の河道堆積層があり、泥と砂礫からなる洪水堆積層が順次東へ付加していることが指摘されている。

本遺跡は六月田という集落に位置する。六月田は江戸時代からの集落であり、現在もその名を残している。六反ヶ丸という地は、河川近くで生活するのに昔から適した土地であったということと同時に河川の氾濫に対応しなければならないという厳しい環境にもあったとも推測される。

今回、氾濫原に位置する遺跡の発掘調査を行った中で課題も見えてきた。遺構の埋土は河川の氾濫により台地で検出される遺構の埋土のようにレンズ状堆積をしていない遺構もあり、土層断面の分層や遺構の切り合い関係などの判断で困難を極めた。今回の発掘調査で得た経験を今後の調査方法に生かし、精度を高めていきたい。

第2節 古墳時代初期における小型仿製鏡

六反ヶ丸遺跡の竪穴建物跡8号上面で、小型仿製鏡が出土した。調査当時は、焼土・灰などを含む近世土坑を掘り込んだ埋納遺構の可能性もあると考えていた。しかし、検証した結果、最終的に土坑は竪穴建物の一部であること、鏡は建物埋設時に埋納したものと判断した。このことから、時期は古墳時代以降であり、弥生時代後期の資料が伝世などの形で、古墳時代まで残ったものと考えている。

また、成分分析から、青銅製で弥生時代に北九州を中心とした地域に拡がった小型仿製鏡と類似した材料を利用していることも分かった。

薩摩半島において小型仿製鏡は指宿市横瀬遺跡（小型仿製鏡：変形渦文鏡）・南さつま市芝原遺跡（小型仿製鏡）、日置市向柵城跡（破鏡）、薩摩川内市外川江遺跡（小型仿製鏡：内行花S字状文鏡）、同麦之浦貝塚（破鏡：流雲文方格規矩鏡）、伊佐市下鶴遺跡（破鏡）で出土例がみられる。これらの遺跡について共通しているのはいずれも河川の縁辺に位置していることで、ことに芝

原・向柵城跡・外川江などの遺跡は河口に近い下流域にある。このことは米ノ津川下流域に立地する六反ヶ丸遺跡と類似している。

芝原遺跡では、小型仿製鏡など4面の鏡が集中して出土しており、河川脇において、鏡を利用した祭祀行為との関連も指摘されている。向柵城跡も11件の竪穴建物跡があり、眼下に江口川があり、さらにはその向こうに海を望む地にある。麦之浦貝塚・外川江遺跡も海こそ望めないものの河川脇にある。

六反ヶ丸遺跡も米ノ津川右岸に立地し、有明海を望む地にある。その景観は芝原・向柵城跡などと類似している。今後、これらの類例を集成し、検討していきたい。

小型仿製鏡以外にも竪穴建造跡12号からはガラス小玉（第Ⅴ章分析参照）が出土しており、鉛バリウムガラスが弥生時代後期～終末期に相当すると考えると、弥生時代後期の資料が伝世し、古墳時代の竪穴建物跡から出土した可能性がある。

第3節 出土土器の特徴と位置付け

六反ヶ丸遺跡の出土土器の大半は、古墳時代前期に位置づけられる。ここでは、本遺跡出土の古墳時代土器の形態的特徴について、指導所見等を基に考察する。また、当該期の他地域の編年（久住1999、檀2011など）を参考に、甕形土器に焦点を当て変遷を検討する。

出土土器は器種ごとの形態的特徴から、それぞれ第190図のように細分できる。なお、本分類は六反ヶ丸遺跡A～D地点を総合的に検討したものであり、既刊のA・B地点の報告書に記載した分類に加筆・修正していることに留意されたい。

甕A類は、頸部で屈曲し、頸部下の胴部に最大径をもち、断面形が台形状を呈する脚台を伴うもので、在地の成川式土器の特徴を有する一群である。調整がハケナデのもの（A1）と、タタキ痕が明瞭なもの（A2）に細分される。甕B類はいわゆる丸底甕で、古式土師器の特徴を有するものである。器壁は比較的薄く、タタキ痕や細かいハケ目の特徴である。甕C類が長胴のもので、天草や島原半島などの九州西部の土器に類似する。頸部の屈曲が明瞭で、内面側に段を有するものもある。器壁は薄く、ハケ目も細かいなど、丁寧なつくりが多い。

壺A類は、短頸壺のうち球胴状のもので、A地点でのみ出土している。壺B類は長胴の短頸壺で、在地系と考えられる。口縁部は外傾または外反し、タタキ痕を伴うものもある。壺C類はいわゆる広口壺で、口縁端部はほぼ水平となる。胴部以下が分かる資料は少ない。壺D類は

二重口縁壺で、袋状口縁状のもの（D1）、屈曲して内傾するもの（D2）、屈曲して外傾するもの（D3）、屈曲し広く外反するもの（D4）とバリエーションが豊富である。壺E類は肥後系の二重口縁壺で、口縁部が断面三角形に肥厚するものである。

高坏A類は、大型で坏部が深く、塊状を呈するものである。高坏B類は中・大型で、坏部が皿状を呈し、口縁部が広く外傾又は外反するものである。高坏C類は布留式系と考えられ、小型で坏部は塊状を呈し、長脚となるものである。器壁が薄く、胎土も精製されている。

以上の形態分類を系統ごとでまとめると、3つに大別される。1つめは、南九州系土器（成川式土器の影響が強い土器群）で、甕A類がその代表例である。カキアゲ口縁となる点や、ハの字状に厚くしっかりした脚台を伴う点は在地土器の特徴である一方、タタキ痕が明瞭で器壁が薄い点は、中九州以北の影響が表れている。甕形土器以外では、壺D1～3類や高坏A類といった北薩地域に特徴的な一群も該当する。2つめは、外来系で近畿V様式／庄内式／布留式といった古式土師器の流れをくむもので、在地で変容したものである。甕B類や壺D4類、高坏C類などが該当する。また、甕形土器の胴部上半に水平方向のタタキ調整を施す特徴は、筑後地域を中心に熊本平野でも確認される。しかし、南九州の古墳時代の土器としては器壁が薄いとはいえ、本来の古式土師器と比べれば内面のケズリが弱く、器壁は厚手であり、これらは在地的な変容の要素ととらえることができる。3つめは、外来系でも北部九州の弥生後期土器の流れをくむもので、甕C類や壺E類が該当する。特に甕C類は島原半島・上天草地域の特徴に近く、天草下島・長島付近を經由した、有明海・八代海西回り島嶼伝いの土器の伝播や地域間交流等が想定される。

このように、北薩地域において少なくとも3つの系統があり、少量ながら出土する宮崎地域の土器を含め、多系統の土器が混在する様相がとらえられた点が、発掘調査の大きな成果の一つである。各遺構とも甕A類と甕B・C類といった在地系と外来系が出土しており、破片資料であるが各類の出土量の比率には差異がある。今後、多系統の土器が出土する状況を踏まえ、当時の生活の在り方を検討することが課題である。

以上の形態分類を踏まえ、甕形土器に着目し、時期的な推移を検討する。本遺跡の出土資料は、甕形土器A類のカキアゲ口縁の技法を伴う屈曲する頸部と胴部上半が膨らむ形態の特徴から、成川式土器の中でも中津野式土器段階から東原式土器段階に相当する。ただし、土器溜7は口縁部が直口気味に立ち上がる甕形土器や幅広突帯を伴う壺形土器、赤色顔料を塗彩した小型器種が出土するなど、新しい特徴を有する。

A地点・C地点の堅穴建物跡で最も多く出土している

のは、甕A類では頸部が緩く屈曲し、外反する中津野式土器古相から新相のものである。器面調整はハケナゲ調整とタタキ痕が明瞭に残る（残す）ものがあり、口縁部がカキアゲ口縁状のものが多い。口縁部が短く外反・外傾するものから、次第に間延びし立ち上がっていく流れから、第191図のように大まかな推移をとらえられる。堅穴建物跡6号で出土した在地系の壺形土器（壺B類）も、古手の特徴を有している。また、A地点の土坑4出土例は、頸部がすぼまり、頸部の屈曲にやや強い稜をもってわずかに外反する。そのため、上記に続く中津野式土器から東原式土器段階への移行期に位置づけた。

代表的な資料から大まかな時期変遷は検討したが、六反ヶ丸遺跡出土資料は、河川堆積の影響もあるためか同一遺構の中でも遺物が齊一的ではなく、甕形土器の頸部屈曲部から口唇部までの長短や外反の度合いに変異が大きい。しかしながら、大半の堅穴建物跡が中津野式土器段階に含まれるため、同じ河川堤防上で建替え等を行いながら推移していったと考えられる。

B地点堅穴建物跡2号出土の甕形土器B類は、久住猛雄氏の分類のB系統（近畿第V様式系）の技術保持者による布留式系模倣土器とする所見があり、久住編年ⅢA期古相併行（東原式土器古相）に位置づけることができる。さらに、先述の土器溜7はB地点堅穴建物跡2号より新しい特徴を有しており、東原式新相（ⅢA期新相併行）以降に比定される。

第4節 土師器焼成土坑

本遺跡で検出された土師器焼成土坑は、鹿児島県内では南さつま市小中原遺跡と始良市外園遺跡と木崎原遺跡で検出されている。

供膳・煮沸形態の土器を焼成したと考えられている南さつま市小中原遺跡の土坑は径180cm、深さ70cm、平面形は円形である。床面や埋土からは多量の土師器が出土している。

始良市外園遺跡の土坑は東西約2.7m×南北約3.0mの隅丸方形で、深さ0.26～0.3mである。焼成された器種は坏・蓋・皿などの小形の供膳具に限定されている。南さつま市小中原遺跡の類例と時期は同じで、8世紀後半～9世紀初頭である。床面や埋土からは多量の土師器が出土している。

木佐木原遺跡の土坑は180cm×180cmの正方形で、深さ20cmである。焼成された器種として坏・塊の高台片などが出土している。時期は8世紀後半と考えられている。床面や埋土からは多量の土師器が出土している。

本遺跡では古代の土坑は9基検出されている。平面形は円形が多く、一部全体形は不明なものもある。その中でも床面や壁面が被熱により赤変している51号と58号の2基を発掘調査時に土器焼成土坑として認定した。

両遺構とも時期は放射性炭素年代測定により古墳時代終末期から古代初頭であると判断された。両遺構の平面形は隅丸方形である。土坑51号の規模は約2.2m×約1.8m、深さ約0.1mであり、土坑58号の規模は約1.8m×約1.9m、深さ0.3mである。焼成された器種は坏・皿類が大部分を占めている。床面や壁面は、被熱により赤変している。

両遺構で違いがみられるのはピットの総数とピット位置である。土坑51号は、床面に径5～15cm程度の小ピットが32基検出されている。それに対して土坑58号は、焼土面に直径10cm程度の小ピットが10基検出され、そのうち5基は下端ラインに沿うような位置で検出されている。

土坑51号の焼土上または床面にみられる小ピットは、始良市外園遺跡の土器焼成土坑でも検出されており、覆い焼きを行う際の上部構造の支柱痕跡と考えられている。現地の指導においても、小田裕樹氏が小ピットについて、開放的な窯の上部構造（覆い）を支えた支柱など構築材の痕跡の可能性を指摘している。それに対して58号の小ピットの数51号より少なく、焼成遺構の構造とどのように関わっているのかは今後の検討を要する。

次に、土器焼成土坑51号と58号の出土の土師器を比較する。土坑51号の土師器の種類は皿と坏である。皿は、底部残存で、ヘラ切りで、坏は底部の立ち上がりにケズリ調整を施し、ヘラ切りである。8世紀後半のものと考えられる。土坑58号の土師器の種類は坏と坏蓋である。どちらもヘラ切りである。大きさや形状を比較すると、土坑51号の土師器の方が、丸みをおび、大きい。土坑58号の土師器は小さい。大きさや形状から土坑58号の時期が新しいと考えられる。

古代の遺構や包含層出土の土師器の特徴としては、皿よりも坏の出土が多く、全てがヘラ切りである。時期的には8世紀後半を主体に9・10世紀もある。数例12世紀代までくだるものがある。また、土師器甕片がある。遺物は中世より古代が多いが、古代の遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑と礫敷遺構と少なく、生活痕は薄い。

ただし、出土状況からみると、他の3遺構と出土している遺物は類似するものの、土坑内及び周辺から出土数が少ない点が異なる。

第5節 近世陶磁器とモイドン

近世の遺構としては、地域の祭祀場として現在も集落に点在する「モイドン」と想定されるものが検出された。モイドンとは薩摩・大隅半島では「モイドン（森殿）」あるいは「モイヤマ（森山）」とよばれる信仰対象の森のことである。なお、地元では「ウッガンサー（氏神様）」と呼称されていた。モイドンに伴う遺構は、本報告書では祭祀遺構と呼称した。いずれも巨木を取り囲むように円形や方形に石列が組んであり、上下構

造をそれぞれ石列遺構1～5とした。

祭祀遺構の遺物としては、皿や線香立てと想定される仏具も出土している。また、古銭類の出土は若干みられるなど、信仰に関わる遺物が出土している。帰属時期は、近世の遺物も出土しているので、近世から近代まで継続していた可能性が考えられる。

地域の方に聞き取ったところ、巨木を中心に塚状の盛り上がり2か所見られたそうである。全体が竹林や雑木林に覆われ、厚く積もった表土により、周囲を取り囲むような石列は表面からは確認できなかったということである。東側の巨木を囲む方形の石列範囲の塚の高さは調査当時で約50cmほどであり、西側の円形の石列範囲の塚の高さは約20cmほどであった。

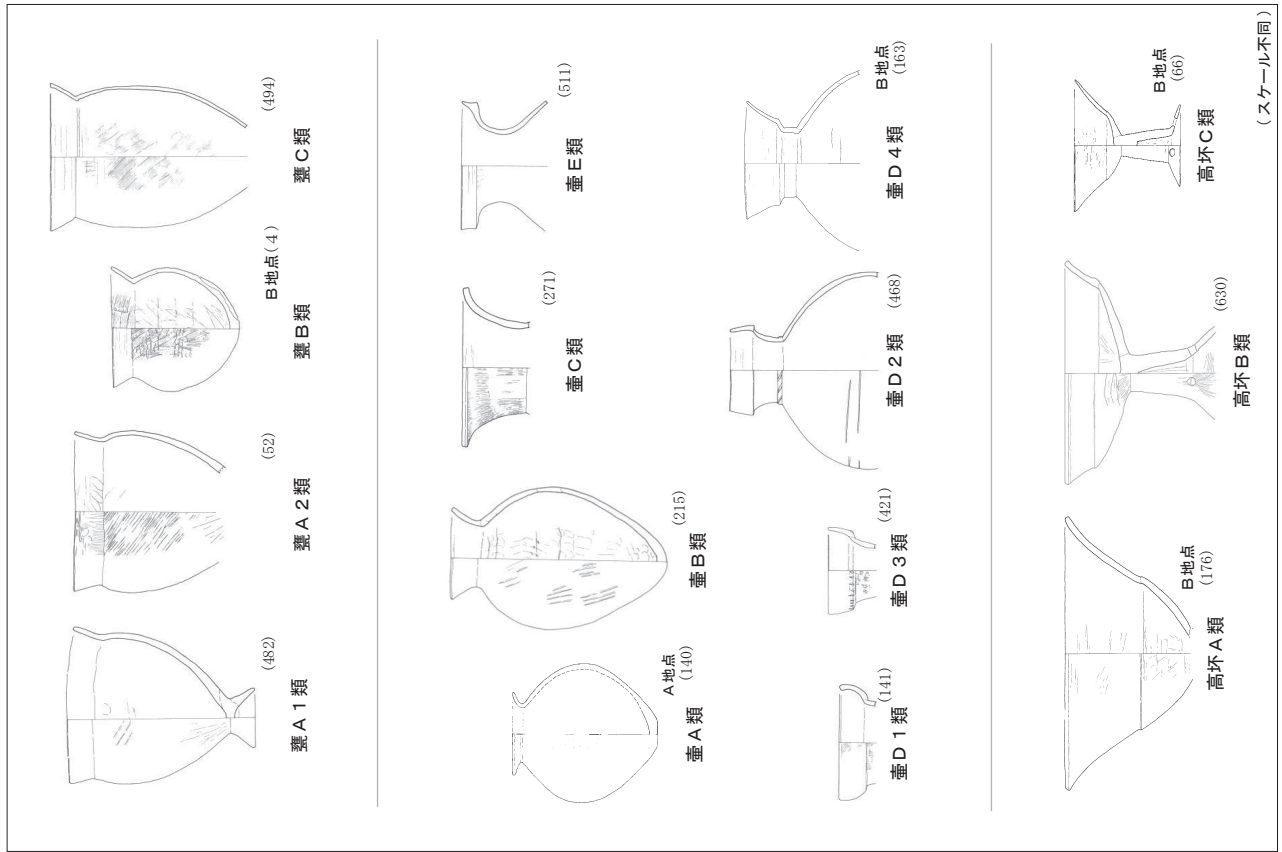
近世の遺物は、肥前系磁器を主体とし碗・皿類や鉢、大型甕といった一通りの器種がみられる。時期は、17世紀から18世紀後半のものとは比定される。特徴的なものとして、糸切り底や高台付きの摺鉢があり、天草や島原を含む西北九州の資料の可能性もある。陶器の中には、苗代川に似るがより器壁が薄く釉調が異なるものがある。

先述した摺鉢に加え、薩摩焼でも苗代川系、元立院系、龍門司系、さらに琉球陶器など、少量であるが遠隔地の複数の窯場の資料が出土している。二次流通の可能性もあるが、生産地と北薩地方との流通を考える上では重要な資料といえる。

引用・参考文献

- 久住猛雄 1999「北部九州における庄内式並行期の土器様相」『庄内式土器研究』XIX
- 久住猛雄 2015「『土師器』の中の『成川式』土器-中津野式から辻堂原式にかけて-」『成川式土器って何だ？-鹿大キャンパスの遺跡で出土する土器-』
- 檀 佳克 2011「土師器の編年 ①九州」『古墳時代の考古学1 古墳時代史の枠組み』
- 中村直子 1987「成川式土器再考」『鹿大考古』6
- 中村直子 2015「成川式土器の時代」『成川式土器ってなんだ？』鹿児島大学総合研究博物館
- 松崎大嗣 2017「薩摩・大隅の古式土師器と在地土器」『九州島における古式土師器』第19回九州前方後円墳研究会長崎大会発表要旨集・基本資料
- 上田萌子 大平和弘 押田佳子 浦出俊和 上甫木昭和春 2018「鹿児島県指宿市有形民俗文化財に指定されたモイドンの保全に関する現状と課題」ランドスケープ研究81(5)

※ 本文中であげた報告書は割愛した。



第190図 六反ヶ丸遺跡 土器分類

久住 編年	竪穴建物跡 その他の遺構	甕形土器		
		A 在地系 (成川式土器)	B 外来系 (丸底甕)	C 外来系 (長胴甕)
中津野式古相 (北部九州AⅠ期ⅡB期併行)	6号 C地点	 (195)	 (203)	 (206)
	1号 A地点	 (75)	 (77)	 (71)
	土器溜5 C地点	 (482)	 (487)	 (493)
中津野式新相 (北部九州ⅡB期ⅡC期併行)	3号 C地点	 (52)		
	土器溜3 C地点	 (53)		
	土器溜4 C地点		 (459)	 (460)
	土坑4号 A地点	 (131)		 (461)
東原式古相 (ⅡA期古相)	2号 B地点		 (4)	 (4)
				(スケール不同)

第191図 六反ヶ丸遺跡 古墳時代土器編年 (甕形土器)

第6節 古代の礫敷遺構について

C～E-24～26区にかけて検出された古代の礫敷遺構について検討したい。

1 礫敷遺構としての認識

六反ヶ丸遺跡の所在する一帯は、米ノ津川をはじめとする河川の流作用による扇状地形をベースとし、地下には礫層が広く堆積している。また、過去の地震によって生じたと考えられる液状化現象による礫層の上昇である、いわゆる「噴礫」も数か所で観察されている。言い換えると、本調査区は、掘り進めると、礫層に突き当たると確率が高い環境にあるということになる。

このような地域であることから、礫敷遺構が検出され始めた当初、「自然の礫層が顔を出したんだ」という感覚で掘り下げていた。それは掘削具の鋭利な部分で突きほぐしながら掘り進めるという極めて固い土壌との出会いでもあった。その極めて固い土壌を剥ぎ取ると礫がまとまった状態で検出され、「自然礫層が顔を出した」と考えていたわけである。

ところが極めて固い土壌の剥ぎ取りを進め、まとまりのある礫群の上面まで検出していくと、面としての広がりとともに礫の密度が高いことや部分的に土器片や須恵器・土師器片も含まれていること等が明らかとなり、単純に「自然のもの（自然礫層）ではないのではないか」という疑問が生じてきた。

そこで、複数の研究者に礫の堆積状況を観察・調査していただく機会を設けることとなり、「ほぼ水平に、かつ均一に堆積している」「構成礫の方向性に規則性がみられない」「礫を中心とした面と、その下位にある整地客土された搬入土層からなる」等の理由から、「自然の礫層ではない」とのコメントをいただいた。また、礫群の詳細な状態を把握する手段として、礫の数や大きさ（粒径測定）・平面分布・礫や土壌の組成等を調査することも有効ではないかとの指導を得た。

以上のような経過を踏まえ、人工構築物、つまり「遺構」としての認識のもと、より客観的な情報を整理するため、当該域の礫敷の状態を数値として把握する作業を実施することとした。具体的には、礫敷遺構（一部、周辺部を含む）を構成する礫をカウントすることとした。

2 礫敷遺構の実態

礫敷遺構はC～E-24～26区にかけて存在するのは前述のとおりである。六反ヶ丸遺跡は扇状地特有の河川網内に形成された微高地帯内にあり、礫敷遺構はその中に形成された高低差1～2m程度の微小谷地形に構築されている。この微小谷は20m弱の幅があり、ほぼその全面で礫が検出されたが、礫敷の中心は断面形がほぼ逆台形状を呈する谷の東側底面にあり、その幅は約10～11mであった。

礫のカウントは、対象となる微小谷に1m四方の小

グリッドを設定し、その区画を最小単位として実施した。具体的には礫敷部分に、東西を「1」～「18」列と「28」～「30」列、南北を「あ」～「さ」列と「ろ」～「ん」列とする碁盤の目状のグリッド網を設定しカウントすることとした。その結果を記録したのが第50～65表である^{註1)}。

表の凡例・見方については、第50～55表をP244に、第56～65表をP245に示した通りである。詳細については、それを参考にさせていただきたいが、ここではそれらの表を用いて、礫をカウントした結果についての概要を紹介したい。

第50～55表は、礫敷遺構を構成していた礫と遺物の点数をサイズごとにカウントした一覧表である。カウントの合計は205,855点(2,880.9kg)であった。また、礫敷遺構と自然礫層の状態を比較するために設けた3つのグリッドの合計は40,485点であった。礫敷遺構が221グリッドの合計であったことを考慮すると、自然礫層がいかに多くの礫を含んでいるかがわかる。

カウント結果をテーマごとに可視化したものが第56～65表である。単純に各種点数をカウントした表が基本であるが、第57表は礫と遺物の重量、第58表はその体積を数値化した結果を示したものとなっている。

礫敷遺構全体の状況について示したのが第56表である。数値の多い部分を網掛けの濃淡で示したが、「あ」～「さ」列の「1」～「11」列に数値の高いグリッドが集中していることが分かる。数値のバラツキを見る変動係数(標準偏差÷平均値)をみても、「かな列」の場合、0.7～0.8台が多いのに対し、「数字列」は0.3～0.4台が多いことから、南北方向の列の方がバラツキが少なく安定した数値を示していることが分かる。つまり、礫敷は東西約10mの幅で帯状に安定した状態で広がっている状況が確認できるということになる。

このような傾向は、礫のみのカウント結果である第59表や第60表でも顕著であるし、各種遺物のカウント結果であるその他の表でも同様であった。

第56～64表では、東西軸と南北軸の数値の状況を折れ線で表現したグラフも提示した。それによると東西軸の「1」～「11」の列が台状に高くなっていることが分かる。つまり、東西幅約10mほどの高まりが南北方向に連なっているということが分かるのである。

ちなみに、南北方向の数値を示す折れ線グラフを見ると、各表ともおおむね北側に行くにつれ、数値が高くなっていることが分かる。数値が高いということは、より多くの礫が存在する(敷かれている)ということである。そもそも、礫敷遺構部分の微小谷は北側(八代海側)に向かって緩やかに傾斜していることを考慮すると、礫量の多さは、その傾斜を緩和するため、北側ではより多くの礫を敷いた結果を表しているものと考えられる。

第55表 礫敷遺構構成礫及び遺物数一覧（6）

★	計	土師礫										★	計	須恵礫										★	計	その他	★	総計	★	全計	備考	区		
		～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10	～11			～12	～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10										～11	～12
45	84	1				1					1	2	1									0	1	46	87		283	620	283	620		さ	7	
31	60		1								1	1										0	0	32	61		167	386	167	386		さ	8	
15	22	3	3		1						4	7										0	0	19	29		173	391	173	391		さ	9	
24	50		3								3	3										0	0	27	53		113	323	113	323		さ	10	
8	15	5									0	5										0	0	8	20		69	172	69	172		さ	12	
8	15	3	1								1	4										0	0	9	19		83	234	83	234		さ	13	
7	24	1	1								1	2										0	0	8	26		88	219	88	219		さ	14	
7	36	5	1								1	6										0	0	8	42		193	582	193	582		さ	15	
3	15	1									0	1										0	0	3	16		155	474	155	474		さ	16	
1	1		2								2	2										0	0	3	3		8	8	8	8		さ	30	
10	15	1	6	3							9	10		1	1							2	2	21	27		65	72	65	72		ろ	29	
40	72	19	23	9	2						34	53				1						1	1	75	126		822	978	822	978		ろ	30	
10	14	1	3	1	1						5	6				1						1	1	16	21	1	74	80	75	81	縄文晩期?1	わ	28	
52	66	12	15	11	3		1				30	42	1		1					1		2	3	84	111		459	501	459	501		わ	29	
128	168	53	80	30	9	3	2		1		125	178		2	2	2	2			1		9	9	262	355		1,357	1,544	1,357	1,544		わ	30	
1	1		1	1							2	2				1						1	1	4	4	1	37	38	38	39	縄文晩期?1	を	28	
35	40	19	20	12	3						35	54			1	1						2	2	72	96	4	541	589	545	593	黒曜石片3, 叩石1	を	29	
73	105	44	32	17	6	1					56	100		1		1				1	1	4	4	133	209	1	1,544	1,838	1,545	1,839		を	30	
38	83	15	2	1							3	18		1		1	1					3	3	44	104	1	489	668	490	669	弥生?~3	ん	1	
79	163	20	4	4							8	28			1	1	1					3	3	90	194		657	1,179	657	1,179		ん	7	
13,537	29,290	2,981	1,253	345	97	23	11	1	1	1	1,732	4,713	18	35	35	24	16	9	7	5	2	0	1	134	152	15,403	34,155	51	104,667	205,804	104,718	205,855		計

★	計	土師礫										★	計	須恵礫										★	計	その他	★	総計	★	全計	備考	自然礫層		
		～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10	～11			～12	～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10										～11	～12
1	8										0	0										0	0	1	8		2,513	10,525	2,513	10,525			あ	5
0	2										0	0										0	0	0	2		4,402	17,847	4,402	17,847			あ	10
1	5										0	0										0	0	1	5		2,846	12,113	2,846	12,113			あ	15
2	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	15	0	9,761	40,485	9,761	40,485			計	

★	計	土師礫										★	計	須恵礫										★	計	その他	★	総計	★	全計	備考	補修土坑		
		～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10	～11			～12	～2	～3	～4	～5	～6	～7	～8	～9	～10										～11	～12
0	0										0	0										0	0	0	0		1,991	2,552	1,991	2,552			3	
0	0										0	0										0	0	0	0		1,991	2,552	1,991	2,552			計	

【礫敷遺構構成物の個別データ表（第56表～65表）の凡例】

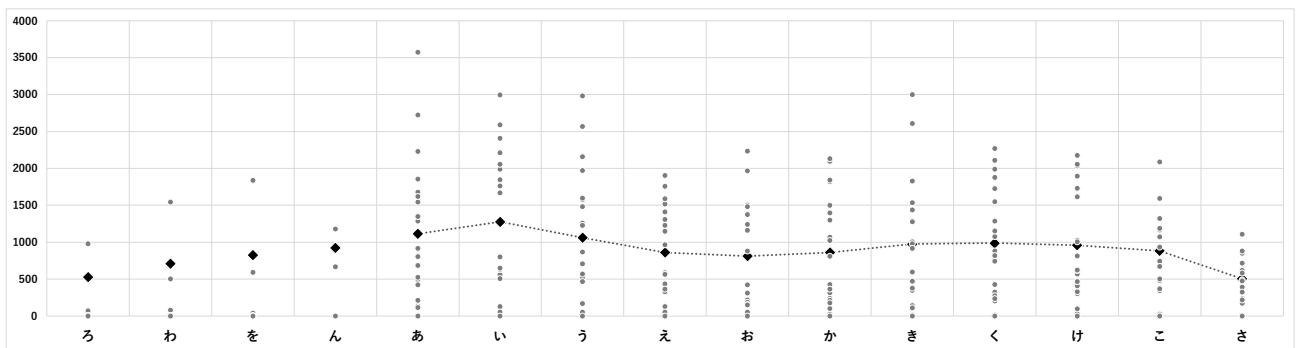
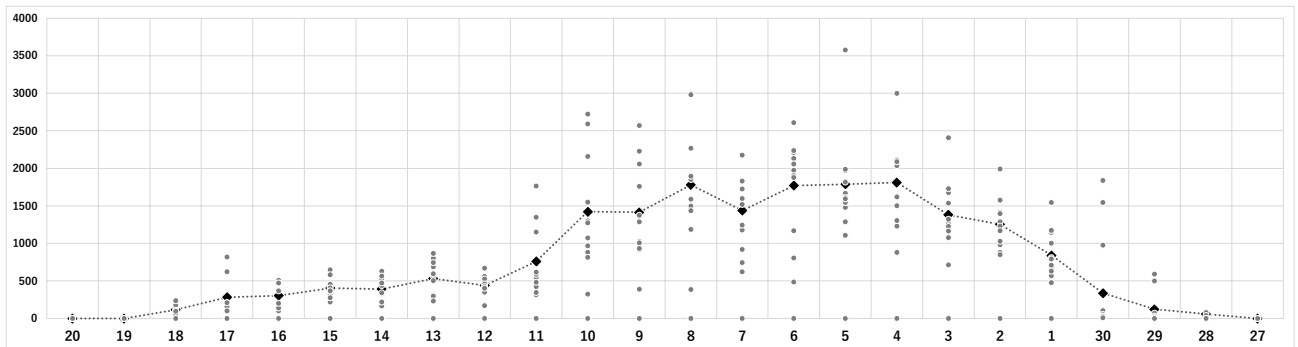
- 第56～65表は、礫敷遺構を構成する礫や遺物に関する様々なデータを示した個表である。
- 第56～64表は、礫や遺物の出土状況をいくつかのテーマごとに上段・中段・下段の表やグラフで提示したものである。
上段はそれぞれの小グリッドから出土した点数を記した表である。
中段は礫敷遺構の東西を軸とした出土量をグラフ化したものである。
下段は礫敷遺構の南北を軸とした出土量をグラフ化したものである。中段と下段のグラフでは、折れ線が高いほど出土量が多いことを示している。
- 第58表の体積に関する表については、体積＝長さの3乗として算出した概算である。この場合の長さは、設定したそれぞれのサイズの間値を用いた。つまり、「～2」の場合、1以上2未満なので「1.5cm」、 「～3」の場合が2以上3未満なので「2.5cm」となる。
- 第65表は、礫敷遺構とその下位に位置する自然礫の数を比較し、上段の表と下段のグラフで表現したものである。
- 標準偏差は数量データのバラツキの大きさを見るための指標で、平均値を基準としてプラス方向もしくはマイナス方向に、データがどれくらい広がっているかを数値化したものである。

6. 第56, 59, 60表に示した変動係数とは標準偏差を平均値で割った値のことである。変動係数は単位のない数値で、相対的なバラツキを表している。

第56表 礫敷遺構成礫及び遺物の総数

礫・遺物の総数(点)

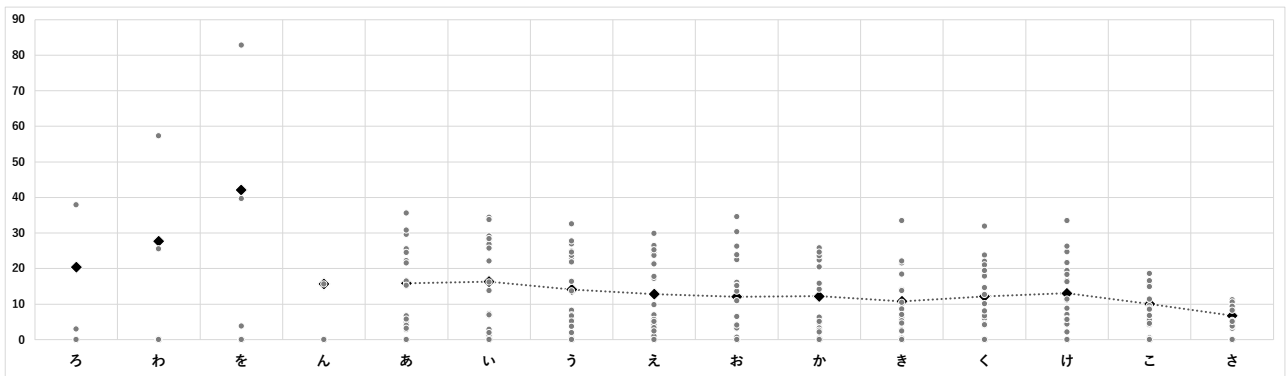
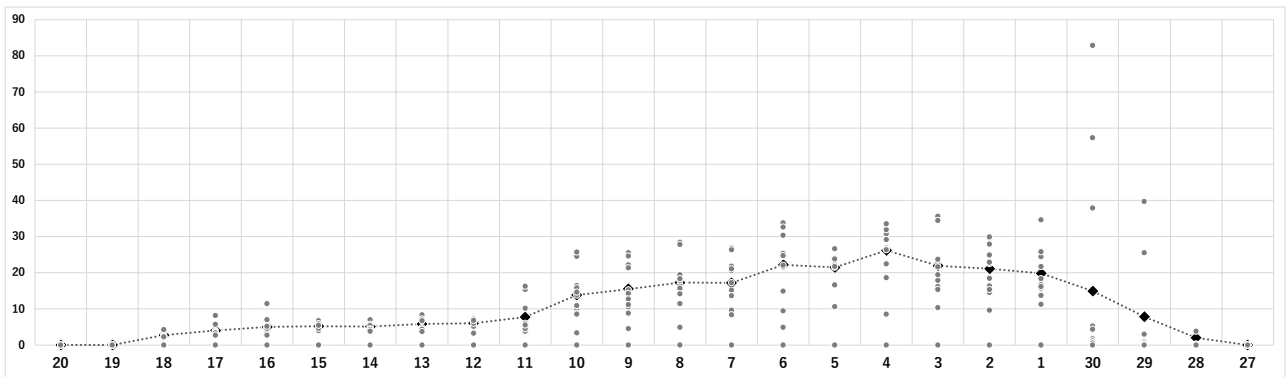
区	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	行小計	平均値	標準偏差	変動係数
27																			
28		81	39													120	60.0	29.7	0.50
29	72	501	593		8	30	11	3	5	3		3				1229	122.9	225.6	1.84
30	978	1544	1839		107	30	38	19	55	20	13	11	30	25	8	4717	336.9	629.6	1.87
1				669	1545	556	708	1148	1174	808	1004	793	570	476	629	10080	840.0	317.8	0.38
2					1286	1990	1574	1412	1229	1398	980	880	1029	1170	849	13797	1254.3	335.9	0.27
3					1677	2406	1261	1228	1163	1069	1536	1076	1731	1322	715	15184	1380.4	448.1	0.33
4					1618	2062	1230	1306	1503	2098	3000	2111	2034	2089	880	19931	1811.9	580.3	0.32
5					3575	1669	1481	1544	1969	1819	1288	1988	1613	1595	1108	19649	1786.3	649.3	0.36
6					806	2212	1973	1905	2236	2130	2610	1879	2056	1167	488	19462	1769.3	658.6	0.37
7				1179	918	1847	1596	1519	1242	1840	1828	1726	2177	743	620	17235	1436.3	492.6	0.34
8					1854	2993	2981	1590	1482	1499	1438	2269	1894	1187	386	19573	1779.4	760.7	0.43
9					2230	2057	2568	1758	1373	1024	917	1288	1007	934	391	15547	1413.4	662.5	0.47
10					2722	2590	2159	966	882	1299	1276	1548	813	1073	323	15651	1422.8	764.8	0.54
11					1349	1763	545	589	317	427	347	1151	616	481		7585	758.5	489.6	0.65
12					492	561	526	347	421	349	462	425	404	672	172	4831	439.2	130.3	0.30
13					686	801	869	564	313	240	596	743	300	502	234	5848	531.6	231.5	0.44
14					523	630	567	436	167	315	473	326	327	342	219	4325	393.2	145.1	0.37
15					423	648	456	327	218	365	378	277	407	369	582	4450	404.5	124.2	0.31
16					137	507	468	366	188	100	141	202	466		474	3049	304.9	165.7	0.54
17					211	127	170	129	156	211	102	818	623			2547	283.0	255.4	0.90
18					113	53	51	52	152	178	112	236	98			1045	116.1	63.4	0.55
19																			
20																			
列小計	1050	2126	2471	1848	22280	25532	21232	17208	16245	17192	18501	19750	18195	14147	8078	205855			
平均値	525.0	708.7	823.7	924.0	1114.0	1276.6	1061.6	860.4	812.3	859.6	973.7	987.5	957.6	884.2	504.9				
標準偏差	640.6	753.3	921.9	360.6	968.3	969.6	871.4	641.9	692.9	735.1	842.0	732.2	724.4	534.0	291.6				
変動係数	1.22	1.06	1.12	0.39	0.87	0.76	0.82	0.75	0.85	0.86	0.87	0.74	0.76	0.60	0.58				



第57表 礫敷遺構成礫及び遺物の重量

礫・遺物の重量 (kg)

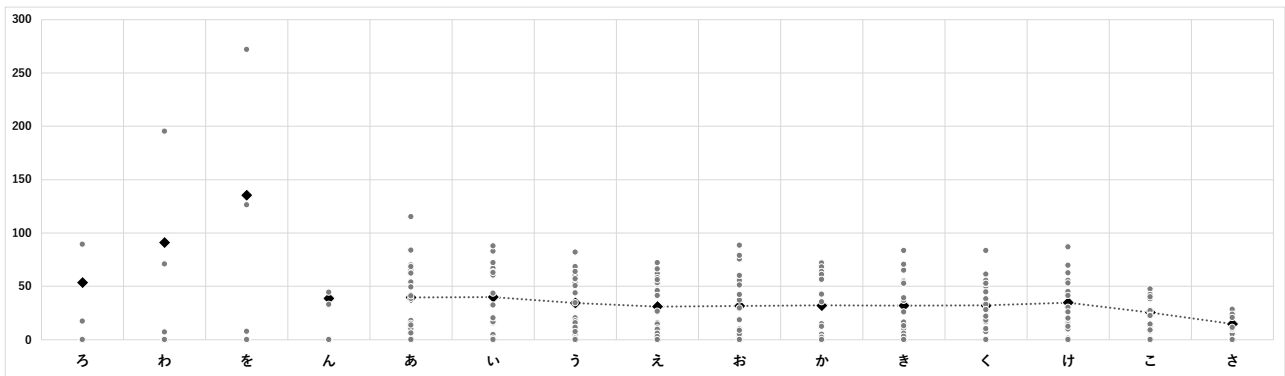
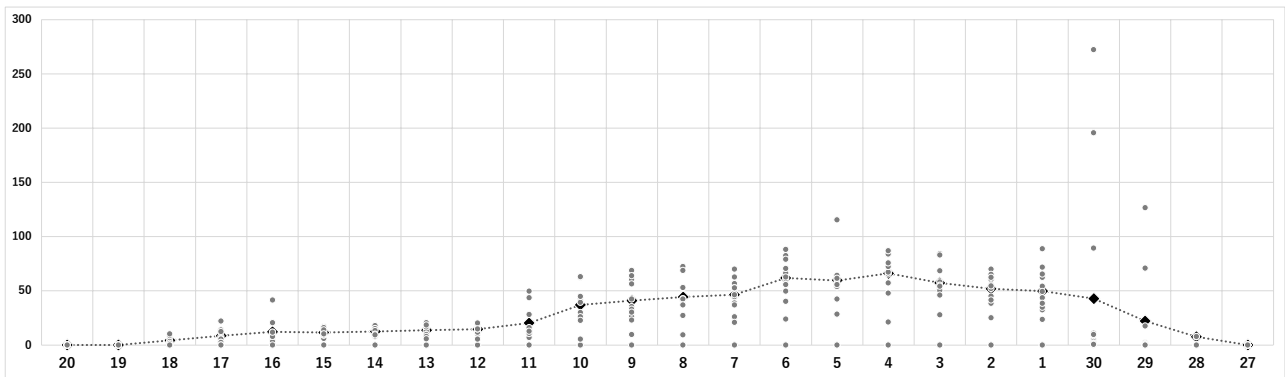
区	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	行小計	平均値	標準偏差
27																		
28		0.2	3.8													4.0	2.0	2.5
29	3.0	25.5	39.7			0.7	0.4	0.8	0.1	0.3		0.1				70.6	7.8	14.5
30	37.9	57.3	82.8		5.2	1.2	1.7	1.1	0.7	0.4	0.4	0.1	4.3	0.5		193.6	14.9	27.0
1				15.7	25.6	13.8	13.7	24.4	34.6	25.8	21.7	18.3	16.7	16.1	11.2	237.6	19.8	6.8
2					29.6	27.9	24.9	29.9	22.5	22.9	18.4	14.5	16.3	15.3	9.6	231.8	21.1	6.7
3					35.6	34.4	22.8	23.7	16.1	23.7	21.6	17.9	19.4	15.3	10.3	240.8	21.9	7.7
4					30.8	29.1	26.9	26.5	26.3	22.4	33.5	31.9	33.5	18.6	8.5	288.0	26.2	7.4
5					22.2	26.6	23.7	21.5	23.9	23.6	22.1	23.8	21.7	16.6	10.6	236.3	21.5	4.4
6					21.6	33.8	32.6	25.3	30.3	24.6	4.9	22.0	24.7	14.9	9.4	244.1	22.2	9.2
7					15.1	26.8	21.8	17.2	13.6	20.5	8.6	21.0	26.3	9.6	8.3	188.8	17.2	6.7
8					16.5	28.4	27.8	17.8	15.3	15.7	14.1	19.4	18.3	11.4	4.9	189.6	17.2	6.7
9					25.5	22.1	24.6	21.3	15.2	14.2	10.5	12.7	11.1	8.8	4.5	170.5	15.5	6.9
10					24.5	25.7	16.4	9.8	10.9	15.8	13.8	14.6	8.8	8.5	3.3	152.1	13.8	6.7
11					15.3	16.2	5.7	5.0	3.8	5.6	4.5	10.1	6.0	5.5		77.7	7.8	4.5
12					4.9	6.8	7.1	5.1	6.5	6.3	6.2	6.0	7.1	6.8	3.2	66.0	6.0	1.2
13					6.7	7.3	8.3	7.0	4.2	4.8	7.1	6.7	4.4	4.3	3.7	64.5	5.9	1.6
14					6.7	6.7	7.0	5.7	3.6	4.8	5.3	4.2	4.4	4.2	3.8	56.4	5.1	1.2
15					5.8	6.9	6.7	4.2	3.8	5.1	4.7	4.0	5.9	4.6	5.4	57.1	5.2	1.1
16					2.8	7.0	5.2	5.1	3.2	3.3	2.7	4.5	11.4		5.1	50.3	5.0	2.6
17					4.0	2.9	3.7	3.4	3.3	2.6	2.7	8.1	5.7			36.4	4.0	1.8
18					3.2	2.0	2.0	2.4	4.1	2.2	2.4	4.2	2.2			24.7	2.7	0.9
19																		
20																		
列小計	40.9	83.0	126.3	15.7	301.6	326.3	283.0	257.2	242.0	244.6	205.2	244.1	248.2	161.0	101.8	2880.9		
平均値	20.5	27.7	42.1	15.7	15.9	16.3	14.2	12.9	12.1	12.2	10.8	12.2	13.1	10.1	6.8			
標準偏差	24.7	28.6	39.6		10.8	12.0	10.5	10.0	10.6	9.5	9.0	8.8	9.0	5.5	3.0			



第58表 礫敷遺構成礫及び遺物の体積

礫・遺物の体積 (ℓ)

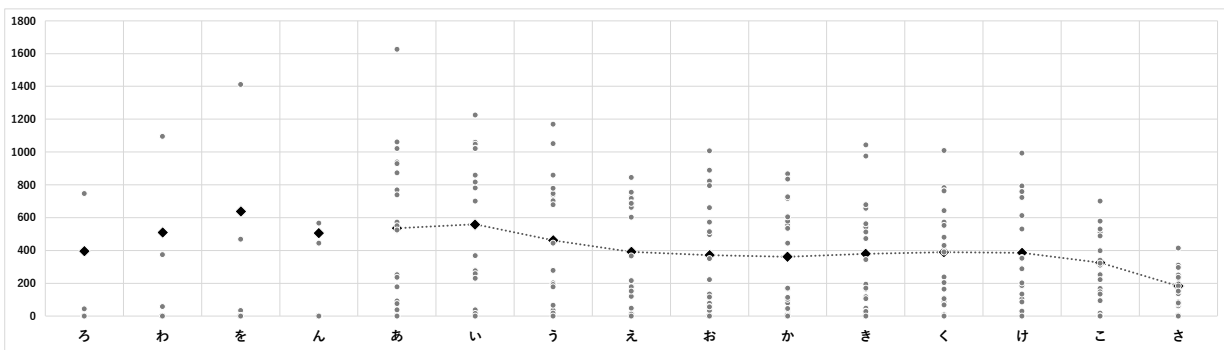
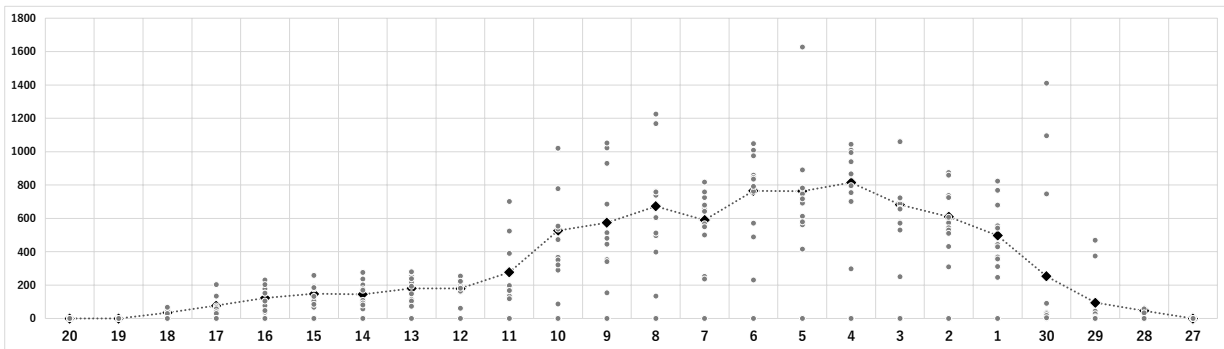
区	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	行小計	平均値	標準偏差
27																		
28		7	8													15	7.6	0.4
29	18	71	126		1	2	1	0	0	1		0				220	22.0	42.8
30	89	195	272		11	3	4	4	3	2	1	0	9	1	1	597	42.6	85.5
1				33	54	32	35	62	89	72	65	49	44	38	23	596	49.7	19.3
2					70	65	60	52	55	62	54	38	45	41	25	569	51.7	13.2
3					84	83	54	58	51	68	55	50	54	46	28	631	57.4	16.1
4					65	67	67	72	76	57	83	84	87	48	21	727	66.1	19.0
5					115	64	57	53	60	64	54	61	56	42	28	655	59.5	21.2
6					50	88	82	66	79	61	71	56	63	40	24	679	61.7	18.9
7				44	39	63	51	46	37	56	53	53	70	26	21	558	46.5	14.3
8					41	72	68	41	43	42	37	53	53	27	9	487	44.3	17.6
9					69	61	64	56	42	35	26	33	30	23	9	449	40.8	19.1
10					62	63	44	27	30	43	39	45	26	23	5	406	36.9	17.2
11					49	44	12	10	7	14	11	28	16	13		203	20.3	15.0
12					10	15	17	12	19	15	15	17	20	15	5	160	14.6	4.2
13					17	17	20	16	10	13	16	18	10	8	6	151	13.7	4.8
14					18	17	18	15	7	15	13	9	10	8	9	138	12.6	4.0
15					15	17	16	11	7	12	6	9	14	9	10	127	11.5	3.6
16					6	20	12	10	5	5	3	8	41		12	122	12.2	11.4
17					14	5	8	6	5	2	2	22	12			77	8.5	6.4
18					6	1	1	3	9	2	3	10	1			38	4.2	3.4
19																		
20																		
列小計	107	274	406	77	796	798	691	621	634	643	609	643	661	408	237	7604		
平均値	53.4	91.2	135.4	38.7	39.8	39.9	34.5	31.0	31.7	32.1	32.0	32.2	34.8	25.5	14.8			
標準偏差	50.8	95.7	132.4	8.1	31.4	29.7	26.4	24.9	28.6	26.4	26.6	23.4	24.4	15.5	9.2			



第59表 礫敷遺構成礫数 1

礫数（長軸2cm以上）（点）

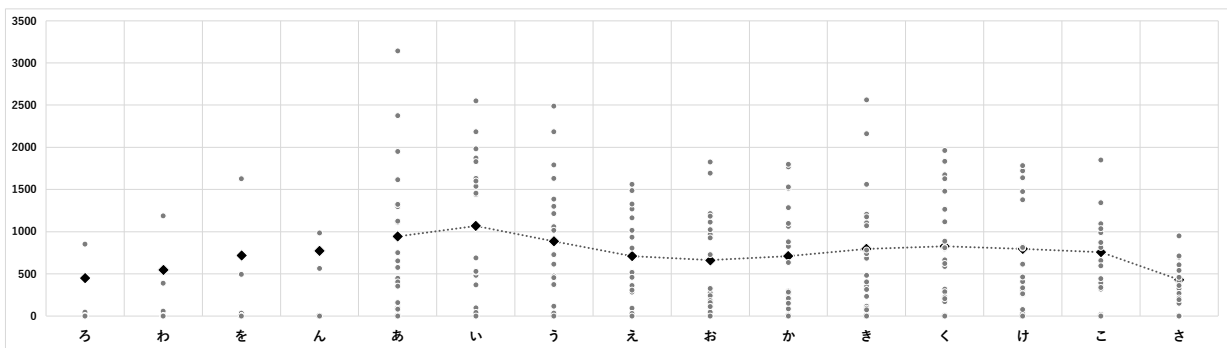
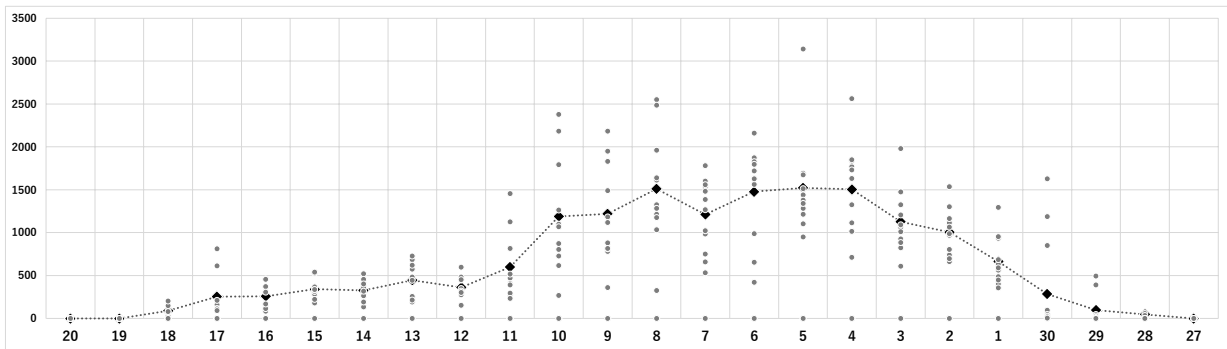
区	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	行小計	平均値	標準偏差	変動係数
27																			
28		58	33													91	45.5	17.7	0.39
29	44	375	469		8	27	11	3	4	3		3			947	94.7	174.4	1.84	
30	747	1095	1411		91	28	35	17	34	11	10	7	28	17	5	3536	252.6	469.7	1.86
1				445	769	369	444	679	823	555	541	430	357	311	246	5969	497.4	181.5	0.37
2					874	858	736	725	573	606	543	431	530	511	310	6697	608.8	174.5	0.29
3					1062	1060	688	717	661	578	657	572	723	531	251	7500	681.8	228.6	0.34
4					939	860	703	755	795	867	1044	1009	994	701	297	8964	814.9	209.8	0.26
5					1627	780	747	691	890	717	562	783	612	579	415	8403	763.9	314.5	0.41
6					572	1048	859	845	1008	835	976	763	792	488	231	8417	765.2	245.7	0.32
7				567	550	817	678	663	500	726	679	643	759	253	237	7072	589.3	183.6	0.31
8					738	1225	1169	602	496	604	513	763	758	398	135	7401	672.8	316.6	0.47
9					930	1023	1051	686	514	445	344	480	352	341	154	6320	574.5	305.0	0.53
10					1021	1021	779	367	350	535	472	553	289	322	86	5795	526.8	300.9	0.57
11					524	701	186	183	134	166	118	390	197	167		2766	276.6	196.4	0.71
12					181	255	195	159	222	170	163	164	181	222	61	1973	179.4	49.6	0.28
13					253	278	279	217	115	80	194	239	105	148	74	1982	180.2	78.7	0.44
14					236	276	202	177	58	102	170	108	86	93	80	1588	144.4	71.8	0.50
15					178	258	193	119	68	113	105	85	186	133	185	1623	147.5	56.9	0.39
16					44	230	177	152	77	38	48	105	203		152	1226	122.6	69.9	0.57
17					75	38	66	47	58	39	29	204	134			690	76.7	57.0	0.74
18					37	15	17	11	55	45	27	68	29			304	33.8	19.3	0.57
19																			
20																			
列小計	791	1528	1913	1012	10709	11167	9215	7815	7435	7235	7195	7800	7315	5215	2919	89264			
平均値	395.5	509.3	637.7	506.0	535.5	558.4	460.8	390.8	371.8	361.8	378.7	390.0	385.0	325.9	182.4				
標準偏差	497.1	531.4	704.3	86.3	449.3	416.5	367.1	307.2	332.7	309.7	319.7	300.3	302.6	195.4	109.3				
変動係数	1.26	1.04	1.10	0.17	0.84	0.75	0.80	0.79	0.90	0.86	0.84	0.77	0.79	0.60	0.60				



第60表 礫敷遺構成礫数2

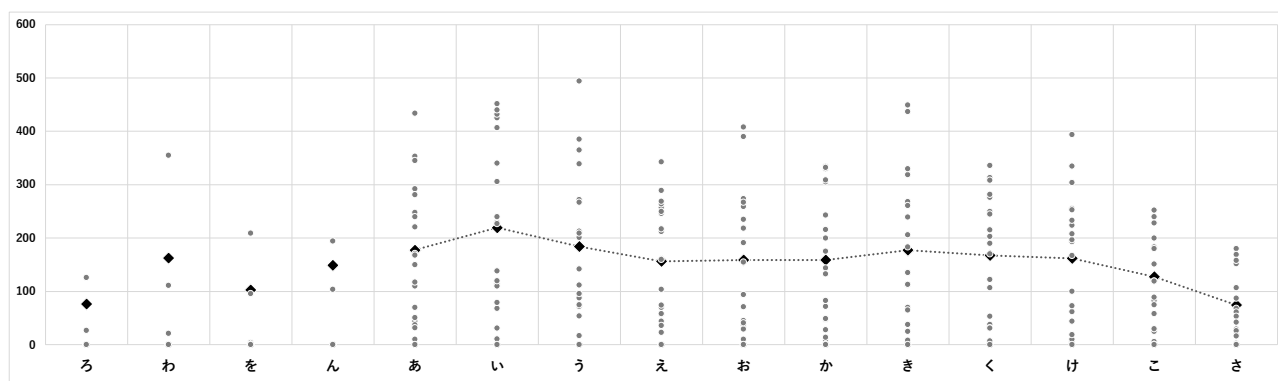
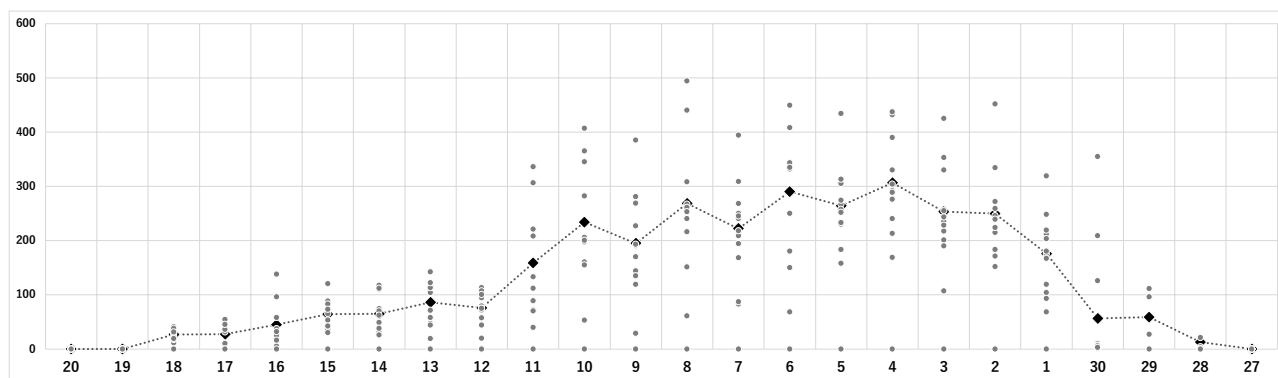
礫の総数 (点)

区	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	行小計	平均値	標準偏差	変動係数
27																			
28		59	34													93	46.5	17.7	0.38
29	45	390	493		8	29	11	3	5	3		3				990	99.0	182.6	1.84
30	852	1189	1629		97	30	37	18	45	13	12	7	29	19	5	3982	284.4	531.8	1.87
1				564	1296	488	614	936	955	633	685	589	402	357	448	7967	663.9	272.7	0.41
2					1115	1538	1302	1164	970	1064	741	664	805	987	697	11047	1004.3	271.2	0.27
3					1324	1980	1060	1011	928	825	1206	886	1475	1093	608	12396	1126.9	370.3	0.33
4					1325	1630	1016	1017	1113	1768	2563	1833	1730	1849	711	16555	1505.0	526.7	0.35
5					3141	1439	1214	1284	1693	1514	1105	1674	1380	1342	950	16736	1521.5	581.9	0.38
6					655	1872	1633	1562	1827	1798	2161	1629	1720	987	420	16264	1478.5	547.4	0.37
7				985	750	1601	1387	1269	1024	1531	1560	1481	1783	659	533	14563	1213.6	412.7	0.34
8					1614	2552	2487	1326	1215	1283	1177	1961	1641	1036	325	16617	1510.6	646.8	0.43
9					1949	1830	2183	1489	1182	880	782	1117	814	815	362	13403	1218.5	573.4	0.47
10					2377	2183	1793	806	727	1099	1069	1265	616	873	270	13078	1188.9	665.2	0.56
11					1127	1455	473	519	277	294	235	815	407	392		5994	599.4	406.8	0.68
12					448	482	451	290	327	277	349	318	304	597	152	3995	363.2	121.7	0.34
13					576	687	727	460	242	193	483	621	256	444	215	4904	445.8	195.2	0.44
14					406	520	455	362	136	266	403	288	265	317	193	3611	328.3	114.2	0.35
15					353	528	368	283	182	282	313	224	334	339	540	3746	340.5	110.5	0.33
16					100	369	372	308	159	86	116	170	461		458	2599	259.9	149.5	0.58
17					160	96	116	93	111	210	94	811	613			2304	256.0	266.0	1.04
18					81	42	34	29	111	150	74	205	79			805	89.4	58.0	0.65
19																			
20																			
列小計	897	1638	2156	1549	18902	21351	17733	14229	13229	14169	15128	16561	15114	12106	6887	171649			
平均値	448.5	546.0	718.7	774.5	945.1	1067.6	886.7	711.5	661.5	708.5	796.2	828.1	795.5	756.6	430.4				
標準偏差	570.6	580.9	821.1	297.7	846.7	816.7	732.2	531.6	571.4	616.6	713.3	631.4	616.1	461.0	241.9				
変動係数	1.27	1.06	1.14	0.38	0.90	0.77	0.83	0.75	0.86	0.87	0.90	0.76	0.77	0.61	0.56				



第61表 礫敷遺構出土遺物総数

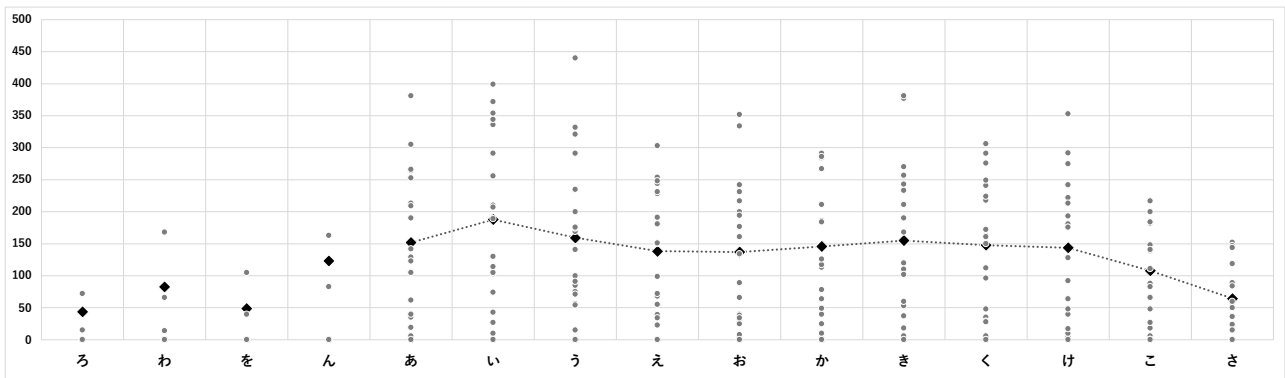
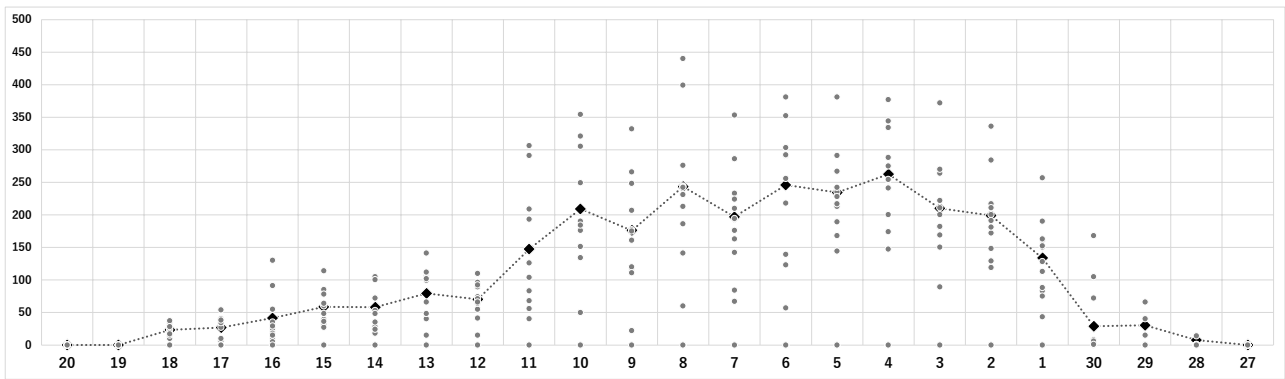
区	焼物の総数(点)															行小計	平均値	標準偏差		
	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ					
27																				
28		21	4															25	12.5	12.0
29	27	111	96			1												235	58.8	53.1
30	126	355	209		10		1	1	10	7	1	4	1	6	3		734	56.5	109.7	
1				104	248	68	93	212	219	175	319	203	167	119	180		2107	175.6	71.7	
2					171	452	272	246	259	334	239	215	224	183	152		2747	249.7	84.1	
3					353	425	201	217	235	243	330	190	255	228	107		2784	253.1	87.1	
4					292	432	213	289	390	330	437	276	304	240	169		3372	306.5	85.9	
5					434	230	267	257	274	305	183	313	233	252	158		2906	264.2	72.9	
6					150	340	339	343	408	332	449	250	335	180	68		3194	290.4	115.4	
7				194	168	240	209	250	218	309	268	245	394	83	87		2665	222.1	86.5	
8					240	440	494	264	267	216	261	308	253	151	61		2955	268.6	119.4	
9					281	227	385	269	191	144	135	170	193	119	29		2143	194.8	95.0	
10					345	407	365	160	155	200	206	282	197	200	53		2570	233.6	105.2	
11					221	306	72	70	40	133	112	336	208	89			1587	158.7	103.6	
12					44	79	75	57	94	72	113	107	100	75	20		836	76.0	27.9	
13					110	114	142	104	71	47	113	122	44	58	19		944	85.8	39.5	
14					117	110	112	74	31	49	70	38	62	25	26		714	64.9	35.1	
15					70	120	88	44	36	83	65	53	73	30	42		704	64.0	26.7	
16					37	138	96	58	29	14	25	32	5		16		450	45.0	41.8	
17					51	31	54	36	45	1	8	7	10				243	27.0	20.8	
18					32	11	17	23	41	28	38	31	19				240	26.7	10.0	
19																				
20																				
列小計	153	487	309	298	3374	4171	3495	2974	3013	3022	3372	3182	3077	2038	1190		34155			
平均値	76.5	162.3	103.0	149.0	177.6	219.5	183.9	156.5	158.6	159.1	177.5	167.5	161.9	127.4	74.4					
標準偏差	70.0	172.8	102.7	63.6	125.3	159.3	138.4	109.5	126.4	122.7	138.5	114.5	121.1	79.9	60.6					



第62表 礫敷遺構出土土器数

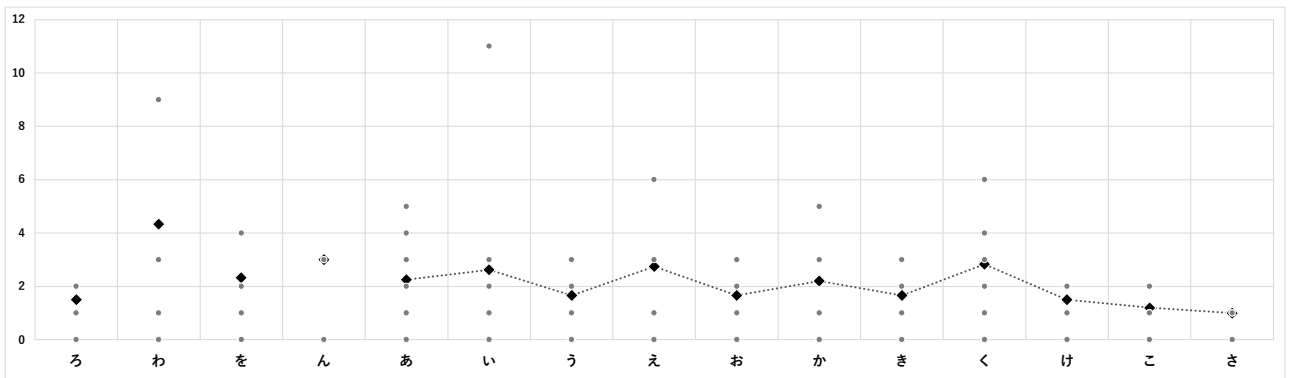
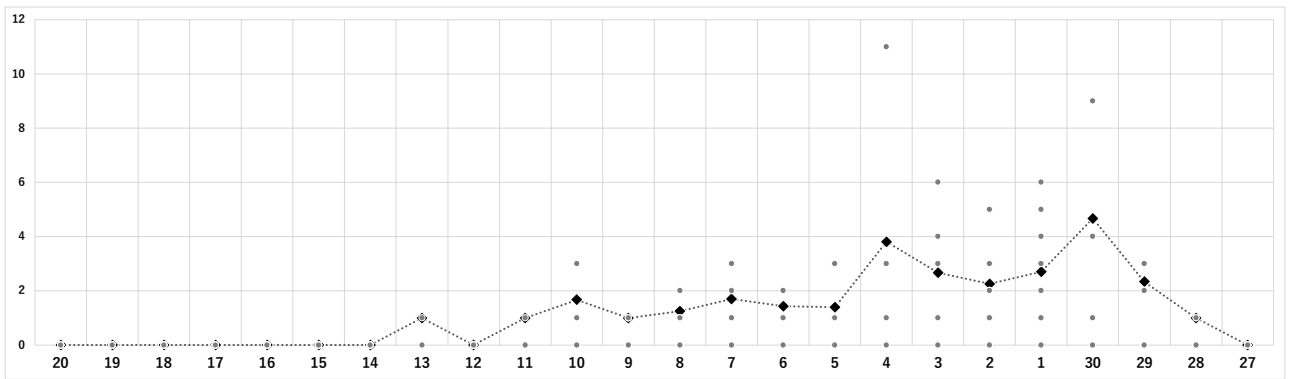
土器の数(点)

区	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	行小計	平均値	標準偏差
27																		
28		14	1													15	7.5	9.2
29	15	66	40			1										122	30.5	28.6
30	72	168	105		6		1	1	8	2	1	4	1	6	1	376	28.9	53.0
1				83	190	43	75	150	161	113	257	163	128	88	152	1603	133.6	58.3
2					129	336	200	191	217	284	211	172	181	148	119	2188	198.9	64.4
3					264	372	169	181	200	211	270	150	222	182	89	2310	210.0	73.9
4					253	344	174	254	334	288	377	241	275	200	147	2887	262.5	71.7
5					381	189	235	228	242	267	168	291	213	217	144	2575	234.1	64.2
6					123	256	291	303	352	291	381	218	292	139	57	2703	245.7	101.0
7				163	142	210	176	231	194	286	233	224	353	67	84	2363	196.9	79.7
8					213	399	440	244	231	186	243	276	242	141	60	2675	243.2	106.0
9					266	207	332	248	177	117	120	161	175	111	22	1936	176.0	85.7
10					305	354	321	151	134	184	190	249	176	184	50	2298	208.9	90.2
11					209	291	56	68	40	126	104	306	193	83		1476	147.6	96.8
12					41	74	71	55	89	64	110	96	92	66	15	773	70.3	27.0
13					106	103	141	99	66	40	102	112	40	48	15	872	79.3	39.3
14					105	105	100	72	28	49	53	35	48	18	24	637	57.9	32.8
15					62	114	85	39	32	78	60	48	64	27	36	645	58.6	26.3
16					35	130	91	55	25	10	18	29	5		15	413	41.3	40.2
17					40	27	54	34	38		6	6	10			215	26.9	17.9
18					19	10	15	23	34	25	37	28	17			208	23.1	8.9
19																		
20																		
列小計	87	248	146	246	2889	3565	3027	2627	2602	2621	2941	2809	2727	1725	1030	29290		
平均値	43.5	82.7	48.7	123.0	152.1	187.6	159.3	138.3	136.9	145.6	154.8	147.8	143.5	107.8	64.4			
標準偏差	40.3	78.3	52.5	56.6	108.4	132.9	119.4	95.1	108.0	105.7	117.6	102.3	108.6	67.5	52.1			



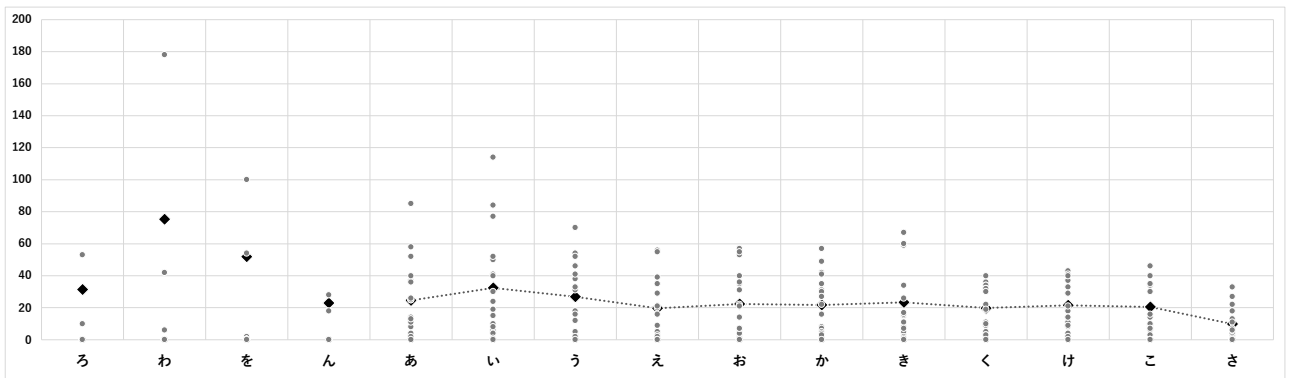
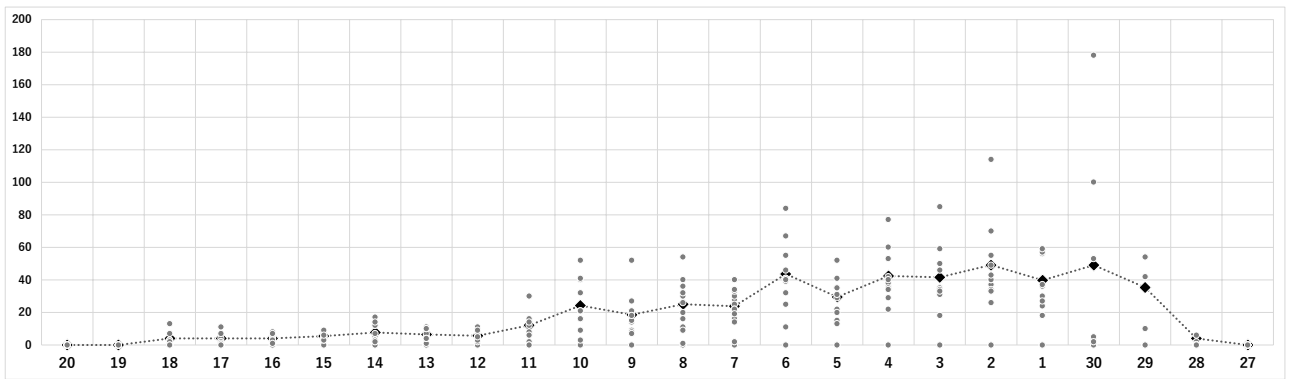
第63表 礫敷遺構出土須恵器数

区	須恵器の数 (点)															行小計	平均値	標準偏差		
	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ					
27																				
28		1	1															2	1.0	0.0
29	2	3	2															7	2.3	0.6
30	1	9	4															14	4.7	4.0
1				3		1		6	1	5	3	4	2	1	1			27	2.7	1.8
2					5	2	2		2	1	2	3		1				18	2.3	1.3
3					4	3		1		1	1	6						16	2.7	2.1
4					3	11	1		3			1						19	3.8	4.1
5					1		1		1	3						1		7	1.4	0.9
6					2		2	1	1		1		2	1				10	1.4	0.5
7				3	1			3	2	1	1	2	1	2	1			17	1.7	0.8
8					1	1					2				1			5	1.3	0.5
9					1	1	1											3	1.0	0.0
10						1	3					1						5	1.7	1.2
11													1					1	1.0	
12														1						
13							1											1	1.0	
14																				
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				
列小計	3	13	7	6	18	21	10	11	10	11	10	17	6	6	3			152		
平均値	1.5	4.3	2.3	3.0	2.3	2.6	1.7	2.8	1.7	2.2	1.7	2.8	1.5	1.2	1.0					
標準偏差	0.7	4.2	1.5	0.0	1.6	3.5	0.8	2.4	0.8	1.8	0.8	1.9	0.6	0.4	0.0					



第64表 礫敷遺構出土土師器数

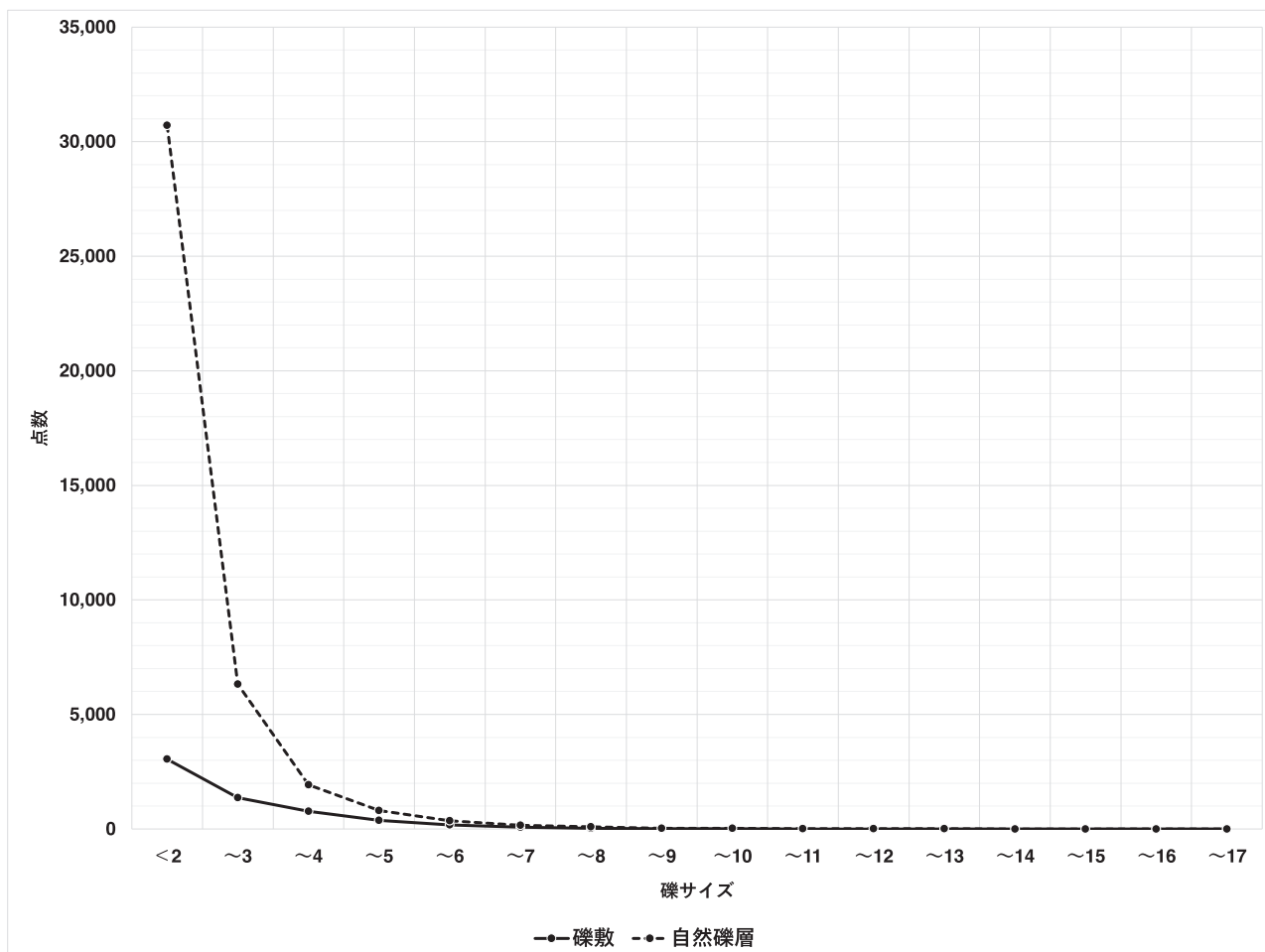
区	土師器の数 (点)															行小計	平均値	標準偏差		
	ろ	わ	を	ん	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ					
27																				
28		6	2															8	4.0	2.8
29	10	42	54															106	35.3	22.7
30	53	178	100		4				2	5							2	344	49.1	67.9
1				18	58	24	18	56	57	57	59	36	37	30	27			477	39.8	16.6
2					37	114	70	55	40	49	26	40	43	34	33			541	49.2	24.6
3					85	50	32	35	35	31	59	34	33	46	18			458	41.6	18.0
4					36	77	38	35	53	42	60	34	29	40	22			466	42.4	15.5
5					52	41	31	29	31	35	15	22	20	35	13			324	29.5	11.5
6					25	84	46	39	55	41	67	32	41	40	11			481	43.7	19.8
7				28	25	30	33	16	22	22	34	19	40	14	2			285	23.8	10.3
8					26	40	54	20	36	30	16	32	11	9	1			275	25.0	15.5
9					14	19	52	21	14	27	15	9	18	8	7			204	18.5	12.6
10					40	52	41	9	21	16	16	32	21	16	3			267	24.3	15.1
11					12	15	16	2		7	8	30	14	6				110	12.2	8.1
12					3	5	4	2	5	8	3	11	8	9	5			63	5.7	2.9
13					4	10	1	5	5	7	11	10	4	10	4			71	6.5	3.3
14					12	5	12	2	3		17	3	14	7	2			77	7.7	5.6
15					8	6	3	5	4	5	5	5	9	3	6			59	5.4	1.9
16					2	8	5	3	4	4	7	3			1			37	4.1	2.3
17					11	4		2	7	1	2	1						28	4.0	3.7
18					13	1	2		7	3	1	3	2					32	4.0	4.1
19																				
20																				
列小計	63	226	156	46	467	585	458	336	401	390	421	356	344	307	157			4713		
平均値	31.5	75.3	52.0	23.0	24.6	32.5	26.9	19.8	22.3	21.7	23.4	19.8	21.5	20.5	9.8					
標準偏差	30.4	90.7	49.0	7.1	22.2	32.3	21.3	18.7	19.6	17.9	22.4	14.0	13.8	15.1	10.1					



第65表 自然礫層（礫敷遺構下位）の礫数

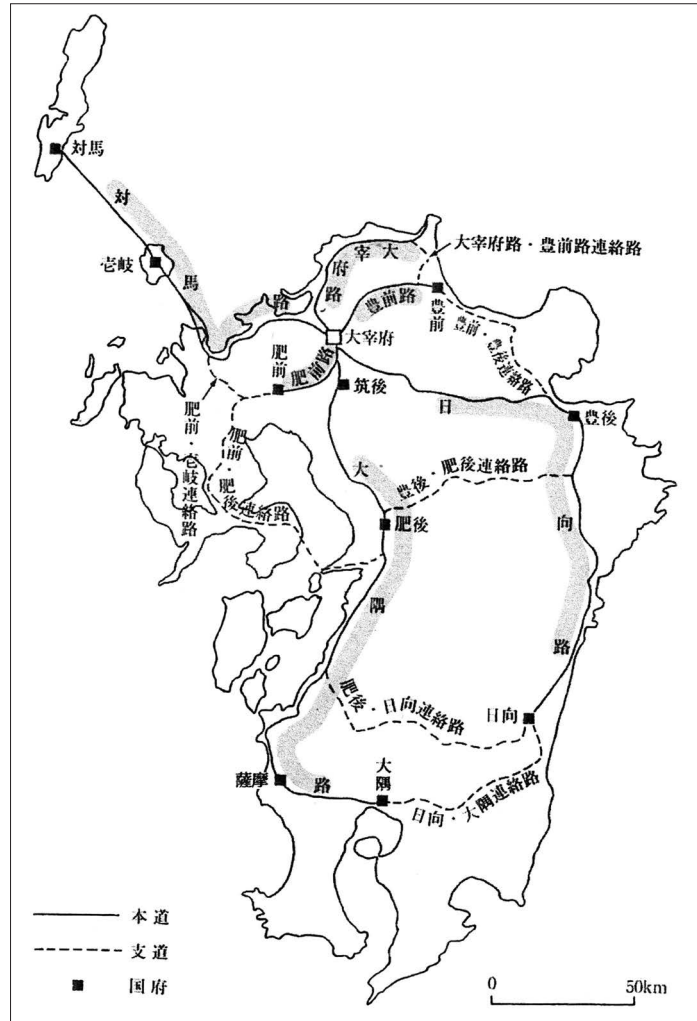
	<2	~3	~4	~5	~6	~7	~8	~9	~10	~11	~12	~13	~14	~15	~16	~17	計
あ5 礫敷	1,514	741	459	230	104	53	22	11	6	1	0	0	0	0	0	0	3,141
あ5 自然礫層	8,005	1,579	514	209	97	51	33	12	9	1	3	3	1	0	0	0	10,517
あ10 礫敷	1,356	547	265	117	53	22	7	4	5	1	0	0	0	0	0	0	2,377
あ10 自然礫層	13,443	2,777	901	397	191	65	36	14	12	5	2	2	0	0	0	0	17,845
あ15 礫敷	175	82	43	27	17	5	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	353
あ15 自然礫層	9,263	1,970	512	203	79	37	20	10	5	3	4	0	0	1	0	1	12,108
合計 礫敷	3,045	1,370	767	374	174	80	31	16	11	2	1	0	0	0	0	0	5,871
合計 自然礫層	30,711	6,326	1,927	809	367	153	89	36	26	9	9	5	1	1	0	1	40,470

(点)





第192図 六反ヶ丸遺跡周辺における古代官道想定図

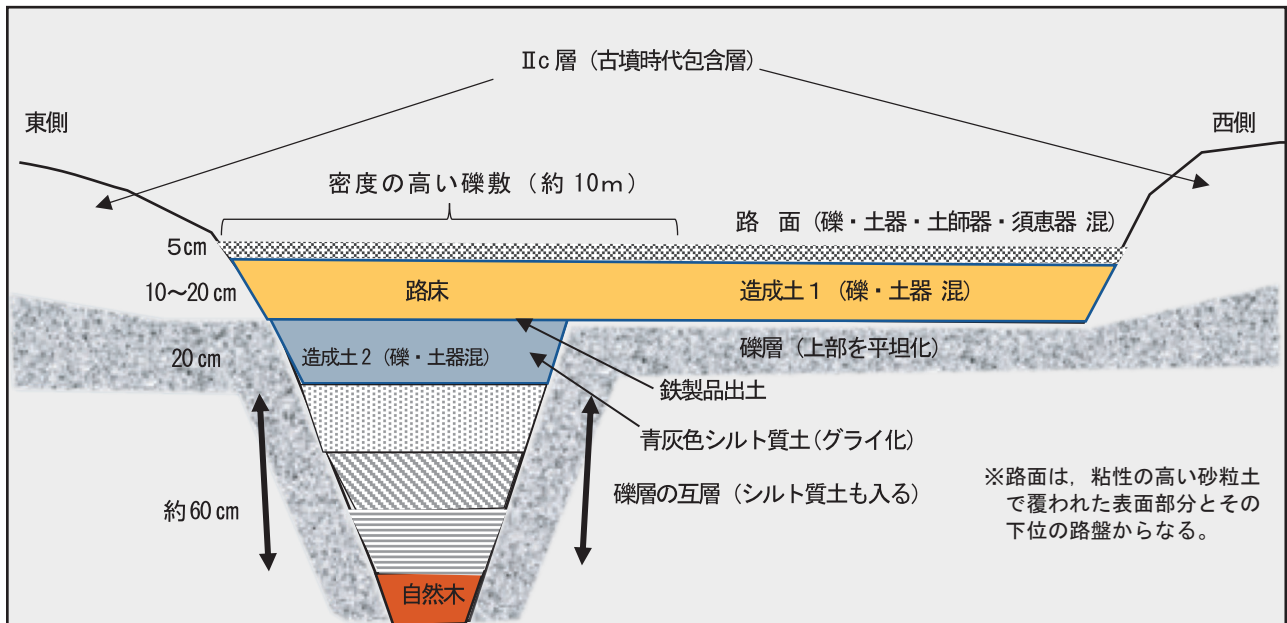


木本雅康「西海道の古代官道」
 (『海路』第12号, 海鳥社刊, 2015年) より



深野信之「大隅国の道」
 (『海路』第13号, 海鳥社, 2017年) より

第193図 九州および南九州の古代官道関係図



第194図 礫敷遺構断面模式図

礫敷遺構の構成物には、土器や須恵器・土師器等の焼物類も含まれている。それらの状況を示したのが第61表（焼物全体）、第62表（土器）、第63表（須恵器）、第64表（土師器）である。それぞれの内容についてはP244の凡例3を参照して頂きたいが、第61表にもあるように、焼物もまた礫と同様の在り方を示していることが分かる。ただし、土器（凡例にあるように古墳時代の土器を指す）が濃淡こそあれ満遍なく広がっているのに対し、須恵器と土師器は、「1」～「11」列に多い傾向が見られる。標準偏差の数値からもそのことが言えるが、特に須恵器については、ほぼ「1」～「11」列に収まるという顕著な結果が得られている。

ここでテラス状の張り出し部（「28」～「30」列、「ろ」～「を」列部分）について説明しておきたい。本文でも記したように、礫敷遺構の一部にある平坦な張り出し部分のことで、第54、55表によると、他のグリッドに比べ、長軸15～27cmの礫が異常に多いこと、須恵器や土師器の数量が多いことなどの特徴をあげることができる。礫敷遺構の中でも特殊な在り方が浮かび上がってくる。

第65表では、礫敷遺構と自然礫層との比較を示した。「あ5」・「あ10」・「あ15」の3グリッド内の上下にある礫集中部の礫をカウントした結果である。上位が人工的な礫敷、下位が自然堆積層との想定の下に調査したわけであるが、顕著に表れたのが、折れ線グラフでもわかるように、下位の小礫（特に長軸3cm以下）が圧倒的に多いという結果であった。このことから、下位が水流による自然堆積で、上位が意図的に礫を選択して持ち込んだ堆積と判断する材料となった。以上の結果を踏まえ、礫敷遺構の性格について検討してみたい。

3 礫敷遺構の性格

礫敷遺構が存在する微小谷の堆積状況を示したのが上の断面模式図である^{註2)}。礫敷の主体部は、幅10mの帯状を呈していることやその部分が極めて固い土壌で覆われていたこと、南北の調査区外へ確実に続いていくこと等から、道としての性格・機能が考えられる。道が形成される過程を時系列的に想定してみたい。

もともと存在した微小谷の東側ラインを軸とした道を設定することを目的として、まず谷を平坦化するための造成を行う。その際、谷周辺の両サイドにある土を利用する。この場合、古墳時代の包含層が表土下に存在することから、当該期の土器が混入される。この造成土を路床とし、その上位には周辺に存在する河川堆積礫を持ち込み敷設する。その際、礫の大小と共に須恵器や土師器等の焼物を混入させることで硬軟を意識した路盤を形成。最後にきめの細かな粘性の高い砂粒土で覆い路面を形成し道の完成となる。

第192図にあるように、六反ヶ丸遺跡周辺には8世紀初頭の創建と伝えられる加紫久利神社が所在し、礫敷遺構の延長線上には箱崎八幡神社の直線参道が存在すること、さらにその延長線には、『延喜式』にみえる古代の駅：市来駅にも想定される市来遺跡が所在すること等を考慮すれば、須恵器・土師器を含む礫敷遺構が古代の道路であり、規模からも官道としての可能性を想定できる結果を得ることができたと考えられる。今後、様々な切り口からの解明が期待される。

註1) 第56～65表の作成には、前迫直人の協力を得た。

註2) 福永修一が作成した。

圖 版



①遠景 ②全景

C・D調査区



①C調査区 ②D調査区

調査区



①D-E28区西壁 ②D・E30グリッド南北ベルト ③D区北壁 ④D区南壁

土層断面



① 3号完掘状況 ② 4号完掘状況

古墳時代 竪穴建物跡



①5号完掘状況 ②6号(生活道下側)検出状況

古墳時代 竪穴建物跡



① 6号(生活道下側)完掘状況 ② 6号(C調査区側)完掘状況

古墳時代 竪穴建物跡



①7号完掘状況 ②8号焼土塊検出状況

古墳時代 竪穴建物跡



①



②

① 8号烧土塊検出状況 ② 8号完掘状況

古墳時代 竪穴建物跡



① 8号内出土状況(埋納遺構) ② 出土状況(埋納遺構)

古墳時代 小型仿製鏡



①9号完掘状况 ②10号完掘状况

古墳時代 竪穴建物跡



①11号完掘状況 ②12号遺物出土状況

古墳時代 竪穴建物跡



①12号ガラス小玉出土状況 ②12号完掘状況

古墳時代 竪穴建物跡



①D調査区側完掘状況 ②生活道下側完掘状況

古墳時代 竪穴状遺構



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

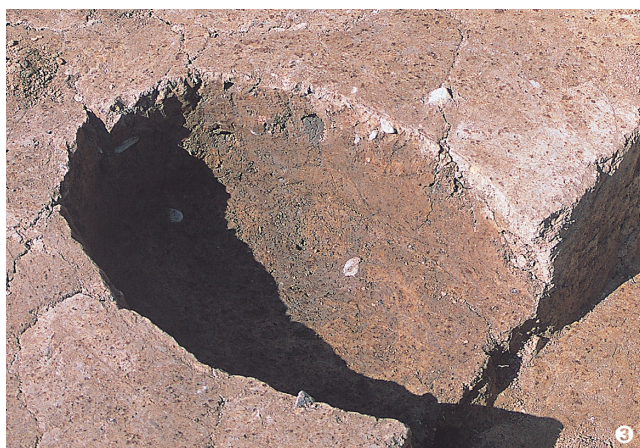
①18号完掘状况 ②19号完掘状况 ③20号完掘状况 ④21号完掘状况 ⑤22号完掘状况 ⑥23号完掘状况 ⑦24号完掘状况 ⑧25号完掘状况

古墳時代 土坑



①26号完掘状况 ②27号完掘状况 ③28号完掘状况 ④29号完掘状况 ⑤30号完掘状况 ⑥31号完掘状况 ⑦32号半截状况 ⑧33号・34号完掘状况

古墳時代 土坑



①35号完掘状况 ②36号完掘状况 ③37号完掘状况 ④38号完掘状况 ⑤39号完掘状况 ⑥41号完掘状况 ⑦43号完掘状况 ⑧44号半截状况

古墳時代 土坑



①45号完掘状況 ②46号完掘状況 ③47・48号完掘状況 ④50号完掘状況 ⑤土器溜3遺物出土状況

古墳時代 土坑・土器溜



①土器溜4 遺物出土状況 ②土器溜5 遺物出土状況

古墳時代 土器溜